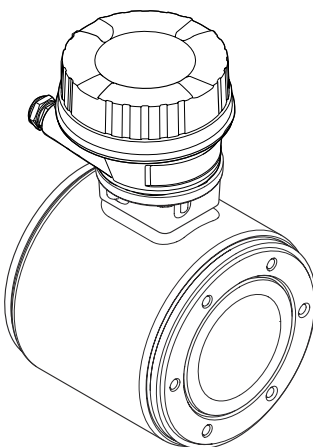
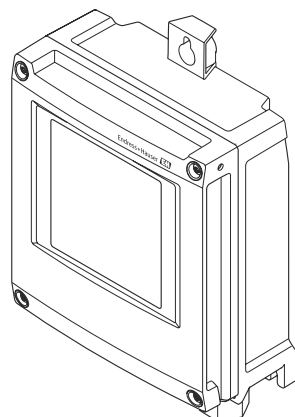
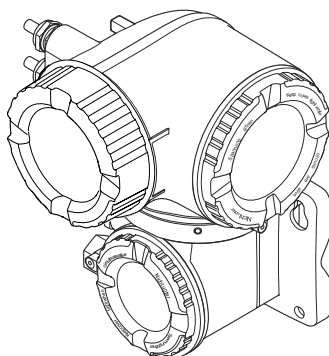


取扱説明書

Proline Promag H 500

PROFIBUS DP

電磁流量計



- 本書は、本機器で作業する場合に、いつでもすぐに手に取れる安全な場所に保管してください。
- 要員やプラントが危険にさらされないように、「安全上の基本注意事項」セクション、ならびに作業手順に関して本書に規定されている、その他の安全注意事項をすべて熟読してください。
- 当社は、事前の予告なしに技術仕様を変更する権利を有するものとします。本書に関する最新情報および更新内容については、当社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

目次

1	本説明書について	6	6.2	計測機器の取付け	28
1.1	本文の目的	6	6.2.1	必要な工具	28
1.2	シンボル	6	6.2.2	機器の準備	29
1.2.1	安全シンボル	6	6.2.3	センサの取付け	29
1.2.2	電気シンボル	6	6.2.4	変換器ハウジングの取付け : Proline 500 – デジタル	31
1.2.3	通信関連のシンボル	6	6.2.5	変換器ハウジングの取付け : Proline 500	33
1.2.4	工具シンボル	7	6.2.6	変換器ハウジングの回転 : Proline 500	34
1.2.5	特定情報に関するシンボル	7	6.2.7	表示モジュールの回転 : Proline 500	34
1.2.6	図中のシンボル	7	6.3	設置状況の確認	35
1.3	関連資料	8	7	電気接続	36
1.4	登録商標	8	7.1	電気の安全性	36
2	安全上の注意事項	9	7.2	接続要件	36
2.1	要員の要件	9	7.2.1	必要な工具	36
2.2	指定用途	9	7.2.2	接続ケーブルの要件	36
2.3	労働安全	10	7.2.3	端子の割当て	40
2.4	操作上の安全性	10	7.2.4	シールドおよび接地	40
2.5	製品の安全性	10	7.2.5	機器の準備	41
2.6	IT セキュリティ	10	7.2.6	接続ケーブルの準備 : Proline 500 – デジタル	43
2.7	機器固有の IT セキュリティ	10	7.2.7	接続ケーブルの準備 : Proline 500 ..	43
2.7.1	ハードウェア書き込み保護によるアクセス保護	11	7.3	計測機器の接続 : Proline 500 – デジタル	45
2.7.2	パスワードによるアクセス保護	11	7.3.1	接続ケーブルの接続	45
2.7.3	Web サーバー経由のアクセス	12	7.3.2	信号ケーブルと電源ケーブルの接続	50
2.7.4	サービスインタフェース (CDI-RJ45) 経由のアクセス	12	7.4	計測機器の接続 : Proline 500	52
3	製品説明	13	7.4.1	接続ケーブルの接続	52
3.1	製品構成	13	7.5	電位平衡の確保	54
3.1.1	Proline 500 – デジタル	13	7.5.1	要件	54
3.1.2	Proline 500	13	7.5.2	接続例、標準的な状況	55
4	受入検査および製品識別表示	15	7.5.3	特殊な状況での接続例	55
4.1	受入検査	15	7.6	特別な接続の説明	56
4.2	製品識別表示	15	7.6.1	接続例	56
4.2.1	変換器銘板	16	7.7	ハードウェアの設定	59
4.2.2	センサ銘板	18	7.7.1	機器アドレスの設定	59
4.2.3	機器のシンボル	19	7.7.2	終端抵抗の有効化	61
5	保管および輸送	20	7.7.3	初期設定の IP アドレスの有効化	62
5.1	保管条件	20	7.8	保護等級の保証	64
5.2	製品の運搬	20	7.9	配線状況の確認	64
5.2.1	吊金具なし機器	20	8	操作オプション	65
5.2.2	吊金具付き機器	21	8.1	操作オプションの概要	65
5.2.3	フォークリフトによる運搬	21	8.2	操作メニューの構成と機能	66
5.3	梱包材の廃棄	21	8.2.1	操作メニューの構成	66
6	取付け	21	8.2.2	操作指針	67
6.1	取付要件	21	8.3	現場表示器を使用した操作メニューへのアクセス	68
6.1.1	取付位置	21	8.3.1	操作画面表示	68
6.1.2	環境およびプロセスの要件	26	8.3.2	ナビゲーション画面	70
6.1.3	特定の取付方法	28	8.3.3	編集画面	72

8.3.4	操作部	74	10.4	ソフトウェアによる機器アドレスの設定 ..	106
8.3.5	コンテキストメニューを開く	74	10.4.1	PROFIBUS ネットワーク	106
8.3.6	ナビゲーションおよびリストから 選択	76	10.5	操作言語の設定	106
8.3.7	パラメータの直接呼び出し	76	10.6	計測機器の設定	107
8.3.8	ヘルプテキストの呼び出し	77	10.6.1	タグ名の設定	108
8.3.9	パラメータの変更	77	10.6.2	システムの単位の設定	109
8.3.10	ユーザーの役割と関連するアクセ ス権	78	10.6.3	通信インターフェイス設定	111
8.3.11	アクセスコードによる書き込み保 護の無効化	78	10.6.4	アナログ入力の設定	112
8.3.12	キーパッドロックの有効化/無効化 ..	79	10.6.5	I/O 設定の表示	112
8.4	ウェブブラウザを使用した操作メニューへ のアクセス	79	10.6.6	電流入力の設定	113
8.4.1	機能範囲	79	10.6.7	ステータス入力の設定	114
8.4.2	必須条件	80	10.6.8	電流出力の設定	115
8.4.3	機器の接続	81	10.6.9	パルス/周波数/スイッチ出力の 設定	118
8.4.4	ログイン	83	10.6.10	リレー出力の設定	124
8.4.5	ユーザーインタフェース	84	10.6.11	現場表示器の設定	126
8.4.6	Web サーバーの無効化	85	10.6.12	ローフローカットオフの設定	127
8.4.7	ログアウト	85	10.6.13	空検知の設定	129
8.5	操作ツールによる操作メニューへのアク セス	86	10.7	高度な設定	130
8.5.1	操作ツールの接続	86	10.7.1	センサの調整の実施	131
8.5.2	FieldCare	89	10.7.2	積算計の設定	131
8.5.3	DeviceCare	91	10.7.3	表示の追加設定	133
9	システム統合	92	10.7.4	電極洗浄の実行	135
9.1	デバイス記述 (DD) ファイルの概要	92	10.7.5	WLAN 設定	136
9.1.1	現在の機器バージョンデータ	92	10.7.6	設定管理	138
9.1.2	操作ツール	92	10.7.7	機器管理のためのパラメータを 使用	140
9.2	機器マスターファイル (GSD)	92	10.8	シミュレーション	141
9.2.1	製造者固有 GSD	93	10.9	不正アクセスからの設定の保護	144
9.2.2	プロファイル GSD	93	10.9.1	アクセスコードによる書き込み 保護	144
9.3	旧型モデルとの互換性	93	10.9.2	書き込み保護スイッチによる書き 込み保護	145
9.3.1	自動識別 (初期設定)	94	11	操作	148
9.3.2	手動設定	94	11.1	機器ロック状態の読取り	148
9.3.3	GSD ファイルの変更またはコント ローラの再起動なしでの機器の 交換	94	11.2	操作言語の設定	148
9.4	旧型モデルの GSD モジュールの使用	95	11.3	表示部の設定	148
9.4.1	旧型モデルの CONTROL_BLOCK モ ジュールの使用	95	11.4	測定値の読取り	148
9.5	サイクリックデータ伝送	97	11.4.1	「プロセスパラメータ」 サブメニ ュー	149
9.5.1	ブロックモデル	97	11.4.2	積算計	150
9.5.2	モジュールの説明	97	11.4.3	「入力値」 サブメニュー	151
9.6	アドレスシフト設定	103	11.4.4	出力値	152
9.6.1	機能説明:	103	11.5	プロセス条件への機器の適合	154
9.6.2	構成	103	11.6	積算計リセットの実行	154
9.6.3	アドレスシフト設定	104	11.7	測定値の履歴を表示	155
9.6.4	PROFIBUS DP 経由のデータアク セス	105	12	診断およびトラブルシューティン グ	158
10	設定	106	12.1	一般トラブルシューティング	158
10.1	設置状況および配線状況の確認	106	12.2	発光ダイオードによる診断情報	161
10.2	機器の電源投入	106	12.2.1	変換器	161
10.3	FieldCare 経由の接続	106	12.2.2	センサ接続ハウジング	162
			12.3	現場表示器の診断情報	164
			12.3.1	診断メッセージ	164
			12.3.2	対処法の呼び出し	166

12.4	ウェブブラウザの診断情報	166
12.4.1	診断オプション	166
12.4.2	対策情報の呼び出し	167
12.5	FieldCare または DeviceCare の診断情報 ...	167
12.5.1	診断オプション	167
12.5.2	対策情報の呼び出し	168
12.6	診断情報の適応	169
12.6.1	診断動作の適応	169
12.7	診断情報の概要	171
12.7.1	センサの診断	172
12.7.2	電子部の診断	174
12.7.3	設定の診断	182
12.7.4	プロセスの診断	191
12.8	未処理の診断イベント	194
12.9	診断リスト	195
12.10	イベントログブック	195
12.10.1	イベントログの読み出し	195
12.10.2	イベントログブックのフィルタリ ング	196
12.10.3	診断イベントの概要	196
12.11	機器のリセット	198
12.11.1	「機器リセット」パラメータの機能 範囲	198
12.12	機器情報	198
12.13	ファームウェアの履歴	200
13	メンテナンス	201
13.1	メンテナンス作業	201
13.1.1	外部洗浄	201
13.1.2	内部洗浄	201
13.1.3	シールの交換	201
13.2	測定機器およびテスト機器	201
13.3	当社サービス	201
14	修理	202
14.1	一般的注意事項	202
14.1.1	修理および変更コンセプト	202
14.1.2	修理および変更に関する注意事項	202
14.2	スペアパーツ	202
14.3	Endress+Hauser サービス	202
14.4	返却	202
14.5	廃棄	203
14.5.1	機器の取外し	203
14.5.2	機器の廃棄	203
15	アクセサリ	204
15.1	機器固有のアクセサリ	204
15.1.1	変換器用	204
15.1.2	センサ用	205
15.2	サービス関連のアクセサリ	206
15.3	システムコンポーネント	206
16	技術データ	207
16.1	アプリケーション	207
16.2	機能とシステム構成	207
16.3	入力	207

16.4	出力	210
16.5	電源	215
16.6	性能特性	216
16.7	取付け	219
16.8	環境	219
16.9	プロセス	220
16.10	構造	222
16.11	表示およびユーザインタフェース	226
16.12	合格証と認証	230
16.13	アプリケーションパッケージ	232
16.14	アクセサリ	233
16.15	補足資料	234

索引	236
-----------------	------------

1 本説明書について

1.1 本文の目的

本取扱説明書には、機器のライフサイクルの各段階（製品識別表示、納品内容確認、保管、設置、接続、操作、設定からトラブルシューティング、メンテナンス、廃棄まで）において必要とされるあらゆる情報が記載されています。

1.2 シンボル

1.2.1 安全シンボル

 危険

危険な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡したり、大けがをしたりするほか、爆発・火災を引き起こす恐れがあります。

 警告

潜在的に危険な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡、大けが、爆発、火災を引き起こす恐れがあります。

 注意

潜在的に危険な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、軽傷または中程度のけがを負う恐れがあります。

 注記

潜在的に有害な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、製品や周囲のものを破損する恐れがあります。

1.2.2 電気シンボル

シンボル	意味
	直流
	交流
	直流および交流
	接地接続 オペレータを保護するために、接地システムを使用して接地された接地端子
	電位平衡接続（PE：保護接地） その他の接続を行う前に接地端子の接地接続が必要です。 接地端子は機器の内側と外側にあります。 ■ 内側の接地端子：電位平衡を電源ネットワークに接続します。 ■ 外側の接地端子：機器とプラントの接地システムを接続します。

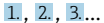
1.2.3 通信関連のシンボル

シンボル	意味
	ワイヤレス ローカル エリア ネットワーク（WLAN） ローカルネットワークを介した無線通信

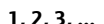
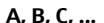
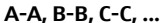
1.2.4 工具シンボル

シンボル	意味
	Torx ドライバ
	プラスドライバ
	スパナ

1.2.5 特定情報に関するシンボル

シンボル	意味
	許可 許可された手順、プロセス、動作
	推奨 推奨の手順、プロセス、動作
	禁止 禁止された手順、プロセス、動作
	ヒント 追加情報を示します。
	資料参照
	ページ参照
	図参照
	注意すべき注記または個々のステップ
	一連のステップ
	操作・設定の結果
	問題が発生した場合のヘルプ
	目視確認

1.2.6 図中のシンボル

シンボル	意味
	項目番号
	一連のステップ
	図
	断面図
	危険場所
	安全場所（非危険場所）
	流れ方向

1.3 関連資料

-  関連技術資料の範囲の概要については、以下を参照してください。
- デバイスビューワー (www.endress.com/deviceviewer) : 銘板のシリアル番号を入力します。
 - Endress+Hauser Operations アプリ : 銘板のシリアル番号を入力するか、銘板のマトリクスコードをスキャンしてください。

ご注文の機器バージョンに応じて、以下の関連資料が用意されています。

資料タイプ	資料の目的および内容
技術仕様書 (TI)	機器の計画支援 本資料には、機器に関するすべての技術データが記載されており、本機器用に注文可能なアクセサリやその他の製品の概要が示されています。
簡易取扱説明書 (KA)	初回の測定を迅速に行うための手引き 簡易取扱説明書には、受入検査から初期調整までに必要なすべての情報が記載されています。
取扱説明書 (BA)	参考資料 取扱説明書には、機器ライフサイクルの各種段階（製品の識別、受入検査、保管、取付け、接続、操作、設定からトラブルシューティング、メンテナンス、廃棄まで）において必要とされるあらゆる情報が記載されています。
機能説明書 (GP)	使用するパラメータの参考資料 この資料には、各パラメータの詳細な説明が記載されています。本説明書は、全ライフサイクルにわたって本機器を使用し、特定の設定を行う人のために用意されたものです。
安全上の注意事項 (XA)	各種認定に応じて、危険場所で電気機器を使用するための安全上の注意事項も機器に付属します。安全上の注意事項は取扱説明書の付随資料です。  機器に対応する安全上の注意事項 (XA) の情報が銘板に明記されています。
機器固有の補足資料 (SD/FY)	関連する補足資料に記載される指示を常に厳守してください。補足資料は、機器資料に付随するものです。

1.4 登録商標

PROFIBUS®
PROFIBUS Nutzerorganisation e.V.(PROFIBUS User Organization), Karlsruhe, Germany の登録商標です。

TRI-CLAMP (トリクランプ) ®
Ladish & Co., Inc., Kenosha, USA の登録商標です。

2 安全上の注意事項

2.1 要員の要件

設置、設定、診断、およびメンテナンスを実施する要員は、以下の要件を満たさなければなりません。

- ▶ 訓練を受けて、当該任務および作業に関する資格を取得した専門作業員であること。
- ▶ 施設責任者の許可を得ていること。
- ▶ 各地域/各国の法規を熟知していること。
- ▶ 作業を開始する前に、取扱説明書、補足資料、ならびに証明書（用途に応じて異なります）の説明を読み、内容を理解しておくこと。
- ▶ 指示に従い、基本条件を遵守すること。

オペレータ要員は、以下の要件を満たさなければなりません。

- ▶ 施設責任者からその作業に必要な訓練および許可を得ていること。
- ▶ 本資料の説明に従うこと。

2.2 指定用途

アプリケーションおよび測定物

本書で説明する機器は、最小導電率が $5 \mu\text{S}/\text{cm}$ の液体の流量測定にのみ使用することを目的としたものです。

ご注文の機器バージョンに応じて、爆発性¹⁾、可燃性、毒性および酸化性の測定物を測定することもできます。

危険場所、サニタリアプリケーション、または圧力によるリスクが高い場所で使用する計測機器の銘板には、それに関連する特別なラベルが貼付されています。

最適な条件下で計測機器を運転できるよう、以下の点に注意してください。

- ▶ 本計測機器を使用する場合は必ず、銘板に明記されたデータならびに取扱説明書や補足資料に記載された一般条件に従ってください。
- ▶ ご注文の機器が防爆仕様であるかどうかを銘板で確認してください（例：防爆認定、压力容器安全）。
- ▶ 本計測機器は、接液部材質の耐食性を十分に確保できる測定物の測定にのみ使用してください。
- ▶ 規定された圧力および温度の範囲内に保ってください。
- ▶ 指定された周囲温度範囲を超えないようにしてください。
- ▶ 環境の影響による腐食から計測機器を恒久的に保護してください。

不適切な用途

指定用途以外での使用は、安全性を危うくする可能性があります。不適切な使用や指定用途以外での使用に起因する損傷について、製造者は責任を負いません。

警告

腐食性または研磨性のある流体、あるいは周囲条件による破損の危険

- ▶ プロセス流体とセンサ材質の適合性を確認してください。
- ▶ プロセス内のすべての接液部材質の耐食性を確認してください。
- ▶ 規定された圧力および温度の範囲内に保ってください。

注記

不明な場合の確認：

- ▶ 特殊な流体および洗浄液に関して、Endress+Hauser では接液部材質の耐食性確認をサポートしますが、プロセスの温度、濃度、または汚染レベルのわずかな変化によって耐食性が変わる可能性があるため、保証や責任は負いかねます。

1) IO-Link 計測機器には適用されません。

残存リスク

注意

高温または低温火傷に注意してください。使用する測定物および電子機器部が高温/低温になる場合、それに伴い機器の表面も高温/低温になる可能性があります。

- ▶ 適切な接触保護具を取り付けてください。

2.3 労働安全

機器で作業する場合：

- ▶ 各国の規制に従って、必要な個人用保護具を着用してください。

2.4 操作上の安全性

機器が損傷する可能性があります。

- ▶ 本機器は、適切な技術条件およびフェールセーフ条件下でのみ操作してください。
- ▶ 施設作業には、機器を支障なく操作できるようにする責任があります。

機器の改造

機器を無断で改造することは、予測不可能な危険を引き起こす可能性があるため、禁止されています。

- ▶ 変更が必要な場合は、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

修理

操作上の安全性と信頼性を保証するために、以下の点にご注意ください。

- ▶ 機器の修理は、明確に許可された場合にのみ実施してください。
- ▶ 電気機器の修理に関する各地域/各国の規定を遵守してください。
- ▶ 純正のスペアパーツおよびアクセサリのみを使用してください。

2.5 製品の安全性

本機器は、最新の安全要件に適合するように GEP (Good Engineering Practice) に従って設計され、テストされて安全に操作できる状態で工場から出荷されます。

本機器は一般的な安全基準および法的要件を満たします。また、機器固有の EU 適合宣言に明記された EU 指令にも準拠します。Endress+Hauser は機器に CE マークを添付することにより、機器の適合性を保証します。

2.6 IT セキュリティ

取扱説明書の指示に従って製品を設置および使用した場合にのみ、当社の保証は有効です。本製品には、設定が不注意で変更されないよう、保護するためのセキュリティ機構が備えられています。

製品および関連するデータ伝送の追加的な保護を提供する IT セキュリティ対策を、事業者自身が自社の安全基準に従って講じる必要があります。

2.7 機器固有の IT セキュリティ

ユーザー側の保護対策をサポートするため、本機器はさまざまな特定機能を提供します。この機能はユーザー設定が可能であり、適切に使用すると操作の安全性向上が保証されます。最も重要な機能の概要が以下のリストに示されています。

機能/インタフェース	工場設定	推奨
ハードウェア書き込み保護スイッチによる書き込み保護 → 図 11	無効	リスク評価に従って個別に設定する
アクセスコード (Web サーバーのログインや FieldCare の接続にも適用) → 図 11	無効 (0000)	カスタマイズされたアクセスコードを設定中に割り当てる
WLAN (表示モジュールの注文オプション)	有効	リスク評価に従って個別に設定する
WLAN セキュリティモード	有効 (WPA2-PSK)	変更しないでください。
WLAN パスフレーズ (パスワード) → 図 11	シリアル番号	設定時に個別の WLAN パスフレーズを割り当てる
WLAN モード	アクセスポイント	リスク評価に従って個別に設定する
Web サーバー → 図 12	有効	リスク評価に従って個別に設定する
CDI-RJ45 サービスインタフェース → 図 12	–	リスク評価に従って個別に設定する

2.7.1 ハードウェア書き込み保護によるアクセス保護

書き込み保護スイッチ（メイン電子モジュール上の DIP スイッチ）により、現場表示器、ウェブブラウザ、または操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare）を介した機器パラメータへの書き込みアクセスを無効にすることができます。ハードウェア書き込み保護が有効になっている場合は、パラメータの読み取りアクセスのみ可能です。

機器の納入時には、ハードウェア書き込み保護が無効になっています。→ 図 145

2.7.2 パスワードによるアクセス保護

機器パラメータへの書き込みアクセス、または WLAN インターフェイスを介した機器へのアクセスを防ぐため、各種のパスワードを使用できます。

- ユーザー固有のアクセスコード
現場表示器、ウェブブラウザ、または操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare）を介した機器パラメータへの書き込みアクセスを防止します。アクセス権は、ユーザー固有のアクセスコードを使用して明確に管理されます。
- WLAN のパスワード
ネットワークキーにより、オプションとして注文可能な WLAN インターフェイスを介した操作ユニット（例：ノートパソコンまたはタブレット端末）と機器の接続が保護されます。
- インフラモード
機器がインフラモードで動作する場合、WLAN パスフレーズは事業者側で設定した WLAN パスフレーズと一致します。

ユーザー固有のアクセスコード

変更可能なユーザー固有のアクセスコードを使用して、現場表示器、ウェブブラウザ、または操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare）を介した機器パラメータへの書き込みアクセスを防止できます。（→ 図 144）。

機器の納入時には、機器のアクセスコードは未設定で 0000（オープン）となっています。

WLAN のパスワード：WLAN アクセスポイントとして動作

オプションとして注文可能な WLAN インターフェイスを介した操作部（例：ノートパソコンまたはタブレット端末）と機器の接続（→ 図 87）は、ネットワークキーにより保護されます。ネットワークキーの WLAN 認証は IEEE 802.11 規格に適合します。

機器の納入時には、ネットワークキーは機器に応じて事前設定されています。これは、**WLAN のパスワード** パラメータ (→ 図 138) の **WLAN 設定** サブメニュー で変更することが可能です。

インフラモード

機器と WLAN アクセスポイントの接続は、システム側の SSID とパスフレーズによって保護されています。アクセスするには、システム管理者にお問い合わせください。

パスワードの使用に関する一般的注意事項

- 機器とともに支給されたアクセスコードとネットワークキーは、安全上の理由から設定中に変更する必要があります。
- アクセスコードとネットワークキーの決定および管理を行う場合は、安全なパスワードを生成するための一般規則に従ってください。
- ユーザーにはアクセスコードとネットワークキーを管理して慎重に取り扱う責任があります。
- アクセスコードの設定やパスワード紛失時の対処法などの詳細については、「アクセスコードを介した書き込み保護」セクションを参照してください。→ 図 144

2.7.3 Web サーバー経由のアクセス

本機器には Web サーバーが内蔵されており、ウェブブラウザを使用して操作/設定を行うことができます → 図 79。接続は、サービスインタフェース (CDI-RJ45) または WLAN インタフェースを介して確立されます。

機器の納入時には、Web サーバーが使用可能な状態になっています。必要に応じて (例：設定完了後)、**Web サーバ 機能** パラメータを使用して Web サーバーを無効にすることができます。

機器およびステータス情報は、ログインページで非表示にできます。これにより、情報への不正アクセスを防ぐことができます。

 機器パラメータの詳細については、以下を参照してください。
資料「機能説明書」。

2.7.4 サービスインタフェース (CDI-RJ45) 経由のアクセス

機器はサービスインタフェース (CDI-RJ45) を介してネットワークに接続できます。機器固有の機能により、ネットワーク内での機器の操作の安全性が保証されます。

IEC/ISA62443 または IEEE など、国内および国際的な安全委員会によって規定された関連する工業規格やガイドラインの使用を推奨します。これには、アクセス権の割り当てといった組織的なセキュリティ方法や、ネットワークセグメンテーションなどの技術的手段が含まれます。

 **Ex de** 認証付き変換器はサービスインタフェース (CDI-RJ45) を介して接続することができません。

「変換器 + センサ 認証」のオーダーコード、オプション (Ex de) : BA、BB、C1、C2、GA、GB、MA、MB、NA、NB BB、C2、GB、MB、NB

3 製品説明

計測システムは、変換器とセンサで構成されています。変換器とセンサは物理的に別の場所に設置されます。これらは接続ケーブルを使用して相互に接続されます。

3.1 製品構成

変換器は2種類より選択可能です。

3.1.1 Proline 500 – デジタル

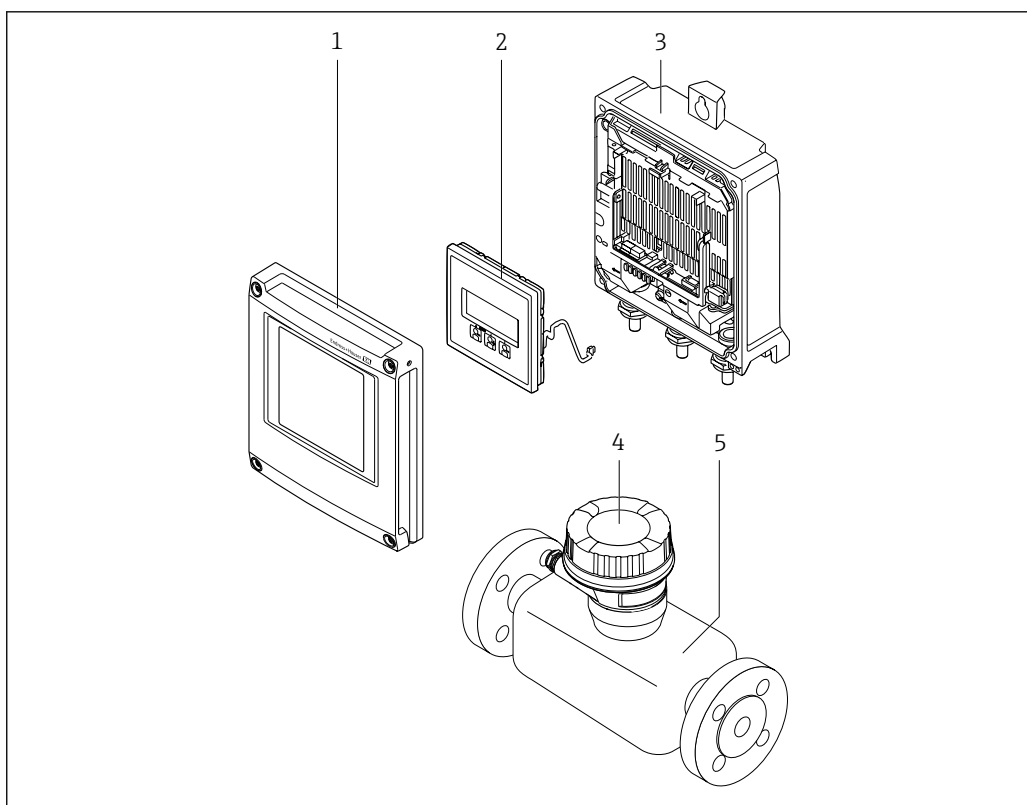
信号伝送：デジタル

「内蔵 ISEM 電子部」のオーダーコード、オプション **A** 「センサ」

環境条件または動作条件に起因する特別な要件を満たす必要のないアプリケーションで使用

電子モジュールがセンサ内にあるため、本機器は次の場合に最適：
変換器の容易な交換

- 標準ケーブルを接続ケーブルとして使用可能
- 外部の EMC 干渉の影響を受けない



A0029593

図 1 機器の主要コンポーネント

- 1 電子部のカバー
- 2 表示モジュール
- 3 変換器ハウジング
- 4 ISEM 電子部内蔵のセンサ接続ハウジング：接続ケーブル接続
- 5 センサ

3.1.2 Proline 500

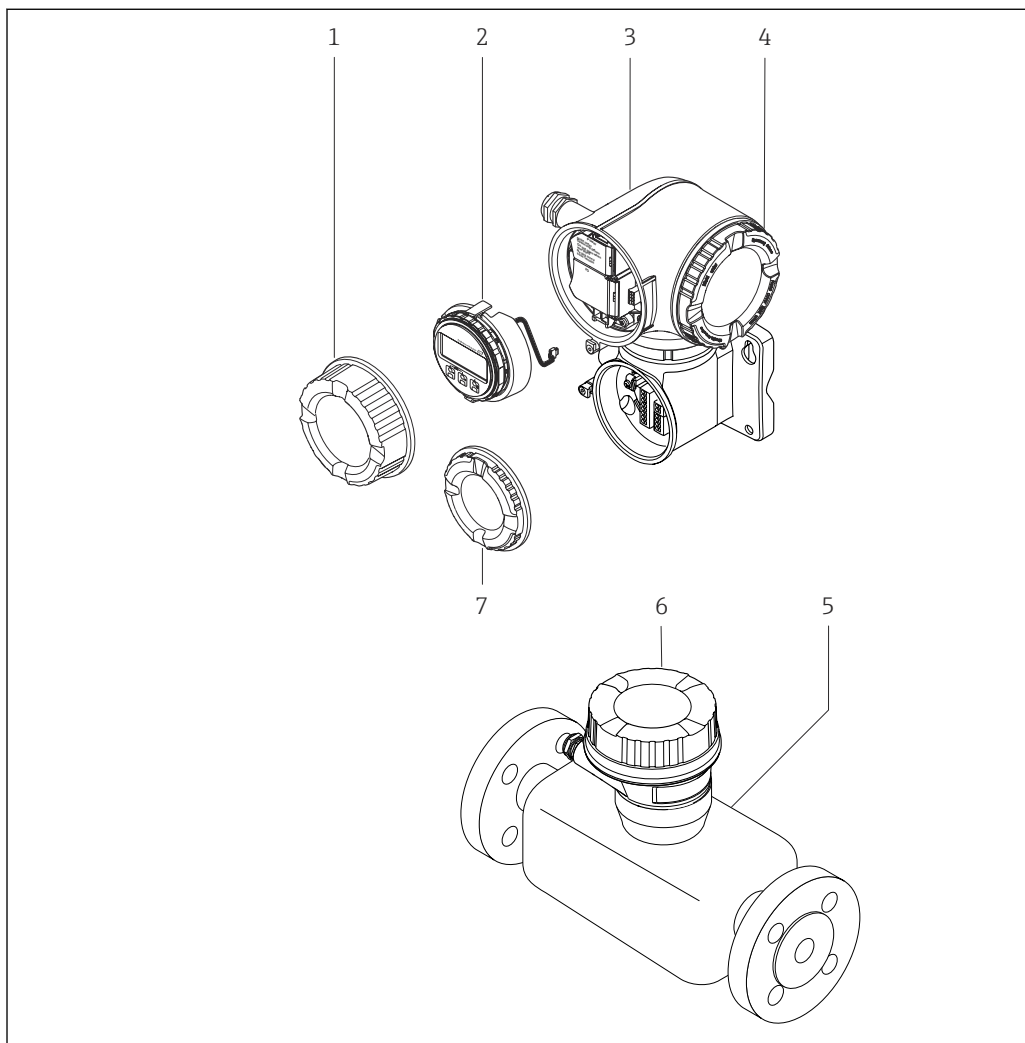
信号伝送：アナログ

「内蔵 ISEM 電子部」のオーダーコード、オプション **B** 「変換器」

環境条件または動作条件に起因する特別な要件を満たす必要のあるアプリケーションで使用

電子モジュールが変換器内にあるため、本機器は次の場合に最適：

- 地下埋設でセンサを使用
- センサを常時水中に浸漬



A0029589

図 2 機器の主要コンポーネント

- 1 端子部蓋
- 2 表示モジュール
- 3 ISEM 電子部内蔵の変換器ハウジング
- 4 電子部のカバー
- 5 センサ
- 6 センサ接続ハウジング：接続ケーブル接続
- 7 端子部蓋：接続ケーブル接続

4 受入検査および製品識別表示

4.1 受入検査

納品時：

1. 梱包に損傷がないか確認します。
 - ↳ すぐに製造者にすべての損傷を報告してください。
損傷したコンポーネントは取り付けないでください。
2. 納品書を使用して納入品目を確認します。
3. 銘板のデータと納品書に記載された注文仕様を比較します。
4. 技術仕様書やその他の必要な関連資料（例：証明書）がすべてそろっていることを確認します。

 1 つでも条件が満たされていない場合は、製造者にお問い合わせください。

4.2 製品識別表示

機器は、次の方法で識別できます。

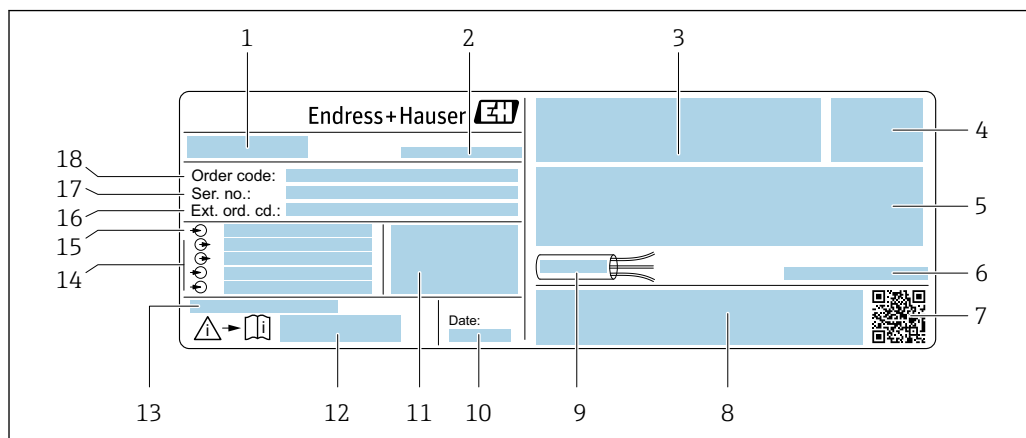
- 銘板
- 納品書に記載されたオーダーコード（機器仕様コードの明細付き）
- 銘板に記載されているシリアル番号をデバイスビューワー (www.endress.com/deviceviewer) に入力します。機器に関するすべての情報が表示されます。
- 銘板のシリアル番号を Endress+Hauser Operations アプリに入力するか、Endress+Hauser Operations アプリで銘板のデータマトリクスコードをスキャンすると、機器に関するすべての情報が表示されます。

関連技術資料の範囲の概要に関しては、以下を参照ください。

- 「本機器のその他の標準資料」および「機器関連の補足資料」セクション
- デバイスビューワー：銘板のシリアル番号を入力してください (www.endress.com/deviceviewer)。
- Endress+Hauser Operations アプリ：銘板のシリアル番号を入力するか、銘板のデータマトリクスコードをスキャンしてください。

4.2.1 変換器銘板

Proline 500 – デジタル

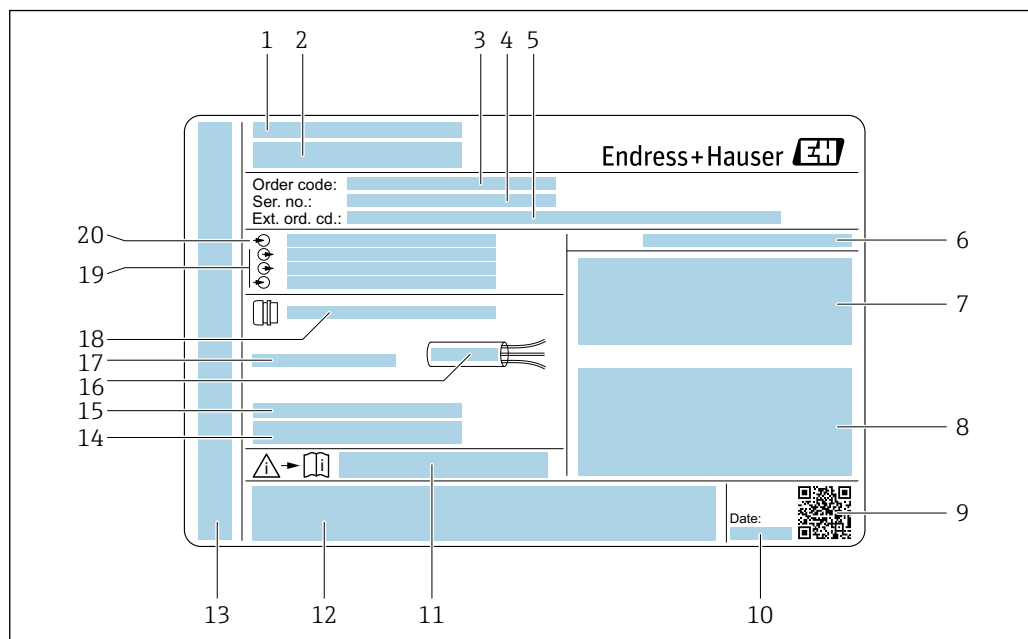


A0029194

図 3 変換器銘板の例

- 1 変換器名
- 2 製造者所在地/認証保有者
- 3 認定用スペース：危険場所用
- 4 保護等級
- 5 電気接続データ：使用可能な入力/出力
- 6 許容周囲温度 (T_a)
- 7 2-D マトリクスコード
- 8 認証および認定用スペース（例：CE マーク、RCM マーク）
- 9 ケーブルの許容温度範囲
- 10 製造日：年、月
- 11 工場出荷時のファームウェアのバージョン (FW) および機器リビジョン (Dev.Rev.)
- 12 安全関連の補足資料の資料番号
- 13 特殊仕様品の追加情報用スペース
- 14 使用可能な入力/出力、電源電圧
- 15 電気接続データ：電源電圧
- 16 拡張オーダーコード (Ext. ord. cd.)
- 17 シリアル番号 (Ser. no.)
- 18 オーダーコード

Proline 500

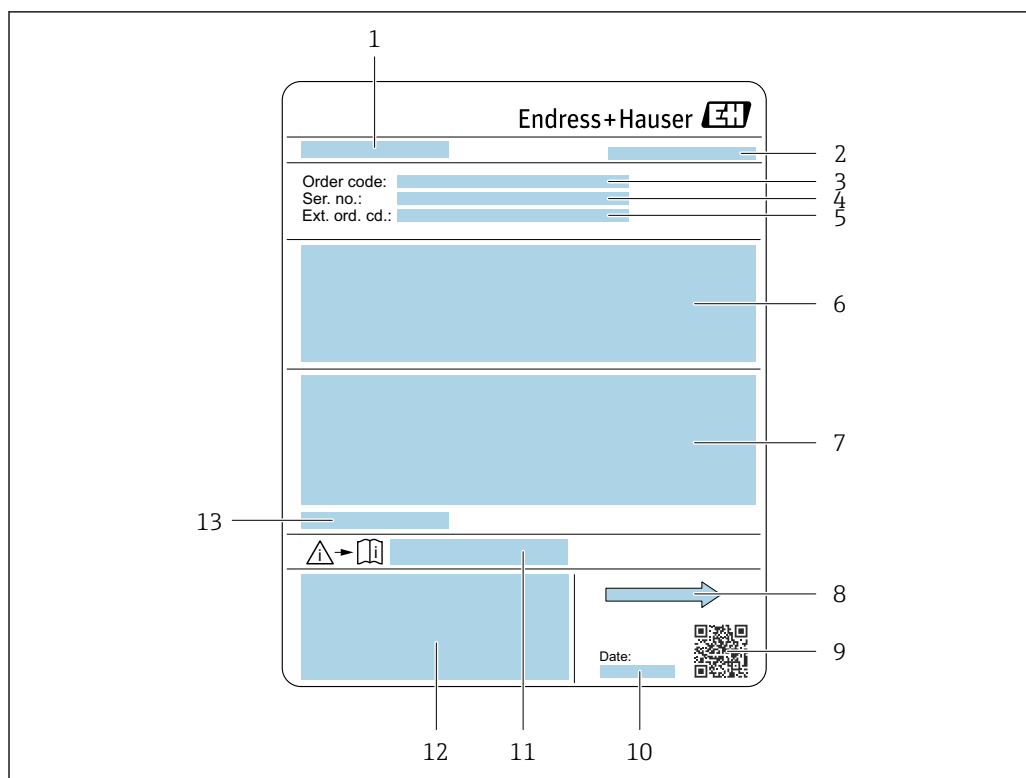


A0029192

4 変換器銘板の例

- 1 製造者所在地/認証保有者
- 2 変換器名
- 3 オーダーコード
- 4 シリアル番号 (Ser. no.)
- 5 拡張オーダーコード (Ext. ord. cd.)
- 6 保護等級
- 7 認定用スペース：危険場所用
- 8 電気接続データ：使用可能な入力/出力
- 9 2-D マトリクスコード
- 10 製造日：年、月
- 11 安全関連の補足資料の資料番号
- 12 認証および認定用スペース（例：CE マーク、RCM マーク）
- 13 接続およびアンプ部の保護等級用スペース（危険場所用）
- 14 工場出荷時のファームウェアのバージョン (FW) および機器リビジョン (Dev.Rev.)
- 15 特殊仕様品の追加情報用スペース
- 16 ケーブルの許容温度範囲
- 17 許容周囲温度 (T_a)
- 18 ケーブルグランドの情報
- 19 使用可能な入力/出力、電源電圧
- 20 電気接続データ：電源電圧

4.2.2 センサ銘板



A0029204

図 5 センサ銘板の例

- 1 センサ名
- 2 製造者所在地/認証保有者
- 3 オーダーコード
- 4 シリアル番号 (Ser. no.)
- 5 拡張オーダーコード (Ext. ord. cd.)
- 6 流量、センサ呼び口径、定格圧力、呼び圧力、静圧、流体温度範囲、ライニングおよび電極の材質
- 7 防爆、欧州圧力機器指令、保護等級に関する認定情報
- 8 流れ方向
- 9 2-D マトリクスコード
- 10 製造日：年、月
- 11 安全関連の補足資料の資料番号
- 12 CE マーク、RCM マーク
- 13 許容周囲温度 (T_a)



オーダーコード

機器の追加注文の際は、オーダーコードを使用してください。

拡張オーダーコード

- 機器タイプ（製品ルートコード）と基本仕様（必須仕様コード）を必ず記入します。
- オプション仕様（オプション仕様コード）については、安全および認定に関する仕様のみを記入します（例：LA）。その他のオプション仕様も注文する場合、これは # 記号を用いて示されます（例：#LA#）。
- 注文したオプション仕様に安全および認定に関する仕様が含まれない場合は、+ 記号を用いて示されます（例：XXXXXX-ABCDE+）。

4.2.3 機器のシンボル

シンボル	意味
	警告 危険な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して適切な対処を怠った場合、死亡、重傷、爆発などの重大事故が発生する可能性があります。潜在的な危険のタイプを特定し、それを回避するには、計測機器の関連資料を参照してください。
	資料参照 対応する機器関連文書の参照指示
	保護接地端子 その他の接続を行う前に、接地接続する必要がある端子

5 保管および輸送

5.1 保管条件

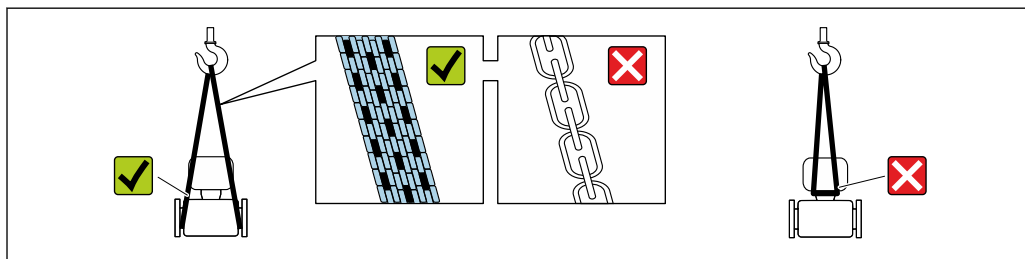
保管する際は、次の点に注意してください。

- ▶ 衝撃を防止するため、納品に使用された梱包材を使って保管してください。
- ▶ プロセス接続部に取り付けられている保護カバーまたは保護キャップは外さないでください。これは、シール面の機械的な損傷と計測チューブ内の汚染を防止するために必要です。
- ▶ 直射日光があたらないようにしてください。表面温度が高くなりすぎないようにしてください。
- ▶ 機器に結露が発生しない保管場所を選択してください。菌類や細菌がライニングに損傷を与える可能性があります。
- ▶ 乾燥した、粉塵のない場所に保管してください。
- ▶ 屋外に保管しないでください。

保管温度 → 219

5.2 製品の運搬

納品に使用された梱包材を使って、機器を測定現場まで運搬してください。



A0029252

i プロセス接続部に取り付けられている保護カバーまたはキャップは外さないでください。これは、シール表面の機械的な損傷と計測チューブ内の汚染を防止するために必要です。

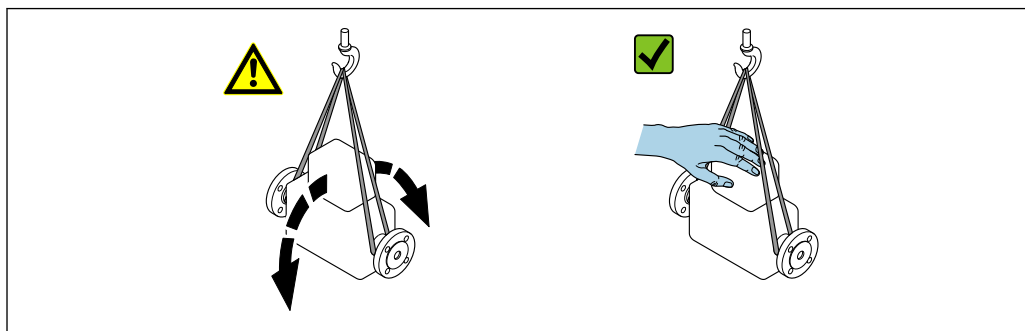
5.2.1 吊金具なし機器

⚠ 警告

機器の重心は、吊り帯の吊り下げポイントより高い位置にあります。

機器がずり落ちると負傷する恐れがあります。

- ▶ 機器がずり落ちたり、回転したりしないようにしっかりと固定してください。
- ▶ 梱包材に明記された質量（貼付ラベル）に注意してください。



A0029214

5.2.2 吊金具付き機器

▲ 注意

吊金具付き機器用の特別な運搬指示

- ▶ 機器の運搬には、機器に取り付けられている吊金具またはフランジのみを使用してください。
- ▶ 機器は必ず、最低でも 2 つ以上の吊金具で固定してください。

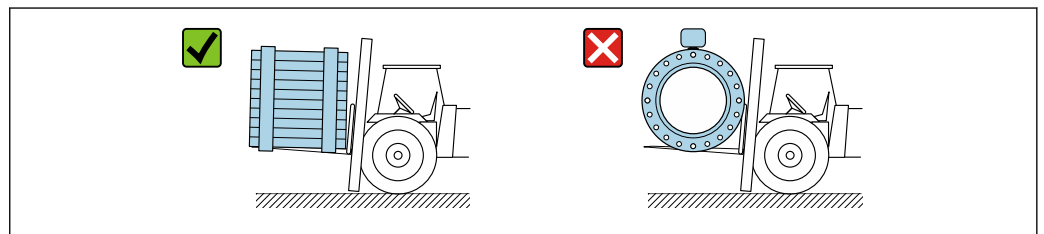
5.2.3 フォークリフトによる運搬

木箱に入れて運搬する場合は、フォークリフトを使用して縦方向または両方向で持ち上げられるような木箱の床構造となっています。

▲ 注意

磁気コイルが損傷する恐れがあります。

- ▶ フォークリフトで運搬する場合は、センサハウジングのところでセンサを持ち上げないでください。
- ▶ ケースがゆがみ、内部磁気コイルが破損するおそれがあります。



A0029319

5.3 梱包材の廃棄

梱包材はすべて環境にやさしく、100% リサイクル可能です。

- 機器の外装
 - EU 指令 2002/95/EC (RoHS) に準拠するポリマー製ストレッチフィルム
- 梱包材
 - ISPM 15 基準に準拠して処理された木枠、IPPC ログによる確認証明付き
 - 欧州包装ガイドライン 94/62/EC に準拠する段ボール箱、リサイクル可能、RESY マークによる確認証明付き
- 輸送用資材および固定具
 - 使い捨てプラスチック製パレット
 - プラスチック製ストラップ
 - プラスチック製粘着テープ
- 充填材
 - 紙製緩衝材

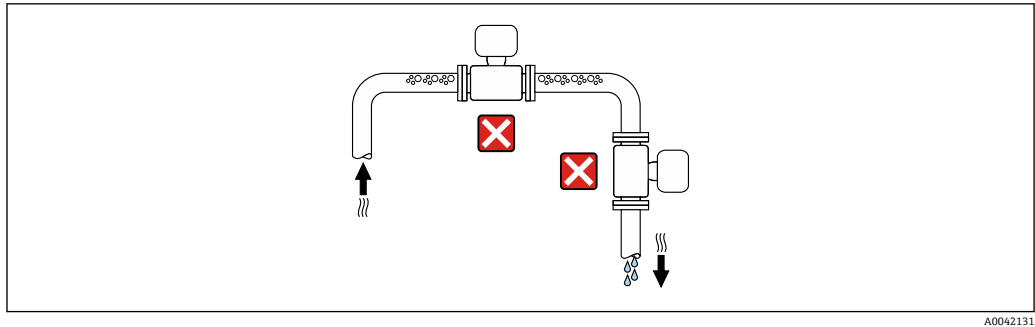
6 取付け

6.1 取付要件

6.1.1 取付位置

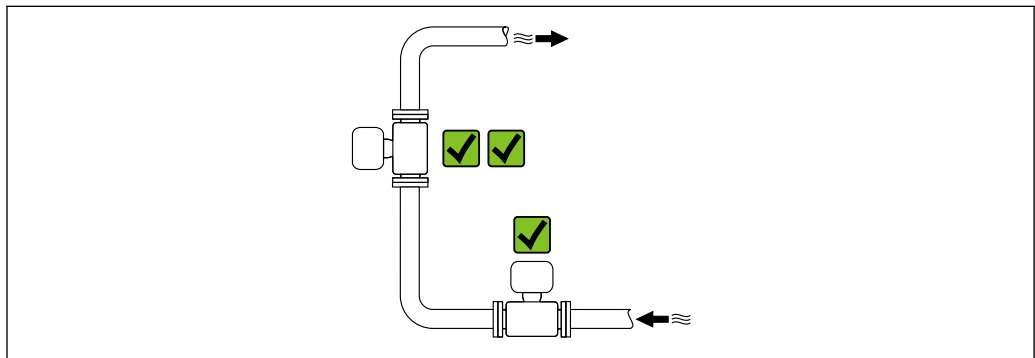
取付位置

- 配管の最高点に機器を設置しないでください。
- 下向きの配管の開放出口の上流側に機器を設置しないでください。



A0042131

本機器は縦配管への設置が最適です。



A0042317

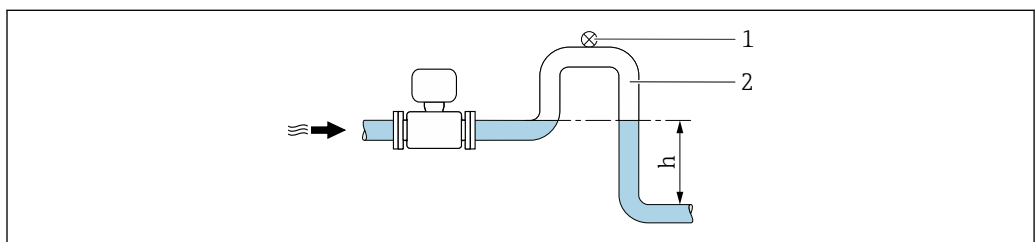
垂直配管の上流側への設置

注記

測定管の負圧によりライニングが損傷する可能性があります。

- ▶ 長さ $h \geq 5 \text{ m}$ (16.4 ft) の垂直配管の上流側に設置する場合、機器の下流側に通気弁付きのサイフォンを取り付けてください。

i これにより液体の流れの停止や空気溜まりの形成を回避できます。

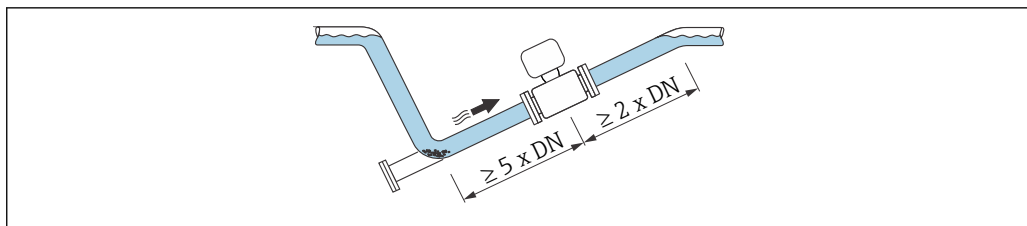


A0028981

- 1 通気弁
- 2 配管サイフォン
- h 下向きの配管の長さ

部分的に満管となる場合の取付

- 傾斜により部分的に満管となる配管にはドレン型の構成が必要です。
- 洗浄用バルブの設置をお勧めします。



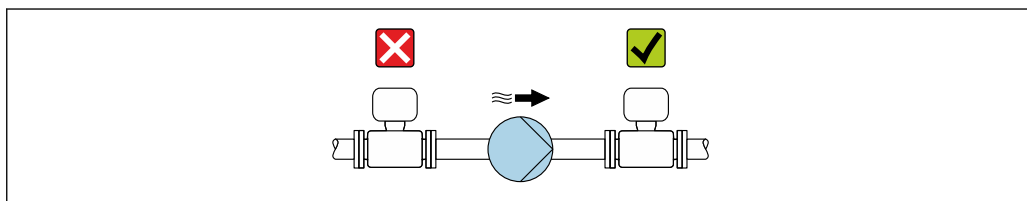
A0041088

ポンプに近接した設置

注記

計測チューブの負圧によりライニングが損傷する可能性があります。

- ▶ 使用圧力を維持するために、ポンプの下流側の流れ方向に機器を設置してください。
- ▶ 往復ポンプ、ダイヤフラムポンプ、または蠕動ポンプを使用する場合は、パルスダンパーを設置してください。



A0041083



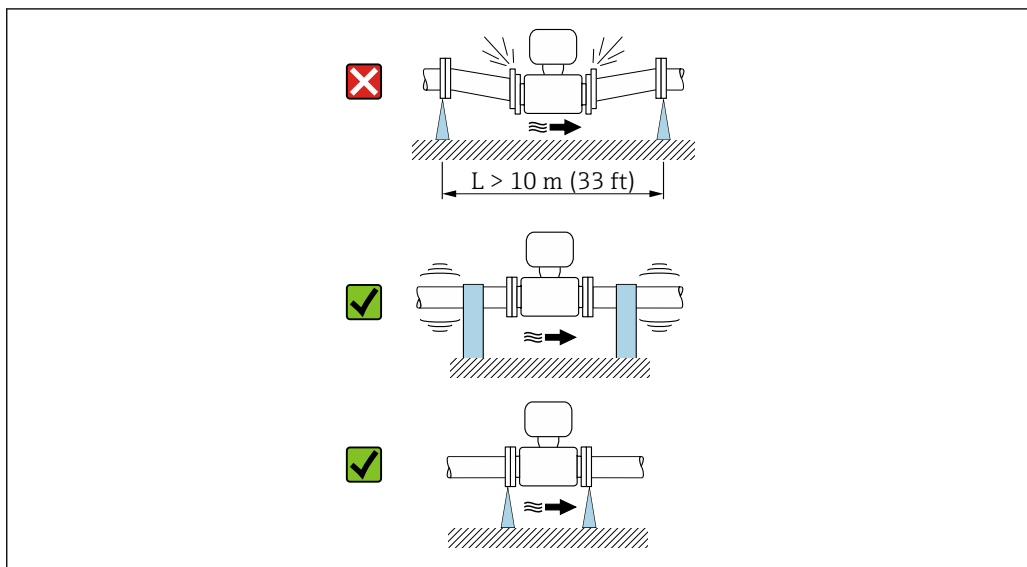
- 部分真空に対するライニングの耐性に関する情報
- 計測システムの耐振動性および耐衝撃性に関する情報 → 219

配管が振動する場合の設置

注記

配管の振動により機器が損傷する可能性があります。

- ▶ 機器に強い振動を与えないでください。
- ▶ 配管を支持して適切な場所に固定します。
- ▶ 機器を支持して適切な場所に固定します。



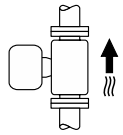
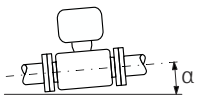
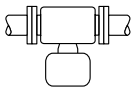
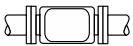
A0041092



- 計測システムの耐振動性および耐衝撃性に関する情報 → 219

取付方向

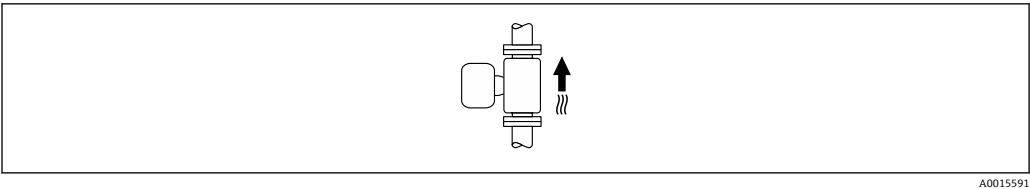
銘板に表示された矢印の方向を確認しながら、流れ方向（測定物が配管を流れる方向）に従って機器を取り付けることができます。

取付方向		推奨
垂直方向	 A0015591	✓✓
水平方向	 A0041328	✓ 1)
水平方向、変換器が下向き	 A0015590	✓✓ 2) 3) ✗ 4)
水平方向、変換器が横向き	 A0015592	✗

- 1) 機器は、サニタリアプリケーションのために自己排水されなければなりません。そのために、垂直方向の取付けが推奨されます。水平方向にしか設置できない場合は、 $\alpha \geq 10^\circ$ の傾斜角度が推奨されます。
- 2) プロセス温度が高いアプリケーションでは、周囲温度も高くなる場合があります。これは、変換器の最高周囲温度を守るための推奨の取付方向です。
- 3) 高熱発生時（例：CIP/SIP 洗浄プロセス）に電子モジュールの過熱を防止するために、変換器を下向きにして機器を取り付けてください。
- 4) パイプ空検知機能をオンにする場合：パイプ空検知は変換器ハウジングが上向きの場合にのみ機能します。

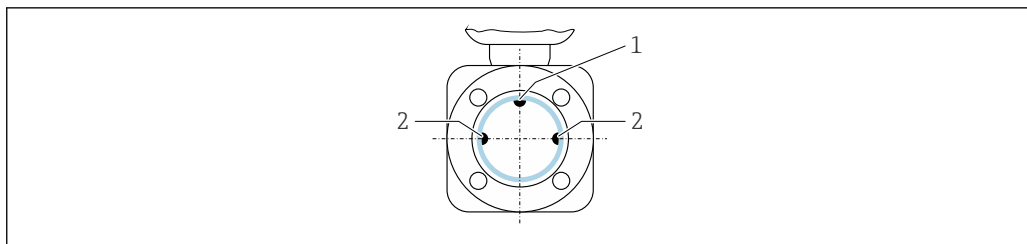
垂直取付

自己排出配管系や空検知機能での使用に最適です。



水平取付

- 測定電極面が水平になるように取り付けることが理想的です。これにより、測定電極間に気泡が混入して絶縁状態になることを防止できます。
- 変換器ハウジングが上向きの場合のみ空検知機能が作動します。上向きでない場合は、空または一部が充填された計測チューブに対する空検知機能を保証できません。



A0028998

- 1 EPD 電極（パイプ空検知用、呼び口径 $\geq 15 \text{ mm}$ ($\frac{1}{2}$ "）で使用可能）
- 2 測定電極（信号検出用）

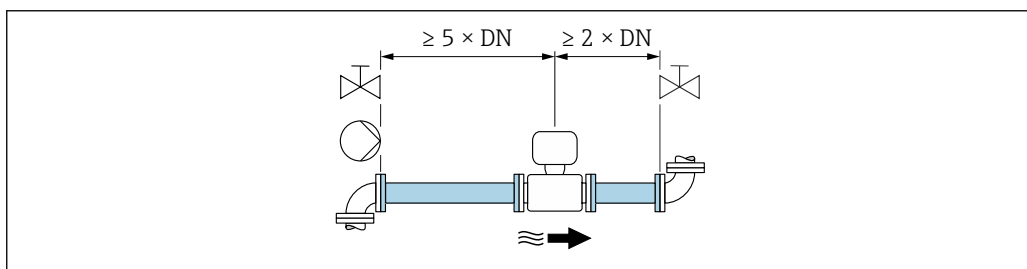
i 呼び口径 $< 15 \text{ mm}$ ($\frac{1}{2}$ "）の計測機器には、EPD 電極がありません。この場合は、測定電極を介して空検知が実行されます。

上流側/下流側直管長

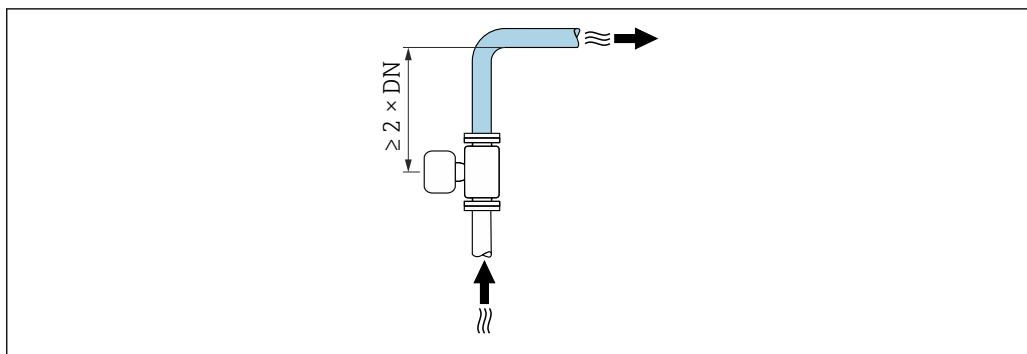
設置：上流側/下流側直管長あり

真空を防止し、規定の測定精度レベルを維持するために、乱流を発生させるアセンブリ（例：バルブ、ティー）の上流側、およびポンプの下流側に本機器を設置します。

上流側/下流側直管部を真っ直ぐ、かつ流れが妨げられないように保ちます。



A0028997



A0042132

取付寸法

i 機器の外形寸法および取付寸法については、技術仕様書の「構造」セクションを参照してください。

6.1.2 環境およびプロセスの要件

周囲温度範囲

変換器	■ 標準：-40～+60 °C (-40～+140 °F) ■ オプション：-50～+60 °C (-58～+140 °F)（「試験、証明」のオーダーコード、オプション JN「変換器周囲温度 -50 °C (-58 °F)」）
現場表示器	-20～+60 °C (-4～+140 °F)、温度が許容温度範囲外の場合、表示部の視認性が悪化する可能性があります。
センサ	-40～+60 °C (-40～+140 °F)
ライニング	ライニングの許容温度範囲を超過/下回らないようにしてください。

- 屋外で使用する場合：
- 本機器は日陰に設置してください。
 - 特に高温地域では直射日光は避けてください。
 - 気象条件下に直接さらさないでください。

使用圧力

ポンプに近接した設置 → 23

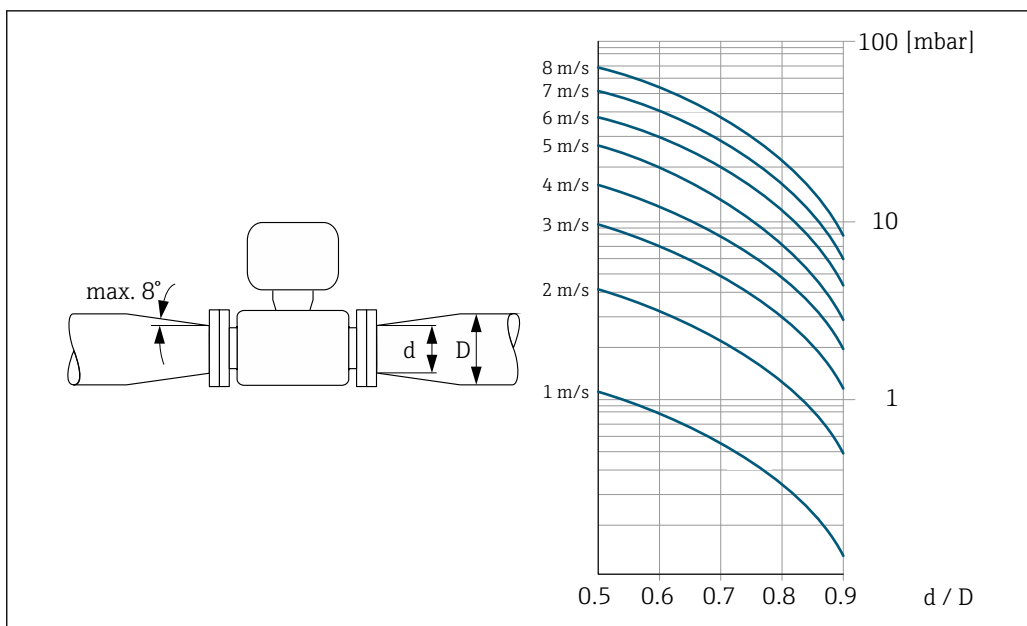
振動

配管が振動する場合の設置 → 23

アダプタの使用

DIN EN 545 に準拠した適切なアダプタ（レデューサ、エキスパンダ）を使用することで、センサをより大口径の配管に取り付けることもできます。これにより、流速を高めて高精度の測定を行うことができます。アダプタによって生じる圧力損失は、以下のノモグラムを用いて算出できます。

-  このノモグラムは水と同程度の粘度の液体に適用されます。
- 測定物の粘度が高い場合は、圧力損失を低減するために大口径の計測チューブを検討してください。
1. 内外径比：d/D を計算します。
 2. ノモグラムから、流速（レデューサの下流）と d/D 比率の関数としての圧力損失を読み取ってください。



A0029002

接続ケーブル長

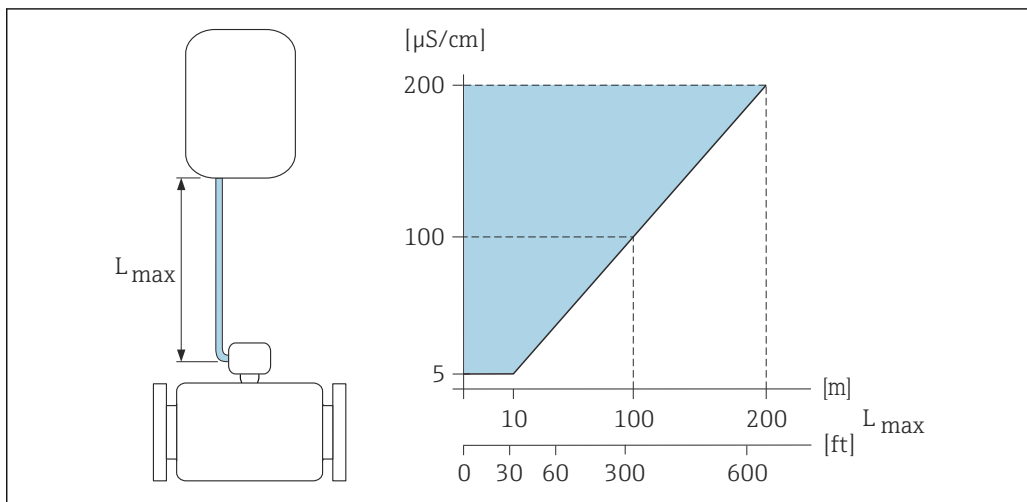
Proline 500 – デジタル変換器

接続ケーブル長 → 図 38

Proline 500 変換器

最大 200 m (650 ft)

正確な測定結果を取得するために、許容接続ケーブル長 $L_{\max}$ を順守してください。この長さは、測定物の導電率に応じて決定します。一般的な液体を測定する場合：5 $\mu\text{S}/\text{cm}$



A0016539

図 6 許容される接続ケーブル長

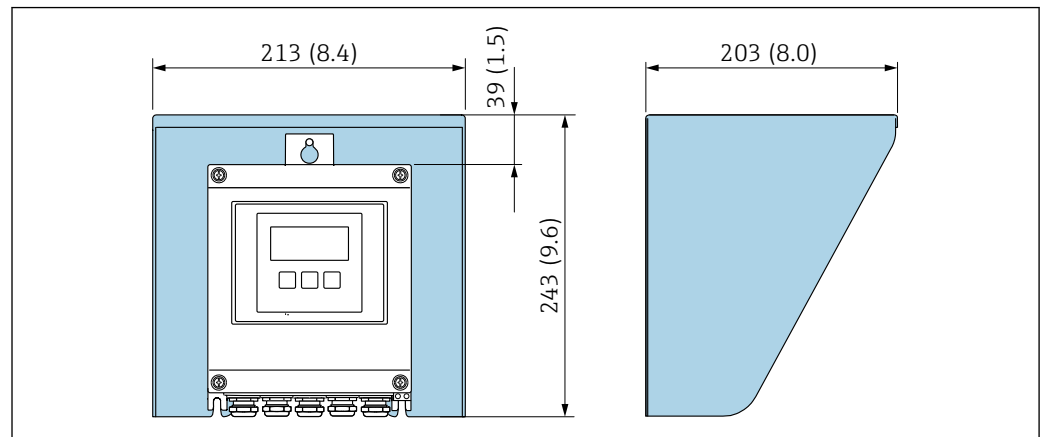
色付き部分 = 許容範囲

$L_{\max}$ = 接続ケーブル長 [m] ([ft])

[$\mu\text{S}/\text{cm}$] = 測定物導電率

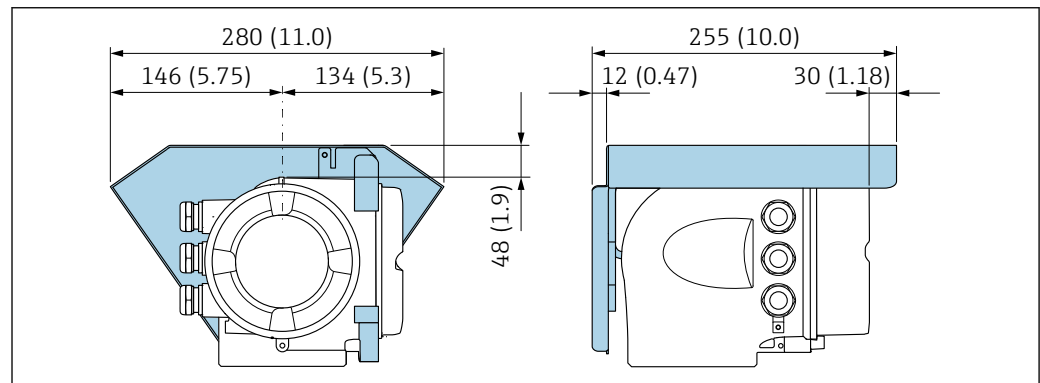
6.1.3 特定の取付方法

日除けカバー



A0029552

図 7 Proline 500 – デジタル用の日除けカバー、工学単位 mm (in)



A0029553

図 8 Proline 500 用の日除けカバー、工学単位 mm (in)

サニタリ適合性

i サニタリアプリケーションに設置する場合は、「認証と認定」の「サニタリ適合性」セクションを参照してください→ 231。

6.2 計測機器の取付け

6.2.1 必要な工具

変換器用

柱取付用：

- Proline 500 – デジタル変換器
 - スパナ AF 10
 - Torx ドライバ TX 25
- Proline 500 変換器
 - スパナ AF 13

壁取付け用：

ドリルビット Ø 6.0 mm 付きドリル

センサ用

フランジおよびその他のプロセス接続の場合：適切な取付工具を使用してください。

6.2.2 機器の準備

1. 残っている輸送梱包材をすべて取り除きます。
2. センサから保護カバーまたは保護キャップをすべて取り外します。
3. 表示部のカバーに付いているステッカーをはがします。

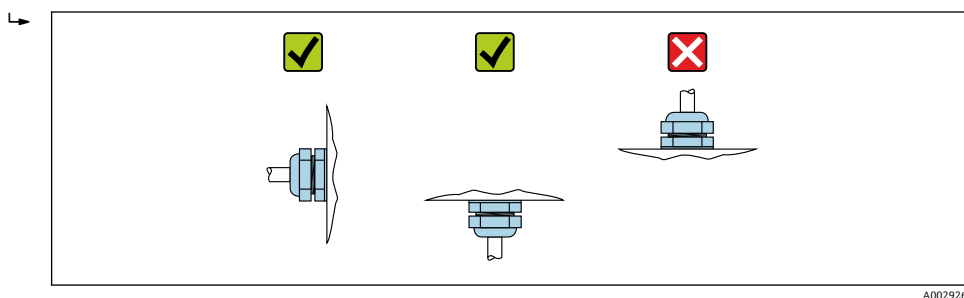
6.2.3 センサの取付け

▲ 警告

プロセスの密閉性が不適切な場合、危険が及ぶ可能性があります。

- ▶ ガasketの内径がプロセス接続や配管と同等かそれより大きい確認してください。
- ▶ シールに汚れや損傷がないことを確認してください。
- ▶ シールを正しく固定してください。

1. センサに記載されている矢印が、測定物の流れ方向と一致しているか確認します。
2. 機器仕様を遵守するため、機器が測定セクションの中心に位置するように、配管フランジの間に設置してください。
3. 電線管接続口が上を向かないように機器を取り付けるか、変換器ハウジングを回転させます。



A0029263

本センサは、ご注文に応じて、プロセス接続部を取り付けた状態、または取り付けしていない状態で提供されます。取り付け済みの接続部は、4本または6本の六角ボルトでセンサにしっかりと固定されています。

- ▶ アプリケーションおよび配管長さに応じて：
センサを支持するか、またはセンサを追加で固定します。
- ▶ プラスチック製プロセス接続を使用する場合：
センサを固定することが絶対に必要です。

i 適切な壁面取付キットを付属品として別途注文可能です→ 233。

センサを配管に溶接（溶接ニップル）

▲ 警告

電子モジュールが損傷する恐れがあります。

- ▶ 溶接システムの接地をセンサまたは変換器を介して行わないでください。

1. 配管に固定するため、センサのプロセス接続部を仮付け溶接します。適切な溶接治具をアクセサリとして別途ご注文いただけます→ 233。
2. プロセス接続フランジのネジを緩め、配管からシールごとセンサを取り外します。
3. プロセス接続を配管に溶接します。

4. 配管にセンサを再度取り付けるときは、シールに汚れがなく、正しい位置に配置されていることを確認してください。

- ▶ 食品搬送用の薄肉配管が正しく溶接されている場合：
取付け時にシールが熱による損傷を受けていない場合でも、センサとシールを取り外します。

 取外しを行うには、配管を 8 mm (0.31 in) 以上開く必要があります。

シールの取付け

シールの取り付けには以下の点にご注意ください：

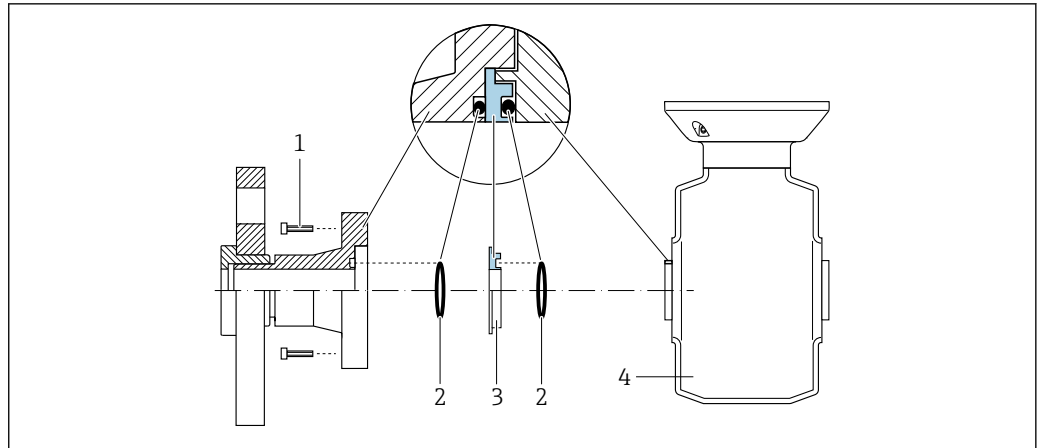
1. 金属製プロセス接続の場合は、ネジをしっかりと締め付ける必要があります。プロセス接続とセンサとに金属接合が形成され、規定のシール圧縮荷重が確保されます。
2. プラスチック製プロセス接続の場合は、潤滑剤付きネジの最大トルク (7 Nm (5.2 lbf ft)) に注意してください。プラスチック製フランジの場合は、接続とカウンタフランジの間にシールを必ず挿入してください。
3. シールはアプリケーションに応じて、特にガスケットシール（無菌バージョン）を使用している場合、定期的に交換する必要があります。交換間隔は、洗浄サイクルの頻度、洗浄温度、および流体温度に左右されます。交換用のシールは付属品として注文できます→ 図 233。

アースリングの取付け（呼び口径 2~25 mm / 1/12~1"）

 電位平衡に関する注意事項に従ってください。

プロセス接続がプラスチック製の場合（フランジ接続や接着継手など）は、センサと流体間の電位平衡を確保するため、アースリングを使用しなければなりません。アースリングを取り付けていないと、測定精度の低下や、電極の電解腐食によるセンサの破損が生じる可能性があります。

-  ■ 注文したオプションに応じて、プロセス接続の一部ではアースリングの代わりにプラスチックディスクが使用されます。これらのプラスチックディスクは「スペーサ」の役割を果たすだけで、電位平衡の機能はありません。また、プラスチックディスクはセンサ/プロセス接続部のインターフェイスで重要な密閉機能も果たします。そのため、金属製アースリングなしのプロセス接続の場合は、これらのプラスチックディスク/シールを絶対に取り外さず、必ず設置した状態にしてください。
- アースリングはアクセサリとして当社に別途ご注文いただけます→ 図 233。注文の際は、アースリングが電極の材質に適合するか確認してください。そうでない場合は、電食によって電極が破損する恐れがあります。
材質仕様 → 図 225
- アースリング（シールを含む）は、プロセス接続の内側に取り付けます。これは設置長さには影響しません。



A0028971

図 9 アースリングの取付け

- 1 プロセス接続の六角ボルト
- 2 Oリングシール
- 3 アースリングまたはプラスチックディスク（スペーサ）
- 4 センサ

1. 4本または6本の六角ボルト（1）を緩めて、プロセス接続をセンサ（4）から取り外します。
2. プラスチックディスク（3）と、2つのOリング（2）をプロセス接続から取り外します。
3. プロセス接続の溝に1つ目のOリングシール（2）を再び取り付けます。
4. 金属製アースリング（3）を図のようにプロセス接続に取り付けます。
5. アースリングの溝に2つ目のOリングシール（2）を取り付けます。
6. プロセス接続をセンサに戻して取り付けます。このとき、潤滑剤付きネジの最大ネジ締め付けトルク（7 Nm (5.2 lbf ft)）に注意してください。

6.2.4 変換器ハウジングの取付け：Proline 500 – デジタル

⚠ 注意

周囲温度が高すぎます。

電子部過熱とハウジング変形が生じる恐れがあります。

- ▶ 許容最高周囲温度を超えないように注意してください。→ 図 26
- ▶ 屋外で使用する場合：特に高温地域では直射日光が当たらないように、風化にさらされないようにしてください。

⚠ 注意

過度な力によりハウジングが損傷する恐れがあります。

- ▶ 過度な機械的応力がかからないようにしてください。

変換器は次のような方法で取付できます。

- 設置状況
- 壁取付け

パイプ取付け

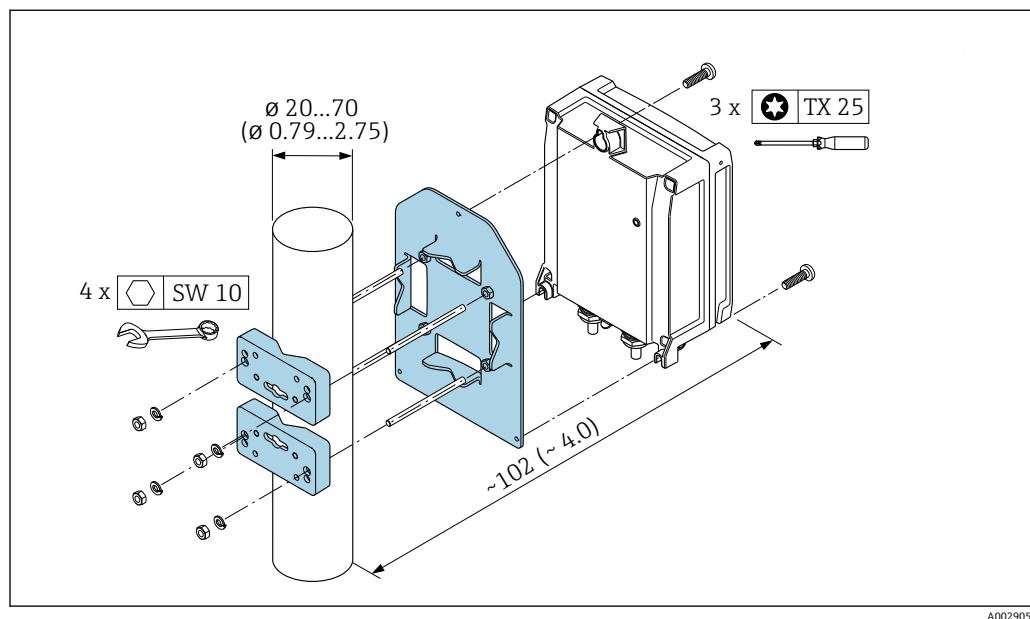
必要な工具：

- スパナ AF 10
- Torx ドライバ TX 25

注記**固定ネジの締付けトルクが超過！**

プラスチック製変換器が損傷する恐れがあります。

▶ 締付けトルク：2.5 Nm (1.8 lbf ft) に従って固定ネジを締め付けてください。



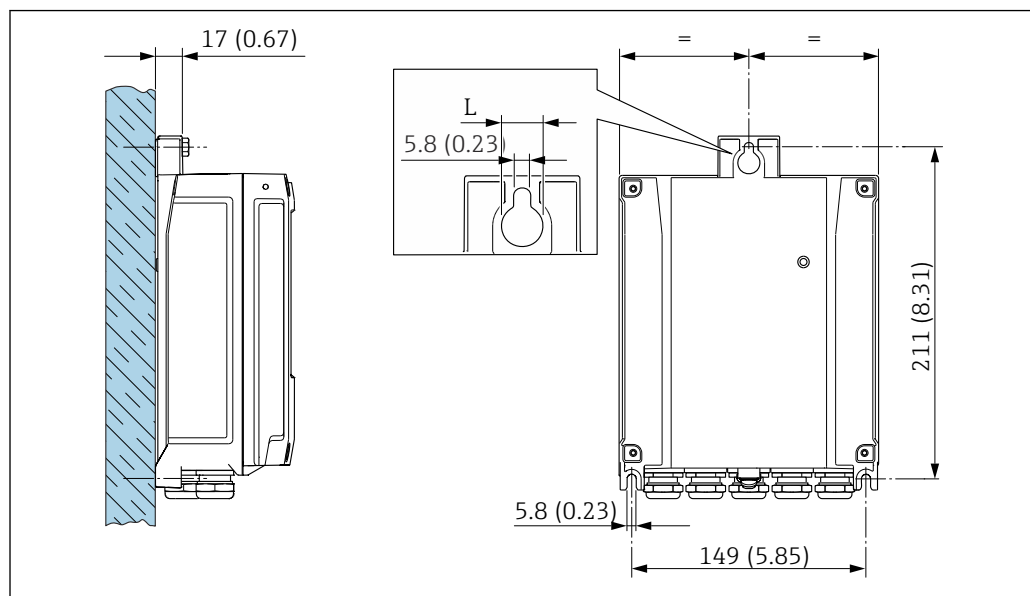
A0029051

図 10 単位 mm (in)

壁取付け

必要な工具：

ドリルビット $\varnothing 6.0$ mm 付きドリル



A0029054

図 11 工学単位 mm (in)

L 「変換器ハウジング」のオーダーコードに応じて異なる

「変換器ハウジング」のオーダーコード

オプション A、アルミニウム、コーティング：L = 14 mm (0.55 in)

1. ドリルで穴を開けます。

2. 壁用プラグを穴に挿入します。
3. 固定ネジを軽く締め付けます。
4. 固定ネジの上から変換器ハウジングを取り付けて、位置を合わせます。
5. 固定ネジを締め付けます。

6.2.5 変換器ハウジングの取付け : Proline 500

▲ 注意

周囲温度が高すぎます。

電子部過熱とハウジング変形が生じる恐れがあります。

- ▶ 許容最高周囲温度を超えないように注意してください。→ 図 26
- ▶ 屋外で使用する場合：特に高温地域では直射日光が当たらないように、風化にさらされないようにしてください。

▲ 注意

過度な力によりハウジングが損傷する恐れがあります。

- ▶ 過度な機械的応力がかからないようにしてください。

変換器は次のような方法で取付できます。

- 設置状況
- 壁取付け

壁取付け

必要な工具

ドリルビット $\varnothing 6.0 \text{ mm}$ 付きドリル

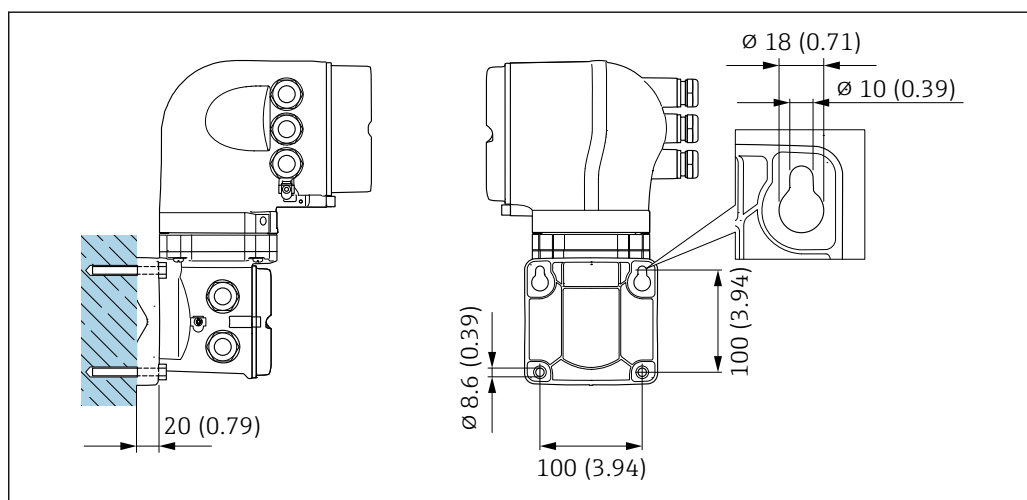


図 12 工学単位 mm (in)

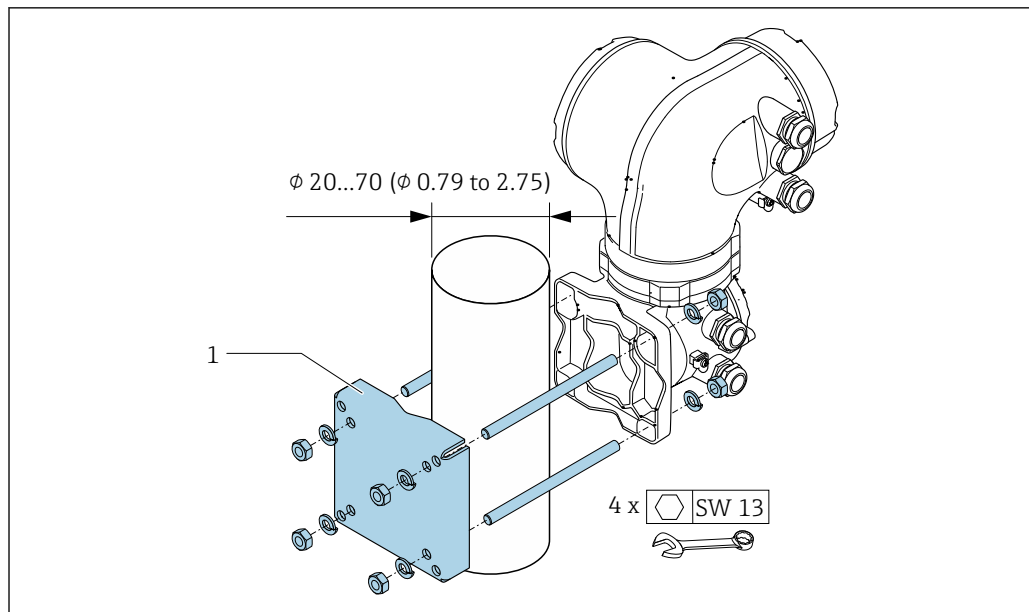
A0029068

1. ドリルで穴を開けます。
2. 壁用プラグを穴に挿入します。
3. 固定ネジを軽く締め付けます。
4. 固定ネジの上から変換器ハウジングを取り付けて、位置を合わせます。
5. 固定ネジを締め付けます。

パイプ取付け

必要な工具

スパナ AF 13

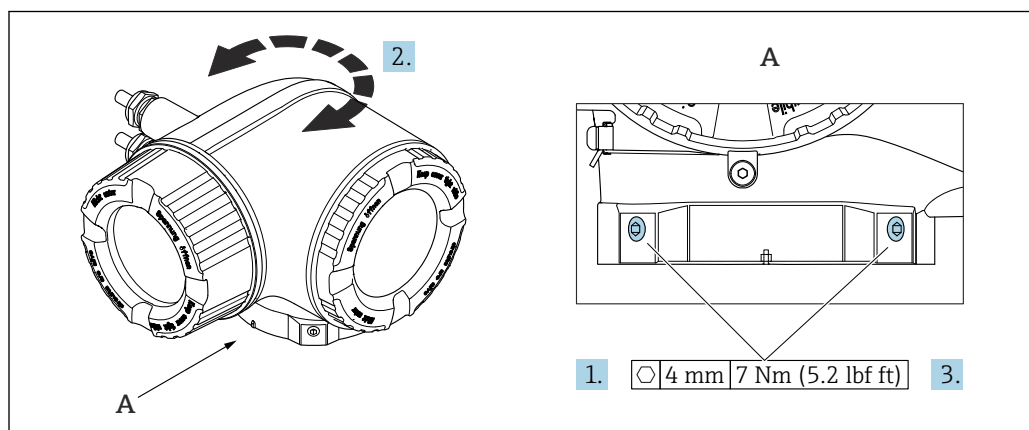


A0029057

図 13 工学単位 mm (in)

6.2.6 変換器ハウジングの回転 : Proline 500

端子部や表示モジュールにアクセスしやすくするため、変換器ハウジングを回転させることが可能です。



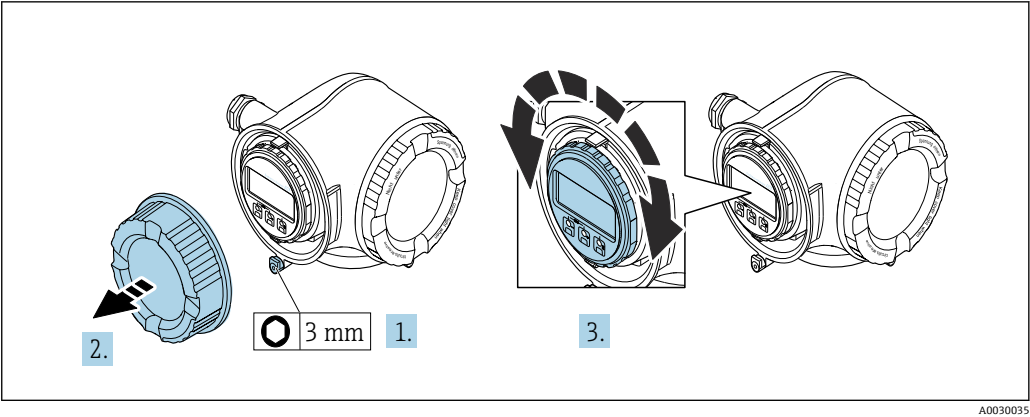
A0043150

図 14 防爆ハウジング

1. 固定ネジを緩めます。
2. ハウジングを必要な位置に回転させます。
3. 固定ネジを締め付けます。

6.2.7 表示モジュールの回転 : Proline 500

表示モジュールを回転させて、表示部の視認性と操作性を最適化することが可能です。



- 1. 機器バージョンに応じて、端子部カバーの固定クランプを緩めます。
- 2. 端子部カバーを外します。
- 3. 表示モジュールを必要な位置に回転させます（両方向に最大 8 × 45°）。
- 4. 端子部カバーを取り付けます。
- 5. 機器バージョンに応じて、端子部カバーの固定クランプを取り付けます。

6.3 設置状況の確認

機器は損傷していないか？（外観検査）	☐
機器が測定点の仕様を満たしているか？ 例： ■ プロセス温度 ■ 圧力（技術仕様書の「P-T レイティング」セクションを参照） ■ 周囲温度 ■ 測定範囲	☐
センサの正しい取付方向が選択されているか→ 図 24？ ■ センサタイプに応じて ■ 測定物温度に応じて ■ 測定物特性に応じて（気泡、固形が含まれる）	☐
センサ銘板に記載された矢印が配管内を流れる流体の実際の方向と一致しているか→ 図 24？	☐
測定点の識別番号とそれに対応する銘板は正しいか（外観検査）？	☐
固定ネジが、それぞれの正しい締め付けトルクで締め付けられているか？	☐

7 電気接続

⚠ 警告

帯電部！電気接続に関する作業が不適切な場合、感電の危険性があります。

- ▶ 機器の電源を容易に切ることができるように、断路装置（スイッチまたは電源ブレーカ）を設定します。
- ▶ 機器のヒューズに加えて、最大 10 A の過電流保護ユニットをプラント設備に組み込んでください。

7.1 電気の安全性

適用される各国の規制に準拠

7.2 接続要件

7.2.1 必要な工具

- 電線口用：適切な工具を使用してください。
- 固定クランプ用：六角レンチ 3 mm
- 電線ストリッパ
- より線ケーブルを使用する場合：電線端棒端子用の圧着工具
- ケーブルを端子から外す場合：マイナスドライバ ≤ 3 mm (0.12 in)

7.2.2 接続ケーブルの要件

ユーザー側で用意する接続ケーブルは、以下の要件を満たす必要があります。

外部接地端子用の保護接地ケーブル

導体断面積 < 2.1 mm² (14 AWG)

ケーブルラグを使用すると、より大きな断面積の接続が可能になります。

接地インピーダンスは 2 Ω 以下でなければなりません。

許容温度範囲

- 設置する国/地域に適用される設置ガイドラインを順守する必要があります。
- ケーブルは予想される最低温度および最高温度に適合しなければなりません。

電源ケーブル（内部接地端子用の導体を含む）

一般的な接続ケーブルをご使用いただけます。

信号ケーブル

PROFIBUS DP

IEC 61158 規格では、あらゆる伝送速度で使用可能なバスライン用に 2 つのケーブルタイプ（A および B）が指定されています。ケーブルタイプ A が推奨です。

ケーブルタイプ	A
特性インピーダンス	135～165 Ω、測定周波数 3～20 MHz 時
ケーブル静電容量	< 30 pF/m
ケーブル断面	> 0.34 mm ² (22 AWG)
ケーブルタイプ	ツイストペア
ループ抵抗	≤ 110 Ω/km

信号ダンピング	ケーブル断面積の全長にわたって最大 9 dB
シールド	銅編組シールドまたはフォイルシールド付き編組シールド。ケーブルシールドを接地する場合は、プラントの接地コンセプトに注意してください。



PROFIBUS ネットワークのプランニングおよび設置の詳細については、以下を参照してください。

取扱説明書『PROFIBUS DP/PA: Guidelines for planning and commissioning』
(BA00034S)

電流出力 0/4～20 mA

一般的な接続ケーブルをご使用いただけます。

パルス / 周波数 / スイッチ出力

一般的な接続ケーブルをご使用いただけます。

リレー出力

一般的な接続ケーブルをご使用いただけます。

電流入力 0/4～20 mA

一般的な接続ケーブルをご使用いただけます。

ステータス入力

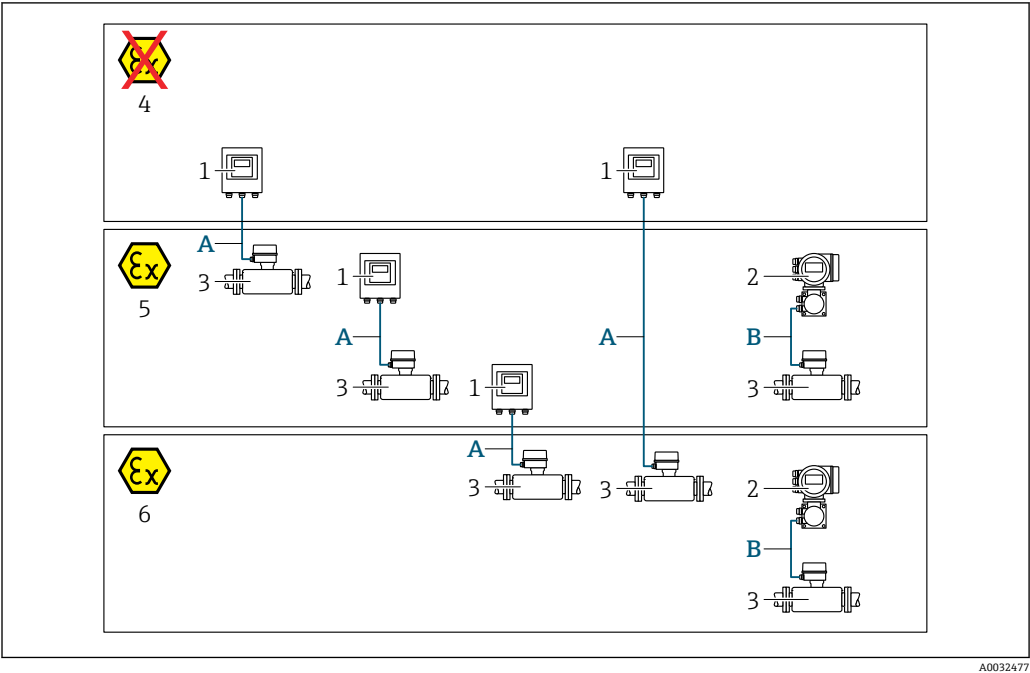
一般的な接続ケーブルをご使用いただけます。

ケーブル径

- 提供されるケーブルグランド :
M20 × 1.5、Ø 6～12 mm (0.24～0.47 in) ケーブル用
- スプリング端子 : より線およびスリーブ付きより線に最適
導体断面積 0.2～2.5 mm² (24～12 AWG)

変換器とセンサ間の接続ケーブルの選択

変換器のタイプおよび設置ゾーンに応じて異なります。



- 1 Proline 500 デジタル変換器
2 Proline 500 変換器
3 Promag センサ
4 非危険場所
5 危険場所：Zone 2; Class I, Division 2
6 危険場所：Zone 1; Class I, Division 1
A 500 デジタル変換器への標準ケーブル → ㉟ 38
非危険場所または危険場所に設置された変換器：Zone 2; Class I, Division 2 / 危険場所に設置されたセンサ：Zone 2; Class I, Division 2 or Zone 1; Class I, Division 1
B 500 変換器への信号ケーブル → ㉟ 39
危険場所に設置された変換器およびセンサ：Zone 2; Class I, Division 2 または Zone 1; Class I, Division 1

A：センサと変換器間の接続ケーブル：Proline 500 – デジタル
標準ケーブル

以下の仕様の標準ケーブルを接続ケーブルとして使用できます。

構成	4 芯 (2 ペア)；非絶縁 CU 撚り線；共通シールド付きペア撚り
シールド	錫メッキ銅編組線、光学的カバー ≥ 85 %
ケーブル長	最大 300 m (900 ft)、下表を参照

断面積	ケーブル長：使用場所は	
	非危険場所、 危険場所：Zone 2; Class I, Division 2	危険場所：Zone 1; Class I, Division 1
0.34 mm ² (AWG 22)	80 m (240 ft)	50 m (150 ft)
0.50 mm ² (AWG 20)	120 m (360 ft)	60 m (180 ft)
0.75 mm ² (AWG 18)	180 m (540 ft)	90 m (270 ft)
1.00 mm ² (AWG 17)	240 m (720 ft)	120 m (360 ft)
1.50 mm ² (AWG 15)	300 m (900 ft)	180 m (540 ft)
2.50 mm ² (AWG 13)	300 m (900 ft)	300 m (900 ft)

オプションで使用可能な接続ケーブル

構成	2 × 2 × 0.34 mm ² (AWG 22) PVC ケーブル ¹⁾ 、共通シールド付き (2 ペア、非絶縁 CU 撚り線、ペア撚り)
難燃性	DIN EN 60332-1-2 に準拠
耐油性	DIN EN 60811-2-1 に準拠
シールド	錫メッキ銅編組線、光学的カバレッジ ≥ 85 %
動作温度	固定位置に取り付けた場合：-50～+105 °C (-58～+221 °F) ; ケーブルを自由に移動できる場合：-25～+105 °C (-13～+221 °F)
使用可能なケーブル長	固定 ; 20 m (60 ft)、可変 : 最大 50 m (150 ft)

- 1) 紫外線放射により、ケーブルの外側シースが損なわれる可能性があります。可能な場合は、ケーブルを直射日光から保護してください。

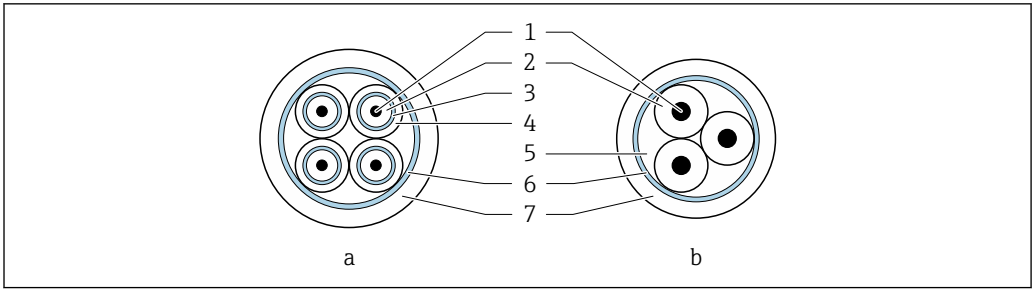
B : センサと変換器間の接続ケーブル : Proline 500

信号ケーブル

構成	3 × 0.38 mm ² (20 AWG)、共通銅編組シールド (Ø ~ 9.5 mm (0.37 in)) および個別シールドコア付き
導体抵抗	≤ 50 Ω/km (0.015 Ω/ft)
静電容量 : コア/シールド	≤ 420 pF/m (128 pF/ft)
ケーブル長 (最大)	測定物の導電率に応じて異なる : 最大 200 m (656 ft)
ケーブル長 (注文可能な)	5 m (15 ft)、10 m (30 ft)、20 m (60 ft)、または可変長 : 最大 200 m (600 ft)
ケーブル径	9.4 mm (0.37 in) ± 0.5 mm (0.02 in)
動作温度	-20～+80 °C (-4～+176 °F)

コイルケーブル

構成	3 × 0.75 mm ² (18 AWG)、共通銅編組シールド (Ø ~ 9 mm (0.35 in)) および個別シールドコア付き
導体抵抗	≤ 37 Ω/km (0.011 Ω/ft)
静電容量 : コア/コア、シールド接地	≤ 120 pF/m (37 pF/ft)
ケーブル長 (最大)	測定物の導電率に応じて異なる : 最大 200 m (656 ft)
ケーブル長 (注文可能な)	5 m (15 ft)、10 m (30 ft)、20 m (60 ft)、または可変長 : 最大 200 m (600 ft)
ケーブル径	8.8 mm (0.35 in) ± 0.5 mm (0.02 in)
連続動作温度	-20～+80 °C (-4～+176 °F)
ケーブル絶縁のテスト電圧	≤ AC 1433 V rms 50/60 Hz または ≥ DC 2026 V



A0029151

図 15 ケーブル断面

- a 電極ケーブル
- b コイルケーブル
- 1 コア
- 2 コア絶縁材
- 3 コアシールド
- 4 コア被覆
- 5 コア補強材
- 6 ケーブルシールド
- 7 外部被覆

電氣的ノイズが激しい現場での使用

本機器は一般安全要件 → 図 232 および EMC 仕様 → 図 220 に適合します。

接地は接続ハウジング内部の専用接地端子を使って行います。接地端子側のケーブルシールドの被覆を剥がしてよじった部分の長さは、できるだけ短くしてください。

7.2.3 端子の割当て

変換器：電源電圧、入力/出力

入出力の端子の割当ては、注文した個別の機器バージョンに応じて異なります。機器固有の端子の割当ては、端子部カバーに貼付されたラベルに明記されています。

電源		入力/出力 1		入力/出力 2		入力/出力 3		入力/出力 4	
1 (+)	2 (-)	26 (B)	27 (A)	24 (+)	25 (-)	22 (+)	23 (-)	20 (+)	21 (-)
機器固有の端子の割当て：端子カバーに貼付されたラベル									

変換器およびセンサ接続ハウジング：接続ケーブル

別の場所に設置されているセンサと変換器は接続ケーブルを使用して相互に接続されます。ケーブルはセンサ接続ハウジングおよび変換器ハウジングを介して接続されます。

接続ケーブルの端子の割当ておよび接続：

- Proline 500 – デジタル → 図 45
- Proline 500 → 図 52

7.2.4 シールドおよび接地

フィールドバスシステムの最適な電磁適合性（EMC）は、システムコンポーネント、特に配線をできるだけ完全にシールドした場合にのみ保障されます。可能な限り全体をシールドしてください。シールド率は 90% が理想的です。

- 最適な電磁適合性を確保するためには、シールドをできるだけ基準接地に接続することが重要です。
- しかし、防爆のためには接地を控える必要があります。

両方の要件を満たすために、フィールドバスシステムは3種類のシールド方法に対応しています。

- 両端をシールドする
- キャパシタ端子を備えたフィールド機器において給電側の一端だけをシールドする
- 給電側の一端だけをシールドする

ほとんどの場合、給電側の一端だけをシールドしたケーブルを挿入すると最も良い電磁適合性が得られます(フィールド機器にキャパシタ端子なし)。EMC 干渉が存在する場合に操作を制限されないようにするには、入力配線に関する適切な措置を講じる必要があります。本機ではこれらの措置が考慮されており、NAMUR NE21 に準拠した操作の耐干渉性が保証されます。

設置においては、該当する各国の設置法規およびガイドラインを遵守してください。

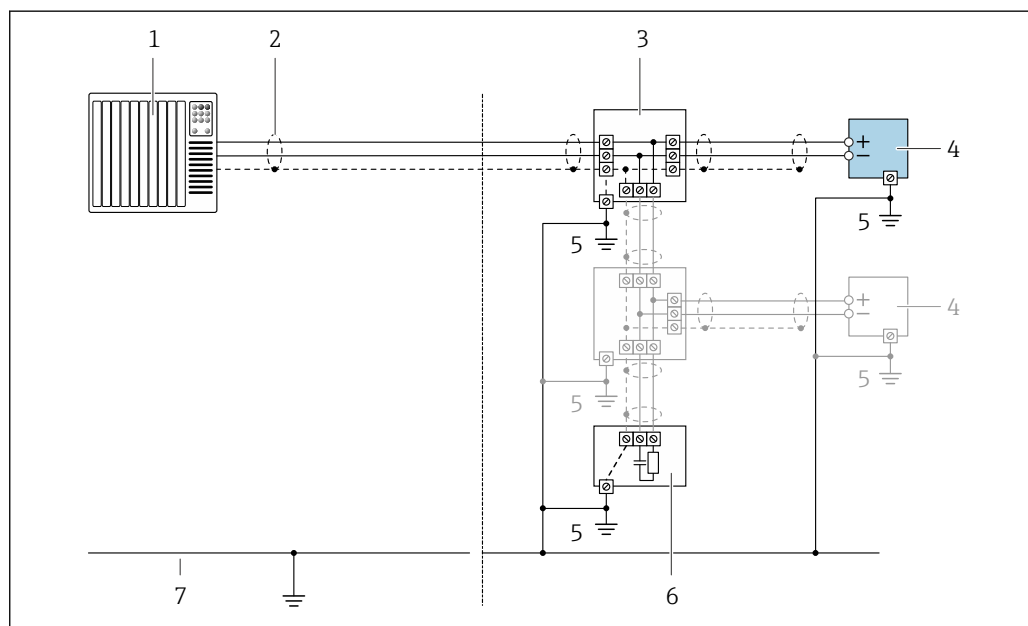
各接地点の電位が大きく異なる場合は、シールドの一点のみを基準接地に接続します。電位平衡のないシステムの場合は、フィールドバスシステムのケーブルシールドをフィールドバス電源ユニットまたは安全バリアなどに一端だけを接地してください。

注記

電位平衡のないシステムの場合は、ケーブルシールドの多重接地により電源周波数均等化電流が生じます。

バスケーブルシールドが損傷する恐れがあります。

- ▶ バスケーブルシールドは、現場接地端子または保護接地端子のどちらかに一端だけを接地してください。接続されていないシールドは絶縁してください。



A0036639

- 1 コントローラ (例: PLC)
- 2 ケーブルシールド
- 3 Tボックス
- 4 機器
- 5 接地
- 6 バスターミネータ
- 7 アース線

7.2.5 機器の準備

以下の順序で手順を実施します。

1. センサと変換器を取り付けます。
2. センサ接続ハウジング：接続ケーブルを接続します。
3. 変換器：接続ケーブルを接続します。
4. 変換器：信号ケーブルおよび電源ケーブルを接続します。

注記**ハウジングの密閉性が不十分な場合。**

機器の動作信頼性が損なわれる可能性があります。

▶ 保護等級に対応する適切なケーブルグランドを使用してください。

1. ダミープラグがある場合は、これを取り外します。
2. 機器にケーブルグランドが同梱されていない場合：
接続ケーブルに対応する適切なケーブルグランドを用意してください。
3. 機器にケーブルグランドが同梱されている場合：
接続ケーブルの要件を遵守します。→ 図 36.

7.2.6 接続ケーブルの準備 : Proline 500 – デジタル

接続ケーブルの終端処理を行うときは、以下の点にご注意ください。

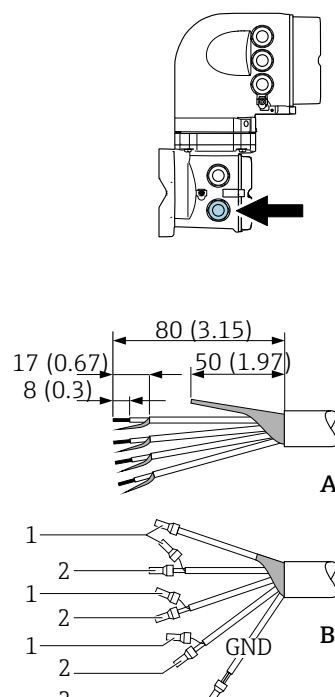
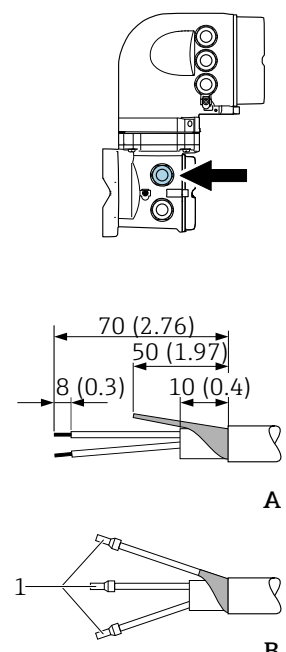
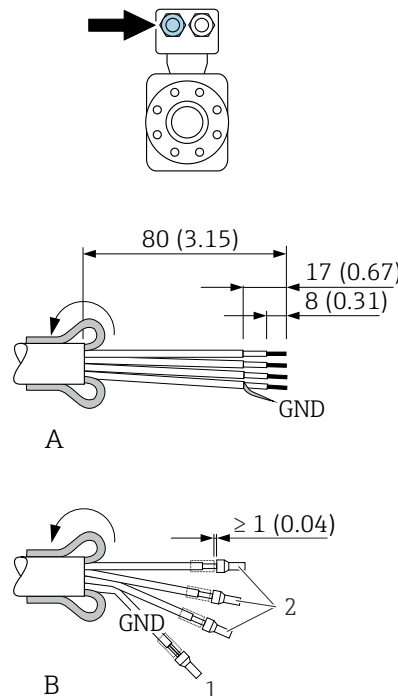
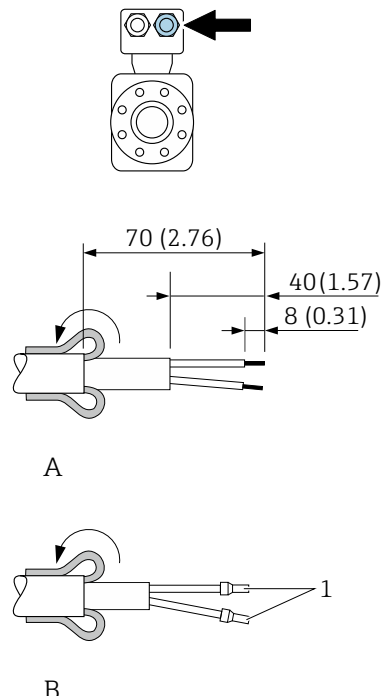
- ▶ 細線コアケーブル（より線ケーブル）の場合：
コアにスリーブを装着します。

変換器	センサ
A0029546	A0029442
単位 mm (in) A = ケーブルの終端処理 B = 細線コアケーブル（より線ケーブル）にスリーブを装着 1 = 赤色のスリーブ、$\phi 1.0$ mm (0.04 in)	

7.2.7 接続ケーブルの準備 : Proline 500

接続ケーブルの終端処理を行うときは、以下の点にご注意ください。

1. 電極ケーブルの場合：
センサ側のコアシールドにスリーブが接触しないように注意してください。最小距離 = 1 mm（例外：緑色「GND」ケーブル）
2. コイルケーブルの場合：
3 芯ケーブルの 1 本をコア補強材のレベルで絶縁します。接続には 2 本の芯線しか必要ありません。
3. 細線コアケーブル（より線ケーブル）の場合：
コアにスリーブを装着します。

変換器	
電極ケーブル  A0029543	コイルケーブル  A0029544
センサ	
電極ケーブル  A0029438	コイルケーブル  A0029439
単位 mm (in) A = ケーブルの終端処理 B = 細線コアケーブル（より線ケーブル）にスリーブを装着 1 = 赤色のスリーブ、$\phi 1.0\text{ mm}$ (0.04 in) 2 = 白色のスリーブ、$\phi 0.5\text{ mm}$ (0.02 in)	

7.3 計測機器の接続：Proline 500 – デジタル

注記

接続を適切に行わないと、電気的安全性が損なわれます。

- ▶ 電気接続作業を実施できるのは、適切な訓練を受けた専門スタッフのみです。
- ▶ 適用される各地域/各国の設置法規を遵守してください。
- ▶ 各地域の労働安全規定に従ってください。
- ▶ 追加のケーブルを接続する前に、必ず保護接地ケーブルを接続します。Ⓢ
- ▶ 爆発性雰囲気を使用する場合は、機器固有の防爆資料の指示に従ってください。

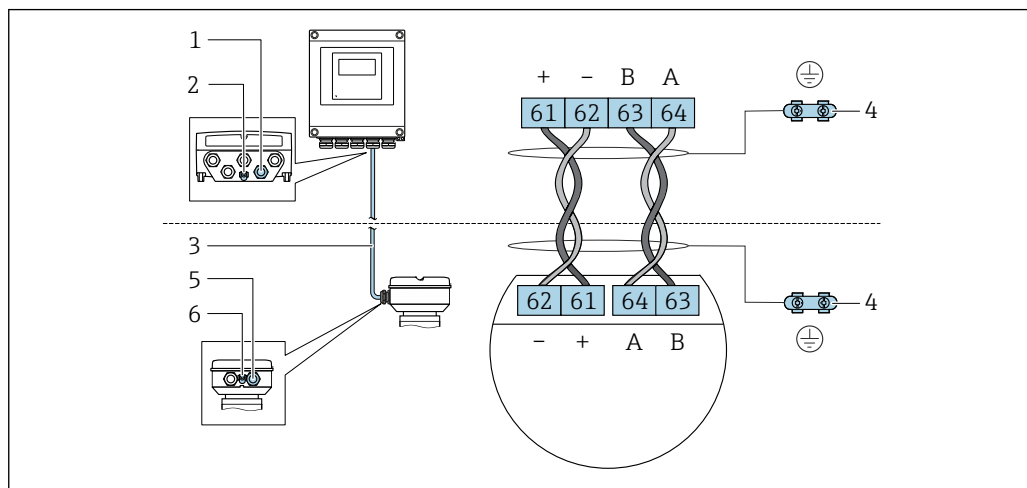
7.3.1 接続ケーブルの接続

警告

電子部品が損傷する恐れがあります。

- ▶ センサと変換器を同じ電位平衡に接続します。
- ▶ センサは同じシリアル番号の変換器にのみ接続します。
- ▶ センサの接続ハウジングは外部のネジ端子を介して接地します。

接続ケーブル端子の割当て



A0028198

- 1 変換器ハウジングのケーブル用の電線口
- 2 保護接地 (PE)
- 3 ISEM 通信用接続ケーブル
- 4 接地端子を介した接地、機器プラグ付きのバージョンでは、プラグ本体を介して接地
- 5 センサ接続ハウジングのケーブルまたは機器プラグコネクタ用の電線口
- 6 保護接地 (PE)

接続ケーブルとセンサ接続ハウジングの接続

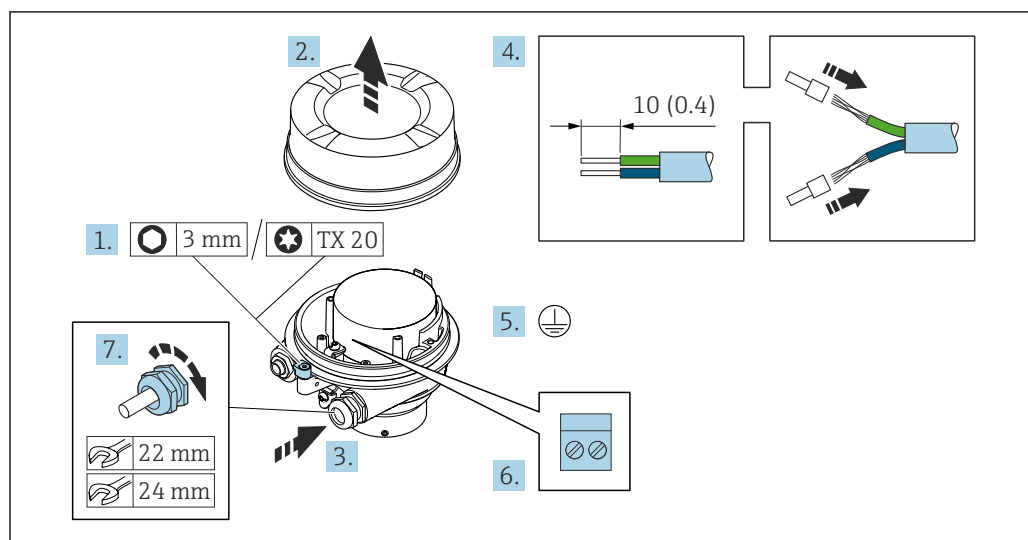
- 端子を介した接続、「センサ接続ハウジング」のオーダーコード：
オプション B 「ステンレス、サニタリ」 → 図 47
- コネクタを介した接続、「センサ接続ハウジング」のオーダーコード：
オプション C 「ウルトラコンパクトサニタリ、ステンレス」 → 図 48

接続ケーブルと変換器の接続

ケーブルは端子を介して変換器と接続します → 図 49。

端子を介したセンサ接続ハウジングの接続

「センサ接続ハウジング」のオーダーコードが以下の機器バージョン：
オプション A「塗装アルミダイカスト」



A0029616

1. ハウジングカバーの固定クランプを緩めます。
2. ハウジングカバーを緩めて外します。
3. 電線管接続口からケーブルを挿入します。気密性を確保するため、電線管接続口のシールリングは外さないでください。
4. ケーブルおよびケーブル終端の被覆を剥がします。より線ケーブルを使用する場合は、スリーブを取り付けます。
5. 保護接地を接続します。
6. 接続ケーブル端子の割当てに従ってケーブルを接続します。
7. ケーブルグランドをしっかりと締め付けます。
↳ これにより接続ケーブルの接続作業が完了します。

⚠ 警告

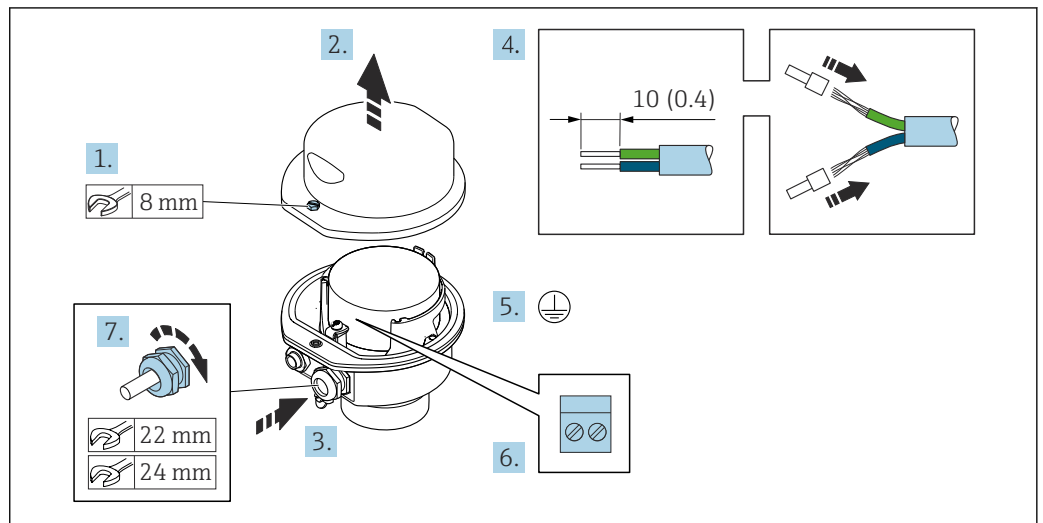
ハウジングの密閉性が不十分な時には、ハウジング保護等級は無効です。

- ▶ 潤滑剤を用いずにカバーにねじ込んでください。カバーのネジ部にはドライ潤滑コーティングが施されています。

8. ハウジングカバーを取り付けます。
9. ハウジングカバーの固定クランプを締め付けます。

端子を介したセンサ接続ハウジングの接続

「センサ接続ハウジング」のオーダーコードが以下の機器バージョン：
オプション **B** 「ステンレス、サニタリ」

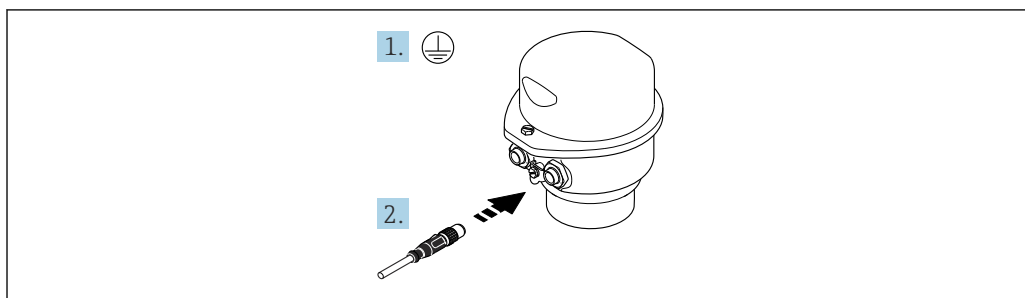


A0029613

1. ハウジングカバーの固定ネジを緩めます。
2. ハウジングカバーを開きます。
3. 電線管接続口からケーブルを挿入します。気密性を確保するため、電線管接続口のシールリングは外さないでください。
4. ケーブルおよびケーブル終端の被覆を剥がします。より線ケーブルを使用する場合は、スリーブを取り付けます。
5. 保護接地を接続します。
6. 接続ケーブル端子の割当てに従ってケーブルを接続します。
7. ケーブルグランドをしっかりと締め付けます。
↳ これにより接続ケーブルの接続作業が完了します。
8. ハウジングカバーを閉じます。
9. ハウジングカバーの固定ネジを締め付けます。

コネクタを介したセンサ接続ハウジングの接続

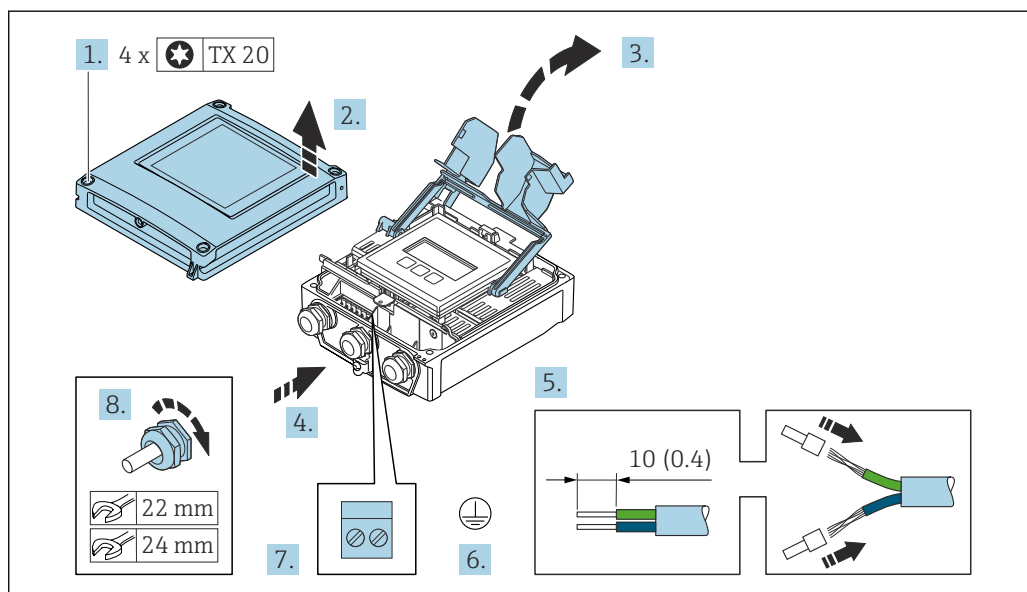
「センサ接続ハウジング」のオーダーコードが以下の機器バージョン：
オプション **C** 「ウルトラコンパクトサニタリ、ステンレス」



A0029615

1. 保護接地を接続します。
2. コネクタを接続します。

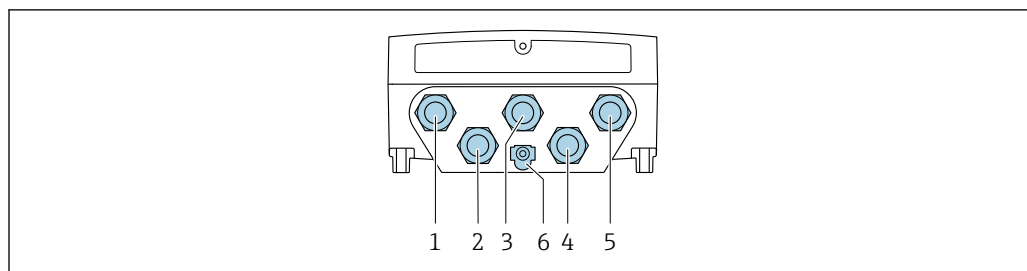
接続ケーブルと変換器の接続



A0029597

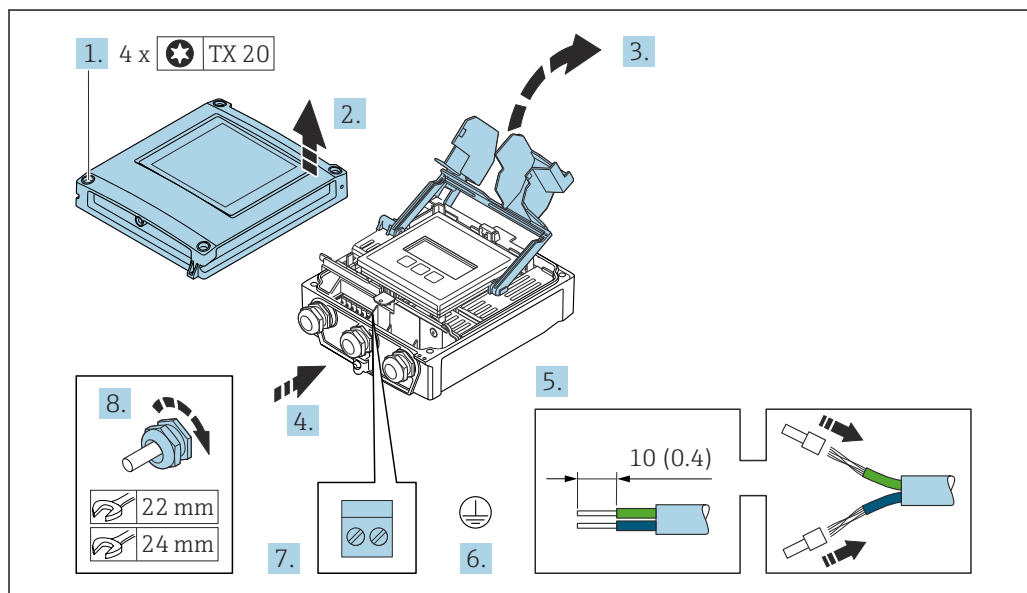
1. ハウジングカバーの 4 つの固定ネジを緩めます。
2. ハウジングカバーを開きます。
3. 端子カバーを開きます。
4. 電線口からケーブルを挿入します。気密性を確保するため、電線口のシールリングは取り外さないでください。
5. ケーブルおよびケーブル終端の被覆を剥がします。より線ケーブルを使用する場合は、棒端子を取り付けます。
6. 保護接地を接続します。
7. 接続ケーブルの端子の割当てに従ってケーブルを接続します→ 図 45。
8. ケーブルグランドをしっかりと締め付けます。
↳ これで接続ケーブルの接続作業は終了です。
9. ハウジングカバーを閉じます。
10. ハウジングカバーの固定ネジを締め付けます。
11. 接続ケーブルの接続後：
信号ケーブルと電源ケーブルを接続します→ 図 50。

7.3.2 信号ケーブルと電源ケーブルの接続



A0028200

- 1 電源用端子接続
- 2 入力/出力信号伝送用端子接続
- 3 入力/出力信号伝送用端子接続
- 4 センサと変換器間の接続ケーブル用端子接続
- 5 入力/出力信号伝送用端子接続；オプション：外部の WLAN アンテナ用接続
- 6 保護接地 (PE)



A0029597

1. ハウジングカバーの4つの固定ネジを緩めます。
2. ハウジングカバーを開きます。
3. 端子カバーを開きます。
4. 電線口からケーブルを挿入します。気密性を確保するため、電線口のシールリングは外さないでください。
5. ケーブルおよびケーブル終端の被覆を剥がします。より線ケーブルを使用する場合は、棒端子を取り付けます。
6. 保護接地を接続します。
7. 端子の割当てに従ってケーブルを接続します。
 - ↳ **信号ケーブルの端子の割当て**：機器固有の端子の割当ては、端子カバーのラベルシールに明記されています。
 - 電源の端子の割当て**：端子カバーのラベルシールまたは→ 40
8. ケーブルグランドをしっかりと締め付けます。
 - ↳ これによりケーブル接続作業が完了します。
9. 端子カバーを閉じます。
10. ハウジングカバーを閉じます。

警告

ハウジングの密閉性が不十分な時には、ハウジング保護等級が無効になる場合があります。

▶ 潤滑剤を用いずにねじ込んでください。

注記

固定ネジの締め付けトルクが超過！

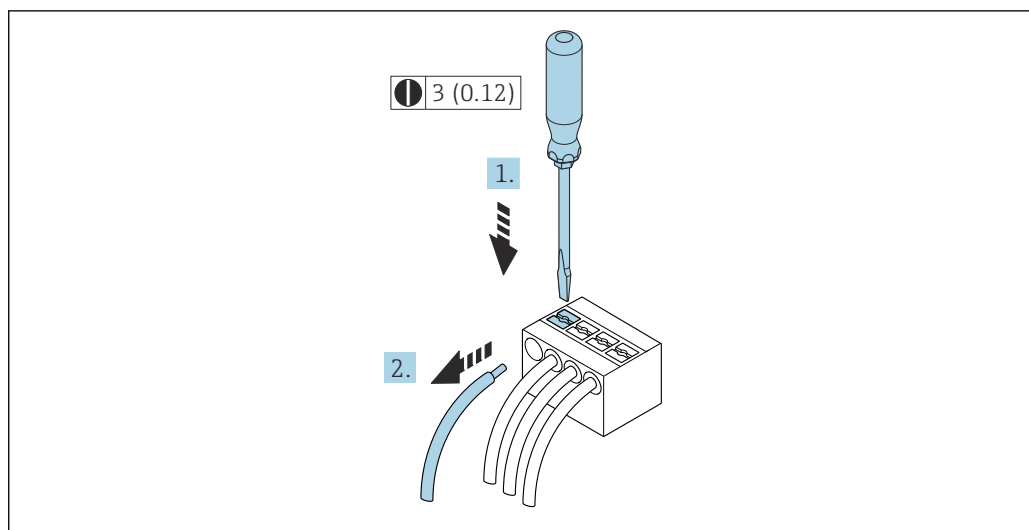
プラスチック製変換器が損傷する恐れがあります。

▶ 締め付けトルク：2.5 Nm (1.8 lbf ft) に従って固定ネジを締め付けてください。

11. ハウジングカバーの 4 つの固定ネジを締め付けます。

ケーブルの取外し

ケーブルを端子から外す場合：



A0029598

16 工学単位 mm (in)

1. マイナスドライバを使用して、2 つの端子孔間のスロットを押し込みます。
2. 端子からケーブル端を取り外します。

7.4 計測機器の接続：Proline 500

注記

接続を適切に行わないと、電気的安全性が損なわれます。

- ▶ 電気接続作業を実施できるのは、適切な訓練を受けた専門スタッフのみです。
- ▶ 適用される各地域/ 各国の設置法規を遵守してください。
- ▶ 各地域の労働安全規定に従ってください。
- ▶ 追加のケーブルを接続する前に、必ず保護接地ケーブルを接続します。Ⓔ
- ▶ 爆発性雰囲気中使用する場合は、機器固有の防爆資料の指示に従ってください。

7.4.1 接続ケーブルの接続

警告

電子部品が損傷する恐れがあります。

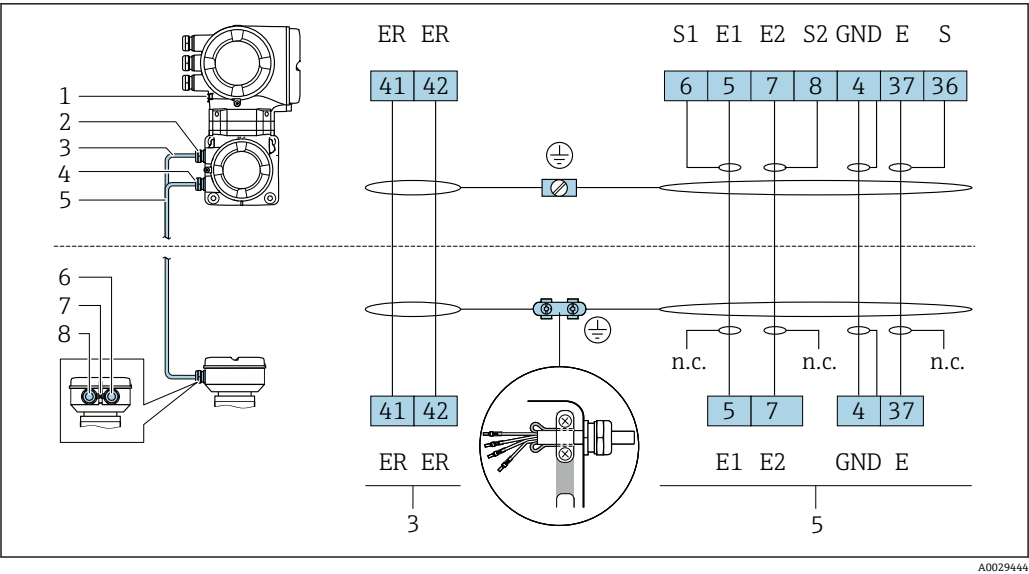
- ▶ センサと変換器を同じ電位平衡に接続します。
- ▶ センサは同じシリアル番号の変換器にのみ接続します。
- ▶ センサの接続ハウジングは外部のネジ端子を介して接地します。

注意

接続ケーブルを切断すると、測定誤差が生じる可能性があります。

- ▶ 接続ケーブルは機器の設置用に準備されたケーブルであり、支給されたケーブル長で使用してください。接続ケーブルを切断した場合、センサの測定精度が低下する可能性があります。

接続ケーブル端子の割当て



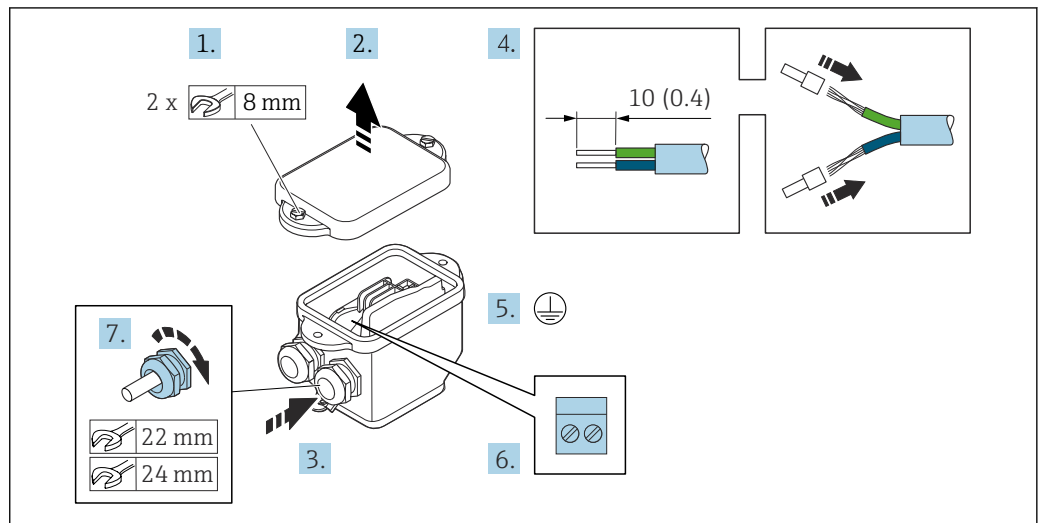
- 1 保護接地 (PE)
- 2 変換器接続ハウジングのコイルケーブル用の電線口
- 3 コイルケーブル
- 4 変換器接続ハウジングの信号ケーブル用の電線口
- 5 信号ケーブル
- 6 センサ接続ハウジングの信号ケーブル用の電線口
- 7 保護接地 (PE)
- 8 センサ接続ハウジングのコイルケーブル用の電線口

接続ケーブルとセンサ接続ハウジングの接続

端子を介した接続、「センサ接続ハウジング」のオーダーコード：
オプション B「ステンレス、サニタリ」→ 53

端子を介したセンサ接続ハウジングの接続

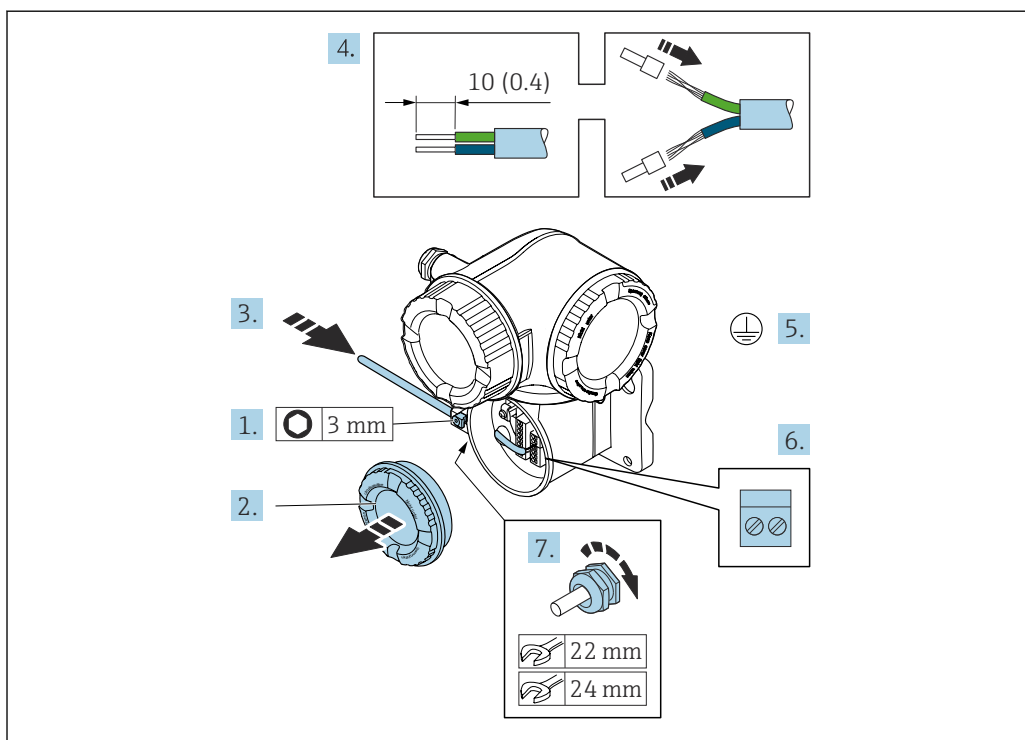
「センサ接続ハウジング」のオーダーコードが以下の機器バージョン：
オプション **B**：ステンレス、サニタリ



A0029617

1. ハウジングカバーの固定ネジを緩めます。
2. ハウジングカバーを開きます。
3. 電線管接続口からケーブルを挿入します。気密性を確保するため、電線管接続口のシールリングは外さないでください。
4. ケーブルおよびケーブル終端の被覆を剥がします。より線ケーブルを使用する場合は、スリーブを取り付けます。
5. 保護接地を接続します。
6. 接続ケーブル端子の割当てに従ってケーブルを接続します。
7. ケーブルグランドをしっかりと締め付けます。
↳ これにより接続ケーブルの接続作業が完了します。
8. ハウジングカバーを閉じます。
9. ハウジングカバーの固定ネジを締め付けます。

接続ケーブルと変換器の取付け



A0029592

1. 端子部カバーの固定クランプを緩めます。
2. 端子部カバーを外します。
3. 電線管接続口からケーブルを挿入します。気密性を確保するため、電線管接続口のシールリングは外さないでください。
4. ケーブルおよびケーブル終端の被覆を剥がします。より線ケーブルを使用する場合は、スリーブも取り付けます。
5. 保護接地を接続します。
6. 接続ケーブル端子の割当てに従ってケーブルを接続します→ 図 52。
7. ケーブルグラウンドをしっかりと締め付けます。
↳ これにより接続ケーブルの接続作業が完了します。
8. 端子部カバーを取り付けます。
9. 端子部カバーの固定クランプを締め付けます。
10. 接続ケーブルの接続後：
信号ケーブルと電源ケーブルを接続します。

7.5 電位平衡の確保

7.5.1 要件

電位平衡に関して：

- 社内の接地コンセプトに注意してください。
- 配管材質や接地などの動作条件を考慮してください。
- 測定物、センサ、変換器を同じ電位に接続してください。
- 電位平衡接続には、断面積が 6 mm^2 (10 AWG) 以上の接地ケーブルとケーブルラグを使用してください。

7.5.2 接続例、標準的な状況

金属製プロセス接続部

電位平衡は一般的に、センサに直接取り付けられており測定物と接触する金属製プロセス接続部を介して発生します。そのため、通常は追加の電位平衡措置を講じる必要はありません。

7.5.3 特殊な状況での接続例

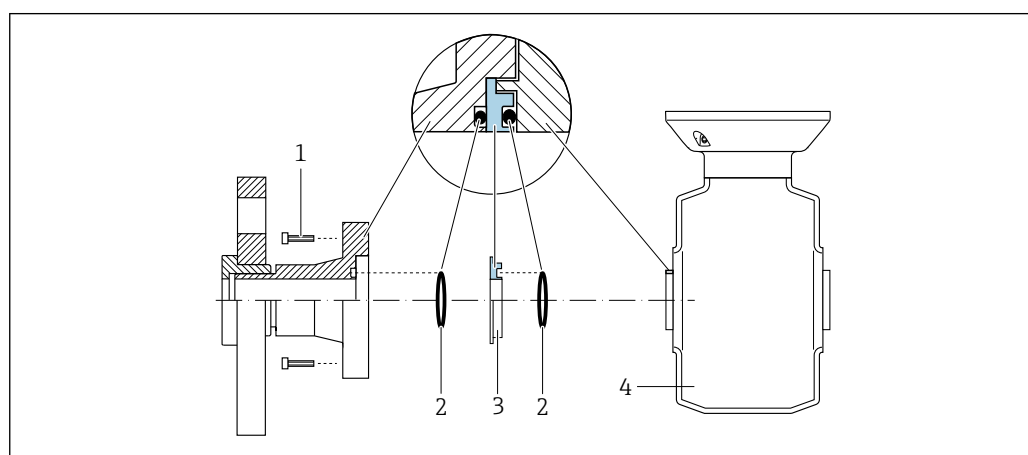
プラスチック製プロセス接続

プラスチック製プロセス接続の場合は、センサと流体の電位が等電位化するように、追加のアースリングまたは接地電極付きのプロセス接続を使用する必要があります。電位平衡がないと、測定精度の低下や、電極の電解腐食によるセンサの破損が生じる可能性があります。

アースリングを使用する場合は、以下の点に注意してください。

- 注文したオプションに応じて、プロセス接続の一部ではアースリングの代わりにプラスチックディスクが使用されます。これらのプラスチックディスクは「スペーサ」の役割を果たすだけで、電位平衡の機能はありません。また、プラスチックディスクはセンサ/接続部のインタフェースで重要なシール機能も果たします。そのため、金属製アースリングなしのプロセス接続の場合は、これらのプラスチックディスク/シールを絶対に取り外さず、必ず設置した状態にしてください。
- アースリングはアクセサリ DK5HR* として Endress+Hauser に別途ご注文いただけます（シールは含まれません）。注文の際は、アースリングが電極の材質に適合するか確認してください。そうでない場合は、電食によって電極が破損する恐れがあります。
- シールが必要な場合は、シールセット DK5G* で追加注文することが可能です。
- アースリング（シールを含む）は、プロセス接続の内側に取り付けます。これは、設置長さには影響しません。

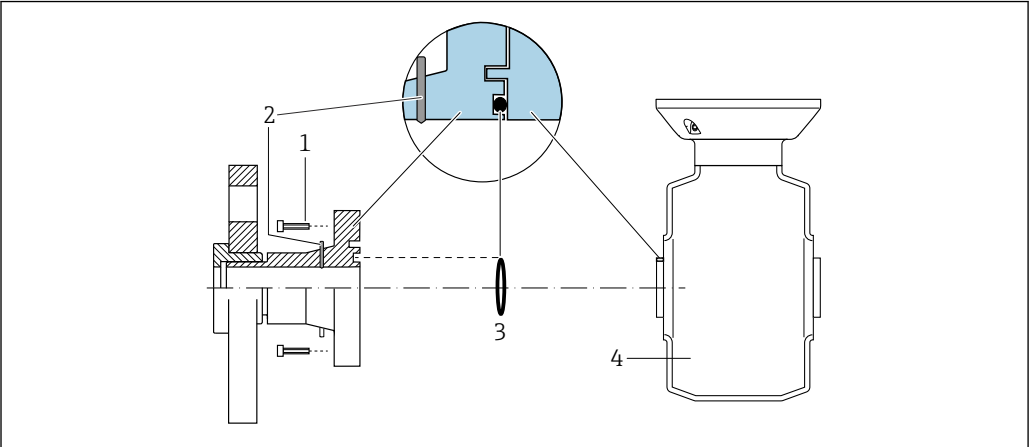
追加のアースリングを介した電位平衡



A0028971

- 1 プロセス接続の六角ボルト
- 2 Oリングシール
- 3 プラスチックディスク（スペーサ）またはアースリング
- 4 センサ

プロセス接続の接地電極を介した電位平衡



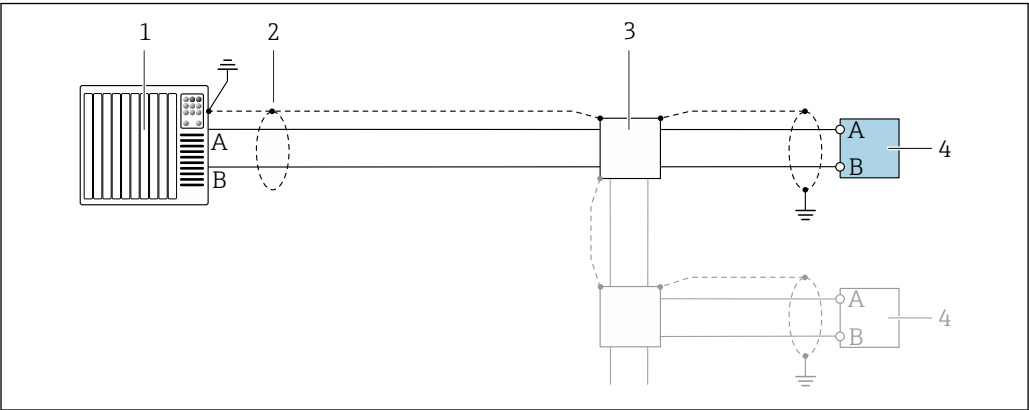
A0028972

- 1 プロセス接続の六角ボルト
- 2 内蔵の接地電極
- 3 O リングシール
- 4 センサ

7.6 特別な接続の説明

7.6.1 接続例

PROFIBUS DP



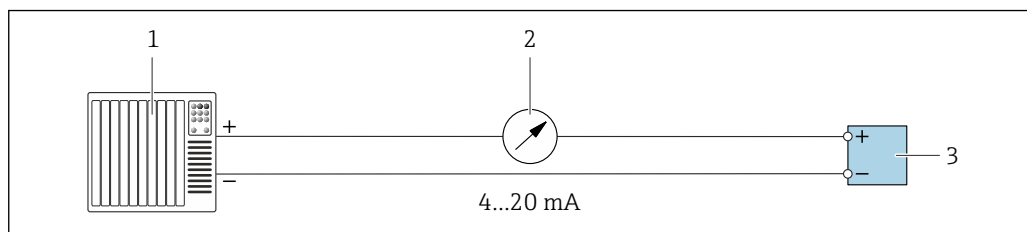
A0028765

図 17 PROFIBUS DP（非危険場所および Zone 2/Div. 2 用）の接続例

- 1 制御システム（例：PLC）
- 2 一方の端にケーブルシールドが使用されています。EMC 要件を満たすために、ケーブルシールドの両端を接地してください。ケーブル仕様に従ってください。
- 3 分配ボックス
- 4 変換器

i 通信速度が 1.5 MBaud を上回る場合、EMC 電線管接続口を使用する必要があり、ケーブルシールドができるだけ端子まで延びている必要があります。

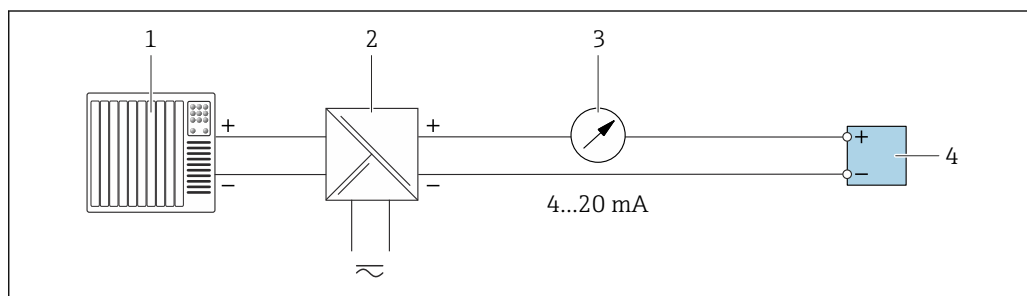
電流出力 4～20 mA



A0028758

■ 18 4～20 mA 電流出力（アクティブ）の接続例

- 1 オートメーションシステム、電流入力付き（例：PLC）
- 2 アナログ表示器：最大負荷に注意
- 3 変換器

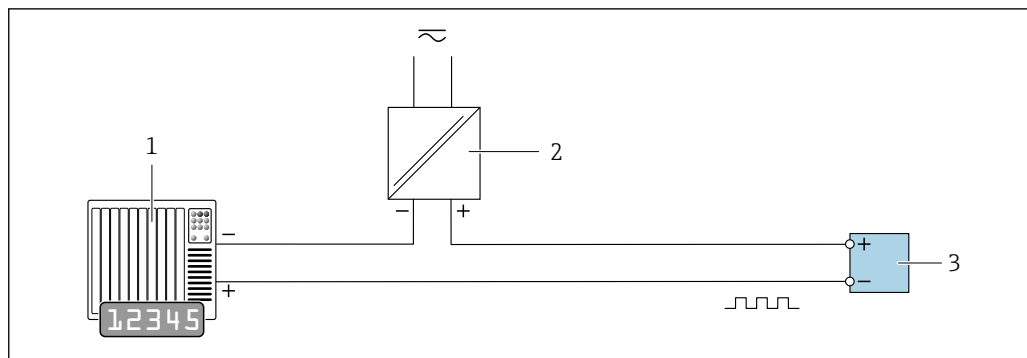


A0028759

■ 19 4～20 mA 電流出力（パッシブ）の接続例

- 1 オートメーションシステム、電流入力付き（例：PLC）
- 2 電源用アクティブバリア（例：RN221N）
- 3 アナログ表示器：最大負荷に注意
- 4 変換器

パルス/周波数出力

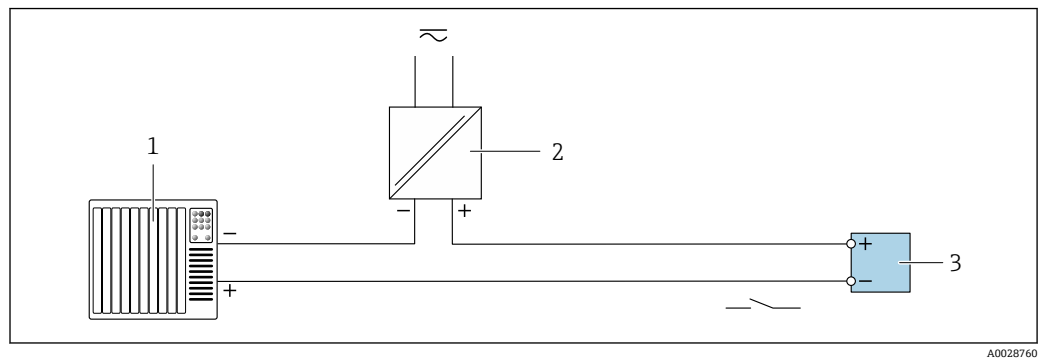


A0028761

■ 20 パルス/周波数出力（パッシブ）の接続例

- 1 オートメーションシステム、パルス/周波数入力付き（例：PLC、10 kΩ プルアップ/プルダウン抵抗付き）
- 2 電源
- 3 変換器：入力値に注意 → 211

スイッチ出力

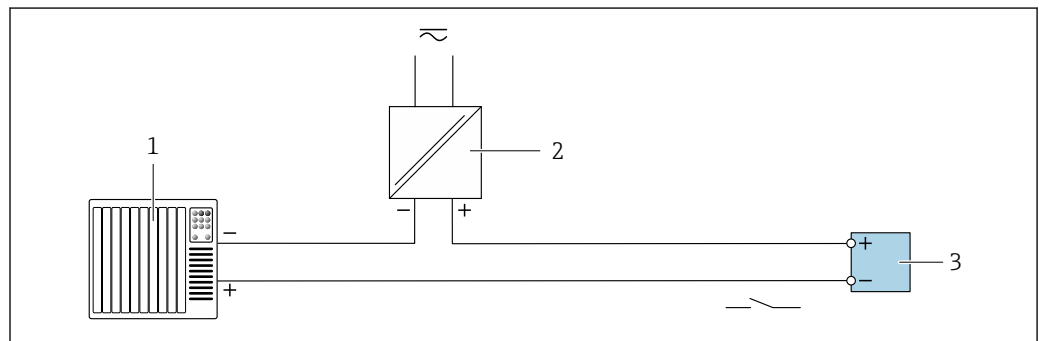


A0028760

図 21 スイッチ出力（パッシブ）の接続例

- 1 オートメーションシステム、スイッチ入力付き（例：PLC、10 k Ω プルアップ/プルダウン抵抗付き）
- 2 電源
- 3 変換器：入力値に注意 → 図 211

リレー出力

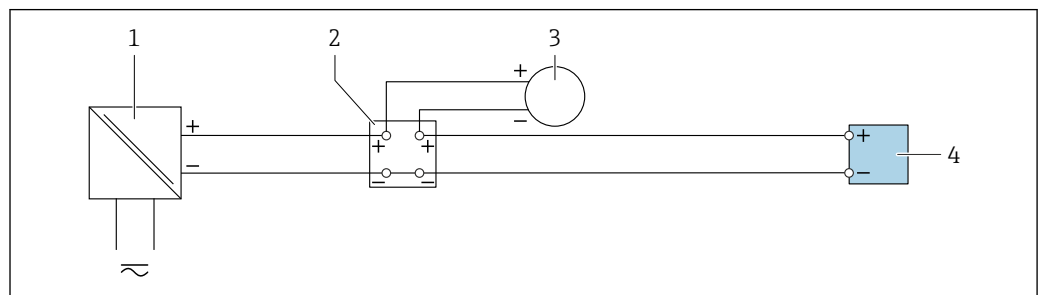


A0028760

図 22 リレー出力（パッシブ）の接続例

- 1 オートメーションシステム、リレー入力付き（例：PLC）
- 2 電源
- 3 変換器：入力値に注意 → 図 212

電流入力



A0028915

図 23 4~20 mA 電流入力の接続例

- 1 電源
- 2 端子箱
- 3 外部機器（例：圧力または温度読み用）
- 4 変換器

ステータス入力

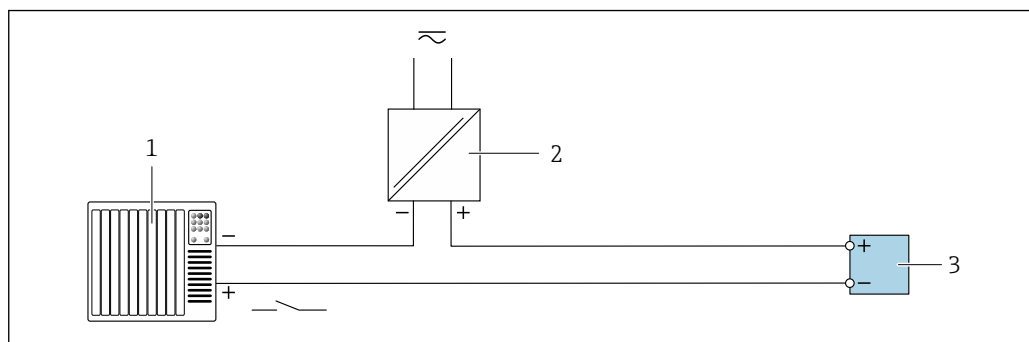


図 24 ステータス入力の接続例

- 1 オートメーションシステム、ステータス出力付き (例: PLC)
- 2 電源
- 3 変換器

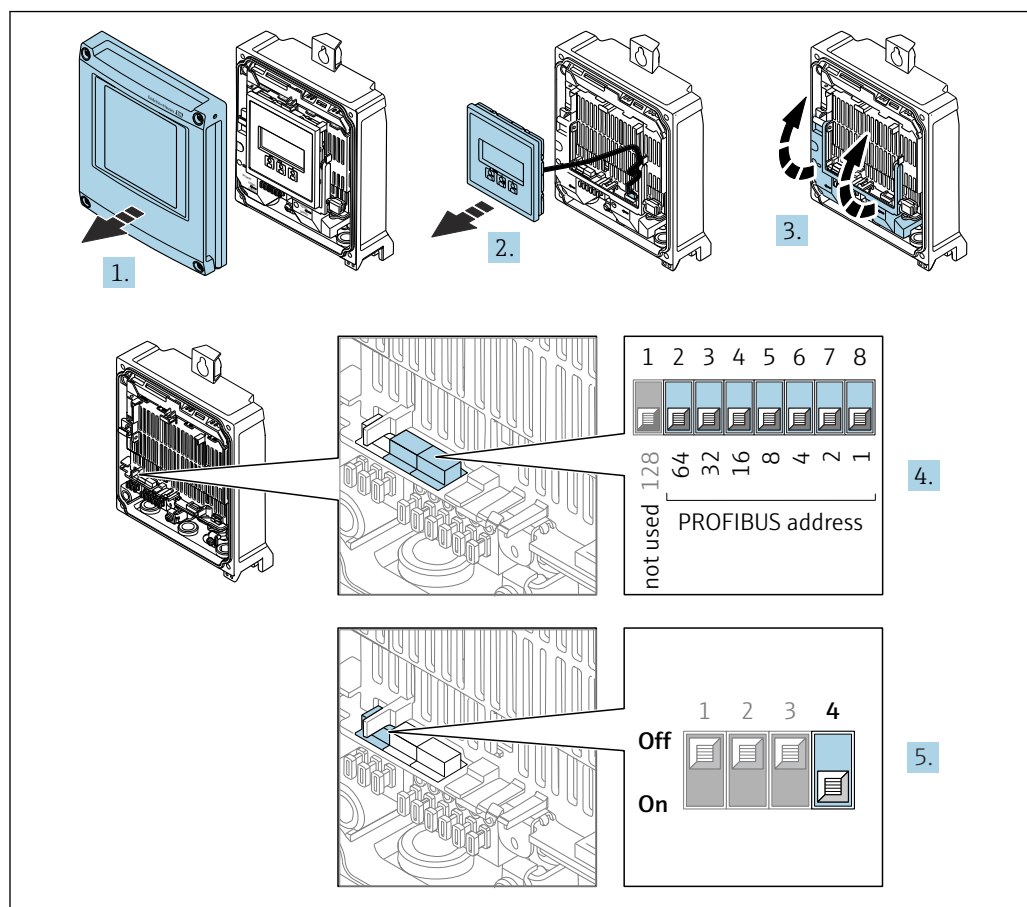
7.7 ハードウェアの設定

7.7.1 機器アドレスの設定

アドレスは PROFIBUS DP/PA 機器に対して必ず設定する必要があります。有効なアドレス範囲は、1 から 126 です。PROFIBUS DP/PA のネットワークでは、各アドレスは一度だけ割り当てることができます。アドレスが正しく設定されない場合、機器がマスタに認識されません。全ての機器は、機器アドレス 126 およびソフトウェアのアドレス指定方法で工場から出荷されます。

Proline 500 – デジタル変換器

ハードウェアのアドレス指定



A0029679

1. ハウジングカバーを開きます。
2. 表示モジュールを外します。
3. 端子部カバーを開きます。
4. DIP スイッチを使用して必要な機器アドレスを設定します。
5. ソフトウェアのアドレス指定からハードウェアのアドレス指定に切り替える場合：DIP スイッチを **ON** に設定します。
 ↳ 機器アドレスの変更は 10 秒後に有効になります。機器が再起動されます。

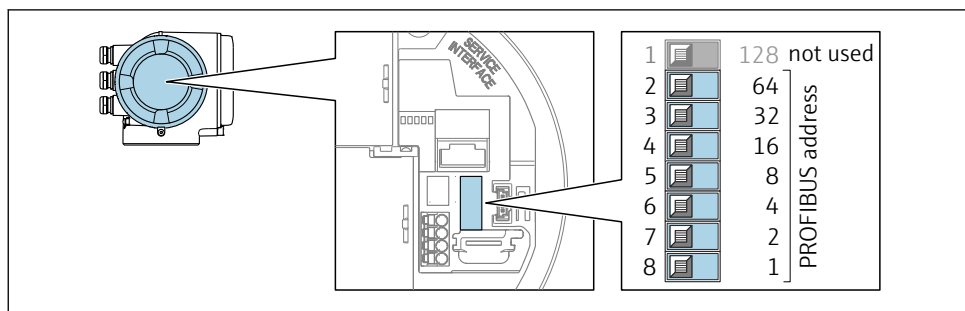
ソフトウェアのアドレス指定

- ▶ ハードウェアのアドレス指定からソフトウェアのアドレス指定に切り替える場合：DIP スイッチ番号 4 を **OFF** に設定します。
 ↳ デバイスアドレス パラメータ (→ 111) で設定した機器アドレスは 10 秒後に有効になります。機器はリスタートします。

Proline 500 変換器

ハードウェアアドレス指定

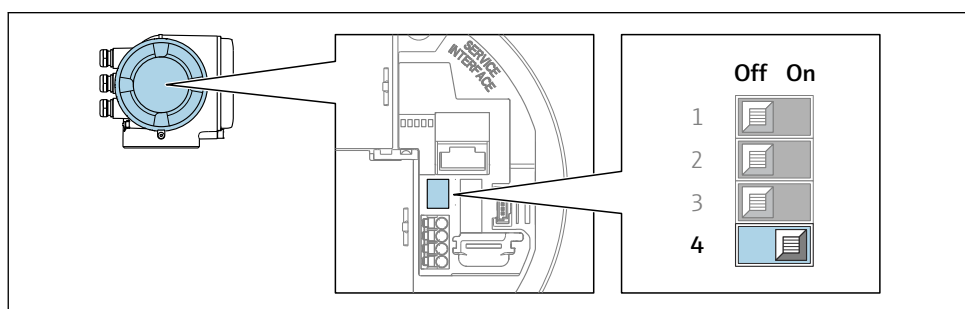
1.



A0029637

端子部の DIP スイッチを使用して必要な機器アドレスを設定します。

2.



A0029633

ソフトウェアのアドレス指定からハードウェアのアドレス指定に切り替える場合：DIP スイッチを **ON** に設定します。

↳ 機器アドレスの変更は 10 秒後に有効になります。機器が再起動されます。

ソフトウェアのアドレス指定

- ▶ ハードウェアのアドレス指定からソフトウェアのアドレス指定に切り替える場合：DIP スイッチ番号 4 を **OFF** に設定します。

↳ **デバイスアドレス** パラメータ (⇒ 111) で設定した機器アドレスは 10 秒後に有効になります。機器はリスタートします。

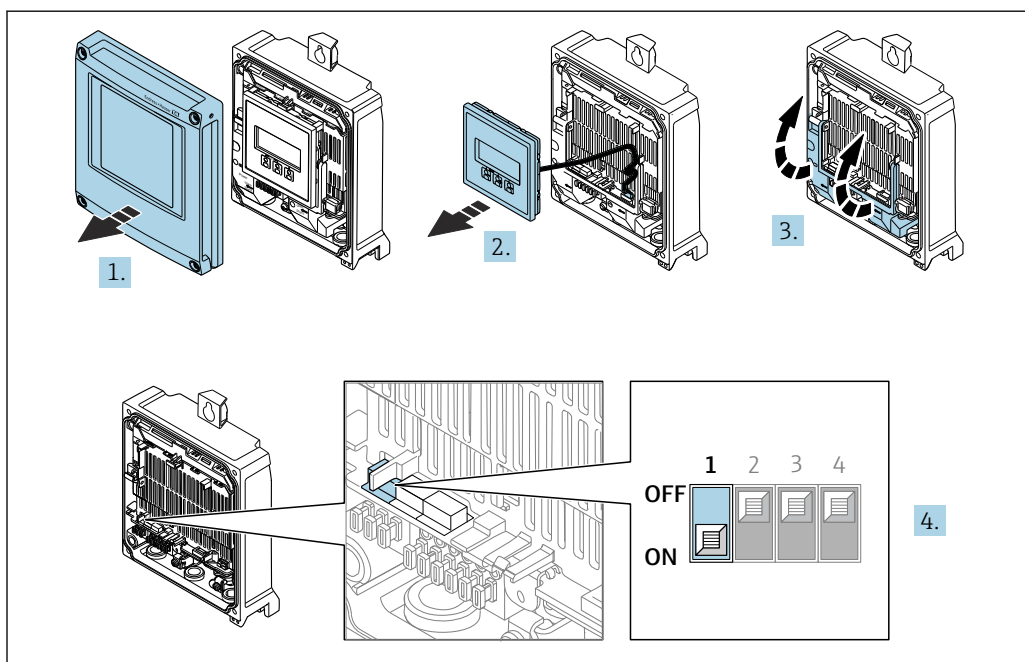
7.7.2 終端抵抗の有効化

インピーダンス不整合による不正な通信伝送を防止するため、PROFIBUS DP ケーブルをバスセグメントの最初と最後で正確に終端処理します。

- 機器を 1.5 MBaud 以下の通信速度で操作する場合：
バス上の最後の変換器については、DIP スイッチ 3（バス終端処理）を ON に設定することによって終端処理を行います。
- 通信速度 > 1.5 MBaud の場合：
ユーザのキャパシタンス負荷とそれによって生じるライン反射があるため、必ず外部のバスターミネータを使用してください。

i 内部終端処理された機器が故障した場合、セグメント全体が機能なくなるため、一般的には外部のバスターミネータの使用を推奨します。

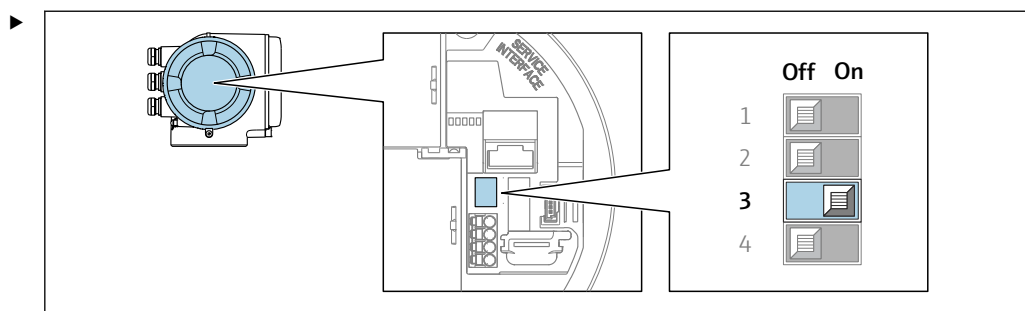
Proline 500 – デジタル変換器



A0029675

1. ハウジングカバーを開きます。
2. 表示モジュールを外します。
3. 端子部カバーを開きます。
4. DIP スイッチ番号 3 を **ON** に設定します。

Proline 500 変換器



A0029632

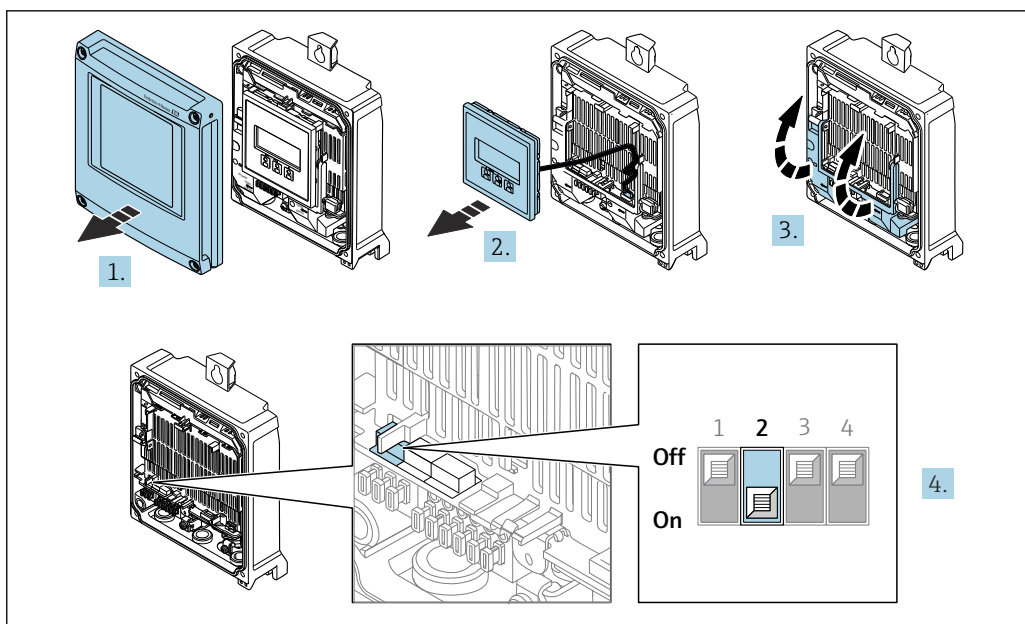
DIP スイッチ番号 3 を **ON** に切り替えます。

7.7.3 初期設定の IP アドレスの有効化

DIP スイッチによる初期設定の IP アドレスの有効化：Proline 500 - デジタル

変換器ハウジングを開けると感電の危険性があります。

- ▶ ハウジングを開ける前に：
- ▶ 機器の電源を切ります。



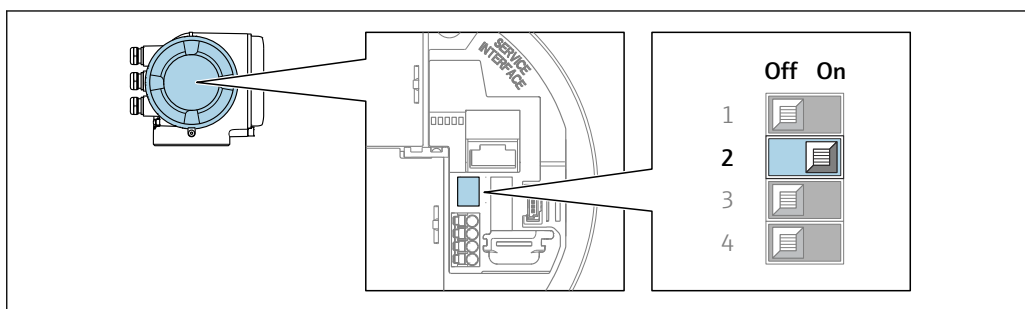
A0034500

1. ハウジングカバーの 4 つの固定ネジを緩めます。
2. ハウジングカバーを開きます。
3. 端子部カバーを開きます。
4. I/O 電子モジュールの DIP スイッチ番号 2 を **OFF** → **ON** に設定します。
5. 逆の手順で変換器を再び取り付けます。
6. 本機器を電源に再接続します。
 ↳ 機器を再起動すると、初期設定の IP アドレスが使用されます。

DIP スイッチによる初期設定の IP アドレスの有効化 : Proline 500

変換器ハウジングを開けると感電の危険性があります。

- ▶ ハウジングを開ける前に：
- ▶ 機器の電源を切ります。



A0034499

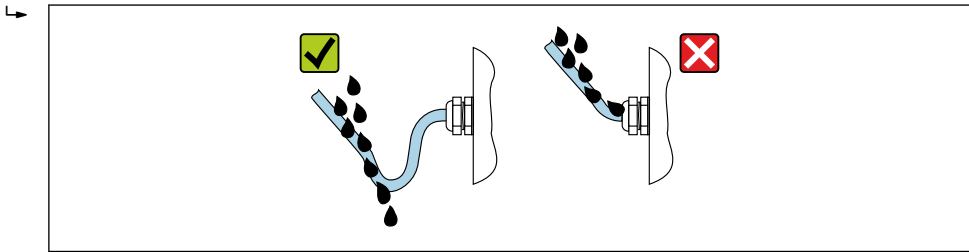
1. ハウジングの種類に応じて、ハウジングカバーの固定クランプまたは固定ネジを緩めます。
2. ハウジングの種類に応じて、ハウジングカバーのネジを緩めてカバーを取り外すか、またはカバーを開きます。必要に応じて、現場表示器をメイン電子モジュールから取り外します。
3. I/O 電子モジュールの DIP スイッチ番号 2 を **OFF** → **ON** に設定します。
4. 逆の手順で変換器を再び取り付けます。
5. 本機器を電源に再接続します。
 ↳ 機器を再起動すると、初期設定の IP アドレスが使用されます。

7.8 保護等級の保証

本計測機器は、保護等級 IP66/67、Type 4X エンクロージャ のすべての要件を満たしています。

保護等級 IP66/67、Type 4X エンクロージャ を保証するため、電気接続の後、次の手順を実施してください。

- 1. ハウジングシールに汚れがなく、適切に取り付けられているか確認してください。
- 2. 必要に応じて、シールの乾燥、清掃、交換を行います。
- 3. ハウジングのネジやカバーをすべてしっかりと締め付けます。
- 4. ケーブルグランドをしっかりと締め付けます。
- 5. 電線口への水滴の侵入を防ぐため：
電線口の手前でケーブルが下方に垂れるように配線してください（「ウォータートラップ」）。



A0029278

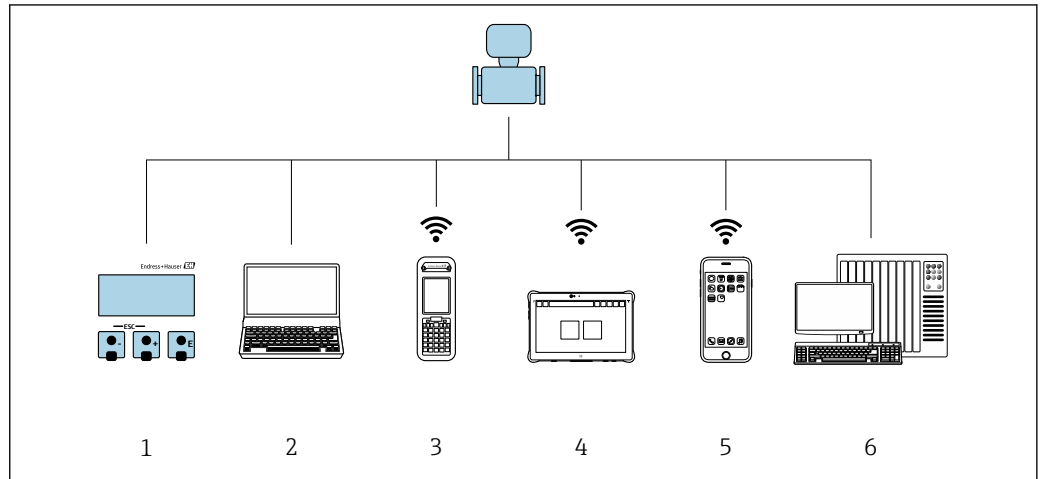
- 6. 付属のケーブルグランドが使用されていない場合、ハウジングの保護は保証されません。そのため、ハウジング保護に対応する適切なダミープラグに交換する必要があります。

7.9 配線状況の確認

ケーブルあるいは機器に損傷はないか（外観検査）？	☐
保護接地が正しく行われているか？	☐
使用しているケーブルが要件を満たしているか？	☐
ケーブルの取付けには余裕があるか（必要以上の張力が加えられていないか）？	☐
すべてのケーブルグランドが取り付けられ、しっかりと固定され、密閉されているか？ケーブル経路に「ウォータートラップ」があるか→ 64？	☐
端子の割当ては正しいか？	☐
電位平衡が正しく確立されているか？	☐
ダミープラグが未使用の電線口に装着され、輸送用プラグがダミープラグに交換されているか？	☐

8 操作オプション

8.1 操作オプションの概要



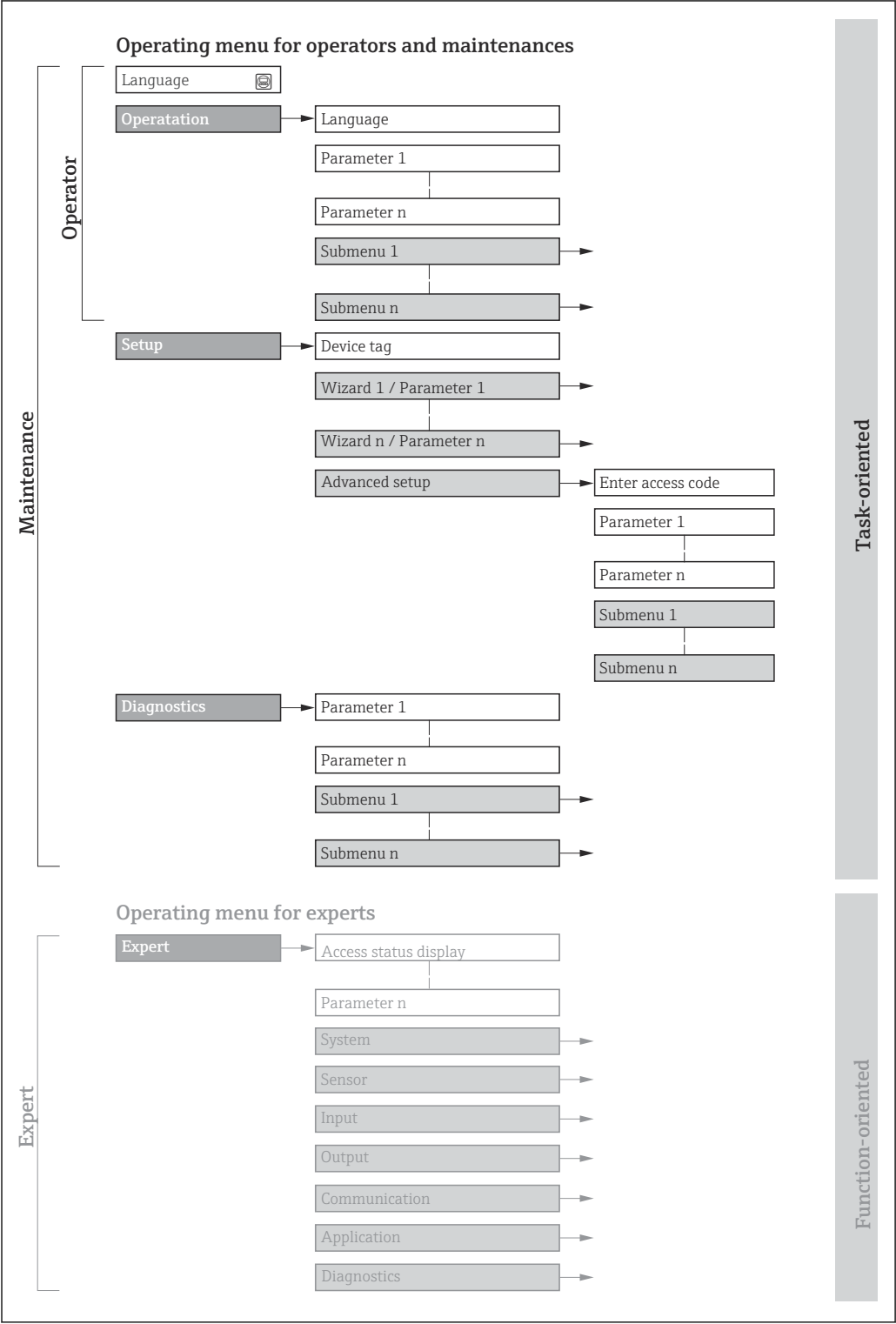
A0034513

- 1 表示モジュールによる現場操作
- 2 ウェブブラウザまたは操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare、AMS Device Manager、SIMATIC PDM）搭載のコンピュータ
- 3 Field Xpert SFX350 または SFX370
- 4 Field Xpert SMT70
- 5 携帯型ハンドヘルドターミナル
- 6 オートメーションシステム（例：PLC）

8.2 操作メニューの構成と機能

8.2.1 操作メニューの構成

 エキスパート用の操作メニューの概要については、機器に同梱されている機能説明書を参照してください。→  234



 25 操作メニューの概要構成

A0018237-JA

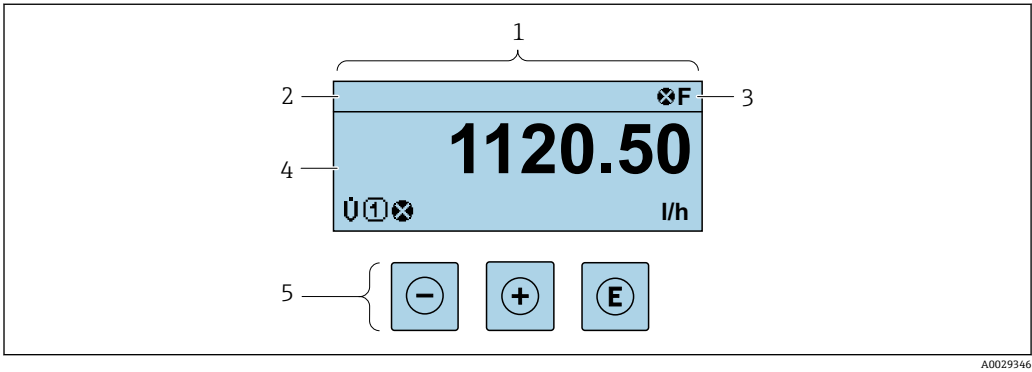
8.2.2 操作指針

操作メニューの個別の要素は、特定のユーザーの役割（例：オペレーター、メンテナンスなど）に割り当てられています。各ユーザーの役割には、機器ライフサイクル内の標準的な作業が含まれます。

メニュー/パラメータ		ユーザーの役割と作業	内容/意味
Language	タスク指向	「オペレータ」、「メンテナンス」の役割 運転中の作業： ■ 操作画面表示の設定 ■ 測定値の読取り	■ 操作言語の設定 ■ Web サーバー操作言語の設定 ■ 積算計のリセットおよびコントロール
操作			■ 操作画面表示の設定（例：表示形式、ディスプレイのコントラスト） ■ 積算計のリセットおよびコントロール
設定		「メンテナンス」の役割 設定： ■ 測定の設定 ■ 入力および出力の設定 ■ 通信インタフェースの設定	迅速な設定用のウィザード： ■ システム単位の設定 ■ I/O 設定の表示 ■ 入力の設定 ■ 出力の設定 ■ 操作画面表示の設定 ■ ローフローカットオフの設定 ■ 空検知の設定 高度な設定 ■ より高度にカスタマイズされた測定の設定（特殊な測定条件に対応） ■ 積算計の設定 ■ 電極洗浄の設定（オプション） ■ WLAN の設定 ■ 管理（アクセスコード設定、機器リセット）
診断		「メンテナンス」の役割 トラブルシューティング： ■ プロセスおよび機器エラーの診断と解消 ■ 測定値シミュレーション	エラー検出、プロセスおよび機器エラー分析用のパラメータがすべて含まれます。 ■ 診断リスト 現在未処理の診断メッセージが最大 5 件含まれます。 ■ イベントログブック 発生したイベントメッセージが含まれます。 ■ 機器情報 機器識別用の情報が含まれます。 ■ 測定値 現在のすべての測定値が含まれます。 ■ Analog inputs アナログ入力の表示に使用 ■ データのログ サブメニュー（注文オプション「拡張 HistoROM」の場合） 測定値の保存と視覚化 ■ Heartbeat Technology 必要に応じた機器の機能検証および検証結果のドキュメント作成 ■ シミュレーション 測定値または出力値のシミュレーションに使用されます。
エキスパート	機能指向	機器の機能に関してより詳細な知識が要求される作業： ■ 各種条件下における測定の設定 ■ 各種条件下における測定の最適化 ■ 通信インタフェースの詳細設定 ■ 難しいケースにおけるエラー診断	すべての機器パラメータが含まれており、アクセスコードを使用してこれらに直接アクセスすることが可能です。メニュー構造は機器の機能ブロックに基づいています。 ■ システム 測定または測定値の通信に影響しない、高次の機器パラメータがすべて含まれます。 ■ センサ 測定の設定 ■ 入力 ステータス入力の設定 ■ 出力 アナログ電流出力およびパルス/周波数/スイッチ出力の設定 ■ 通信 デジタル通信インタフェースおよび Web サーバーの設定 ■ 機能ブロック（例：「アナログ入力」）のサブメニュー 機能ブロックの設定 ■ アプリケーション 実際の測定を超える機能（例：積算計）の設定 ■ 診断 機器シミュレーションおよび Heartbeat Technology 用、プロセスおよび機器エラーの検出と分析

8.3 現場表示器を使用した操作メニューへのアクセス

8.3.1 操作画面表示



- 1 操作画面表示
- 2 機器のタグ → 108
- 3 ステータスエリア
- 4 測定値の表示範囲（最大 4 行）
- 5 操作部 → 74

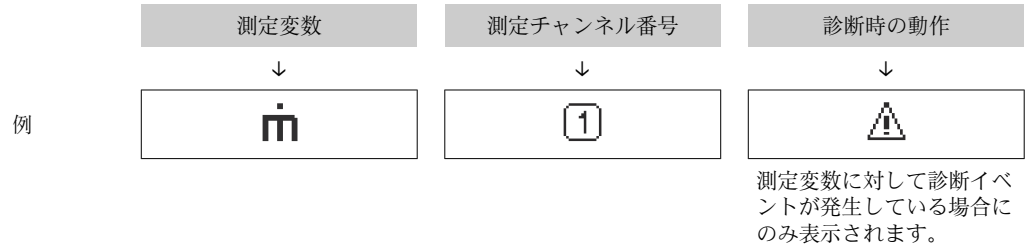
ステータスエリア

操作画面表示のステータスエリアの右上に、次のシンボルが表示されます。

- ステータス信号 → 164
 - F : エラー
 - C : 機能チェック
 - S : 仕様範囲外
 - M : メンテナンスが必要
- 診断時の動作 → 165
 - ⊗ : アラーム
 - ⚠ : 警告
 - 🔒 : ロック（機器はハードウェアを介してロック）
 - ↔ : 通信（リモート操作を介した通信が有効）

表示エリア

表示エリアでは、各測定値の前に、説明を補足する特定のシンボルタイプが表示されます。



測定変数

シンボル	意味
G	導電率
m	質量流量

i 測定変数の数および形式は、**表示形式** パラメータ (→ 126) で設定できます。

積算計

シンボル	意味
	積算計  測定チャンネル番号は、3つの積算計のどれが表示されているかを示します。

入力

シンボル	意味
	ステータス入力

測定チャンネル番号

シンボル	意味
	測定チャンネル 1~4  測定チャンネル番号は、同じ測定変数の種類に対して複数のチャンネルがある場合にのみ表示されます（例：積算計 1~3）。

診断時の動作

シンボル	意味
	アラーム - 測定が中断します。 - 信号出力と積算計が設定されたアラーム状態になります。 - 診断メッセージが生成されます。
	警告 - 測定が再開します。 - 信号出力と積算計は影響を受けません。 - 診断メッセージが生成されます。

 診断時の動作は、診断イベントに付随するものであり、表示される測定変数に関係します。

8.3.2 ナビゲーション画面

サブメニューの場合

1

2

3

4

5

A0013993-JA

ウィザードの場合

1

2

3

4

5

A0016327-JA

1

2

3

4

5

ナビゲーション画面

現在位置までのナビゲーションパス

ステータスエリア

ナビゲーションの表示エリア

操作部 → 74

ナビゲーションパス

現在位置までのナビゲーションパスは、ナビゲーション画面の左上に表示され、以下の要素で構成されます。

- 表示シンボル：メニュー/サブメニューの場合：▶、ウィザードの場合：🔧
- 間にある操作メニューレベルの省略記号 (/../)
- 現在のサブメニュー、ウィザード、パラメータの名称

	表示シンボル	省略記号	パラメータ
	↓	↓	↓
例	▶	/../	表示

i メニューのアイコンの詳細については、「表示エリア」セクションを参照してください。→ 70

ステータスエリア

ナビゲーション画面のステータスエリアの右上端に、以下が表示されます。

- サブメニューの場合
 - パラメータへの直接アクセスコード（例：0022-1）
 - 診断イベントが発生している場合は、診断動作およびステータス信号
- ウィザードの場合
 - 診断イベントが発生している場合は、診断動作およびステータス信号

- i** ■ 診断動作およびステータス信号に関する情報 → 164
- 直接アクセスコードの機能および入力に関する情報 → 76

表示エリア

メニュー

シンボル	意味
	操作 表示場所： ■ メニューの「操作」選択の横 ■ 操作メニューのナビゲーションパスの左側

	設定 表示場所： ■ メニューの「設定」選択の横 ■ 設定メニューのナビゲーションパスの左側
	診断 表示場所： ■ メニューの「診断」選択の横 ■ 診断メニューのナビゲーションパスの左側
	エキスパート 表示場所： ■ メニューの「エキスパート」選択の横 ■ エキスパートメニューのナビゲーションパスの左側

サブメニュー、ウィザード、パラメータ

シンボル	意味
	サブメニュー
	ウィザード
	ウィザード内のパラメータ  サブメニュー内のパラメータ用の表示シンボルはありません。

ロック

シンボル	意味
	パラメータのロック パラメータ名の前に表示される場合は、そのパラメータがロックされていることを示します。 ■ ユーザー固有のアクセスコードを使用 ■ ハードウェア書き込み保護スイッチを使用

ウィザード

シンボル	意味
	前のパラメータに切り替え
	パラメータ値を確定し、次のパラメータに切り替え
	パラメータの編集画面を開く

8.3.3 編集画面

数値エディタ

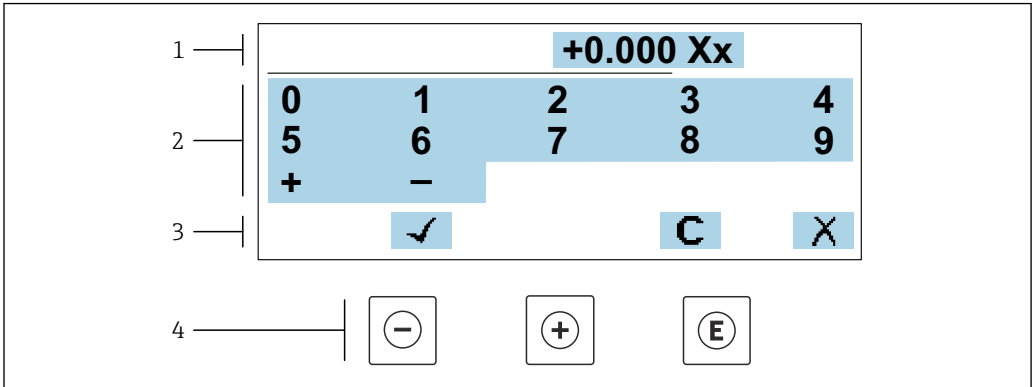


図 26 パラメータの値入力用（例：リミット値）

- 1 入力値表示エリア
- 2 入力画面
- 3 入力値の確定、削除または拒否
- 4 操作部

テキストエディタ

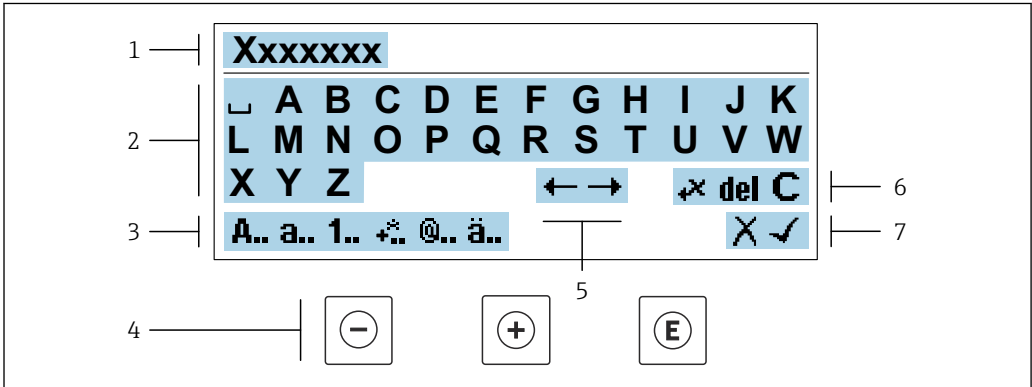


図 27 パラメータのテキスト入力用（例：機器のタグ）

- 1 入力値表示エリア
- 2 現在の入力画面
- 3 入力画面の変更
- 4 操作部
- 5 入力位置の移動
- 6 入力値の削除
- 7 入力値の拒否または確定

編集画面における操作部の使用方法

操作キー	意味
	- キー 入力位置を左に移動
	+ キー 入力位置を右に移動

操作キー	意味
	Enter キー ■ キーを短く押すと、選択が確定 ■ キーを2秒押すと、入力が確定される
	エスケープキーの組み合わせ（キーを同時に押す） 変更内容を確定せずに、編集画面を閉じる

入力画面

シンボル	意味
A..	大文字
a..	小文字
1..	数字
+..	句読点および特殊文字：= + - * / ² / ₃ ¼ ½ ¾ () [] < > { }
@..	句読点および特殊文字：' " ` ^ . , ; : ? ! % μ ° € \$ £ ¥ § @ # / \ ~ & _
ä..	ウムラウト記号およびアクセント記号

データ入力値の管理

シンボル	意味
	入力位置の移動
	入力値の拒否
	入力値の確定
	入力位置の左隣の文字を削除
del	入力位置の右隣の文字を削除
C	入力した文字をすべて削除

8.3.4 操作部

操作キー	意味
	- キー メニュー、サブメニュー内 選択リスト内の選択バーを上方へ移動 ウィザード内 前のパラメータに移動 テキストおよび数値エディタ内 入力位置を左に移動
	+ キー メニュー、サブメニュー内 選択リスト内の選択バーを下方へ移動 ウィザード内 次のパラメータに移動 テキストおよび数値エディタ内 入力位置を右に移動
	Enter キー 操作画面表示内 キーを短く押すと、操作メニューが開く メニュー、サブメニュー内 ■ キーを短く押した場合： ■ 選択したメニュー、サブメニュー、またはパラメータが開く ■ ウィザードが開始する ■ ヘルプテキストを開いている場合は、パラメータのヘルプテキストを閉じる ■ パラメータの位置でキーを2秒押した場合： ■ パラメータ機能のヘルプテキストがある場合は、これが開く ウィザード内 パラメータの編集画面を開き、パラメータ値を確定する テキストおよび数値エディタ内 ■ キーを短く押すと、選択が確定 ■ キーを2秒押すと、入力が確定される
	エスケープキーの組み合わせ（キーを同時に押す） メニュー、サブメニュー内 ■ キーを短く押した場合： ■ 現在のメニューレベルを終了し、上位レベルに移動 ■ ヘルプテキストを開いている場合は、パラメータのヘルプテキストを閉じる ■ キーを2秒押すと、操作画面表示に戻る（「ホーム画面」） ウィザード内 ウィザードを終了し、より高次のレベルに移動 テキストおよび数値エディタ内 変更を確定せずに、編集画面を終了
	- / Enter キーの組み合わせ（キーを同時に長押し） ■ キーパッドロックが有効な場合： ■ キーを3秒押すと、キーパッドロックの無効化 ■ キーパッドロックが無効な場合： ■ キーを3秒押すと、コンテキストメニューが開き、キーパッドロックを有効化するための選択項目などが表示される

8.3.5 コンテキストメニューを開く

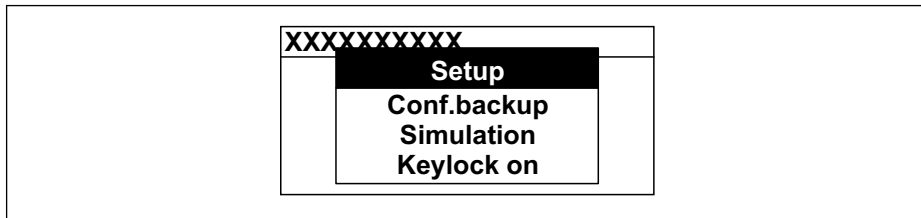
コンテキストメニューを使用すると、操作画面表示から簡単かつダイレクトに次のメニューを開くことができます。

- 設定
- データバックアップ
- シミュレーション

コンテキストメニューの呼び出しと終了

操作画面表示にします。

1.  および  キーを3秒以上押します。
↳ コンテキストメニューが開きます。



A0034608-JA

2.  +  を同時に押します。
↳ コンテキストメニューが閉じて、操作画面が表示されます。

コンテキストメニューによるメニューの呼び出し

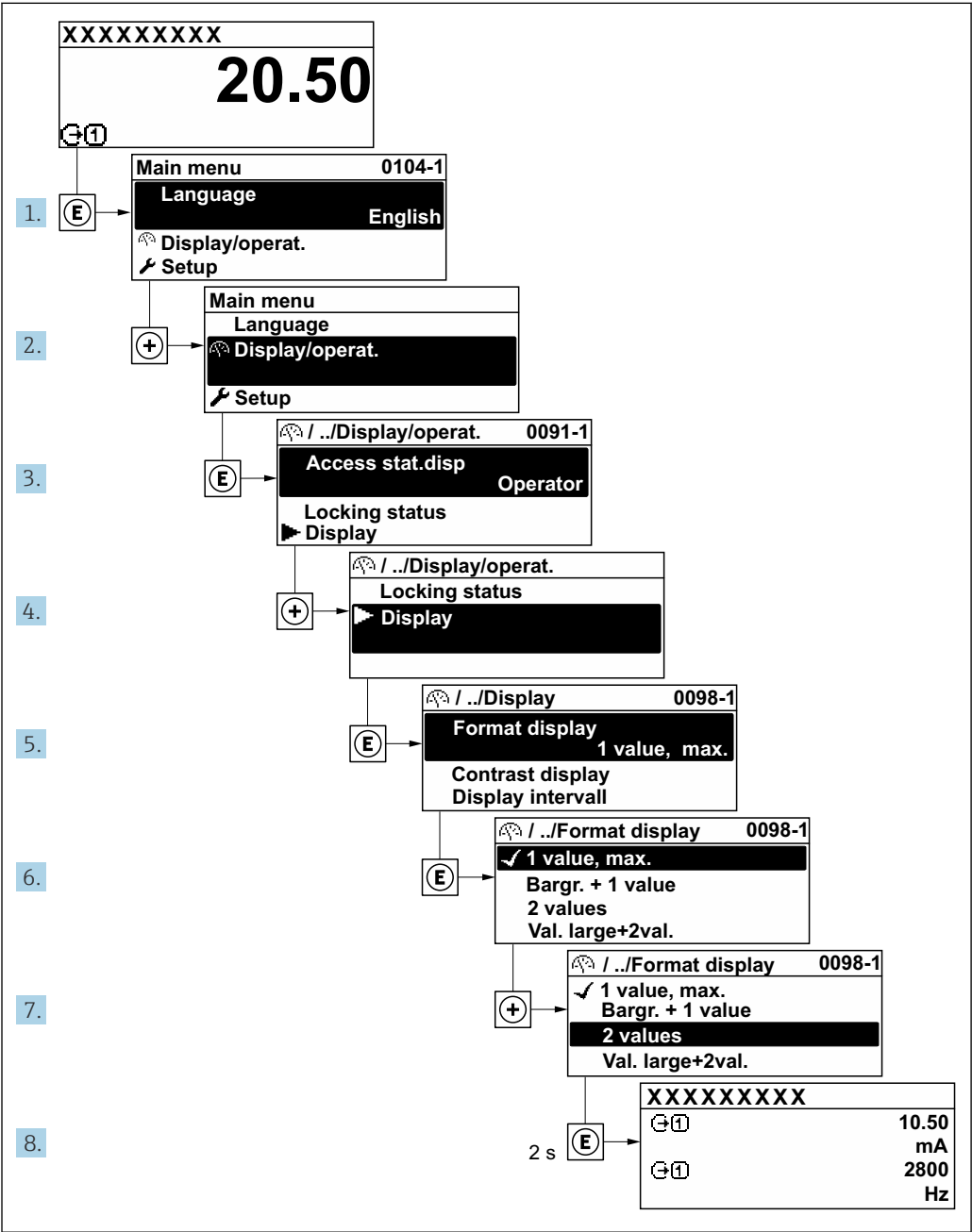
1. コンテキストメニューを開きます。
2.  を同時に押して、必要なメニューに移動します。
3.  を押して、選択を確定します。
↳ 選択したメニューが開きます。

8.3.6 ナビゲーションおよびリストから選択

各種の操作部を使用して、操作メニュー内をナビゲートすることができます。ナビゲーションパスはヘッダーの左側に表示されます。個々のメニューの前にアイコンが表示されます。このアイコンは、ナビゲーション中もヘッダーに表示されます。

 シンボルを含むナビゲーション画面および操作部の説明 →  70

例：表示する測定値の数を「2つの値」に設定



A0029562-JA

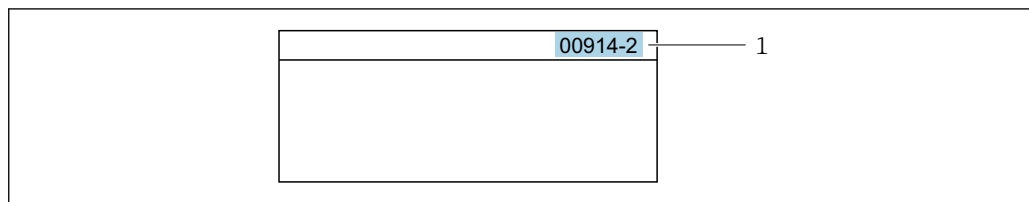
8.3.7 パラメータの直接呼び出し

各パラメータにパラメータ番号が割り当てられているため、現場表示器を介して直接パラメータにアクセスすることが可能です。このアクセスコードを直接アクセスパラメータに入力すると、必要なパラメータが直接呼び出されます。

ナビゲーションパス

エキスパート → 直接アクセス

直接アクセスコードは、5桁の数字（最大）とプロセス変数のチャンネルを識別するためのチャンネル番号から成ります（例：00914-2）。ナビゲーション画面では、これは選択したパラメータのヘッダーの右側に表示されます。



A0029414

1 直接アクセスコード

直接アクセスコードを入力する際は、次のことに注意してください。

- 直接アクセスコードの最初のゼロは入力する必要がありません。
例：「00914」の代わりに「914」と入力
- チャンネル番号を入力しなかった場合は、自動的にチャンネル 1 が開きます。
例：00914 を入力 → プロセス変数の割り当て パラメータ
- 別のチャンネルに変えたい場合：直接アクセスコードで対応するチャンネル番号を入力します。
例：00914-2 を入力 → プロセス変数の割り当て パラメータ

 個別のパラメータの直接アクセスコードについては、機器の機能説明書を参照してください。

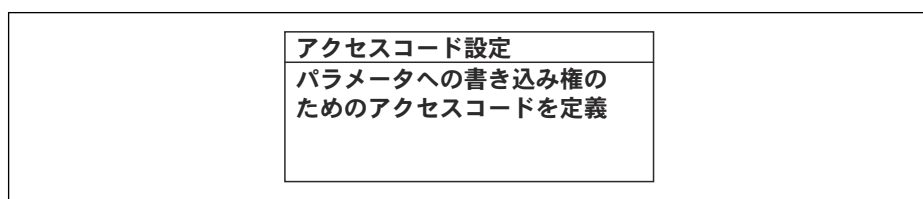
8.3.8 ヘルプテキストの呼び出し

一部のパラメータにはヘルプテキストが用意されており、ナビゲーション画面から呼び出すことが可能です。パラメータ機能の簡単な説明が記載されたヘルプテキストにより、迅速かつ安全な設定作業がサポートされます。

ヘルプテキストの呼び出しと終了

ナビゲーション画面で、パラメータの上に選択バーが表示されています。

1.  を 2 秒 間押します。
↳ 選択したパラメータのヘルプテキストが開きます。



A0014002-JA

 28 例：「アクセスコード入力」のヘルプテキスト

2.  +  を同時に押します。
↳ ヘルプテキストが閉じます。

8.3.9 パラメータの変更

パラメータは数値エディタまたはテキストエディタを使用して変更できます。

- 数値エディタ：パラメータの値を変更（例：リミット値の指定）
- テキストエディタ：パラメータのテキストを入力（例：タグ名称）

入力した値が許容される範囲を超える場合は、メッセージが表示されます。

アクセスコード入力

入力値が無効または範囲外

Min:0

Max:9999

A0014049-JA

 編集画面（テキストエディタと数値エディタで構成される）とシンボルの説明については →  72、操作部の説明については →  74 を参照してください。

8.3.10 ユーザーの役割と関連するアクセス権

ユーザー固有のアクセスコードをユーザーが設定した場合、「オペレータ」と「メンテナンス」の2つのユーザーの役割では、パラメータへの書き込みアクセスが異なります。これにより、現場表示器を介した機器設定の不正アクセスが保護されます。
→  144

ユーザーの役割に対するアクセス権の設定

工場からの機器の納入時には、アクセスコードはまだ設定されていません。機器へのアクセス権（読み込み/書き込みアクセス権）には制約がなく、ユーザーの役割「メンテナンス」に対応します。

▶ アクセスコードを設定します。

- ↳ ユーザーの役割「オペレータ」は、ユーザーの役割「メンテナンス」に追加して再設定されます。これら2つのユーザーの役割のアクセス権は異なります。

パラメータのアクセス権：ユーザーの役割「メンテナンス」

アクセスコードステータス	読み取りアクセス	書き込みアクセス
アクセスコードは未設定（工場設定）	✓	✓
アクセスコードの設定後	✓	✓ ¹⁾

1) アクセスコードの入力後、ユーザーには書き込みアクセス権のみが付与されます。

パラメータのアクセス権：ユーザーの役割「オペレータ」

アクセスコードステータス	読み取りアクセス	書き込みアクセス
アクセスコードの設定後	✓	— ¹⁾

1) アクセスコードが設定されても、特定のパラメータは常に変更可能です。これは、測定に影響を及ぼさないため、書き込み保護（アクセスコードによる書き込み保護）→  144 から除外されます。

 ユーザーが現在、どのユーザーの役割でログインしているか、**アクセスステータス**パラメータに表示されます。ナビゲーションパス：操作 → アクセスステータス

8.3.11 アクセスコードによる書き込み保護の無効化

現場表示器のパラメータの前に  シンボルが表示されている場合、そのパラメータはユーザー固有のアクセスコードで書き込み保護されています。そのときは、現場操作による値の変更はできません。→  144。

現場操作によるパラメータ書き込み保護は、各アクセスオプションを使用してユーザー固有のアクセスコードを**アクセスコード入力**パラメータに入力することにより無効にできます。

1.  を押すと、アクセスコードの入力プロンプトが表示されます。

2. アクセスコードを入力します。

- ↳ パラメータの前の  シンボルが消えます。それまで書き込み保護されていたすべてのパラメータが再び使用可能になります。

8.3.12 キーパッドロックの有効化/無効化

キーパッドロックを使用すると、現場操作によるすべての操作メニューへのアクセスを防ぐことができます。その結果、操作メニューのナビゲーションまたはパラメータの変更はできなくなります。操作画面表示の測定値を読み取ることだけが可能です。

キーパッドロックのオン/オフはコンテキストメニューで行います。

キーパッドロックのオン

-  キーパッドロックが自動的にオンになります。
 - 機器が表示部を介して 1 分以上操作されなかった場合
 - 機器をリスタートした場合

キーロックを手動で有効化：

1. 測定値表示の画面を表示します。
 - および  キーを 3 秒以上押します。
 - ↳ コンテキストメニューが表示されます。
2. コンテキストメニューで **キーロック オン** オプションを選択します。
 - ↳ キーパッドロックがオンになっています。

-  キーパッドロックが有効な場合に、操作メニューへのアクセスを試みると、**キーロック オン**というメッセージが表示されます。

キーパッドロックのオフ

- ▶ キーパッドロックがオンになっています。
 - および  キーを 3 秒以上押します。
 - ↳ キーパッドロックがオフになります。

8.4 ウェブブラウザを使用した操作メニューへのアクセス

8.4.1 機能範囲

Web サーバーが内蔵されているため、ウェブブラウザサービスインタフェース (CDI-RJ45) または WLAN インタフェースを介して機器の操作および設定を行うことが可能です。操作メニューの構造は現場表示器と同じです。測定値に加え、機器のステータス情報も表示されるため、機器の状態を監視するために使用できます。また、機器データの管理およびネットワークパラメータの設定が可能です。

WLAN 接続の場合は WLAN インタフェース (オプションとして注文可能) 付きの機器が必要：「ディスプレイ；操作」のオーダーコード、オプション G「4 行表示、バックライト；タッチコントロール + WLAN」。機器はアクセスポイントとして機能し、コンピュータまたは携帯型ハンドヘルドターミナルによる通信を可能にします。

-  Web サーバーの追加情報については、機器の個別説明書を参照してください。

8.4.2 必須条件

コンピュータハードウェア

ハードウェア	インタフェース	
	CDI-RJ45	WLAN
インタフェース	コンピュータには RJ45 インタフェースが必要です。 ¹⁾	操作部には WLAN インタフェースが必要です。
接続	標準イーサネットケーブル	無線 LAN を介した接続
画面	推奨サイズ：≥12"（画面解像度に応じて）	

- 1) 推奨ケーブル：CAT5e、CAT6、または CAT7、シールドプラグ付き（例：YAMAICHI 製品；品番：Y-ConProfixPlug63/製品 ID：82-006660）

コンピュータソフトウェア

ソフトウェア	インタフェース	
	CDI-RJ45	WLAN
推奨のオペレーティングシステム	- Microsoft Windows 8 以上 - モバイルオペレーティングシステム： - iOS - Android  Microsoft Windows XP および Windows 7 に対応します。	
対応のウェブブラウザ	- Microsoft Internet Explorer 8 以上 - Microsoft Edge - Mozilla Firefox - Google Chrome - Safari	

コンピュータ設定

設定	インタフェース	
	CDI-RJ45	WLAN
ユーザー権限	TCP/IP およびプロキシサーバー設定が可能なユーザー権限（例：管理者権限）が必要です（IP アドレスやサブネットマスクの調整などが必要なため）。	
ウェブブラウザのプロキシサーバー設定	ウェブブラウザの設定「LAN にプロキシサーバーを使用する」を オフ にする必要があります。	
JavaScript	JavaScript を有効にする必要があります。  JavaScript を有効にできない場合：ウェブブラウザのアドレスバーに <code>http://192.168.1.212/servlet/basic.html</code> を入力します。ウェブブラウザですべての機能を備えた簡易バージョンの操作メニューが起動します。  新しいファームウェアのバージョンをインストールする場合：正確なデータ表示を可能にするため、ウェブブラウザのインターネットオプションで一時的なメモリ（キャッシュ）を消去します。	JavaScript を有効にする必要があります。  WLAN ディスプレイには、JavaScript のサポートが必要です。
ネットワーク接続	機器とのアクティブなネットワーク接続のみを使用してください。	
	その他のすべてのネットワーク接続（WLAN など）をオフにします。	他のネットワーク接続はすべてオフにします。

 接続の問題が発生した場合：→  159

機器：CDI-RJ45 サービスインターフェイス経由

機器	CDI-RJ45 サービスインターフェイス
機器	機器には RJ45 インターフェイスがあります。
Web サーバー	Web サーバーを有効にする必要があります。工場設定：オン  Web サーバーの有効化に関する情報 → 85

機器：WLAN インターフェイス経由

機器	WLAN インターフェイス
機器	機器には WLAN アンテナがあります。 ■ 内蔵の WLAN アンテナ付き変換器 ■ 外部の WLAN アンテナ付き変換器
Web サーバー	Web サーバーおよび WLAN を有効にする必要があります。工場設定：ON  Web サーバーの有効化に関する情報 → 85

8.4.3 機器の接続**サービスインタフェース（CDI-RJ45）経由****機器の準備****Proline 500 – デジタル**

1. ハウジングカバーの 4 つの固定ネジを緩めます。
2. ハウジングカバーを開きます。
3. 接続ソケットの位置は、機器および通信プロトコルに応じて異なります。
標準のイーサネットケーブルを使用してコンピュータを RJ45 プラグに接続します。

Proline 500

1. ハウジングの種類に応じて：
ハウジングカバーの固定クランプまたは固定ネジを緩めます。
2. ハウジングの種類に応じて：
ハウジングカバーを緩めて外すか、開きます。
3. 標準のイーサネット接続ケーブルを使用して、コンピュータを RJ45 プラグに接続します。

コンピュータのインターネットプロトコルの設定

以下は、機器の Ethernet 初期設定です。

機器の IP アドレス：192.168.1.212（工場設定）

1. 機器の電源をオンにします。
2. 標準のイーサネットケーブルを使用してコンピュータを RJ45 プラグに接続します → 86。
3. 2 つ目のネットワークカードを使用しない場合は、ノートパソコンのすべてのアプリケーションを閉じます。
 - ↳ E メール、SAP アプリケーション、インターネットまたは Windows Explorer などのアプリケーションにはインターネットまたはネットワーク接続が必要となります。
4. 開いているインターネットブラウザをすべて閉じます。

5. 表の記載に従って、インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティを設定します。

IP アドレス	192.168.1.XXX、XXX については 0、212、255 以外のすべての続き番号 → 例：192.168.1.213
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.212 または空欄

WLAN インタフェース経由

携帯端末のインターネットプロトコルの設定

注記

設定中に WLAN 接続が中断した場合、行った設定が失われる可能性があります。

- ▶ 機器の設定中は WLAN 接続が切断されないように注意してください。

注記

ネットワーク競合が発生しないよう、以下に注意してください。

- ▶ 同じモバイル端末からサービスインタフェース (CDI-RJ45) と WLAN インタフェースを介して機器に同時にアクセスしないようにしてください。
- ▶ 1つのサービスインタフェース (CDI-RJ45 または WLAN インタフェース) のみを有効にしてください。
- ▶ 同時通信が必要な場合：たとえば、192.168.0.1 (WLAN インタフェース) と 192.168.1.212 (CDI-RJ45 サービスインタフェース) など、異なる IP アドレス範囲を設定します。

モバイル端末の準備

- ▶ モバイル端末の WLAN を有効にします。

モバイル端末から機器への WLAN 接続の確立

1. モバイル端末の WLAN 設定において：
SSID (例：EH_Promag_500_A802000) を使用して機器を選択します。
2. 必要に応じて、WPA2 暗号方式を選択します。
3. パスワードを入力します。
工場出荷時の機器のシリアル番号 (例：L100A802000)
↳ 表示モジュールの LED が点滅します。これにより、ウェブブラウザ、FieldCare または DeviceCare を使用して機器を操作できるようになります。



シリアル番号は銘板に明記されています。



WLAN ネットワークを測定点に安全かつ迅速に割り当てるためには、SSID 名称の変更を推奨します。WLAN ネットワークとして表示されるため、新しい SSID 名称を測定点に明確に割り当てることができます (例：タグ名)。

WLAN 接続の終了

- ▶ 機器の設定後：
モバイル端末と機器間の WLAN 接続を終了します。

ウェブブラウザの起動

1. コンピュータのウェブブラウザを起動します。

- 2. ウェブブラウザのアドレス行に Web サーバーの IP アドレス (192.168.1.212) を入力します。
→ ログイン画面が表示されます。

The screenshot shows the login interface of the Proline Promag H 500. It includes fields for Device name, Device tag, and Signal Status, a Web server language dropdown set to English, a Login section with Access Status and Maintenance options, an Enter access code field, a Login button, and a Reset access code button. Numbered callouts point to specific elements: 1 (Device icon), 2 (Device name field), 3 (Device tag field), 4 (Signal Status field), 5 (Current measurement value field), 6 (Web server language dropdown), 7 (Maintenance option), 8 (Enter access code field), 9 (Login button), and 10 (Reset access code button).

A0053670

- 1 機器の図
- 2 機器名
- 3 デバイスのタグ
- 4 ステータス信号
- 5 現在の測定値
- 6 操作言語
- 7 ユーザーの役割
- 8 アクセスコード
- 9 ログイン
- 10 アクセスコードのリセット (→ 141)

ログイン画面が表示されない、または、画面が不完全な場合 → 159

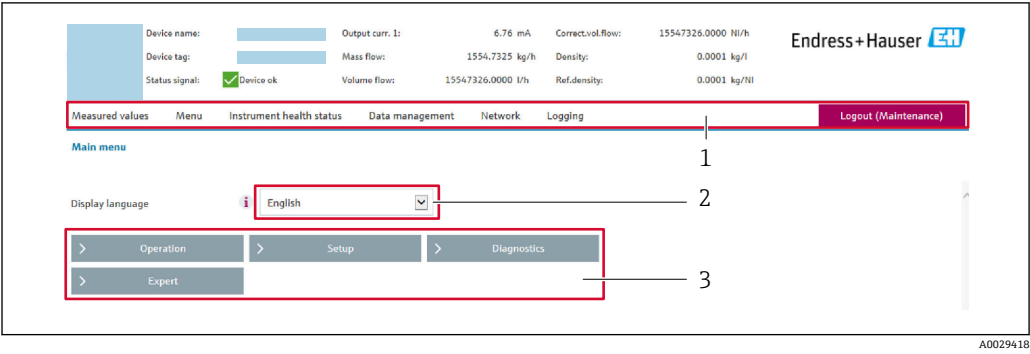
8.4.4 ログイン

- 1. 希望するウェブブラウザの操作言語を選択します。
- 2. ユーザー固有のアクセスコードを入力します。
- 3. **OK** を押して、入力内容を確定します。

アクセスコード	0000 (工場設定)、ユーザー側で変更可能
---------	------------------------

10 分間何も操作されなかった場合、ウェブブラウザは自動的にログイン画面に戻ります。

8.4.5 ユーザーインターフェース



- 1 機能列
- 2 現場表示器の言語
- 3 ナビゲーションエリア

ヘッダー

以下の情報がヘッダーに表示されます。

- 機器名
- デバイスのタグ
- 機器ステータスとステータス信号 → 167
- 現在の計測値

機能列

機能	意味
測定値	機器の測定値を表示
メニュー	■ 機器から操作メニューへのアクセス ■ 操作メニューの構成は現場表示器のものと同じです。  操作メニューの構成に関する詳細：機能説明書
機器ステータス	現在未処理の診断メッセージを優先度の高い順序で表示
データ管理	コンピュータと計測機器間のデータ交換： ■ 機器設定： ■ 機器からの読み込み設定 (XML 形式、設定の保存) ■ 機器への保存設定 (XML 形式、設定の復元) ■ ログブック - イベントログブックのエクスポート (.csv ファイル) ■ ドキュメント - ドキュメントのエクスポート： ■ バックアップ記録データのエクスポート (.csv ファイル、測定点設定のドキュメント作成) ■ 検証レポート (PDF ファイル、「Heartbeat 検証」アプリケーションパッケージの場合のみ使用可能) ■ システム統合用ファイル - フィールドパスを使用する場合は、システム統合用のデバイスドライバを機器からアップロードします。 PROFIBUS DP：GSD ファイル ■ ファームウェアアップデート - ファームウェアバージョンの更新
ネットワーク	機器との接続確立に必要なすべてのパラメータの設定および確認 ■ ネットワーク設定 (例：IP アドレス、MAC アドレス) ■ 機器情報 (例：シリアル番号、ファームウェアのバージョン)
ログアウト	操作の終了とログイン画面の呼び出し

ナビゲーションエリア

メニュー、関連するサブメニュー、およびパラメータは、ナビゲーションエリアで選択できます。

作業エリア

選択した機能と関連するサブメニューに応じて、このエリアでさまざまな処理を行うことができます。

- パラメータ設定
- 測定値の読み取り
- ヘルプテキストの呼び出し
- アップロード/ダウンロードの開始

8.4.6 Web サーバーの無効化

機器の Web サーバーは、必要に応じて **Web サーバ 機能** パラメータを使用してオン/オフできます。

ナビゲーション

「エキスパート」メニュー → 通信 → Web サーバ

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択
Web サーバ 機能	Web サーバーのオン/オフを切り替えます。	■ オフ ■ HTML Off ■ オン

「Web サーバ 機能」パラメータの機能範囲

選択項目	説明
オフ	■ Web サーバーは完全に無効になります。 ■ ポート 80 はロックされます。
HTML Off	Web サーバーの HTML パージョンは使用できません。
オン	■ すべての Web サーバー機能が使用できます。 ■ JavaScript が使用されます。 ■ パスワードは暗号化された状態で伝送されます。 ■ パスワードの変更も暗号化された状態で伝送されます。

Web サーバーの有効化

Web サーバーが無効になった場合、以下の操作オプションを介した **Web サーバ 機能** パラメータを使用してのみ再び有効にすることが可能です。

- 現場表示器を介して
- 「FieldCare」操作ツールを使用
- 「DeviceCare」操作ツールを使用

8.4.7 ログアウト

 ログアウトする前に、必要に応じて、**データ管理機能**（機器のアップロード設定）を使用してデータバックアップを行ってください。

1. 機能列で **ログアウト** 入力項目を選択します。
↳ ホームページにログインボックスが表示されます。
2. ウェブブラウザを閉じます。

3. 必要なくなった場合：

インターネットプロトコル (TCP/IP) の変更したプロパティをリセットします。
→ 81.

8.5 操作ツールによる操作メニューへのアクセス

操作ツールを使用する場合の操作メニュー構成は、現場表示器による操作と同じです。

8.5.1 操作ツールの接続

PROFIBUS DP ネットワーク経由

この通信インターフェイスは PROFIBUS DP 対応の機器バージョンに装備されています。

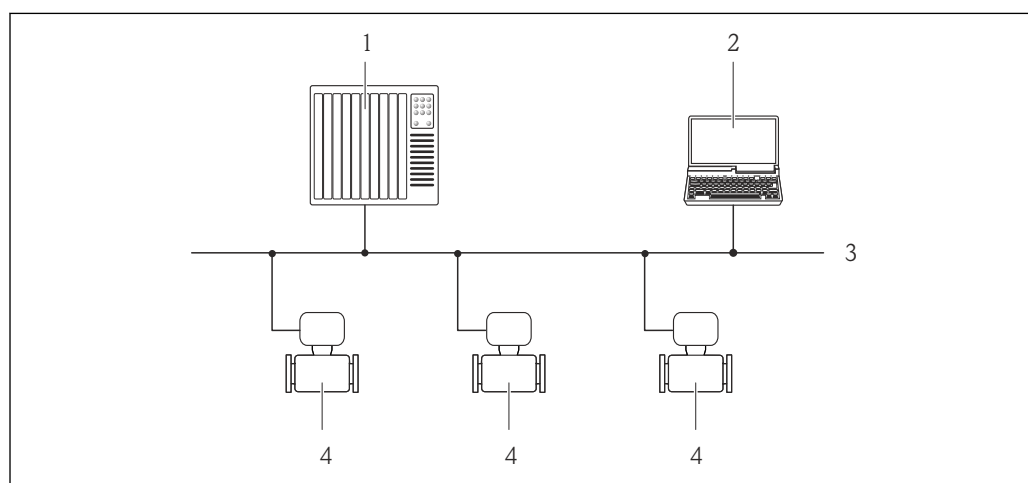


図 29 PROFIBUS DP ネットワークを介したリモート操作のオプション

- 1 オートメーションシステム
- 2 PROFIBUS ネットワークカード付きコンピュータ
- 3 PROFIBUS DP ネットワーク
- 4 機器

サービスインタフェース

サービスインタフェース (CDI-RJ45) 経由

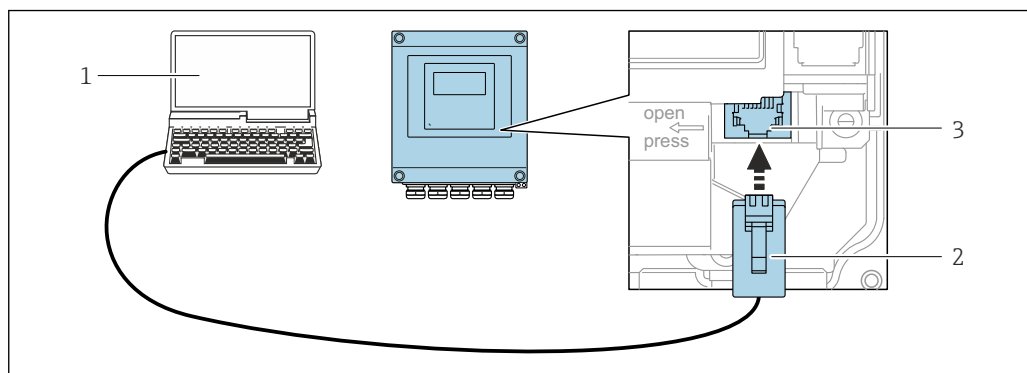
ポイント・トゥー・ポイント接続を確立して、機器を現場で設定することが可能です。ハウジングを開いた状態で、機器のサービスインタフェース (CDI-RJ45) を介して直接接続が確立されます。

i 非危険場所で使用できる RJ45 から M12 プラグ用のアダプタがオプションで用意されています。

「アクセサリ」のオーダーコード、オプション **NB** : 「アダプタ RJ45 M12 (サービスインタフェース)」

このアダプタにより、サービスインタフェース (CDI-RJ45) と電線口に付いている M12 プラグが接続されます。機器を開けることなく、M12 プラグを介してサービスインタフェースとの接続を確立することが可能です。

Proline 500 – デジタル変換器

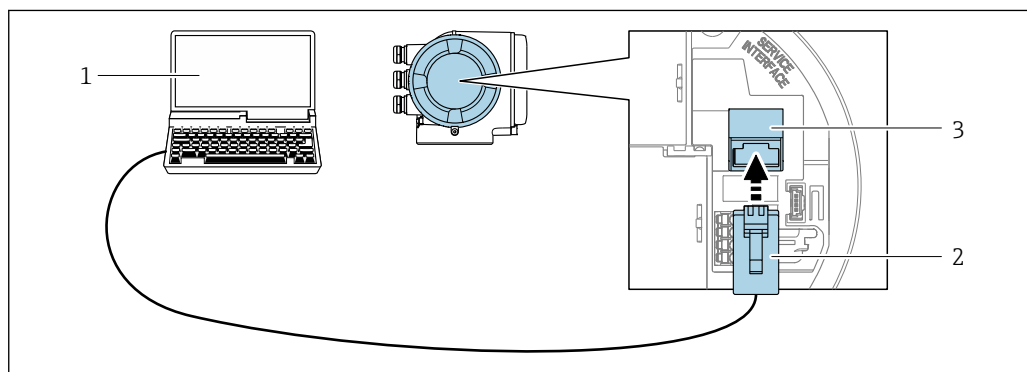


A0029163

図 30 サービスインタフェース (CDI-RJ45) 経由の接続

- 1 内蔵 Web サーバーにアクセスするためのウェブブラウザ (例: Microsoft Internet Explorer、Microsoft Edge)、もしくは「FieldCare」操作ツール、COM DTM「CDI Communication TCP/IP」を使用する「DeviceCare」を搭載したコンピュータ
- 2 RJ45 プラグの付いた標準イーサネット接続ケーブル
- 3 内蔵された Web サーバーにアクセス可能な機器のサービスインタフェース (CDI-RJ45)

Proline 500 変換器



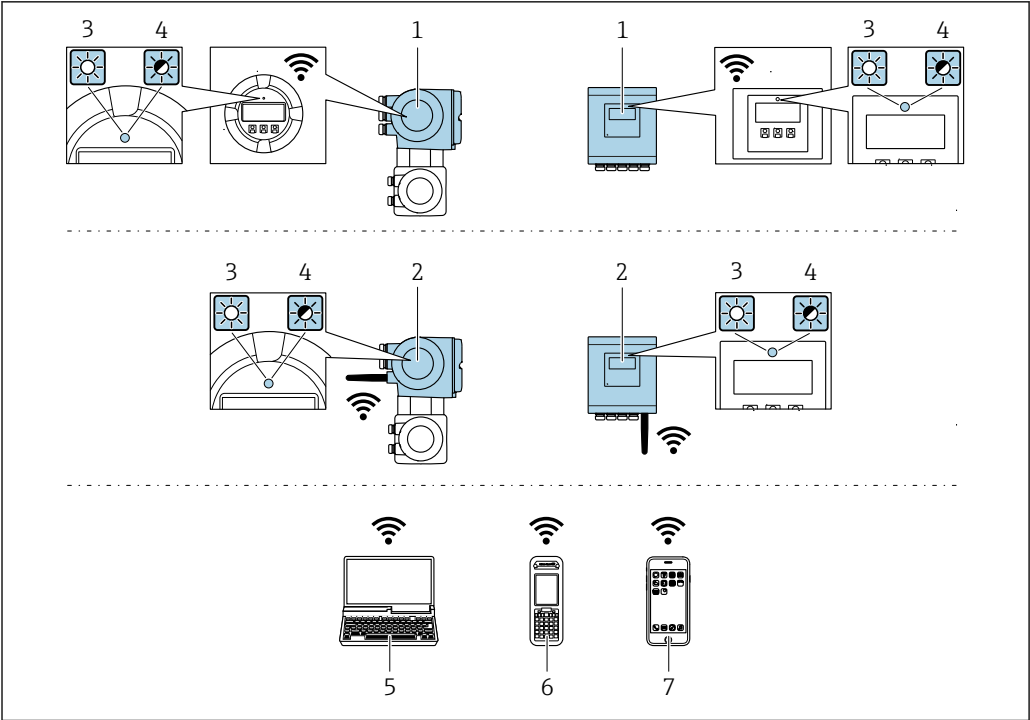
A0027563

図 31 サービスインタフェース (CDI-RJ45) 経由の接続

- 1 内蔵 Web サーバーにアクセスするためのウェブブラウザ (例: Microsoft Internet Explorer、Microsoft Edge)、もしくは「FieldCare」操作ツール、COM DTM「CDI Communication TCP/IP」を使用する「DeviceCare」を搭載したコンピュータ
- 2 RJ45 プラグの付いた標準イーサネット接続ケーブル
- 3 内蔵された Web サーバーにアクセス可能な機器のサービスインタフェース (CDI-RJ45)

WLAN インタフェース経由

以下の機器バージョンでは、オプションの WLAN インタフェースが使用できます。
「ディスプレイ ; 操作」のオーダーコード、オプション G「4 行表示、バックライト ;
タッチコントロール + WLAN」



A0034569

- 1 内蔵の WLAN アンテナ付き変換器
- 2 外部の WLAN アンテナ付き変換器
- 3 LED 点灯：機器の WLAN 受信が可能
- 4 LED 点滅：操作ユニットと機器の WLAN 接続が確立
- 5 WLAN インタフェース、および、機器の内蔵 Web サーバーにアクセスするためのウェブブラウザ（例：Microsoft Internet Explorer、Microsoft Edge）または操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare）を搭載したコンピュータ
- 6 WLAN インタフェース、および、機器の内蔵 Web サーバーにアクセスするためのウェブブラウザ（例：Microsoft Internet Explorer、Microsoft Edge）または操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare）を搭載した携帯型ハンドヘルドターミナル
- 7 スマートフォンまたはタブレット端末（例：Field Xpert SMT70）

暗号化	WPA2-PSK AES-128（IEEE 802.11i に準拠）
設定可能な WLAN チャンネル	1～11
保護等級	IP67
使用可能なアンテナ	■ 内部アンテナ ■ 外部アンテナ（オプション） 設置場所の送受信状態が悪い場合  一度にアクティブになるアンテナは1つだけです。
範囲	■ 内部アンテナ：標準 10 m (32 ft) ■ 外部アンテナ：標準 50 m (164 ft)
材質（外部アンテナ）	■ アンテナ：ASA プラスチック（アクリロニトリルスチレンアクリレート）およびニッケルめっき真鍮 ■ アダプタ：ステンレスおよびニッケルめっき真鍮 ■ ケーブル：ポリエチレン ■ プラグ：ニッケルめっき真鍮 ■ アングルブラケット：ステンレス

携帯端末のインターネットプロトコルの設定

注記

設定中に WLAN 接続が中断した場合、行った設定が失われる可能性があります。
▶ 機器の設定中は WLAN 接続が切断されないように注意してください。

注記

ネットワーク競合が発生しないよう、以下に注意してください。

- ▶ 同じモバイル端末からサービスインタフェース (CDI-RJ45) と WLAN インタフェースを介して機器に同時にアクセスしないようにしてください。
- ▶ 1つのサービスインタフェース (CDI-RJ45 または WLAN インタフェース) のみを有効にしてください。
- ▶ 同時通信が必要な場合：たとえば、192.168.0.1 (WLAN インタフェース) と 192.168.1.212 (CDI-RJ45 サービスインタフェース) など、異なる IP アドレス範囲を設定します。

モバイル端末の準備

- ▶ モバイル端末の WLAN を有効にします。

モバイル端末から機器への WLAN 接続の確立

1. モバイル端末の WLAN 設定において：
SSID (例：EH_Promag_500_A802000) を使用して機器を選択します。
2. 必要に応じて、WPA2 暗号方式を選択します。
3. パスワードを入力します。
工場出荷時の機器のシリアル番号 (例：L100A802000)
 - ↳ 表示モジュールの LED が点滅します。これにより、ウェブブラウザ、FieldCare または DeviceCare を使用して機器を操作できるようになります。

 シリアル番号は銘板に明記されています。

 WLAN ネットワークを測定点に安全かつ迅速に割り当てるためには、SSID 名称の変更を推奨します。WLAN ネットワークとして表示されるため、新しい SSID 名称を測定点に明確に割り当てることができます (例：タグ名)。

WLAN 接続の終了

- ▶ 機器の設定後：
モバイル端末と機器間の WLAN 接続を終了します。

8.5.2 FieldCare

機能範囲

Endress+Hauser の FDT (Field Device Technology) ベースのプラントアセット管理ツールです。システム内のすべてのスマートフィールド機器を設定できるため、管理作業に役立ちます。ステータス情報を使用することにより、各機器のステータスと状態を容易かつ効果的にチェックできます。

アクセス方法：

- CDI-RJ45 サービスインタフェース →  86
- WLAN インタフェース →  87

標準機能：

- 伝送器パラメータ設定
- 機器データの読み込みおよび保存 (アップロード/ダウンロード)
- 測定点の文書化
- 測定値メモリ (ラインレコーダ) およびイベントログブックの視覚化

-  ■ 取扱説明書 BA00027S
- 取扱説明書 BA00059S

 DD ファイルの入手先 →  92

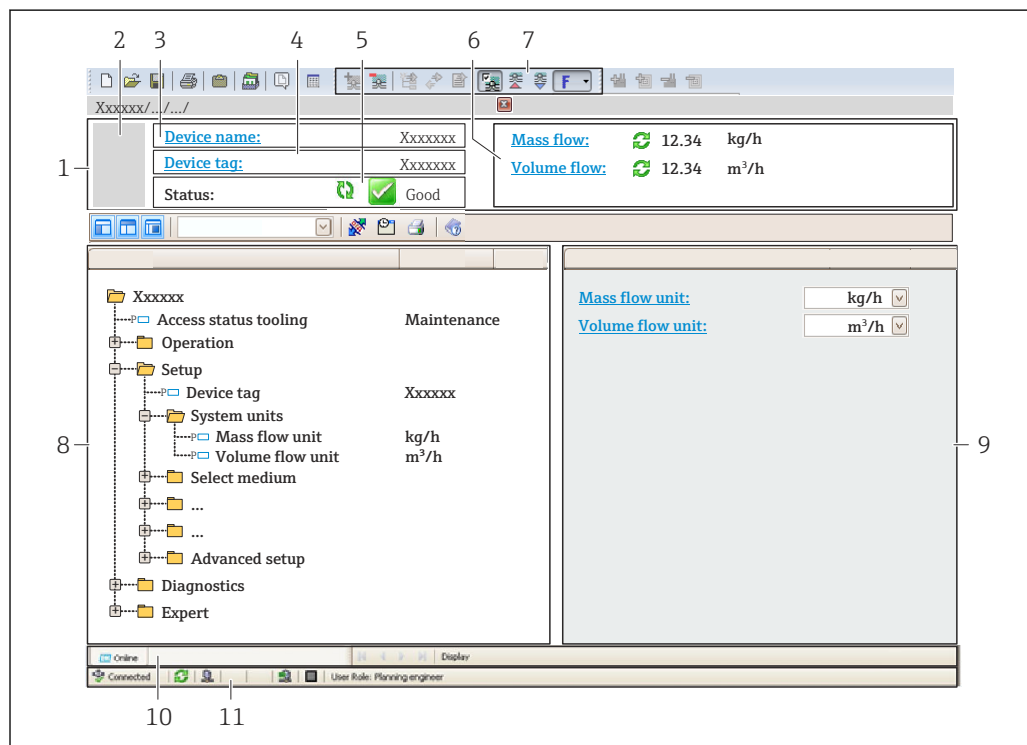
接続の確立

1. FieldCare を開始し、プロジェクトを立ち上げます。
2. ネットワークで：機器を追加します。
↳ 機器追加ウィンドウが開きます。
3. リストから **CDI Communication TCP/IP** を選択し、**OK** を押して確定します。
4. **CDI Communication TCP/IP** を右クリックして、開いたコンテキストメニューから **機器追加** を選択します。
5. リストから目的の機器を選択し、**OK** を押して確定します。
↳ **CDI Communication TCP/IP (設定)** ウィンドウが開きます。
6. 機器アドレスを **IP アドレス** フィールドに入力し (192.168.1.212)、**Enter** を押して確定します。
7. 機器のオンライン接続を確立します。



- 取扱説明書 BA00027S
- 取扱説明書 BA00059S

ユーザインタフェース



A0021051-JA

- 1 ヘッダー
- 2 機器の図
- 3 機器名
- 4 機器のタグ
- 5 ステータスエリアとステータス信号 → 167
- 6 現在の測定値の表示エリア
- 7 編集ツールバー：保存/読み込み、イベントリスト、文書作成などの追加機能を使用できます。
- 8 ナビゲーションエリアと操作メニュー構成
- 9 作業エリア
- 10 動作エリア
- 11 ステータスエリア

8.5.3 DeviceCare

機能範囲

Endress+Hauser 製フィールド機器の接続および設定用ツール。

専用の「DeviceCare」ツールを使用すると、Endress+Hauser 製フィールド機器を簡単に設定できます。デバイスタイプマネージャ (DTM) も併用すると、効率的で包括的なソリューションとして活用できます。



イノベーションカタログ IN01047S



DD ファイルの入手先 → 92

9 システム統合

9.1 デバイス記述（DD）ファイルの概要

9.1.1 現在の機器バージョンデータ

ファームウェアのバージョン	01.00.zz	■ 説明書の表紙に明記 ■ 変換器の銘板に明記 ■ ファームウェアのバージョン 診断 → 機器情報 → ファームウェアのバージョン
ファームウェアのバージョンのリリース日付	2018 年 6 月	---
製造者 ID	0x11	製造者 ID 診断 → 機器情報 → 製造者 ID
機器タイプコード	0x1570	機器タイプ 診断 → 機器情報 → 機器タイプ
プロファイルバージョン	3.02	---

 機器の各種ファームウェアバージョンの概要 →  200

9.1.2 操作ツール

以下の表には、個々の操作ツールに適した DD ファイルとそのファイルの入手先情報が記載されています。

操作ツール： PROFIBUS プロトコル	DD ファイルの入手先
FieldCare	■ www.endress.com → ダウンロードエリア ■ USB メモリ（Endress+Hauser にお問い合わせください） ■ DVD（Endress+Hauser にお問い合わせください）
DeviceCare	■ www.endress.com → ダウンロードエリア ■ CD-ROM（Endress+Hauser にお問い合わせください） ■ DVD（Endress+Hauser にお問い合わせください）

9.2 機器マスターファイル（GSD）

フィールド機器をバスシステムに統合するために、PROFIBUS システムは出力データ、入力データ、データ形式、データ容量、サポートされた伝送速度といった機器パラメータの記述を必要とします。

これらのデータは、通信システム稼働時に PROFIBUS マスターに提供される機器マスターファイル（GSD）に記載されています。また、ネットワーク構造にアイコンとして表示される機器ビットマップも統合できます。

プロファイル 3.02 機器マスターファイル（GSD）を使用すると、さまざまなメーカーが製造したフィールド機器を再設定せずに交換することが可能です。

一般的に、プロファイル 3.02 以降は 2 つの異なる GSD を使用可能：製造者固有 GSD およびプロファイル GSD。

-  ■ 設定する前に、ユーザーはシステム操作にどの GSD を使用するか決める必要があります。
- クラス 2 マスターを使用すると設定を変更できます。

9.2.1 製造者固有 GSD

この GSD は機器の無制限の機能性を保証します。そのため、機器固有のプロセスパラメータと機能が使用できます。

製造者固有 GSD	ID number (ID 番号)	ファイル名
PROFIBUS DP	0x1570	EH3x1570.gsd

製造者固有 GSD の使用

Ident number selector パラメータの **製造者** オプションで割当てを行います。



製造者固有 GSD の供給元：

- 内蔵の Web サーバーを介して機器から直接エクスポート：
データ管理 → ドキュメント → GSD ファイルのエクスポート
- 弊社ウェブサイトからダウンロード：
www.endress.com → ダウンロードエリア

9.2.2 プロファイル GSD

アナログ入力ブロック (AI) の数と測定値が異なります。システムをプロファイル GSD で設定した場合、さまざまなメーカーで製造した機器を交換することが可能です。ただし、周期的プロセス値の順序が正しいか確認する必要があります。

ID number (ID 番号)	対応ブロック	対応チャンネル
0x9740	■ 1 × アナログ入力 ■ 1 × 積算計	■ アナログ入力チャンネル：体積流量 ■ 積算計チャンネル：体積流量
0x9741	■ 2 × アナログ入力 ■ 1 × 積算計	■ アナログ入力 1 チャンネル：体積流量 ■ アナログ入力 2 チャンネル：質量流量 ■ 積算計チャンネル：体積流量
0x9742	■ 3 × アナログ入力 ■ 1 × 積算計	■ アナログ入力 1 チャンネル：体積流量 ■ アナログ入力 2 チャンネル：質量流量 ■ アナログ入力 3 チャンネル：基準体積流量 ■ 積算計チャンネル：体積流量

プロファイル GSD の使用

Ident number selector パラメータで割当てを行います。

- ID 番号 0x9740 : **1 AI, 1 Totalizer (0x9740)** オプション
- ID 番号 0x9741 : **2 AI, 1 Totalizer (0x9741)** オプション
- ID 番号 0x9742 : **Profile** オプション

9.3 旧型モデルとの互換性

機器を交換した場合、Promag 500 機器は旧型モデルとのサイクリックデータの互換性をサポートします。PROFIBUS ネットワークのエンジニアリングパラメータを Promag 500 GSD ファイルと調整する必要はありません。

旧型モデル：

- Promag 50 PROFIBUS DP
 - ID 番号：1546 (16 進)
 - 拡張 GSD ファイル：EH3x1546.gsd
 - 標準 GSD ファイル：EH3_1546.gsd
- Promag 53 PROFIBUS DP
 - ID 番号：1526 (16 進)
 - 拡張 GSD ファイル：EH3x1526.gsd
 - 標準 GSD ファイル：EH3_1526.gsd

9.3.1 自動識別（初期設定）

Promag 500 PROFIBUS DP により、オートメーションシステムで設定された機器が自動認識され（Promag 50 PROFIBUS DP または Promag 53 PROFIBUS DP）、同じ入出力データと測定値ステータス情報がサイクリックデータ交換で使用可能になります。

自動識別は、**Ident number selector** パラメータで **Automatic mode** オプション（初期設定）を使用して設定します。

9.3.2 手動設定

手動設定は **Ident number selector** パラメータの **Promag 50 (0x1546)** オプションまたは **Promag 53 (0x1526)** オプションで行います。

その後、Promag 500 PROFIBUS DP によって、同じ入出力データと測定値ステータス情報 → 図 169 がサイクリックデータ交換で使用可能になります。

- Promag 500 PROFIBUS DP が操作プログラム（クラス 2 マスタ）を介して非周期的に設定されている場合は、機器のブロック構造またはパラメータを介して直接アクセスできます。
- 交換する機器（Promag 50 PROFIBUS DP または Promag 53 PROFIBUS DP）でパラメータが変更されている場合は（パラメータ設定が工場出荷時の設定と一致しない）、操作プログラム（クラス 2 マスタ）を使用して新しい Promag 500 PROFIBUS DP でこのパラメータを変更する必要があります。

例

現在操作されている Promag 50 PROFIBUS DP のローフローカットオフの割当て設定が質量流量（初期設定）から基準体積流量に変更されました。この機器を Promag 500 PROFIBUS DP に交換します。

機器の交換後、機器が同じように動作することを保証するには、Promag 500 PROFIBUS DP のローフローカットオフの割当てでも基準体積流量に手動で変更する必要があります。

9.3.3 GSD ファイルの変更またはコントローラの再起動なしでの機器の交換

以下に記載されている手順により、進行中の操作を中断せずに、またはコントローラを再起動せずに機器を交換することが可能です。ただし、この手順では機器を完全に統合することはできません。

1. 機器 Promag 50 PROFIBUS DP または Promag 53 PROFIBUS DP を Promag 500 PROFIBUS DP に交換します。
2. 機器アドレスを設定します。Promag 50 または Promag 53 PROFIBUS DP 用に設定され、オートメーションシステムで設定されたものと同じ機器アドレスを使用しなければなりません。
3. 機器 Promag 500 PROFIBUS DP を接続します。

交換する機器（Promag 50 PROFIBUS DP または Promag 53 PROFIBUS DP）の初期設定を変更した場合は、以下の設定を変更する必要があります。

1. アプリケーション固有のパラメータの設定
2. アナログ入力または積算計機能ブロックの **Channel** パラメータを介して伝送されるプロセス変数の選択
3. プロセス変数の単位の設定

9.4 旧型モデルの GSD モジュールの使用

互換モードでは、オートメーションシステムですでに設定されているモジュールはすべて、原則としてサイクリックデータ伝送中にサポートされます。ただし、Promag 500 は、以下のモジュールに対してさらなる処理を実行しません。つまり、機能は実行されません。

- DISPLAY_VALUE
- BATCHING_QUANTITY
- BATCHING_FIX_COMP_QUANTITY

機器を交換した場合、Promag 500 機器は旧型モデルとのサイクリックデータの互換性をサポートします。PROFIBUS ネットワークのエンジニアリングパラメータを Promag 500 GSD ファイルと調整する必要はありません。

旧型モデルの GSD を使用して分散制御システムに伝送される診断メッセージは、機器の診断メッセージとは異なる場合があります。機器の診断メッセージが極めて重要になります。

9.4.1 旧型モデルの CONTROL_BLOCK モジュールの使用

旧型モデルで CONTROL_BLOCK モジュールが使用されている場合、Promag 500 に関連する機能を割り当てることができると、制御変数は続けて処理されます。

機能は、旧型モデルに応じて以下のようにサポートされます。

旧型モデル：Promag 50 PROFIBUS DP

制御変数	機能	支持部
0 → 2	ポジティブゼロリターン：ON	あり
0 → 3	ポジティブゼロリターン：OFF	あり
0 → 8	測定モード：UNIDIRECTIONAL（一方向）	なし
0 → 9	測定モード：BIDIRECTIONAL（双方向）	原因： プロファイル 流量トランスデューサブロックがサポートされなくなりました。 機能の使用を継続する場合： 積算計機能ブロックの 積算計動作モードパラメータを使用します。
0 → 24	UNIT TO BUS（単位をバスへ）	なし 原因： 単位が自動的に取り込まれるため、この機能は不要になりました。

旧型モデル：Promag 53 PROFIBUS DP

制御変数	機能	支持部
0 → 2	ポジティブゼロリターン：ON	あり
0 → 3	ポジティブゼロリターン：OFF	あり
0 → 5	電極洗浄回路（ECC）：OFF	あり
0 → 6	電極洗浄回路（ECC）：ON	あり
0 → 8	測定モード：UNIDIRECTIONAL（一方向）	なし
0 → 9	測定モード：BIDIRECTIONAL（双方向）	原因： プロファイル 流量トランスデューサブロックがサポートされなくなりました。 機能の使用を継続する場合： 積算計機能ブロックの 積算計動作モードパラメータを使用します。

制御変数	機能	支持部
0 → 24	UNIT TO BUS (単位をバスへ)	なし 原因： 単位が自動的に取り込まれるため、この機能は不要になりました。
0 → 50	リレー出力 1 : ON	あり、端子 24/25 (I/O 2)
0 → 51	リレー出力 1 : OFF	
0 → 55	リレー出力 2 : ON	あり、端子 22/23 (I/O 3)
0 → 56	リレー出力 2 : OFF	
0 → 30 ~ 46	追加機能：バッチ	なし

9.5 サイクリックデータ伝送

機器マスタファイル (GSD) を使用する場合の周期的データ伝送

9.5.1 ブロックモデル

ブロックモデルは、機器によって周期的データ交換で使用可能になる入出力データを示します。サイクリックデータ交換は PROFIBUS マスタ (クラス 1) (例: 制御システム) で行われます。

計測機器				制御システム
流量計 ブロック	アナログ入力ブロック 1 ～4	→ ㊦ 98	出力値 AI	→
	積算計ブロック 1～3	→ ㊦ 98	出力値 TOTAL	→
			コントローラ SETTOT	←
			設定 MODETOT	←
	アナログ出力ブロック 1 ～2	→ ㊦ 100	入力値 AO	←
	ディスクリット入力ブ ロック 1～2	→ ㊦ 101	出力値 DI	→
	ディスクリット出力ブ ロック 1～5	→ ㊦ 101	入力値 DO	←
				PROFIBUS DP

モジュールの決められた順序

本機器はモジュール式の PROFIBUS スレーブとして機能します。コンパクト型スレーブとは対照的に、モジュール式スレーブにはさまざまな構成があり、複数の個別のモジュールから成ります。機器マスタファイル (GSD) には個別のモジュール (入出力データ) およびその個別の特性に関する記述が含まれています。

モジュールはスロットに恒久的に割り当てられています。したがって、モジュールを設定する場合は、モジュールの順序および配置に配慮する必要があります。

スロット	モジュール	機能ブロック
1～4	AI	アナログ入力ブロック 1～4
5	TOTAL または SETTOT_TOTAL または SETOT_MODETOT_TOTAL	積算計ブロック 1
6		積算計ブロック 2
7		積算計ブロック 3
8～9	AO	アナログ出力ブロック 1～2
10～11	DI	ディスクリット入力ブロック 1～2
12～16	DO	ディスクリット出力ブロック 1～5

PROFIBUS ネットワークのスループット率を最適化するため、PROFIBUS マスタシステムで処理するモジュールのみを設定することを推奨します。これにより、設定したモジュール間に隙間が生じた場合は、この隙間に EMPTY_MODULE を割り当てる必要があります。

9.5.2 モジュールの説明

PROFIBUS マスタの観点からのデータ構造の説明:

- 入力データ: 機器から PROFIBUS マスタに送信されます。
- 出力データ: PROFIBUS マスタから機器に送信されます。

AI モジュール（アナログ入力）

入力変数を機器から PROFIBUS マスタ（クラス 1）に伝送します。

AI モジュールを介して、選択された入力変数とそのステータスが PROFIBUS マスタ（クラス 1）に周期的に伝送されます。入力変数は、最初の 4 バイトが IEEE 754 規格に準拠する浮動小数点数という形で表されます。第 5 バイトには、入力変数に関する標準化されたステータス情報が含まれます。

4 つのアナログ入力ブロックがあります（スロット 1～4）。

選択：入力変数

入力変数
体積流量
質量流量
基準体積流量
流速
導電率
補正導電率
温度
電子モジュール内温度
電流入力 1
電流入力 2
電流入力 3

工場設定

機能ブロック	工場設定
AI 1	体積流量
AI 2	質量流量
AI 3	基準体積流量
AI 4	流速

データ構造

アナログ入力の入力データ

バイト 1	バイト 2	バイト 3	バイト 4	バイト 5
測定値：浮動小数点数（IEEE 754）				ステータス

積算モジュール

積算計の値を機器から PROFIBUS マスタ（クラス 1）に伝送します。

選択された積算計の値とステータスは、TOTAL（積算）モジュールを介して PROFIBUS マスタ（クラス 1）に周期的に伝送されます。積算計の値は、最初の 4 バイトが IEEE 754 規格に準拠する浮動小数点数という形で表されます。第 5 バイトには、積算計の値に関する標準化されたステータス情報が含まれます。

3 つの積算計ブロックがあります（スロット 5～7）。

選択：積算計の値

入力変数
体積流量
質量流量
基準体積流量

初期設定

機能ブロック	初期設定：TOTAL
積算計 1、2、3	体積流量

データ構造

TOTAL の入力データ

バイト 1	バイト 2	バイト 3	バイト 4	バイト 5
測定値：浮動小数点数 (IEEE 754)				ステータス

SETTOT_TOTAL モジュール

モジュールの組合せは、SETTOT および TOTAL 機能から成ります。

- SETTOT：PROFIBUS マスタを介して積算計をコントロールします。
- TOTAL：積算計の値（ステータスを含む）を PROFIBUS マスタに伝送します。

3 つの積算計ブロックがあります（スロット 5～7）。

選択：積算計のコントロール

SETTOT 値	積算計のコントロール
0	積算計の開始
1	リセット
2	積算計初期設定の採用

初期設定

機能ブロック	初期設定：SETTOT 値（意味）
積算計 1、2、3	0（積算）

データ構造

SETTOT の出力データ

バイト 1
制御変数 1

TOTAL の入力データ

バイト 1	バイト 2	バイト 3	バイト 4	バイト 5
測定値：浮動小数点数 (IEEE 754)				ステータス

SETTOT_MODETOT_TOTAL モジュール

モジュールの組み合わせは、SETTOT、MODETOT および TOTAL 機能から成ります。

- SETTOT : PROFIBUS マスタを介して積算計をコントロールします。
- MODETOT : PROFIBUS マスタを介して積算計を設定します。
- TOTAL : 積算計の値とステータスを PROFIBUS マスタに伝送します。

3つの積算計ブロックがあります (スロット 5~7)。

選択 : 積算計の設定

MODETOT 値	積算計の設定
0	バランス調整
1	正の流れのバランス調整
2	負の流れのバランス調整
3	積算の停止

初期設定

機能ブロック	初期設定 : MODETOT 値 (意味)
積算計 1、2、3	0 (バランス調整)

データ構造

SETTOT および MODETOT の出力データ

バイト 1	バイト 2
制御変数 1 : SETTOT	制御変数 2 : MODETOT

TOTAL の入力データ

バイト 1	バイト 2	バイト 3	バイト 4	バイト 5
測定値 : 浮動小数点数 (IEEE 754)				ステータス

AO モジュール (アナログ出力)

補償値を PROFIBUS マスタ (クラス 1) から機器に伝送します。

補償値 (ステータスを含む) は、AO モジュールを介して PROFIBUS マスタ (クラス 1) から機器に周期的に伝送されます。補償値は、最初の 4 バイトが IEEE 754 規格に準拠する浮動小数点数という形で表されます。第 5 バイトには、補償値に関する標準化されたステータス情報が含まれます。

2つのアナログ出力ブロックがあります (スロット 8~9)。

補償値の割当て

補償値は個別のアナログ出力ブロックに恒久的に割り当てられています。

機能ブロック	補償値
AO 1	外部温度 ¹⁾
AO 2	外部密度

1) 補償値は SI 基本単位で機器に送信する必要があります。

 次を使用して選択します : エキスパート → センサ → 外部補正

データ構造

アナログ出力の出力データ

バイト 1	バイト 2	バイト 3	バイト 4	バイト 5
測定値：浮動小数点数 (IEEE 754)				ステータス ¹⁾

1) ステータス符号化

DI モジュール（ディスクリート入力）

ディスクリート入力値を機器から PROFIBUS マスタ（クラス 1）に伝送します。機器はディスクリート入力値を使用して、機器機能のステータスを PROFIBUS マスタ（クラス 1）に伝送します。

DI モジュールはディスクリート入力値（ステータスを含む）を PROFIBUS マスタ（クラス 1）に周期的に伝送します。ディスクリート入力値は最初の 1 バイトで表されます。第 2 バイトには、入力値に関する標準化されたステータス情報が含まれます。

2 つのディスクリート入力ブロックがあります（スロット 10～11）。

選択：機器機能

機器機能	工場設定：ステータス（意味）
パイプ空検知	■ 0（機器機能がアクティブでない） ■ 1（機器機能がアクティブ）
ローフローカットオフ	
検証ステータス ¹⁾	■ ビット 0：検証ステータス - チェック未完了 ■ ビット 1：検証ステータス - エラー ■ ビット 2：検証ステータス - 進行中 ■ ビット 3：検証ステータス - 準備完了 ■ ビット 4：検証結果全体 - エラー ■ ビット 5：検証結果全体 - パス ■ ビット 6：検証結果全体 - チェック未完了 ■ ビット 7：未使用

1) Heartbeat 検証アプリケーションパッケージの場合のみ使用可能

工場設定

機能ブロック	工場設定
DI 1	パイプ空検知
DI 2	ローフローカットオフ

データ構造

ディスクリート入力の入力データ

バイト 1	バイト 2
ディスクリート	ステータス

DO モジュール（ディスクリート出力）

ディスクリート出力値を PROFIBUS マスタ（クラス 1）から機器に伝送します。PROFIBUS マスタ（クラス 1）はディスクリート出力値を使用して機器機能を有効/無効にします。

DO モジュールはディסקリット出力値（ステータスを含む）を機器に周期的に伝送します。ディスクリット出力値は最初の 1 バイトで表されます。第 2 バイトには、出力値に関する標準化されたステータス情報が含まれます。

5 つのディスクリット出力ブロックがあります（スロット 12～16）。

機器機能の割当て

機器機能は個別のディスクリット出力ブロックに恒久的に割り当てられています。

機能ブロック	機器機能	値：制御（意味）
DO 1	流量のオーバーライド	■ 0（機器機能の無効化） ■ 1（機器機能の有効化）
DO 2	検証の開始 ¹⁾	
DO 4 (I/O 2)	パルス/周波数/スイッチ 出力のリレー出力または スイッチ出力	■ 0（非導通） ■ 1（導通）
DO 5 (I/O 3)		
DO 6 (I/O 4)		

1) Heartbeat 検証アプリケーションパッケージの場合のみ使用可能

データ構造

ディスクリット出力の出力データ

バイト 1	バイト 2
ディスクリット	ステータス

EMPTY_MODULE モジュール

このモジュールは、スロットで使用されないモジュールによって生じる空きスペースを割り当てるために使用します。

本機器はモジュール式の PROFIBUS スレーブとして機能します。コンパクト型スレーブとは対照的に、モジュール式の PROFIBUS スレーブにはさまざまな構成があり、複数の個別のモジュールから成ります。GSD ファイルには、個別のモジュールの説明とその個別のプロパティが含まれています。

モジュールはスロットに恒久的に割り当てられています。モジュールを設定する場合は、モジュールの順序/配置を順守することが重要です。設定したモジュール間に隙間が生じた場合は、EMPTY_MODULE を割り当てる必要があります。

9.6 アドレスシフト設定

9.6.1 機能説明：

フィールド機器は、周期的な通信に加えて非周期的な通信サービスの利用も可能にします。これにより、オートメーションシステム（PLC）、中央エンジニアリングステーション、資産管理システムとフィールド機器間の非周期的なデータ交換が実現します。この通信モードは通常、フィールド機器を設定するために使用されます。この場合、通信レベルのアドレス設定は、スロットおよびインデックスの値ペア用の PROFIBUS によって実行されます。フィールド機器により、幅広いスロット値およびインデックス値でプロセスパラメータと設定パラメータが使用できるようになります。現在のところは、このように広いアドレス領域との通信を処理できない制御システムもあります。そのため、フィールド機器は「アドレスシフト設定」機能を使用して、パラメータをスロット 0 にミラーリングするオプションを提供します。あらゆる一般的なマスタでは、スロット 0 へのアクセスが許可されます。PLC では、フィールド機器のスロット 0 は通常、関連するフィールド機器の診断アドレスとなります。

9.6.2 構成

「アドレスシフト設定」機能では、スロット 0 に設定領域（インデックス 190～221）と割当てデータ領域（インデックス 230～245）の 2 つのアドレス領域が設定されます。設定領域で、管理するパラメータを設定します。

設定領域には、インデックス 190～221 が含まれ、最大 16 のパラメータを管理することが可能です。各パラメータに 2 つのインデックスが使用されます。

- 第 1 インデックスは、パラメータのスロット値用
- 第 2 インデックスは、パラメータのインデックス値用

データ領域には、スロット 0 のインデックス 230～245 が含まれ、設定領域に恒常的に割り当てられています。

設定領域		固定 割当て	データエリア	
スロ ット 0、 イン デッ クス	ユーザ－入力		スロ ット 0、 イン デッ クス	ユーザ－入力
190	パラメータ 1 のスロット値	→	230	パラメータ固有の選択のための 値
191	パラメータ 1 のインデックス値			
192	パラメータ 2 のスロット値	→	231	パラメータ固有の選択のための 値
193	パラメータ 2 のインデックス値			
194～219				
220	パラメータ 16 のスロット値	→	245	パラメータ固有の選択のための 値
221	パラメータ 16 のインデックス値			

9.6.3 アドレスシフト設定

設定時に、パラメータの固有の-slot値とインデックス値を設定領域に入力する必要があります。この領域には、16のパラメータに対して最大32の入力項目が含まれます。アドレスシフト設定は、読み取りおよび書き込みアクセスにより、浮動少数型および整数型パラメータに対応します。

アドレスシフトは、以下から設定できます。

- 現場表示器
- 設定ツール（例：FieldCare/DeviceCare）
- PROFIBUS マスタ

アドレスシフトは、メニュー エキスパート → 通信 → アドレスシフト設定で設定します。

例

設定領域		固定 割当て	データエリア	
スロット 0、 インデッ クス	入力 = パラメータ		スロット 0、 インデッ クス	
190	スロットシフト 1 パラメータ: 48	→	230	1349 = m ³ /h
191	インデックスシ フト 1 パラメー タ: 24			
192	スロットシフト 2 パラメータ: 48	→	231	1001 = °C
193	インデックスシ フト 2 パラメー タ: 7			
194～219				
220	スロットシフト 16 パラメータ: 54	→	245	9 = On
221	インデックスシ フト 16 パラメ ータ: 30			

入力値は、機器固有のslot/インデックス表から取り込まれます。以下の抜粋は、上記の例における体積流量単位および温度の単位の値を示しています。

説明	Slot	インデックス	データ型	サイズ [バイト]	レンジ
体積流量単位	48	24	Enum16	2	... 1348 : m ³ /min 1349 : m ³ /h 1350 : m ³ /d ...
温度の単位	48	7	Enum16	2	1001 : °C 1002 : °F 1000 : K 1003 : °R



「slot/インデックス表」の詳細については、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

9.6.4 PROFIBUS DP 経由のデータアクセス

PROFIBUS マスタは、スロット 0 のインデックス 230 ～ 245 を使用して、アドレスシフトデータ領域にアクセスします。たとえば、アドレスシフトを介して体積流量パラメータ用にスロット 48、インデックス 24 が入力されている場合、マスタはスロット 0 とインデックス 230 の現在の体積流量測定値を読み出すことができます。

データ型（整数/浮動小数）およびデータアクセス（読み取り/書き込み）は設定領域に入力されたパラメータに応じて異なります。入力したパラメータが読み取り/書き込みアクセスに対応している場合は、同様にデータ領域を介してパラメータに読み取り/書き込みアクセスすることが可能です。

10 設定

10.1 設置状況および配線状況の確認

機器の設定前：

▶ 設置状況の確認および配線状況の確認が正常に行われたか確認してください。

- 「設置状況の確認」チェックリスト → ㊦ 35
- 「配線状況の確認」のチェックリスト → ㊦ 64

10.2 機器の電源投入

- ▶ 設置状況の確認および配線状況の確認が正常に完了したら、機器の電源を入れます。
- ↳ スタートアップの終了後、現場表示器は自動的にスタートアップ表示から操作画面に切り替わります。

 現場表示器に何も表示されない、または診断メッセージが表示される場合は、「診断およびトラブルシューティング」セクションを参照してください → ㊦ 158。

10.3 FieldCare 経由の接続

- FieldCare → ㊦ 86 接続用
- FieldCare → ㊦ 90 を介した接続用
- FieldCare → ㊦ 90 のユーザーインターフェース用

10.4 ソフトウェアによる機器アドレスの設定

「通信」サブメニューで、機器のアドレスを設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 通信 → デバイスアドレス

10.4.1 PROFIBUS ネットワーク

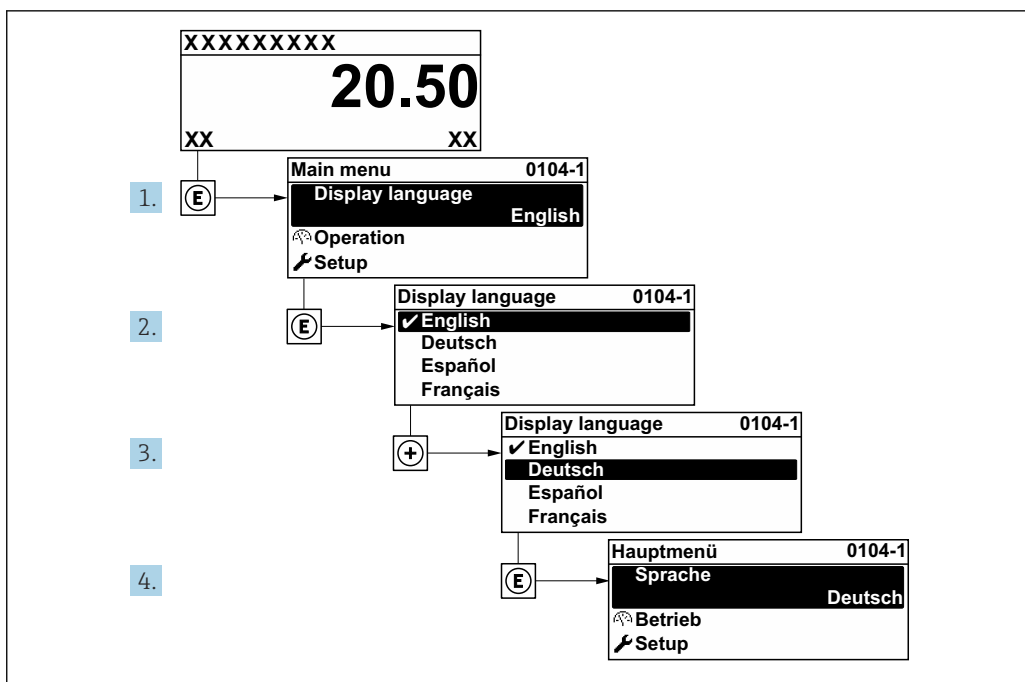
工場出荷時の機器は以下の初期設定となっています。

機器アドレス	126
--------	-----

-  ■ 現在の機器アドレスを表示するため：デバイスアドレス パラメータ → ㊦ 111
- ハードウェアアドレス指定が有効な場合、ソフトウェアアドレス指定はブロックされます → ㊦ 59。

10.5 操作言語の設定

初期設定：英語または注文した地域の言語

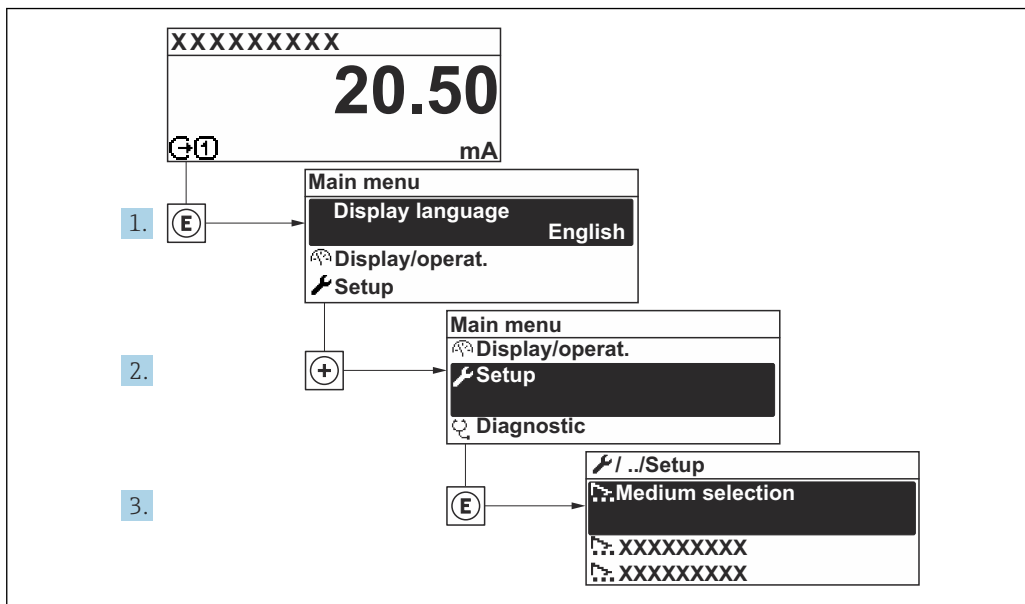


A0029420

図 32 現場表示器の表示例

10.6 計測機器の設定

設定 メニュー（ガイド付きウィザードあり）には、通常運転に必要なパラメータがすべて含まれています。



A0032222-JA

図 33 現場表示器を使用した「設定」メニューへのナビゲーション（例）

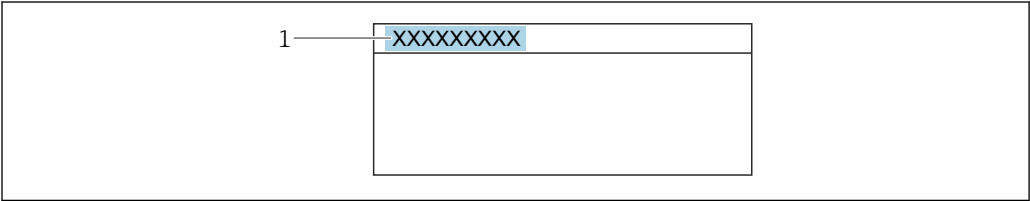
i サブメニューおよびパラメータの数は機器バージョンに応じて異なります。これらのサブメニューの一部のサブメニューおよびパラメータは取扱説明書に記載されていません。その代わりに機器の個別説明書に説明があります（「補足資料」セクションを参照）。

ナビゲーション
「設定」メニュー

🔧 設定		
デバイスのタグ		→ 109
▶ システムの単位		→ 109
▶ 通信		→ 111
▶ Analog inputs		→ 112
▶ I/O 設定		→ 112
▶ 電流入力 1～n		→ 113
▶ ステータス入力 1～n		→ 114
▶ 電流出力 1～n		→ 115
▶ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n		→ 118
▶ リレー出力 1～n		→ 124
▶ 表示		→ 126
▶ ローフローカットオフ		→ 127
▶ 空検知		→ 129
▶ 高度な設定		→ 130

10.6.1 タグ名の設定

システム内で測定点を迅速に識別するために、**デバイスのタグ** パラメータを使用して一意の名称を入力し、工場設定を変更することができます。



A0029422

図 34 タグ番号を含む操作画面表示のヘッダー

1 タグ番号

 タグ番号を「FieldCare」操作ツールで入力します。→ 90

ナビゲーション
「設定」メニュー→デバイスのタグ

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザー入力
デバイスのタグ	測定ポイントの名称を入力。	最大 32 文字（英字、数字、または特殊文字（例：@, %, /）など）

10.6.2 システムの単位の設定

システムの単位 サブメニュー で、すべての測定値の単位を設定できます。

 サブメニューおよびパラメータの数は機器バージョンに応じて異なります。これらのサブメニューの一部のサブメニューおよびパラメータは取扱説明書に記載されていません。その代わりに機器の個別説明書に説明があります（「補足資料」セクションを参照）。

ナビゲーション
「設定」メニュー→システムの単位

▶ システムの単位		
体積流量単位	→	 110
体積単位	→	 110
導電率の単位	→	 110
温度の単位	→	 110
質量流量単位	→	 110
質量単位	→	 110
密度単位	→	 110
基準体積流量単位	→	 110
基準体積単位	→	 110

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択	工場出荷時設定
体積流量単位	–	体積流量の単位を選択。 結果 選択した単位は以下に適用されます。 ■ 出力 ■ ローフローカットオフ ■ シミュレーションするプロセス変数	単位の選択リスト	国に応じて異なります。 ■ l/h ■ gal/min (us)
体積単位	–	体積の単位を選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります。 ■ m ³ ■ gal (us)
導電率の単位	導電率測定 パラメータで オン オプションが選択されていること。	導電率の単位を選択。 結果 選択した単位は以下に適用されます。 シミュレーションするプロセス変数	単位の選択リスト	–
温度の単位	–	温度の単位を選択。 結果 選択した単位は以下に適用されます。 ■ 温度 パラメータ ■ 最大値 パラメータ ■ 最小値 パラメータ ■ 外部温度 パラメータ ■ 最大値 パラメータ ■ 最小値 パラメータ	単位の選択リスト	国に応じて異なります。 ■ °C ■ °F
質量流量単位	–	質量流量の単位を選択。 結果 選択した単位は以下に適用されます。 ■ 出力 ■ ローフローカットオフ ■ シミュレーションするプロセス変数	単位の選択リスト	国に応じて異なります。 ■ kg/h ■ lb/min
質量単位	–	質量の単位を選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります。 ■ kg ■ lb
密度単位	–	密度単位を選択。 結果 選択した単位は以下に適用されます。 ■ 出力 ■ シミュレーションするプロセス変数	単位の選択リスト	国に応じて異なります。 ■ kg/l ■ lb/ft ³
基準体積流量単位	–	基準体積流量の単位を選択。 結果 選択した単位は以下に適用されます。 基準体積流量 パラメータ (→ 149)	単位の選択リスト	国に応じて異なります。 ■ NI/h ■ Sft ³ /h
基準体積単位	–	基準体積の単位を選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります。 ■ Nm ³ ■ Sft ³

10.6.3 通信インターフェイス設定

通信 サブメニュー を使用すると、通信インターフェイスの選択および設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」 メニュー → 通信

▶ 通信

デバイスアドレス

→ ⓘ 111

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザー入力
デバイスアドレス	機器アドレスの入力。	0～126

10.6.4 アナログ入力の設定

Analog inputs サブメニュー を使用すると、個々の **Analog input 1～n** サブメニュー を体系的に設定できます。ここから、個別のアナログ入力のパラメータに移動できます。

ナビゲーション

「設定」 メニュー → Analog inputs

▶ Analog inputs

▶ Analog input 1～n

Channel

→ ⓘ 112

PV filter time

→ ⓘ 112

Fail safe type

→ ⓘ 112

Fail-safe value

→ ⓘ 112

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力
Channel	–	プロセス変数を選択します。	■ 体積流量 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 流速 ■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 温度 ■ 電気部内温度 ■ 電流入力 1 * ■ 電流入力 2 * ■ 電流入力 3 *
PV filter time	–	信号ピークを抑制する時間を設定します。設定された時間の間、アナログ入力はプロセス変数の一貫性のない増加に対して反応しません。	正の浮動小数点数
Fail safe type	–	フェールセーフモードを選択します。	■ Fail-safe value ■ Fallback value ■ Off
Fail-safe value	Fail safe type パラメータで Fail-safe value オプションが選択されていること。	エラー発生時の出力値を設定します。	符号付き浮動小数点数

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.6.5 I/O 設定の表示

I/O 設定 サブメニューを使用すると、I/O モジュールの設定が表示されるすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」 メニュー → I/O 設定

▶ I/O 設定		
I/O モジュール 1～n の端子番号		→ 113
I/O モジュール 1～n の情報		→ 113
I/O モジュール 1～n のタイプ		→ 113
I/O の設定を適用		→ 113
コンバージョンコード		→ 113

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス / 選択 / ユーザー入力
I/O モジュール 1～n の端子番号	I/O モジュールが使用している端子番号を表示。	■ 未使用 ■ 26-27 (I/O 1) ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3) ■ 20-21 (I/O 4) *
I/O モジュール 1～n の情報	接続された I/O モジュールの情報を表示。	■ 接続されていない ■ 無効 ■ 設定不可 ■ 設定可能 ■ Profibus DP
I/O モジュール 1～n のタイプ	I/O モジュールのタイプを表示。	■ オフ ■ 電流出力 ■ 電流入力 ■ ステータス入力 ■ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え ■ ダブルパルス出力 ■ リレー出力
I/O の設定を適用	自由に構成できる I/O モジュールの設定を適用する。	■ いいえ ■ はい
コンバージョンコード	I/O 構成を変更するためにコードを入力。	正の整数

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.6.6 電流入力の設定

「電流入力」ウィザードを使用すると、電流入力の設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」 メニュー → 電流入力

▶ 電流入力 1～n		
端子番号		→ 114

信号モード	→ ⓘ 114
0/4mA の値	→ ⓘ 114
20mA の値	→ ⓘ 114
電流スパン	→ ⓘ 114
フェールセーフモード	→ ⓘ 114
フェールセーフの値	→ ⓘ 114

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス / 選択 / ユーザー入力	工場出荷時設定
端子番号	-	電流入力モジュールが使用している端子番号を表示。	■ 未使用 ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3) * ■ 20-21 (I/O 4) *	-
信号モード	本機器は保護タイプ Ex-i の危険場所で使用するための認定を 取得していません 。	電流入力の信号モードを選択。	■ パッシブ ■ アクティブ	アクティブ
0/4mA の値	-	4 mA の値を入力。	符号付き浮動小数点数	-
20mA の値	-	20 mA の値を入力。	符号付き浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります。
電流スパン	-	プロセス値出力の電流範囲とアラーム信号の上限/下限レベルを選択。	■ 4...20 mA ■ 4...20 mA NAMUR ■ 4...20 mA US ■ 0...20 mA	国に応じて異なります： ■ 4...20 mA NAMUR ■ 4...20 mA US
フェールセーフモード	-	アラーム状態の時の入力値を定義します。	■ アラーム ■ 最後の有効値 ■ 決めた値	-
フェールセーフの値	フェールセーフモード パラメータで 決めた値 オプションが選択されていること。	外部機器からの入力値がない場合に使用する値を入力してください。	符号付き浮動小数点数	-

* 表示はオーダーしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.6.7 ステータス入力の設定

ステータス入力 サブメニューを使用すると、ステータス入力の設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」 メニュー → ステータス入力 1～n

▶ ステータス入力 1～n	
ステータス入力の割り当て	→ ⓘ 115

端子番号	→ 115
アクティブレベル	→ 115
端子番号	→ 115
ステータス入力の応答時間	→ 115
端子番号	→ 115

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力
ステータス入力の割り当て	ステータス入力に割り当てる機能を選択してください。	■ オフ ■ 積算計 1 のリセット ■ 積算計 2 のリセット ■ 積算計 3 のリセット ■ すべての積算計をリセット ■ 流量の強制ゼロ出力
端子番号	ステータス入力モジュールが使用している端子番号を表示。	■ 未使用 ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3) ■ 20-21 (I/O 4) *
アクティブレベル	指定した機能がトリガされる入力信号のレベルを定義してください。	■ ハイ ■ ロー
ステータス入力の応答時間	選択した機能をトリガするまでに入力信号のレベルが維持されなければならない時間を定義。	5~200 ms

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.6.8 電流出力の設定

電流出力 ウィザードを使用すると、電流出力の設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 電流出力

▶ 電流出力 1~n	
端子番号	→ 116
信号モード	→ 116
電流出力 1~n の割り当て	→ 116
電流スパン	→ 116
0/4mA の値	→ 116
20mA の値	→ 116

固定電流値	→ 116
出力 1～n のダンピング	→ 117
フェールセーフモード	→ 117
故障時の電流値	→ 117

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス/選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
端子番号	–	電流出力モジュールが使用している端子番号の表示。	■ 未使用 ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3) ■ 20-21 (I/O 4) *	–
信号モード	–	電流出力の信号モードを選択。	■ パッシブ ■ アクティブ	アクティブ
電流出力 1～n の割り当て	–	電流出力に割り当てるプロセス変数を選択。	■ オフ ■ 体積流量 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 流速 ■ 導電率 ■ 補正後の導電率 * ■ 温度 * ■ 電気部内温度	–
電流スパン	–	プロセス値出力の電流範囲とアラーム信号の上限/下限レベルを選択。	■ 4...20 mA NAMUR ■ 4...20 mA US ■ 4...20 mA ■ 0...20 mA ■ 固定電流値	国に応じて異なります。 ■ 4...20 mA NAMUR ■ 4...20 mA US
0/4mA の値	電流スパン パラメータ (→ 116) で、以下のいずれかの選択項目が選択されていること。 ■ 4...20 mA NAMUR ■ 4...20 mA US ■ 4...20 mA ■ 0...20 mA	4 mA の値を入力。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります。 ■ 0 l/h ■ 0 gal/min (米国)
20mA の値	電流スパン パラメータ (→ 116) で、以下のいずれかの選択項目が選択されていること。 ■ 4...20 mA NAMUR ■ 4...20 mA US ■ 4...20 mA ■ 0...20 mA	20 mA の値を入力。	符号付き浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります。
固定電流値	電流スパン パラメータ (→ 116) で 固定電流値 オプションが選択されていること。	電流出力固定値の設定。	0～22.5 mA	22.5 mA

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス/選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
出力 1～n のダンピング	電流出力 の割り当て パラメータ (→ 𐀀 116) でプロセス変数が選択されており、 電流スパン パラメータ (→ 𐀀 116) で、以下の選択項目のいずれかが選択されていること。 ■ 4...20 mA NAMUR ■ 4...20 mA US ■ 4...20 mA ■ 0...20 mA	測定値の変動に対する電流出力信号の応答時間を設定。	0.0～999.9 秒	–
フェールセーフモード	電流出力 の割り当て パラメータ (→ 𐀀 116) でプロセス変数が選択されており、 電流スパン パラメータ (→ 𐀀 116) で、以下の選択項目のいずれかが選択されていること。 ■ 4...20 mA NAMUR ■ 4...20 mA US ■ 4...20 mA ■ 0...20 mA	アラーム状態の時の出力動作の定義。	■ 最少 ■ 最大 ■ 最後の有効値 ■ 実際の値 ■ 決めた値	–
故障時の電流値	フェールセーフモード パラメータで 決めた値 オプションが選択されていること。	アラーム状態の電流出力値を設定。	0～22.5 mA	22.5 mA

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.6.9 パルス/周波数/スイッチ出力の設定

パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え ウィザードを使用すると、選択した出力タイプの設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」 メニュー → 高度な設定 → パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え

▶ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n

動作モード

→ 118

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択
動作モード	出力をパルス、周波数またはスイッチ出力として定義。	■ パルス ■ 周波数 ■ スイッチ出力

パルス出力の設定

ナビゲーション

「設定」 メニュー → パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え

▶ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n

動作モード

→ 119

端子番号

→ 119

信号モード

→ 119

パルス出力 の割り当て

→ 119

パルスの値

→ 119

パルス幅

→ 119

フェールセーフモード

→ 119

出力信号の反転

→ 119

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
動作モード	–	出力をパルス、周波数またはスイッチ出力として定義。	■ パルス ■ 周波数 ■ スイッチ出力	–
端子番号	–	PFS (パルス/周波数/ステータス)出力モジュールが使用している端子番号を表示。	■ 未使用 ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3) ■ 20-21 (I/O 4) *	–
信号モード	–	PFS 出力のために信号モードを選択して下さい。	■ パッシブ ■ アクティブ	–
パルス出力 1～n の割り当て	動作モード パラメータで パルス オプションが選択されていること。	パルス出力するプロセス変数の選択。	■ オフ ■ 体積流量 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量	–
パルスの値	動作モード パラメータ (→ 図 118)で パルス オプションが選択されており、 パルス出力の割り当て パラメータ (→ 図 119)でプロセス変数が選択されていること。	パルス出力する測定値の入力 (パルス値)。	正の浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります。
パルス幅	動作モード パラメータ (→ 図 118)で パルス オプションが選択されており、 パルス出力の割り当て パラメータ (→ 図 119)でプロセス変数が選択されていること。	パルス出力のパルス幅を定義。	0.05～2 000 ms	–
フェールセーフモード	動作モード パラメータ (→ 図 118)で パルス オプションが選択されており、 パルス出力の割り当て パラメータ (→ 図 119)でプロセス変数が選択されていること。	アラーム状態の時の出力動作の定義。	■ 実際の値 ■ パルスなし	–
出力信号の反転	–	出力信号の反転。	■ いいえ ■ はい	–

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

周波数出力の設定

ナビゲーション

「設定」 メニュー → パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え

▶ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n

動作モード

→ 図 120

端子番号

→ 図 120

信号モード

→ 図 120

周波数出力割り当て

→ 図 120

周波数の最小値	→ 120
周波数の最大値	→ 120
最小周波数の時測定する値	→ 120
最大周波数の時の値	→ 121
フェールセーフモード	→ 121
フェール時の周波数	→ 121
出力信号の反転	→ 121

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
動作モード	–	出力をパルス、周波数またはスイッチ出力として定義。	■ パルス ■ 周波数 ■ スイッチ出力	–
端子番号	–	PFS (パルス/周波数/ステータス)出力モジュールが使用している端子番号を表示。	■ 未使用 ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3) ■ 20-21 (I/O 4) *	–
信号モード	–	PFS 出力のために信号モードを選択して下さい。	■ パッシブ ■ アクティブ	–
周波数出力割り当て	動作モード パラメータ (→ 118)で 周波数 オプションが選択されていること。	周波数出力するプロセス変数の選択。	■ オフ ■ 体積流量 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 流速 ■ 導電率 * ■ 補正後の導電率 * ■ 温度 * ■ 電気部内温度	–
周波数の最小値	動作モード パラメータ (→ 118)で 周波数 オプションが選択されており、 周波数出力割り当て パラメータ (→ 120)でプロセス変数が選択されていること。	最小周波数を入力。	0.0～10000.0 Hz	–
周波数の最大値	動作モード パラメータ (→ 118)で 周波数 オプションが選択されており、 周波数出力割り当て パラメータ (→ 120)でプロセス変数が選択されていること。	最大周波数を入力。	0.0～10000.0 Hz	–
最小周波数の時測定する値	動作モード パラメータ (→ 118)で 周波数 オプションが選択されており、 周波数出力割り当て パラメータ (→ 120)でプロセス変数が選択されていること。	最小周波数に対する測定値を入力。	符号付き浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります。

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
最大周波数の時の値	動作モード パラメータ (→ ④ 118)で 周波数 オプションが選択されており、 周波数出力割り当て パラメータ (→ ④ 120)でプロセス変数が選択されていること。	最大周波数に対する測定値を入力。	符号付き浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります。
フェールセーフモード	動作モード パラメータ (→ ④ 118)で 周波数 オプションが選択されており、 周波数出力割り当て パラメータ (→ ④ 120)でプロセス変数が選択されていること。	アラーム状態の時の出力動作の定義。	■ 実際の値 ■ 決めた値 ■ 0 Hz	–
フェール時の周波数	動作モード パラメータ (→ ④ 118)で 周波数 オプションが選択されていること、 周波数出力割り当て パラメータ (→ ④ 120)でプロセス変数が選択されていること、および フェールセーフモード パラメータで 決めた値 オプションが選択されていること。	アラーム状態の時の周波数出力の値を入力。	0.0～12 500.0 Hz	–
出力信号の反転	–	出力信号の反転。	■ いいえ ■ はい	–

* 表示はオーダーしたオプションや機器のセッティングにより異なります

スイッチ出力の設定

ナビゲーション

「設定」メニュー → パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え

▶ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n		
動作モード		→ 122
端子番号		→ 122
信号モード		→ 122
スイッチ出力機能		→ 123
診断動作の割り当て		→ 123
リミットの割り当て		→ 123
流れ方向チェックの割り当て		→ 123
ステータスの割り当て		→ 123
スイッチオンの値		→ 123
スイッチオフの値		→ 123
スイッチオンの遅延		→ 123
スイッチオフの遅延		→ 123
フェールセーフモード		→ 124
出力信号の反転		→ 124

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
動作モード	-	出力をパルス、周波数またはスイッチ出力として定義。	■ パルス ■ 周波数 ■ スイッチ出力	-
端子番号	-	PFS (パルス/周波数/ステータス)出力モジュールが使用している端子番号を表示。	■ 未使用 ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3) ■ 20-21 (I/O 4) *	-
信号モード	-	PFS 出力のために信号モードを選択して下さい。	■ パッシブ ■ アクティブ	-

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
スイッチ出力機能	動作モード パラメータで スイッチ出力 オプションが選択されていること。	スイッチ出力の機能を選択。	■ オフ ■ オン ■ 診断動作 ■ リミット ■ 流れ方向チェック ■ ステータス	–
診断動作の割り当て	■ 動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。 ■ スイッチ出力機能 パラメータで診断動作 オプションが選択されていること。	スイッチ出力の診断動作を選択。	■ アラーム ■ アラーム + 警告 ■ 警告	–
リミットの割り当て	■ 動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。 ■ スイッチ出力機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	リミット機能のためのプロセス変数の選択。	■ オフ ■ 体積流量 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 流速 ■ 導電率* ■ 補正後の導電率* ■ 積算計 1 ■ 積算計 2 ■ 積算計 3 ■ 温度* ■ 電気部内温度	–
流れ方向チェックの割り当て	■ 動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。 ■ スイッチ出力機能 パラメータで流れ方向チェック オプションが選択されていること。	流れ方向の監視のためのプロセス変数を選択。		–
ステータスの割り当て	■ 動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。 ■ スイッチ出力機能 パラメータでステータス オプションが選択されていること。	スイッチ出力するデバイスステータスの選択。	■ 非満管の検出 ■ ローフローカット オフ ■ デジタル出力 3 ■ デジタル出力 4 ■ デジタル出力 5	–
スイッチオンの値	■ 動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。 ■ スイッチ出力機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	スイッチオンポイントの測定値を入力します。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります。 ■ 0 l/h ■ 0 gal/min (米国)
スイッチオフの値	■ 動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。 ■ スイッチ出力機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	スイッチオフポイントの測定値を入力します。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります。 ■ 0 l/h ■ 0 gal/min (米国)
スイッチオンの遅延	■ 動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。 ■ スイッチ出力機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	ステータス出力をスイッチオンする遅延時間を定義。	0.0～100.0 秒	–
スイッチオフの遅延	■ 動作モード パラメータでスイッチ出力 オプションが選択されていること。 ■ スイッチ出力機能 パラメータでリミット オプションが選択されていること。	ステータス出力をスイッチオフする遅延時間を定義。	0.0～100.0 秒	–

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
フェールセーフモード	-	アラーム状態の時の出力動作の定義。	■ 実際のステータス ■ オープン ■ クローズ	-
出力信号の反転	-	出力信号の反転。	■ いいえ ■ はい	-

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.6.10 リレー出力の設定

リレー出力ウィザードを使用すると、リレー出力の設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → リレー出力 1～n

▶ リレー出力 1～n

端子番号

→ 125

リレーの機能

→ 125

流れ方向チェックの割り当て

→ 125

リミットの割り当て

→ 125

診断動作の割り当て

→ 125

ステータスの割り当て

→ 125

スイッチオフの値

→ 125

スイッチオフの遅延

→ 125

スイッチオンの値

→ 125

スイッチオンの遅延

→ 125

フェールセーフモード

→ 125

スイッチの状態

→ 125

電源オフの時のリレーの状態

→ 125

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス / 選択 / ユーザー入力	工場出荷時設定
端子番号	–	リレー出力モジュールが使用している端子番号を表示。	■ 未使用 ■ 24-25 (I/O 2) ■ 22-23 (I/O 3) ■ 20-21 (I/O 4)	–
リレーの機能	–	リレー出力の機能を選択。	■ クローズ ■ オープン ■ 診断動作 ■ リミット ■ 流れ方向チェック ■ デジタル出力	–
流れ方向チェックの割り当て	リレーの機能 パラメータで 流れ方向チェック オプションが選択されていること。	流れ方向の監視のためのプロセス変数を選択。		–
リミットの割り当て	リレーの機能 パラメータで リミット オプションが選択されていること。	リミット機能のためのプロセス変数の選択。	■ オフ ■ 体積流量 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 流速 ■ 導電率* ■ 補正後の導電率* ■ 積算計 1 ■ 積算計 2 ■ 積算計 3 ■ 温度* ■ 電気部内温度	–
診断動作の割り当て	リレーの機能 パラメータで 診断動作 オプションが選択されていること。	スイッチ出力の診断動作を選択。	■ アラーム ■ アラーム + 警告 ■ 警告	–
ステータスの割り当て	リレーの機能 パラメータで デジタル出力 オプションが選択されていること。	スイッチ出力するデバイスステータスの選択。	■ 非満管の検出 ■ ローフローカット ■ オフ ■ デジタル出力 3 ■ デジタル出力 4 ■ デジタル出力 5	–
スイッチオフの値	リレーの機能 パラメータで リミット オプションが選択されていること。	スイッチオフポイントの測定値を入力します。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります。 ■ 0 l/h ■ 0 gal(us)/min
スイッチオフの遅延	リレーの機能 パラメータで リミット オプションが選択されていること。	ステータス出力をスイッチオフする遅延時間を定義。	0.0～100.0 秒	–
スイッチオンの値	リレーの機能 パラメータで リミット オプションが選択されていること。	スイッチオンポイントの測定値を入力します。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります。 ■ 0 l/h ■ 0 gal(us)/min
スイッチオンの遅延	リレーの機能 パラメータで リミット オプションが選択されていること。	ステータス出力をスイッチオンする遅延時間を定義。	0.0～100.0 秒	–
フェールセーフモード	–	アラーム状態の時の出力動作の定義。	■ 実際のステータス ■ オープン ■ クローズ	–
スイッチの状態	–	現在のリレーのスイッチ状態を表示。	■ オープン ■ クローズ	–
電源オフの時のリレーの状態	–		■ オープン ■ クローズ	–

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.6.11 現場表示器の設定

表示 ウィザードを使用すると、現場表示器の設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション
「設定」メニュー → 表示

▶ 表示

表示形式

→ ⓘ 126

1 の値表示

→ ⓘ 126

バーグラフ 0%の値 1

→ ⓘ 127

バーグラフ 100%の値 1

→ ⓘ 127

2 の値表示

→ ⓘ 127

3 の値表示

→ ⓘ 127

バーグラフ 0%の値 3

→ ⓘ 127

バーグラフ 100%の値 3

→ ⓘ 127

4 の値表示

→ ⓘ 127

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
表示形式	現場表示器があること。	測定値のディスプレイへの表示方法を選択。	■ 1つの値、最大サイズ ■ 1つの値 + バーグラフ ■ 2つの値 ■ 1つの値はサイズ大 + 2つの値 ■ 4つの値	–
1 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	■ 体積流量 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 流速 ■ 補正後の導電率[*] ■ 積算計 1 ■ 積算計 2 ■ 積算計 3 ■ 電流出力 1 ■ 電流出力 2[*] ■ 電流出力 3[*] ■ 電流出力 4[*] ■ 温度[*] ■ 電気部内温度	–

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
バーグラフ 0%の値 1	現場表示器があること。	バーグラフ 0% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります。 ■ 0 l/h ■ 0 gal/min (us)
バーグラフ 100%の値 1	現場表示器があること。	バーグラフ 100% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります
2 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 126) を参照してください。	-
3 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 126) を参照してください。	-
バーグラフ 0%の値 3	3 の値表示 パラメータで測定値が選択されていること。	バーグラフ 0% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります。 ■ 0 l/h ■ 0 gal/min (us)
バーグラフ 100%の値 3	3 の値表示 パラメータで選択していること。	バーグラフ 100% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	-
4 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 126) を参照してください。	-
5 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 126) を参照してください。	-
6 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 126) を参照してください。	-
7 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 126) を参照してください。	-
8 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 126) を参照してください。	-

* 表示はオーダーしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.6.12 ローフローカットオフの設定

ローフローカットオフ ウィザードを使用すると、ローフローカットオフの設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」 メニュー → ローフローカットオフ

▶ ローフローカットオフ	
プロセス変数の割り当て	→ 128
ローフローカットオフ オンの値	→ 128

ローフローカットオフ オフの値	→ 128
プレッシャショックの排除	→ 128

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
プロセス変数の割り当て	-	ロー フロー カット オフに割り当てるプロセス変数を選択。	■ オフ ■ 体積流量 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量	-
ローフローカットオフ オンの値	プロセス変数の割り当て パラメータ (→ 128)でプロセス変数が選択されていること。	ロー フロー カット オフがオンになる値を入力。	正の浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります。
ローフローカットオフ オフの値	プロセス変数の割り当て パラメータ (→ 128)で、プロセス変数が選択されていること。	ロー フロー カット オフをオフにする値を入力。	0~100.0 %	-
プレッシャショックの排除	プロセス変数の割り当て パラメータ (→ 128)で、プロセス変数が選択されていること。	大きな圧力変動時の信号抑制 (= プレッシャショックさプレス) の期間を入力。	0~100 秒	-

10.6.13 空検知の設定

-  ■ 工場では水（導電率：約 500 µS/cm）を使用して計測機器が校正されています。これよりも導電率の低い液体を使用する場合は、現場で新たに満管調整を実施することをお勧めします。
- 長さ 50 m 以上のケーブルを使用する場合は、現場で新たに空パイプ調整を実施することをお勧めします。

空検知 サブメニューには、空検知の設定に関して設定しなければならないパラメータが含まれています。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 空検知

▶ 空検知		
空検知		→ 129
新規調整		→ 129
進行中		→ 129
空検知の検出ポイント		→ 129
空検知の応答時間		→ 129

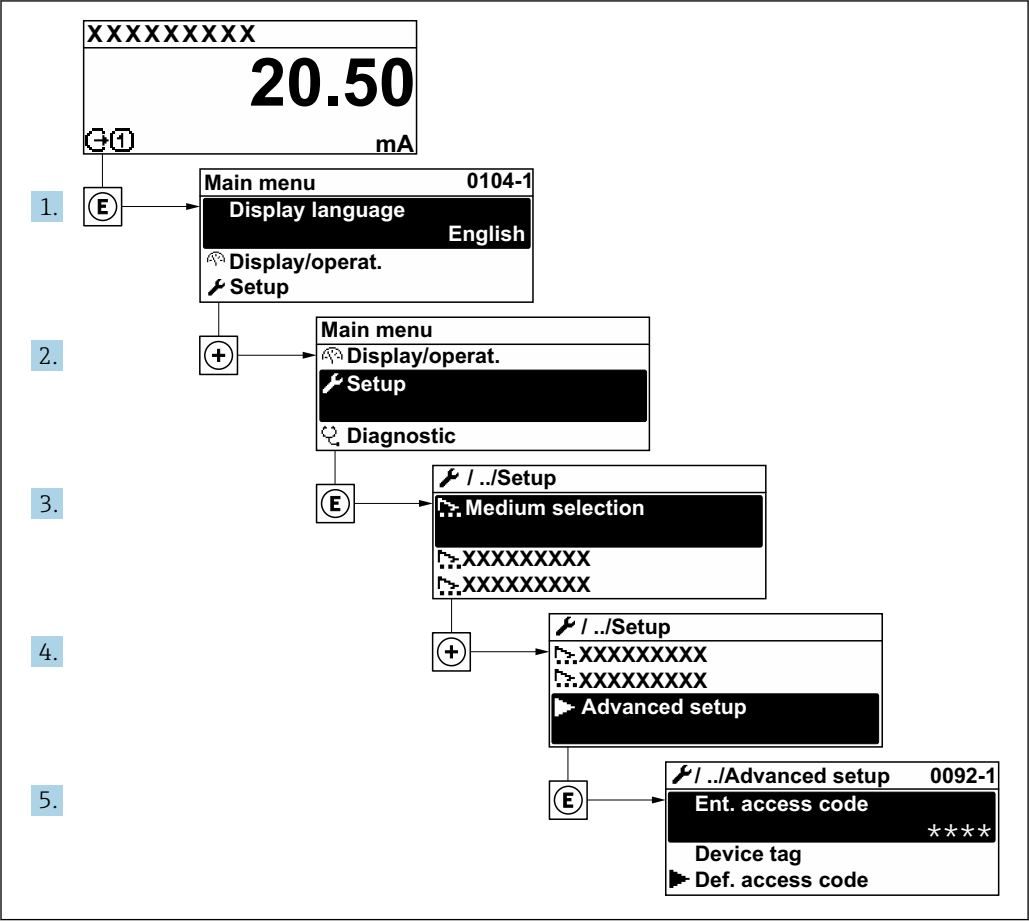
パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザーインターフェイス/ユーザー入力	工場出荷時設定
空検知	–	空検知のオンとオフの切り替え。	■ オフ ■ オン	–
新規調整	空検知 パラメータで オン オプションが選択されていること。	調整の種類を選択。	■ キャンセル ■ 空検知調整 ■ 満管調整	–
進行中	空検知 パラメータで オン オプションが選択されていること。	進捗を表示。	■ Ok ■ 進行中 ■ 不可	–
空検知の検出ポイント	空検知 パラメータで オン オプションが選択されていること。	ヒステリシスの値を%で入力します。この値以下では計測管は空と検出されます。	0～100 %	–
空検知の応答時間	プロセス変数の割り当て パラメータ (→ 129) で、プロセス変数が選択されていること。	この機能を使用して、測定管が非満管または空の場合に診断メッセージ S962 「空パイプ」を出力するまでの信号の最小継続時間（待機時間）を入力します。	0～100 秒	–

10.7 高度な設定

高度な設定 サブメニューとそのサブメニューには、特定の設定に必要なパラメータが含まれています。

「高度な設定」 サブメニューへのナビゲーション



i サブメニューおよびパラメータの数は機器バージョンに応じて異なります。これらのサブメニューの一部のサブメニューおよびパラメータは取扱説明書に記載されていません。その代わりに機器の個別説明書に説明があります（「補足資料」セクションを参照）。

ナビゲーション

「設定」 メニュー → 高度な設定

▶ 高度な設定	
アクセスコード入力	
▶ センサの調整	→ 131
▶ 積算計 1～n	→ 131
▶ 表示	→ 133

▶ 電極洗浄回路	→ 135
▶ WLAN 設定	→ 136
▶ Heartbeat 設定	
▶ 設定のバックアップ	→ 138
▶ 管理	→ 140

10.7.1 センサの調整の実施

センサの調整 サブメニューには、センサの機能に関するパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → センサの調整

▶ センサの調整	
設置方向	→ 131

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択
設置方向	センサ上の矢印の方向と一致する流れ方向の符号を設定。	■ 矢印方向の流れ ■ 矢印の反対方向の流れ

10.7.2 積算計の設定

「積算計 1～n」サブメニューで、特定の積算計を設定することができます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → 積算計 1～n

▶ 積算計 1～n	
プロセス変数の割り当て	→ 132
積算計の単位	→ 132
積算計動作モード	→ 132
積算計 1～n のコントロール	→ 132
フェールセーフモード	→ 132

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択	工場出荷時設定
プロセス変数の割り当て	積算計のプロセス変数を選択。	■ 体積流量 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量	–
積算計の単位	積算計のプロセス変数の単位を選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります： ■ m³ ■ ft³
積算計 1～n のコントロール	積算計の値を制御します。	■ 積算開始 ■ リセット + ホールド ■ プリセット + ホールド	–
積算計動作モード	積算計の計算モードの選択。	■ 正味流量の積算 ■ 正方向流量の積算 ■ 逆方向流量の積算 ■ 最後の有効値	–
フェールセーフモード	機器アラームが発生した場合の積算計の挙動を設定します。	■ 停止 ■ 実際の値 ■ 最後の有効値	–

10.7.3 表示の追加設定

表示 サブメニューを使用して、現場表示器の設定に関するすべてのパラメータを設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → 表示

▶ 表示		
表示形式	→	📖 134
1 の値表示	→	📖 134
バーグラフ 0%の値 1	→	📖 134
バーグラフ 100%の値 1	→	📖 134
小数点桁数 1	→	📖 134
2 の値表示	→	📖 134
小数点桁数 2	→	📖 134
3 の値表示	→	📖 134
バーグラフ 0%の値 3	→	📖 134
バーグラフ 100%の値 3	→	📖 134
小数点桁数 3	→	📖 134
4 の値表示	→	📖 135
小数点桁数 4	→	📖 135
Display language	→	📖 135
表示間隔	→	📖 135
表示のダンピング	→	📖 135
ヘッダー	→	📖 135
ヘッダーテキスト	→	📖 135
区切り記号	→	📖 135
バックライト	→	📖 135

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択 / ユーザー入力	工場出荷時設定
表示形式	現場表示器があること。	測定値のディスプレイへの表示方法を選択。	■ 1つの値、最大サイズ ■ 1つの値 + バーグラフ ■ 2つの値 ■ 1つの値はサイズ大 + 2つの値 ■ 4つの値	–
1 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	■ 体積流量 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 流速 ■ 補正後の導電率* ■ 積算計 1 ■ 積算計 2 ■ 積算計 3 ■ 電流出力 1 ■ 電流出力 2* ■ 電流出力 3* ■ 電流出力 4* ■ 温度* ■ 電気部内温度	–
バーグラフ 0%の値 1	現場表示器があること。	バーグラフ 0% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります。 ■ 0 l/h ■ 0 gal/min (us)
バーグラフ 100%の値 1	現場表示器があること。	バーグラフ 100% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	国および呼び口径に応じて異なります
小数点桁数 1	1 の値表示 パラメータで測定値が設定されていること。	表示値の小数点以下の桁数を選択。	■ x ■ x.x ■ x.xx ■ x.xxx ■ x.xxxx	–
2 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 126) を参照してください。	–
小数点桁数 2	2 の値表示 パラメータで測定値が設定されていること。	表示値の小数点以下の桁数を選択。	■ x ■ x.x ■ x.xx ■ x.xxx ■ x.xxxx	–
3 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 126) を参照してください。	–
バーグラフ 0%の値 3	3 の値表示 パラメータで測定値が選択されていること。	バーグラフ 0% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります。 ■ 0 l/h ■ 0 gal/min (us)
バーグラフ 100%の値 3	3 の値表示 パラメータで選択していること。	バーグラフ 100% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	–
小数点桁数 3	3 の値表示 パラメータで測定値が設定されていること。	表示値の小数点以下の桁数を選択。	■ x ■ x.x ■ x.xx ■ x.xxx ■ x.xxxx	–

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
4 の値表示	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	選択リストについては、 1 の値表示 パラメータ (→ 126) を参照してください。	–
小数点桁数 4	4 の値表示 パラメータで測定値が設定されていること。	表示値の小数点以下の桁数を選択。	■ x ■ x.x ■ x.xx ■ x.xxx ■ x.xxxx	–
Display language	現場表示器があること。	表示言語を設定。	■ English ■ Deutsch * ■ Français * ■ Español * ■ Italiano * ■ Nederlands * ■ Portuguesa * ■ Polski * ■ русский язык (Russian) * ■ Svenska * ■ Türkçe * ■ 中文 (Chinese) * ■ 日本語 (Japanese) * ■ 한국어 (Korean) * ■ tiếng Việt (Vietnamese) * ■ čeština (Czech) *	English (または、ご注文の言語を機器にプリセット)
表示間隔	現場表示器があること。	測定値の切り替え表示の時に測定値を表示する時間を設定。	1～10 秒	–
表示のダンピング	現場表示器があること。	測定値の変動に対する表示の応答時間を設定。	0.0～999.9 秒	–
ヘッダー	現場表示器があること。	ローカル ディスプレイのヘッダーの内容を選択。	■ デバイスのタグ ■ フリーテキスト	–
ヘッダーテキスト	ヘッダー パラメータで フリーテキスト オプションが選択されていること。	ディスプレイのヘッダーのテキストを入力。	最大 12 文字 (英字、数字、または特殊文字 (例: @, %, /) など)	–
区切り記号	現場表示器があること。	数値表示の桁区切り記号を選択。	■ . (点) ■ , (コンマ)	. (点)
バックライト	以下の条件の 1 つを満たしていること: ■ 「ディスプレイ; 操作」のオーダーコード、オプション F 「4 行表示、バックライト; タッチコントロール」 ■ 「ディスプレイ; 操作」のオーダーコード、オプション G 「4 行表示、バックライト; タッチコントロール +WLAN」	ローカル ディスプレイのバックライトのオンとオフを切り替え。	■ 無効 ■ 有効	–

* 表示はオーダーしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.7.4 電極洗浄の実行

電極の洗浄サイクル サブメニューには、電極洗浄の設定に必要なパラメータが含まれています。



このサブメニューは、電極洗浄機能付きの機器が注文された場合にのみ表示されます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → 電極の洗浄サイクル

▶ 電極洗浄回路	
電極洗浄回路	→ 136
電極洗浄期間	→ 136
電極洗浄リカバリー時間	→ 136
電極洗浄での洗浄サイクル	→ 136
電極洗浄の極性	→ 136

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力/ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
電極洗浄回路	次のオーダーコードの場合：「アプリケーションパッケージ」、オプション EC 「ECC 電極洗浄」	周期的に電極洗浄回路を稼働させます。	■ オフ ■ オン	オン
電極洗浄期間	次のオーダーコードの場合：「アプリケーションパッケージ」、オプション EC 「ECC 電極洗浄」	電極洗浄期間を秒単位で入力。	0.01～30 秒	–
電極洗浄リカバリー時間	次のオーダーコードの場合：「アプリケーションパッケージ」、オプション EC 「ECC 電極洗浄」	電極洗浄後のリカバリー時間を定義。この間は電流出力は最後の有効な値を保持します。	1～600 秒	–
電極洗浄での洗浄サイクル	次のオーダーコードの場合：「アプリケーションパッケージ」、オプション EC 「ECC 電極洗浄」	電極洗浄周期の休止期間を入力。	0.5～168 h	–
電極洗浄の極性	次のオーダーコードの場合：「アプリケーションパッケージ」、オプション EC 「ECC 電極洗浄」	電極洗浄回路の極性の選択。	■ プラス ■ マイナス	電極の材質に応じて異なります。 ■ タンタル：マイナス オプション ■ 白金、アロイ C22、ステンレス：プラス オプション

10.7.5 WLAN 設定

WLAN Settings サブメニューを使用すると、WLAN の設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → WLAN 設定

▶ WLAN 設定		
WLAN		→ 137
WLAN モード		→ 137
SSID 名		→ 137
ネットワークセキュリティ		→ 138
セキュリティ証明書		→ 138
ユーザ名		→ 138
WLAN パスワード		→ 138
WLAN IP アドレス		→ 138
WLAN の MAC アドレス		→ 138
WLAN のパスワード		→ 138
SSID の設定		→ 138
SSID 名		→ 138
接続の状態		→ 138
受信信号強度		→ 138

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力/ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
WLAN	–	WLAN をオン/オフします。	■ 無効 ■ 有効	–
WLAN モード	–	WLAN のモードを選択。	■ WLAN アクセスポイント ■ WLAN クライアント	–
SSID 名	クライアントが有効になっていること。	ユーザ定義の SSID 名（最大 32 文字）を入力。	–	–

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力/ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
ネットワークセキュリティ	-	WLAN ネットワークのセキュリティタイプを選択。	■ 保護されない ■ WPA2-PSK ■ EAP-PEAP with MSCHAPv2 ■ EAP-PEAP MSCHAPv2 no server authentic. ■ EAP-TLS	-
セキュリティ証明書	-	セキュリティ設定の選択とこれらの設定のダウンロードメニュー データ管理 > セキュリティ > WLAN から。	■ Trusted issuer certificate ■ 機器認証 ■ Device private key	-
ユーザ名	-	ユーザ名を入力。	-	-
WLAN パスワード	-	WLAN のパスワードを入力。	-	-
WLAN IP アドレス	-	機器の WLAN インタフェースの IP アドレスを入力。	4 オクテット : 0 ~ 255 (特定のオクテットにおいて)	-
WLAN の MAC アドレス	-		英字と数字から成る一意的な 12 桁の文字列	各機器に個別のアドレスが付与されます。
WLAN のパスワード	Security type パラメータで WPA2-PSK オプションが選択されていること。	ネットワークキー (8 から 32 文字)を入力。  機器とともに支給されたネットワークキーは、安全上の理由から設定中に変更する必要があります。	数字、英字、特殊文字からなる 8~32 桁の文字列 (スペースなし)	機器のシリアル番号 (例 : L100A802000)
SSID の設定	-	どの SSID 名を使用するか選択 : デバイスタグまたはユーザ定義名。	■ デバイスのタグ ■ ユーザ定義	-
SSID 名	■ SSID の設定 パラメータで ユーザ定義 オプションが選択されていること。 ■ WLAN モード パラメータで WLAN アクセスポイント オプションが選択されていること。	ユーザ定義の SSID 名 (最大 32 文字)を入力。  ユーザー設定された SSID 名称は 1 回しか割り当てることができません。SSID 名称を 1 回以上割り当てた場合、機器は相互に干渉する可能性があります。	数字、英字、特殊文字から成る最大 32 桁の文字列	EH_機器名称_シリアル番号の最後の 7 桁 (例 : EH_Promag_500_A802000)
接続の状態	-	接続ステータスを表示します。	■ Connected ■ Not connected	-
受信信号強度	-	受信した信号の強度を表示。	■ ロー ■ 測定物 ■ ハイ	-

10.7.6 設定管理

設定後、現在の機器設定の保存、または前の機器設定の復元を行うことが可能です。機器設定は、**設定管理** パラメータ で管理されます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → 設定のバックアップ

▶ 設定のバックアップ		
稼働時間		→ 139
最後のバックアップ		→ 139
設定管理		→ 139
バックアップのステータス		→ 139
比較の結果		→ 139

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス / 選択
稼働時間	装置の稼働時間を示す。	日 (d)、時 (h)、分 (m)、秒 (s)
最後のバックアップ	最後のデータバックアップが組み込み HistoROM に保存された時を表示。	日 (d)、時 (h)、分 (m)、秒 (s)
設定管理	組み込み HistoROM の機器データの管理の動作を選択。	■ キャンセル ■ バックアップの実行 ■ 復元 ■ 比較 ■ バックアップデータの削除
バックアップのステータス	現在のデータセーブ、リストアの状態を示す。	■ なし ■ バックアップ中 ■ リストア中 ■ 削除処理進行中 ■ 比較進行中 ■ リストアの失敗 ■ バックアップの失敗
比較の結果	現在の機器データと組み込み HistoROM のバックアップとの比較。	■ 設定データは一致する ■ 設定データは一致しない ■ バックアップデータはありません ■ 保存データの破損 ■ チェック未完了 ■ データセット非互換

「設定管理」パラメータの機能範囲

オプション	説明
キャンセル	何も実行せずにこのパラメータを終了します。
バックアップの実行	現在の機器設定のバックアップコピーを、HistoROM バックアップから機器のメモリに保存します。バックアップコピーには機器の変換器データが含まれます。
復元	機器設定の最後のバックアップコピーを、機器メモリから機器の HistoROM バックアップに復元します。バックアップコピーには機器の変換器データが含まれます。

オプション	説明
比較	機器メモリに保存された機器設定と HistoROM バックアップの現在の機器設定とを比較します。
バックアップデータの削除	機器設定のバックアップコピーを、機器のメモリから削除します。

-  HistoROM バックアップ
HistoROM は、EEPROM タイプの不揮発性メモリです。
-  この操作の処理中は、現場表示器を介して設定を編集することはできません。また、処理ステータスを表すメッセージが表示されます。

10.7.7 機器管理のためのパラメータを使用

管理 サブメニューを使用すると、機器の管理のために必要なすべてのパラメータを体系的に使用できます。

ナビゲーション

「設定」 メニュー → 高度な設定 → 管理

▶ 管理	
▶ アクセスコード設定	→ ⓘ 140
▶ アクセスコードのリセット	→ ⓘ 141
機器リセット	→ ⓘ 141

アクセスコードの設定のためのパラメータを使用

ナビゲーション

「設定」 メニュー → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定

▶ アクセスコード設定	
アクセスコード設定	→ ⓘ 140
アクセスコードの確認	→ ⓘ 140

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザー入力
アクセスコード設定	設定の不用意な変更から機器を守るために書き込みアクセスを制限。	数字、英字、特殊文字から成る最大 16 桁の文字列
アクセスコードの確認	入力されたアクセスコードを確認してください。	数字、英字、特殊文字から成る最大 16 桁の文字列

アクセスコードのリセットのためのパラメータを使用

ナビゲーション

「設定」 メニュー → 高度な設定 → 管理 → アクセスコードのリセット

▶ アクセスコードのリセット

稼働時間

→ ⓘ 141

アクセスコードのリセット

→ ⓘ 141

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス/ユーザー入力
稼働時間	装置の稼働時間を示す。	日 (d)、時 (h)、分 (m)、秒 (s)
アクセスコードのリセット	アクセスコードを工場出荷値にリセットする。  リセットコードについては、弊社サービスにお問い合わせください。 リセットコードは、以下を介してのみ入力できます。 ■ ウェブブラウザ ■ DeviceCare、FieldCare (CDI-RJ45 サービスインターフェイス経由) ■ フィールドバス	数字、英字、特殊文字から成る文字列

機器のリセットのためのパラメータを使用

ナビゲーション

「設定」 メニュー → 高度な設定 → 管理

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択
機器リセット	機器の設定をリセットします-全部または一部を-決められた状態に。	■ キャンセル ■ 納入時の状態に ■ 機器の再起動 ■ S-DAT のバックアップをリストア

10.8 シミュレーション

シミュレーション サブメニューにより、プロセスおよび機器アラームモードにおける各種プロセス変数をシミュレーションして、下流側の信号接続 (バルブの切り替えまたは閉制御ループ) を確認することが可能です。シミュレーションは、実際の測定を行わずに実行できます (機器内を流れる測定物なし)。

ナビゲーション

「診断」 メニュー → シミュレーション

▶ シミュレーション

シミュレーションする測定パラメータ割り当て

→ ⓘ 142

測定値	→ 142
ステータス入力のシミュレーション	→ 143
入力信号レベル	→ 143
電流入力 1～n のシミュレーション	→ 143
電流入力 1～n の値	→ 143
電流出力 1～n のシミュレーション	→ 143
電流出力 1～n の値	→ 143
周波数出力シミュレーション 1～n	→ 143
周波数の値 1～n	→ 143
パルス出力シミュレーション 1～n	→ 143
パルスの値 1～n	→ 143
シミュレーションスイッチ出力 1～n	→ 143
スイッチの状態 1～n	→ 143
リレー出力 1～n シミュレーション	→ 143
スイッチの状態 1～n	→ 143
機器アラームのシミュレーション	→ 143
診断イベントの種類	→ 143
診断イベントのシミュレーション	→ 143

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力
シミュレーションする測定パラメータ割り当て	-	シミュレーションするプロセス変数を選択してください。	■ オフ ■ 体積流量 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 流速 ■ 導電率* ■ 補正後の導電率* ■ 温度*
測定値	シミュレーションする測定パラメータ割り当て パラメータ (→ 142) でプロセス変数が選択されていること。	選択したプロセス変数をシミュレーションする値を入力してください。	選択したプロセス変数に応じて異なります。

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力
電流出力 1～n のシミュレーション	–	電流出力のシミュレーションをオン、オフします。	■ オフ ■ オン
電流出力 1～n の値	電流出力 1～n のシミュレーション パラメータで、 オン オプションが選択されていること。	シミュレーションする電流の値を入力してください。	3.59～22.5 mA
周波数出力シミュレーション 1～n	動作モード パラメータで 周波数 オプションが選択されていること。	周波数出力のシミュレーションをオン、オフしてください。	■ オフ ■ オン
周波数の値 1～n	周波数出力シミュレーション 1～n パラメータで オン オプションが選択されていること。	シミュレーションする周波数の値を入力してください。	0.0～12 500.0 Hz
パルス出力シミュレーション 1～n	動作モード パラメータで パルス オプションが選択されていること。	設定しパルス出力のシミュレーションをオフしてください。  固定値 オプションの場合： パルス幅 パラメータ (→ 119) によりパルス出力のパルス幅が設定されます。	■ オフ ■ 固定値 ■ カウントダウンする値
パルスの値 1～n	パルス出力シミュレーション 1～n パラメータで カウントダウンする値 オプションが選択されていること。	シミュレーションするパルスの数を入力してください。	0～65 535
シミュレーションスイッチ出力 1～n	動作モード パラメータで スイッチ出力 オプションが選択されていること。	スイッチ出力のシミュレーションをオン、オフします。	■ オフ ■ オン
スイッチの状態 1～n	–	ステータス出力をシミュレーションするためのステータスを選択します。	■ オープン ■ クローズ
リレー出力 1～n シミュレーション	–	リレー出力のシミュレーションのオンとオフの切り替え。	■ オフ ■ オン
スイッチの状態 1～n	シミュレーションスイッチ出力 1～n パラメータで オン オプションが選択されていること。	リレー出力の状態をシミュレーションのために選択する。	■ オープン ■ クローズ
機器アラームのシミュレーション	–	デバイスアラームのシミュレーションをオン、オフします。	■ オフ ■ オン
診断イベントの種類	–	診断イベントカテゴリを選択。	■ センサ ■ エレクトロニクス ■ 設定 ■ プロセス
診断イベントのシミュレーション	–	このイベントをシミュレーションする診断イベントの選択。	■ オフ ■ 診断イベント選択リスト (選択したカテゴリに応じて)
電流入力 1～n のシミュレーション	–	電流入力シミュレーションのオン/オフ。	■ オフ ■ オン
電流入力 1～n の値	電流入力 1～n のシミュレーション パラメータで オン オプションが選択されていること。	シミュレーションの電流値を入力。	0～22.5 mA
ステータス入力のシミュレーション	–	ステータス入力のシミュレーションをオン、オフ切り替え。	■ オフ ■ オン
入力信号レベル	ステータス入力のシミュレーション パラメータで オン オプションが選択されていること。	ステータス入力をシミュレーションする信号レベルを選択してください。	■ ハイ ■ ロー

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

10.9 不正アクセスからの設定の保護

以下の書き込み保護オプションにより、意図せずに機器の設定が変更されないよう保護することが可能です。

- アクセスコードによるパラメータのアクセス保護 → 144
- キーロックによる現場操作のアクセス保護 → 79
- 書き込み保護スイッチによる機器のアクセス保護 → 145

10.9.1 アクセスコードによる書き込み保護

ユーザー固有のアクセスコードは以下の効果をもたらします。

- 機器設定用パラメータは書き込み保護となり、現場操作を介してその値を変更することはできなくなります。
- ウェブブラウザを介した機器アクセスを防止し、機器設定用パラメータを保護します。
- FieldCare または DeviceCare (CDI-RJ45 サービスインターフェイス経由) を介した機器アクセスを防止し、機器設定用パラメータを保護します。

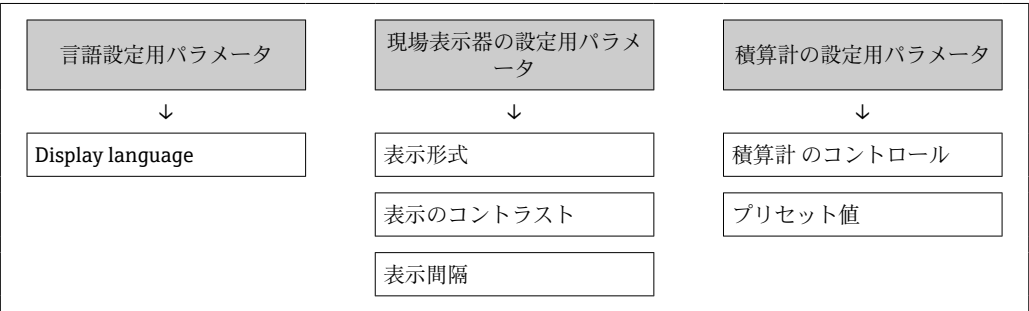
現場表示器によるアクセスコードの設定

1. **アクセスコード設定** パラメータ (→ 140) に移動します。
2. アクセスコードとして数字、英字、特殊文字から成る最大 16 桁の文字列を設定します。
3. 再度アクセスコードを **アクセスコードの確認** パラメータ (→ 140) に入力して、確定します。
↳ すべての書き込み保護パラメータの前に、 シンボルが表示されます。

-  ■ アクセスコードによるパラメータ書き込み保護の無効化 → 78
- アクセスコードを紛失してしまった場合：アクセスコードのリセット → 145
- 現在ログインしているユーザーの役割が**アクセスステータス** パラメータに表示されます。
 - ナビゲーションパス：操作 → アクセスステータス
 - ユーザーの役割とそのアクセス権 → 78
- ナビゲーション、編集画面で 10 分以上キーを押さなかった場合、機器は自動的に書き込み保護パラメータを再度ロックします。
- ナビゲーション、編集画面から操作画面表示モードに戻すと、機器は自動的に書き込み保護パラメータを 60 秒後にロックします。

現場表示器で随時変更可能なパラメータ

測定に影響を及ぼさない特定のパラメータは、現場表示器によるパラメータ書き込み保護から除外されます。ユーザー固有のアクセスコードにもかかわらず、これは、他のパラメータがロックされている場合も常に変更可能です。



ウェブブラウザによるアクセスコードの設定

1. **アクセスコード設定** パラメータ (→ 140) に移動します。

2. アクセスコードとして 16 桁（最大）の数値コードを設定します。
3. 再度アクセスコードを **アクセスコードの確認** パラメータ (→ 図 140) に入力して、確定します。
↳ ウェブブラウザがログイン画面に切り替わります。

-  ■ アクセスコードによるパラメータ書き込み保護の無効化 → 図 78
- アクセスコードを紛失してしまった場合：アクセスコードのリセット → 図 145
- **アクセスステータス** パラメータには、現在ログインしているユーザーの役割が表示されます。
 - ナビゲーションパス：操作 → アクセスステータス
 - ユーザーの役割とそのアクセス権 → 図 78

10 分間何も操作されなかった場合、ウェブブラウザは自動的にログイン画面に戻ります。

アクセスコードのリセット

ユーザー固有のアクセスコードを間違えた場合は、工場設定のコードにリセットできます。このためには、リセットコードを入力しなければなりません。ユーザー固有のアクセスコードはその後、再び設定することが可能です。

ウェブブラウザ、FieldCare、DeviceCare (CDI-RJ45 サービスインタフェース経由)、フィールドバスを使用

-  リセットコードを取得するには、お近くの Endress+Hauser サービス部にお問い合わせいただく必要があります。機器ごとに固有のコードを作成する必要があります。

1. 機器のシリアル番号を書き留めます。
2. **稼働時間** パラメータを読み取ります。
3. お近くの Endress+Hauser サービス部に連絡し、シリアル番号と稼働時間を伝えます。
↳ 作成されたりセットコードを取得します。
4. **アクセスコードのリセット** パラメータ (→ 図 141) にリセットコードを入力します。
↳ アクセスコードは工場設定 **0000** にリセットされます。これは、再設定することが可能です → 図 144。

-  IT セキュリティ上の理由から、作成されたりセットコードは、指定のシリアル番号に対して指定の稼働時間から 96 時間のみ有効です。96 時間以内に機器をリセットできない場合は、読み出した稼働時間に数日を加算するか、または機器をオフにする必要があります。

10.9.2 書き込み保護スイッチによる書き込み保護

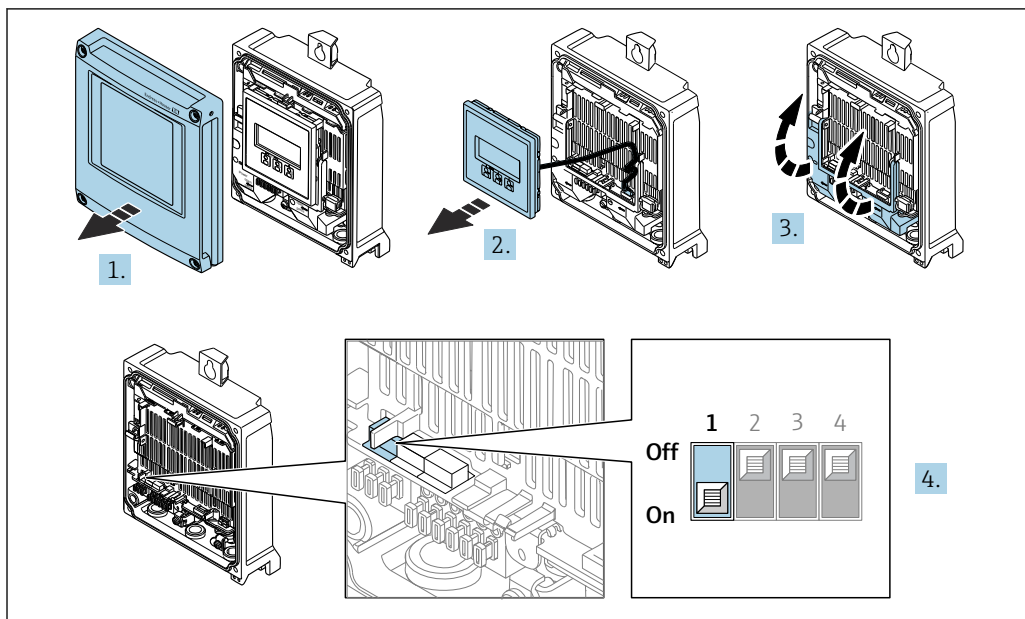
ユーザー固有のアクセスコードによるパラメータ書き込み保護とは異なり、この書き込み保護では、すべての操作メニューに対する書き込みアクセスをロックできます (**「表示のコントラスト」** パラメータを除く)。

これによりパラメータ値は読み取り専用となり、編集できなくなります (**「表示のコントラスト」** パラメータを除く)。

- 現場表示器を使用
- PROFIBUS DP プロトコル経由

Proline 500 – デジタル

書き込み保護を有効/無効にする



A0029673

1. ハウジングカバーを開きます。

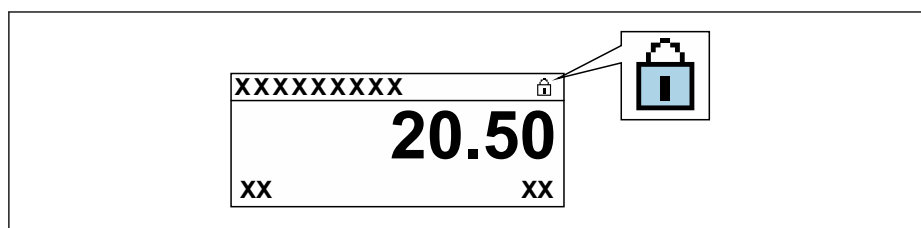
2. 表示モジュールを外します。

3. 端子カバーを開きます。

4. **書き込み保護を有効または無効にします。**

メイン電子モジュールの書き込み保護スイッチ (WP) を **ON** 位置に設定するとハードウェア書き込み保護が有効になり、**OFF** 位置 (工場設定) に設定するとハードウェア書き込み保護が無効になります。

↳ **ロック状態** パラメータにハードウェア書き込みロック オプションが表示されます → 図 148。ハードウェア書き込み保護が有効な場合、測定値表示のヘッダーおよびナビゲーション画面のパラメータの前に 図 シンボルが表示されます。



A0029425

5. 表示モジュールを挿入します。

6. ハウジングカバーを閉じます。

7. **注記**

固定ネジの締め付けトルクが超過！

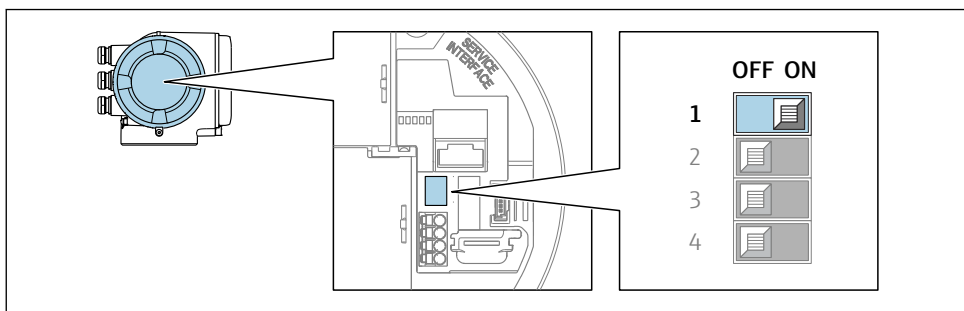
プラスチック製変換器が損傷する恐れがあります。

▶ 締め付けトルク：2.5 Nm (1.8 lbf ft) に従って固定ネジを締め付けてください。

固定ネジを締め付けます。

Proline 500

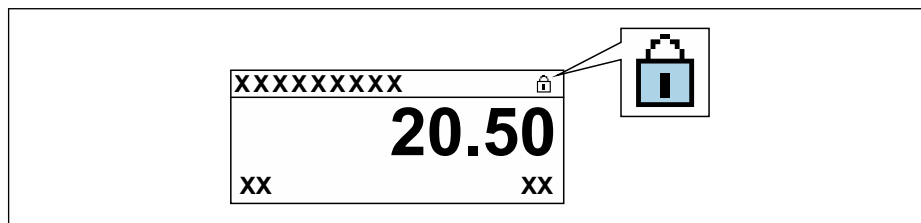
1.



A0029630

メイン電子モジュールの書き込み保護（WP）スイッチを **ON** 位置に設定すると、ハードウェア書き込み保護が有効になります。

- ➡ **ロック状態** パラメータに**ハードウェア書き込みロック** オプションが表示されます→ 図 148。さらに、現場表示器の操作画面表示のヘッダーとナビゲーション画面のパラメータの前に 図 シンボルが表示されます。



A0029425

2. メイン電子モジュールの書き込み保護（WP）スイッチを **OFF** 位置（工場設定）に設定すると、ハードウェア書き込み保護が無効になります。

- ➡ **ロック状態** パラメータに表示されるオプションはありません→ 図 148。現場表示器の操作画面表示のヘッダーとナビゲーション画面のパラメータの前に表示されていた 図 シンボルは消えます。

11 操作

11.1 機器ロック状態の読取り

機器の有効な書き込み保護：ロック状態 パラメータ

操作 → ロック状態

「ロック状態」パラメータの機能範囲

選択項目	説明
なし	アクセスステータス パラメータに表示されるアクセス権が適用されます → 178。現場表示器にのみ表示されます。
ハードウェア書き込みロック	PCB 基板のハードウェア書き込みロック用 DIP スイッチが有効になっています。これにより、(現場表示器や操作ツールを使用した) パラメータへの書き込みアクセスがロックされます → 145。
一時ロック	機器の内部処理 (例：データアップロード/ダウンロード、リセットなど) を実行中のため、パラメータへの書き込みアクセスが一時的にロックされます。内部処理が完了すると、再びパラメータを変更することが可能です。

11.2 操作言語の設定

-  詳細情報：
- 操作言語の設定 → 106
 - 機器が対応する操作言語の情報 → 226

11.3 表示部の設定

- 詳細情報：
- 現場表示器の基本設定 → 126
 - 現場表示器の高度な設定 → 133

11.4 測定値の読取り

測定値 サブメニューを使用して、すべての測定値を読み取ることが可能です。

ナビゲーション

「診断」メニュー → 測定値

▶ 測定値	
▶ プロセスパラメータ	→ 149
▶ 積算計 1～n	→ 131
▶ 入力値	→ 151
▶ 出力値	→ 152

11.4.1 「プロセスパラメータ」サブメニュー

プロセスパラメータサブメニューには、各プロセス変数の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」メニュー → 測定値 → プロセスパラメータ

▶ プロセスパラメータ		
体積流量		→ 149
質量流量		→ 149
基準体積流量		→ 149
流速		→ 149
導電率		→ 149
補正後の導電率		→ 150
温度		→ 150
密度		→ 150

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス
体積流量	–	現在測定されている体積流量を表示します。 依存関係 体積流量単位 パラメータ (→ 110) で選択した単位が使用されます。	符号付き浮動小数点数
質量流量	–	現在計算されている質量流量を表示します。 依存関係 質量流量単位 パラメータ (→ 110) の設定が単位として使用されます。	符号付き浮動小数点数
基準体積流量	–	現在計算されている基準体積流量を表示します。 依存関係 基準体積流量単位 パラメータ (→ 110)で選択した単位が使用されます。	符号付き浮動小数点数
流速	–	現在計算されている流速を表示します。	符号付き浮動小数点数
導電率	–	現在測定されている導電率を表示します。 依存関係 導電率の単位 パラメータ (→ 110) の設定が単位として使用されます。	符号付き浮動小数点数

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス
補正後の導電率	以下の条件の 1 つを満たしていること： ▪ 「センサオプション」のオーダーコード、オプション CI 「流体温度測定」 または ▪ 外部機器から流量計に温度が読み込まれる。	現在補正されている導電率を表示します。 依存関係 導電率の単位 パラメータ (→ 110) で選択した単位が使用されます。	正の浮動小数点数
温度	以下の条件の 1 つを満たしていること： ▪ 「センサオプション」のオーダーコード、オプション CI 「流体温度測定」 または ▪ 外部機器から流量計に温度が読み込まれる。	現在計算されている温度を表示します。 依存関係 温度の単位 パラメータ (→ 110) で選択した単位が使用されます。	正の浮動小数点数
密度	-	現在の固定密度または外部機器から読み込まれた密度を表示します。 依存関係 密度単位 パラメータで選択した単位が使用されます。	符号付き浮動小数点数

11.4.2 積算計

積算計 サブメニューには、各積算計の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」メニュー → 測定値 → 積算計

▶ 積算計

プロセス変数の割り当て 1～n

積算計 1～n の値

計算計 1～n ステータス

積算計 1～n ステータス (Hex)

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力/ユーザーインターフェイス
プロセス変数の割り当て	-	積算計のプロセス変数を選択。	▪ 体積流量 ▪ 質量流量 ▪ 基準体積流量
積算計の値 1～n	プロセス変数の割り当て パラメータで、以下の選択項目のいずれかが選択されていること。 ▪ 体積流量 ▪ 質量流量 ▪ 基準体積流量	現在の積算計カウンタ値を表示。	符号付き浮動小数点数

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力/ユーザーインターフェイス
積算計ステータス 1～n	–	現在の積算計ステータスを表示。	■ Good ■ Uncertain ■ Bad
積算計ステータス 1～n	Target mode パラメータで Auto オプションが選択されていること。	積算計の現在のステータス値（16 進数）を表示します。	0～0xFF

11.4.3 「入力値」サブメニュー

入力値 サブメニューを使用すると、個別の入力値を体系的に表示できます。

ナビゲーション

「診断」メニュー → 測定値 → 入力値

▶ 入力値	
▶ 電流入力 1～n	→ 151
▶ ステータス入力 1～n	→ 151

電流入力の入力値

電流入力 1～n サブメニューには、各電流入力の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」メニュー → 測定値 → 入力値 → 電流入力 1～n

▶ 電流入力 1～n	
測定値 1～n	→ 151
測定した電流 1～n	→ 151

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス
測定値 1～n	現在の電流入力値を表示します。	符号付き浮動小数点数
測定した電流 1～n	電流入力の現在値を表示します。	0～22.5 mA

ステータス入力の入力値

ステータス入力 1～n サブメニューには、各ステータス入力の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」 メニュー → 測定値 → 入力値 → ステータス入力 1～n

▶ ステータス入力 1～n

ステータス入力の値

→ ⓘ 152

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス
ステータス入力の値	現在の入力の信号のレベルを表示。	■ ハイ ■ ロー

11.4.4 出力値

出力値 サブメニューには、各出力の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」 メニュー → 測定値 → 出力値

▶ 出力値

▶ 電流出力 1～n

→ ⓘ 152

▶ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n

→ ⓘ 153

▶ リレー出力 1～n

→ ⓘ 153

電流出力の出力値

電流出力 の値 サブメニューには、各電流出力の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」 メニュー → 測定値 → 出力値 → 電流出力 1～n の値

▶ 電流出力 1～n

出力電流 1～n

→ ⓘ 153

測定した電流 1～n

→ ⓘ 153

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス
出力電流 1	現在計算されている電流出力の電流値を表示します。	3.59～22.5 mA
測定した電流	電流出力の現在測定されている電流値を表示。	0～30 mA

パルス/周波数/スイッチ出力の出力値

パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n サブメニューには、各パルス/周波数/スイッチ出力の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」 メニュー → 測定値 → 出力値 → パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n

▶ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n		
出力周波数 1～n	→	🔍 153
パルス出力 1～n	→	🔍 153
スイッチの状態 1～n	→	🔍 153

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス
出力周波数 1～n	動作モード パラメータで 周波数 オプションが選択されていること。	周波数出力の現在測定されている値を表示。	0.0～12 500.0 Hz
パルス出力 1～n	動作モード パラメータで パルス オプションが選択されていること。	現在出力されているパルス周波数を表示。	正の浮動小数点数
スイッチの状態 1～n	動作モード パラメータで スイッチ出力 オプションが選択されていること。	現在のスイッチ出力ステータスを表示。	■ オープン ■ クローズ

リレー出力の出力値

リレー出力 1～n サブメニューには、各リレー出力の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」 メニュー → 測定値 → 出力値 → リレー出力 1～n

▶ リレー出力 1～n		
スイッチの状態	→	🔍 154
スイッチ周期	→	🔍 154
最大スイッチサイクル数	→	🔍 154

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス
スイッチの状態	現在のリレーのスイッチ状態を表示。	■ オープン ■ クローズ
スイッチ周期	すべての実行されたスイッチサイクルの数を表示。	正の整数
最大スイッチサイクル数	保証されたスイッチサイクルの最大数を表示。	正の整数

11.5 プロセス条件への機器の適合

- プロセス条件に適合させるために、以下の機能があります。
- **設定** メニュー (→  107) を使用した基本設定
 - **高度な設定** サブメニュー (→  130) を使用した高度な設定

11.6 積算計リセットの実行

操作 サブメニュー で積算計をリセットします。
積算計 1～n のコントロール

「積算計 のコントロール」 パラメータの機能範囲

選択項目	説明
積算開始	積算計が開始されます。
リセット + ホールド	積算処理が停止し、積算計が 0 にリセットされます。
プリセット + ホールド	積算処理が停止し、積算計が プリセット値 1～n パラメータ で設定した開始値に設定されます。

ナビゲーション

「操作」 メニュー → 積算計の処理

▶ 積算計の処理		
積算計 1～n のコントロール		→  154
プリセット値 1～n		→  154
すべての積算計をリセット		→  154

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択 / ユーザー入力
積算計 1～n のコントロール	積算計の値を制御します。	■ 積算開始 ■ リセット + ホールド ■ プリセット + ホールド
プリセット値 1～n	積算計の開始値を設定。	符号付き浮動小数点数
すべての積算計をリセット	すべての積算計を 0 にリセットして積算の開始。	■ キャンセル ■ リセット + 積算開始

11.7 測定値の履歴を表示

データのログ サブメニューを表示するには、機器の**拡張 HistoROM** アプリケーションパッケージを有効にする必要があります（注文オプション）。これには、測定値履歴に関するすべてのパラメータが含まれています。

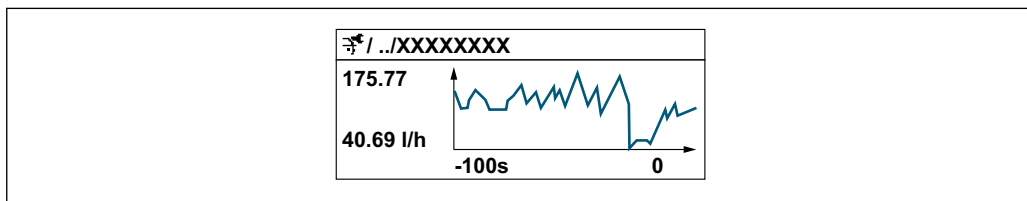


データロギングは以下を介しても使用可能：

- プラントアセットマネジメントツール FieldCare → 89
- ウェブブラウザ

機能範囲

- 合計 1000 個の測定値を保存できます。
- 4 × ロギングチャンネル
- データのロギングの時間間隔は調整可能です。
- 各ロギングチャンネルの測定値トレンドをチャート形式で表示します。



A0034352

- x 軸：選択されたチャンネル数に応じて 250～1000 個のプロセス変数の測定値を示します。
- y 軸：常に測定中の値に合わせて、大体の測定値スパンを示します。



ロギングの時間間隔の長さ、またはチャンネルのプロセス変数の割り当てを変更すると、データのログ内容は削除されます。

ナビゲーション

「診断」メニュー → データのログ

▶ データのログ	
チャンネル 1 の割り当て	→ 89
チャンネル 2 の割り当て	→ 89
チャンネル 3 の割り当て	→ 89
チャンネル 4 の割り当て	→ 89
ロギングの時間間隔	→ 89
すべてのログをリセット	→ 89
データロギング	→ 89
ロギングの遅延	→ 89
データロギングのコントロール	→ 157
データロギングステータス	→ 157

全ロギング期間

→ ⓘ 157

▶ チャンネル 1 表示

▶ チャンネル 2 表示

▶ チャンネル 3 表示

▶ チャンネル 4 表示

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力/ユーザーインターフェイス
チャンネル 1 の割り当て	拡張 HistoROM アプリケーションパッケージが有効。	ロギングチャンネルにプロセス変数を割り当てます。	■ オフ ■ 体積流量 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 流速 ■ 導電率* ■ 補正後の導電率* ■ 温度* ■ 電気部内温度 ■ 電流出力 1 ■ 電流出力 2* ■ 電流出力 3* ■ 電流出力 4*
チャンネル 2 の割り当て	拡張 HistoROM アプリケーションパッケージが使用できます。  現在有効なソフトウェアオプションが、有効なソフトウェアオプションの概要パラメータに表示されます。	ロギングチャンネルへのプロセス変数の割り当て。	選択リストについては、チャンネル 1 の割り当てパラメータ (→ ⓘ 156)を参照してください。
チャンネル 3 の割り当て	拡張 HistoROM アプリケーションパッケージが使用できます。  現在有効なソフトウェアオプションが、有効なソフトウェアオプションの概要パラメータに表示されます。	ロギングチャンネルへのプロセス変数の割り当て。	選択リストについては、チャンネル 1 の割り当てパラメータ (→ ⓘ 156)を参照してください。
チャンネル 4 の割り当て	拡張 HistoROM アプリケーションパッケージが使用できます。  現在有効なソフトウェアオプションが、有効なソフトウェアオプションの概要パラメータに表示されます。	ロギングチャンネルへのプロセス変数の割り当て。	選択リストについては、チャンネル 1 の割り当てパラメータ (→ ⓘ 156)を参照してください。
ロギングの時間間隔	拡張 HistoROM アプリケーションパッケージが使用できます。	データのロギングの時間間隔は設定します。この値は、メモリ内の個々のデータポイント間の時間間隔を決定します。	0.1～3600.0 秒
すべてのログをリセット	拡張 HistoROM アプリケーションパッケージが使用できます。	すべてのログデータを削除します。	■ キャンセル ■ データ削除
データロギング	-	データロギングのタイプを選択します。	■ 上書きする ■ 上書きしない
ロギングの遅延	データロギングパラメータで、上書きしないオプションが選択されていること。	測定値ロギングの遅延時間を入力します。	0～999 h

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力/ユーザーインターフェイス
データロギングのコントロール	データロギングパラメータで、 上書きしない オプションが選択されていること。	測定値ロギングを開始または停止します。	■ なし ■ 削除 + スタート ■ 停止
データロギングステータス	データロギングパラメータで、 上書きしない オプションが選択されていること。	測定値ロギングステータスを表示します。	■ 完了 ■ 遅延が有効 ■ アクティブ ■ 停止
全ロギング期間	データロギングパラメータで、 上書きしない オプションが選択されていること。	全ロギング期間を表示します。	正の浮動小数点数

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

12 診断およびトラブルシューティング

12.1 一般トラブルシューティング

現場表示器用

エラー	考えられる原因	対処法
現場表示器が暗いが、信号出力は有効な範囲内にある	表示モジュールのケーブルが正しく差し込まれていない	メイン電子モジュールおよび表示モジュールにプラグを正しく挿入する。
現場表示器が暗く、出力信号がない	電源電圧が銘板に明記された電圧と異なる	正しい電源電圧を印加する。→ 50
現場表示器が暗く、出力信号がない	電源電圧の極性が正しくない	電源電圧の極性を逆にする。
現場表示器が暗く、出力信号がない	接続ケーブルと端子の接続が確立されない	ケーブルと端子の電氣的接続を確実にを行う。
現場表示器が暗く、出力信号がない	- 端子が I/O 電子モジュールに正しく差し込まれていない - 端子がメイン電子モジュールに正しく差し込まれていない	端子を確認する。
現場表示器が暗く、出力信号がない	- I/O 電子モジュールの故障 - メイン電子モジュールの故障	スペアパーツを注文する。→ 202
現場表示器が暗く、出力信号がない	メイン電子モジュールと表示モジュール間のコネクタが正しく差し込まれていない	接続を確認し、必要に応じて修正する。
現場表示器が暗く、出力信号がない	接続ケーブルが正しく差し込まれていない	- 電極ケーブルの接続を確認し、必要に応じて修正する。 - コイルケーブルの接続を確認し、必要に応じて修正する。
現場表示器を読み取ることができないが、信号出力は有効な範囲内にある	表示部の設定が明るすぎる/暗すぎる	☐ + ☐ を同時に押して、表示を明るくする。 ☐ + ☐ を同時に押して、表示を暗くする。
現場表示器が暗いが、信号出力は有効な範囲内にある	表示モジュールの故障	スペアパーツを注文する。→ 202
現場表示器のバックライトが赤い	診断動作が「アラーム」の診断イベントが発生している	対策を講じる。→ 171
現場表示器のテキストが理解できない言語で表示される	選択された操作言語を理解できない	☐ + ☐ を 2 秒 押す（「ホーム画面」）。 ☐ を押す。 Display language パラメータ (→ 135) で必要な言語を設定する。
現場表示器のメッセージ： 「通信エラー」 「電子モジュールの確認」	表示モジュールと電子モジュール間の通信が中断された	- メイン電子モジュールと表示モジュール間のケーブルとコネクタを確認する。 - スペアパーツを注文する。→ 202

出力信号用

エラー	考えられる原因	対処法
信号出力が有効な範囲を超えている	メイン電子モジュールの故障	スペアパーツを注文する→ 202。
現場表示器に正しい値が表示されるが、信号出力が正しくない（有効な範囲内にはある）	パラメータ設定エラー	パラメータ設定を確認し、修正する。
機器の測定が正しくない	設定エラーまたは機器が用途範囲外で使用されている	- 正しいパラメータ設定を確認する。 「技術データ」に明記されたリミット値に従う。

アクセス用

エラー	可能性のある原因	対処法
パラメータへの書き込みアクセスを実行できない	ハードウェア書き込み保護が有効になっている。	メイン電子モジュールの書き込み保護スイッチを OFF の位置に設定する。→ 図 145.
パラメータへの書き込みアクセスを実行できない	現在のユーザーの役割ではアクセス権が制限されている。	1. ユーザーの役割を確認する → 図 78。 2. 正しいユーザー固有のアクセスコードを入力する → 図 78.
PROFIBUS DP 経由で接続できない	PROFIBUS DP バスケーブルが正しく接続されていない。	端子の割当てを確認する。→ 図 40
PROFIBUS DP 経由で接続できない	PROFIBUS DP ケーブルが正しく終端処理されていない。	終端抵抗を確認する。
Web サーバーに接続できない	Web サーバーが無効になっている。	「FieldCare」または「DeviceCare」操作ツールを使用して機器の Web サーバーが有効かどうかを確認し、必要に応じて有効にする → 図 85.
	PC でイーサネットインタフェースが正しく設定されていない。	▶ インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティを確認する → 図 81. ▶ IT マネージャとともにネットワーク設定を確認する。
Web サーバーに接続できない	PC で IP アドレスが正しく設定されていない。	IP アドレス (192.168.1.212) を確認する。→ 図 81
Web サーバーに接続できない	WLAN 接続データが正しくない。	■ WLAN ネットワークの状態を確認する。 ■ WLAN アクセスデータを使用して機器に再度ログインする。 ■ 機器および操作機器の WLAN が有効になっていることを確認する → 図 81.
	WLAN 通信が無効になっている。	–
Web サーバー、FieldCare または DeviceCare に接続できない	WLAN ネットワークが使用できない。	■ WLAN 受信を利用できるかどうかを確認する：表示モジュールの LED が青色で点灯。 ■ WLAN 接続が有効かどうかを確認する：表示モジュールの LED が青色で点滅。 ■ 機器機能を ON にする。
ネットワーク接続がない、または不安定	WLAN ネットワークが弱い	■ 操作機器が受信の範囲外にある：操作機器のネットワークステータスを確認する。 ■ ネットワーク性能を向上させるために、外部の WLAN アンテナを使用する。
	WLAN およびイーサネット通信が同時進行	■ ネットワーク設定を確認する。 ■ 一時的に WLAN のみをインタフェースとして有効にします。
ウェブブラウザがフリーズして操作できない	データ転送中。	データ転送または現在の動作が完了するまで待ってください。
	接続が失われた	▶ ケーブル接続と電源を確認する。 ▶ ウェブブラウザを再読み込みし、必要に応じて再起動する。
ウェブブラウザのコンテンツを読み込めない、またはコンテンツが不完全	最適なバージョンのウェブブラウザが使用されていない。	▶ 適切なバージョンのウェブブラウザを使用する。→ 図 80 ▶ ウェブブラウザのキャッシュを消去する。 ▶ ウェブブラウザを再起動する。
	不適切な表示設定	ウェブブラウザのフォントサイズ/表示比率を変更する。
ウェブブラウザのコンテンツが表示されない、またはコンテンツが不完全	■ JavaScript が有効になっていない。 ■ JavaScript を有効にできない。	▶ JavaScript を有効にする。 ▶ IP アドレスとして <code>http://XXX.XXX.X.X.XX/servlet/basic.html</code> を入力する。

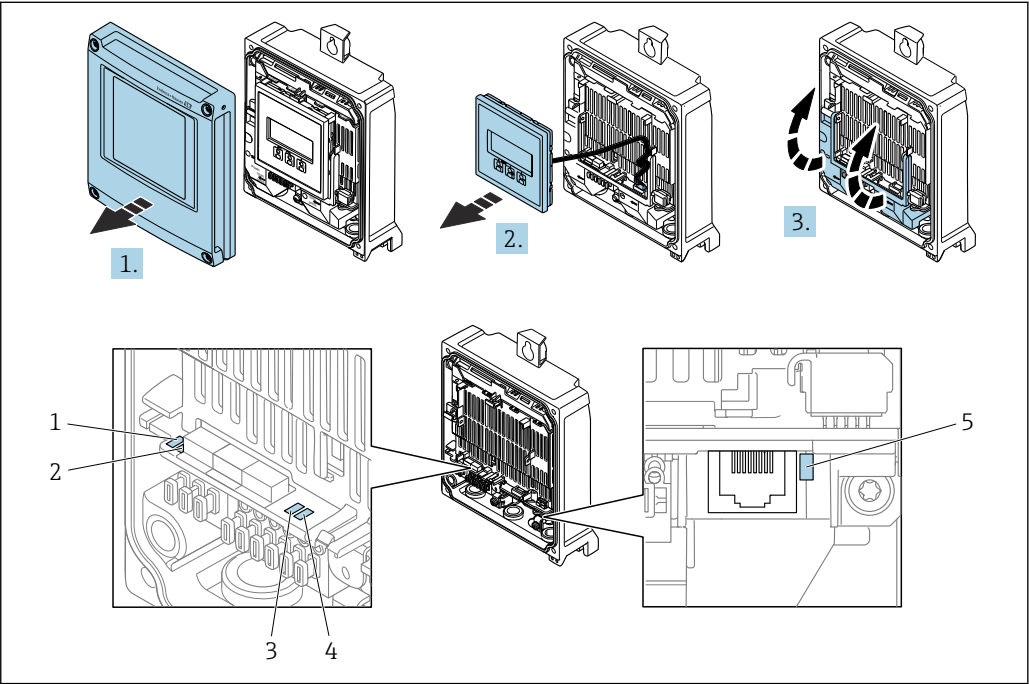
エラー	可能性のある原因	対処法
CDI-RJ45 サービスインタフェース（ポート 8000）を介した FieldCare または DeviceCare による操作を実行できない	PC またはネットワークのファイアウォールにより、通信が遮断されている。	PC またはネットワークで使用するファイアウォールの設定に応じて、ファイアウォールを無効化または調整して、FieldCare/DeviceCare によるアクセスを許可する必要がある。
CDI-RJ45 サービスインタフェース（ポート 8000 または TFTP ポート）を介した FieldCare または DeviceCare によるファームウェアの更新を実行できない	PC またはネットワークのファイアウォールにより、通信が遮断されている。	PC またはネットワークで使用するファイアウォールの設定に応じて、ファイアウォールを無効化または調整して、FieldCare/DeviceCare によるアクセスを許可する必要がある。

12.2 発光ダイオードによる診断情報

12.2.1 変換器

Proline 500 – デジタル

変換器の各種 LED により機器ステータスに関する情報が提供されます。



A0029689

- 1 電源電圧
- 2 機器ステータス
- 3 未使用
- 4 通信
- 5 サービスインタフェース (CDI) アクティブ、Ethernet リンク/アクティビティ

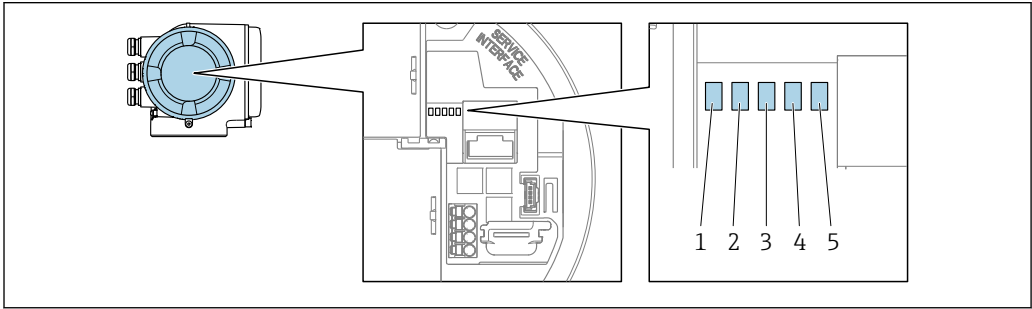
- 1. ハウジングカバーを開きます。
- 2. 表示モジュールを外します。
- 3. 端子カバーを開きます。

LED	色	意味
1 電源電圧	消灯	電源オフまたは供給電圧不足
	緑色	電源 OK
2 機器ステータス (通常の操作)	消灯	ファームウェアエラー
	緑色	機器ステータス OK
	緑色点滅	機器が設定されていない
	赤色点滅	診断動作「警告」の診断イベントが発生
	赤色	診断動作「アラーム」の診断イベントが発生
	赤色または緑色点滅	機器の再起動
2 機器ステータス (スタートアップ中)	赤色の低速点滅	> 30 秒の場合：ブートローダーの問題
	赤色の高速点滅	> 30 秒の場合：ファームウェア読み込み中に互換性の問題
3 未使用	–	–
4 通信	消灯	機器が Profibus データを受信しない

LED	色	意味
5 サービスインタフェース (CDI)、Ethernet リンク/アクティビティ	白色	機器が Profibus データを受信する
	消灯	接続なし、または接続が確立されていない
	黄色	接続中、および接続が確立されている
	黄色点滅	サービスインタフェース アクティブ

Proline 500

変換器の各種 LED により機器ステータスに関する情報が提供されます。



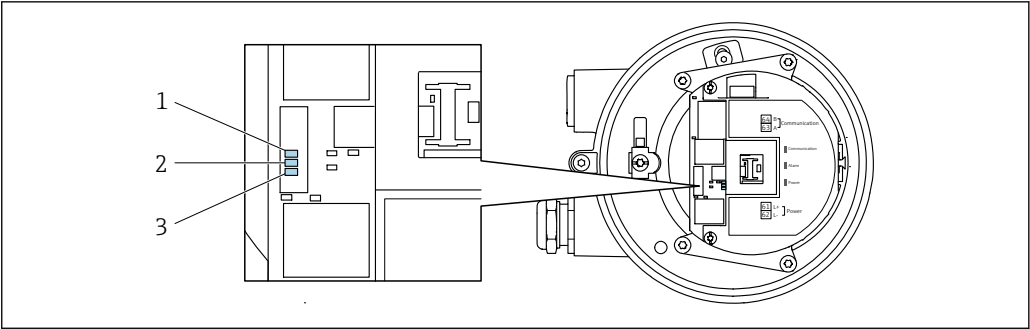
- 1 電源電圧
- 2 機器ステータス
- 3 未使用
- 4 通信
- 5 サービスインタフェース (CDI) アクティブ、Ethernet リンク/アクティビティ

LED	色	意味
1 電源電圧	消灯	電源オフまたは供給電圧不足
	緑色	電源 OK
2 機器ステータス (通常の操作)	消灯	ファームウェアエラー
	緑色	機器ステータス OK
	緑色点滅	機器が設定されていない
	赤色	診断動作「アラーム」の診断イベントが発生
	赤色点滅	診断動作「警告」の診断イベントが発生
	赤色または緑色点滅	機器の再起動
2 機器ステータス (スタートアップ中)	赤色の低速点滅	> 30 秒の場合：ブートローダーの問題
	赤色の高速点滅	> 30 秒の場合：ファームウェア読み込み中に互換性の問題
3 未使用	–	–
4 通信	消灯	機器が Profibus データを受信しない
	白色	機器が Profibus データを受信する
5 サービスインタフェース (CDI)、Ethernet リンク/アクティビティ	消灯	接続なし、または接続が確立されていない
	黄色	接続中、および接続が確立されている
	黄色点滅	サービスインタフェース アクティブ

12.2.2 センサ接続ハウジング

Proline 500 – デジタル

センサ接続ハウジング内の ISEM 電子モジュール (インテリジェントセンサ電子モジュール) の各種 LED により、機器ステータスに関する情報が提供されます。



A0029699

- 1 通信
- 2 機器ステータス
- 3 電源電圧

LED	色	意味
1 通信	白色	通信アクティブ
2 機器ステータス (通常の操作)	赤色	エラー
	赤色点滅	警告
2 機器ステータス (スタートアップ中)	赤色の低速点滅	> 30 秒の場合：ブートローダーの問題
	赤色の高速点滅	> 30 秒の場合：ファームウェア読み込み中に互換性の問題
3 電源電圧	緑色	電源 OK
	オフ	電源オフまたは供給電圧不足

12.3 現場表示器の診断情報

12.3.1 診断メッセージ

機器の自己監視システムで検出されたエラーが、操作画面表示と交互に診断メッセージとして表示されます。

アラーム状態の操作画面表示

診断メッセージ

1 ステータス信号

2 診断動作

3 診断動作と診断コード

4 ショートテキスト

5 操作部

A0029426-JA

2 つまたはそれ以上の診断イベントが同時に発生している場合は、最優先に処理する必要のある診断イベントのメッセージのみが表示されます。

- 発生したその他の診断イベントは **診断** メニュー に表示されます。
- パラメータを使用 → 194

■ サブメニューを使用 → 195

ステータス信号

ステータス信号は、診断情報（診断イベント）の原因を分類することにより、機器の状態および信頼性に関する情報を提供します。

- ステータス信号は VDI/VDE 2650 および NAMUR 推奨 NE 107 に準拠して分類されます。F = 故障、C = 機能チェック、S = 仕様範囲外、M = メンテナンスが必要

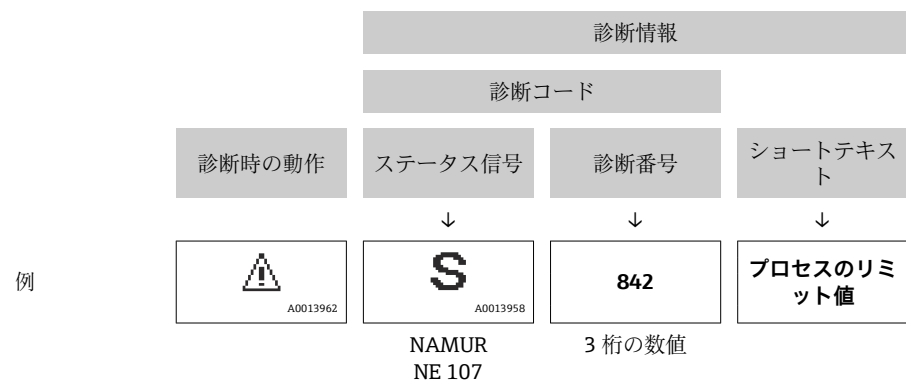
シンボル	意味
F	故障 機器エラーが発生。測定値は無効。
C	機能チェック 機器はサービスモード（例：シミュレーション中）
S	仕様範囲外 機器は作動中： 技術仕様の範囲外（例：許容プロセス温度の範囲外）
M	メンテナンスが必要 メンテナンスが必要。測定値は依然として有効。

診断時の動作

シンボル	意味
	アラーム - 測定が中断します。 - 信号出力と積算計が設定されたアラーム状態になります。 - 診断メッセージが生成されます。
	警告 - 測定が再開します。 - 信号出力と積算計は影響を受けません。 - 診断メッセージが生成されます。

診断情報

診断情報を使用してエラーを特定することが可能です。ショートテキストにより、エラーに関する情報が提供されます。さらに、診断動作に対応するシンボルが現場表示器の診断情報の前に表示されます。



操作部

操作キー	意味
	+ キー メニュー、サブメニュー内 対処法に関するメッセージを開きます。
	Enter キー メニュー、サブメニュー内 操作メニューを開きます。

12.3.2 対処法の呼び出し

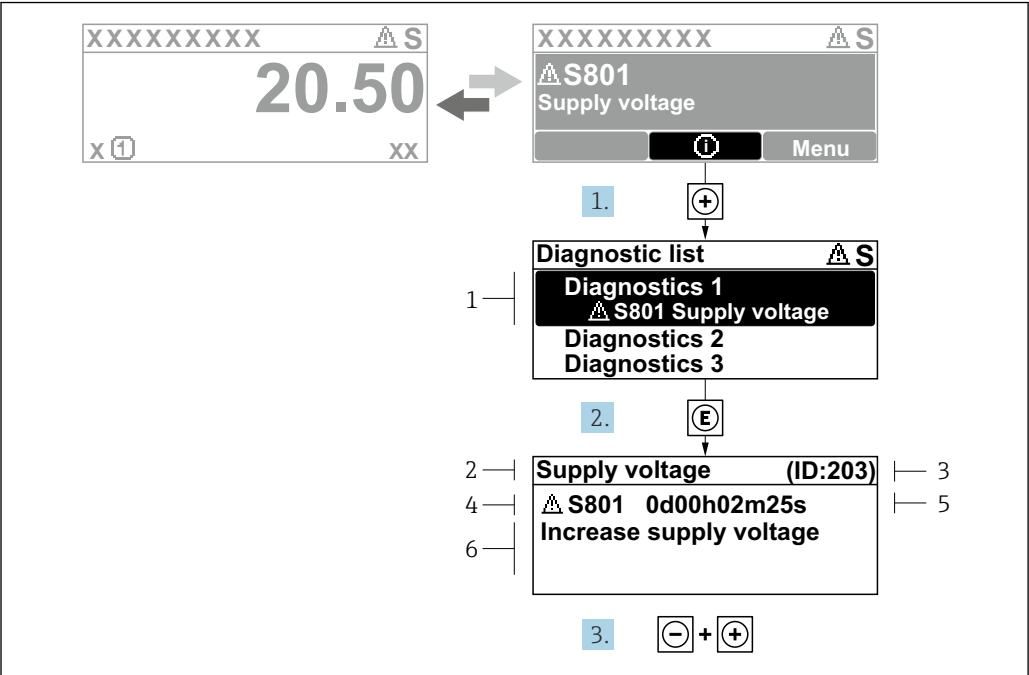


図 35 対処法のメッセージ

- 1 診断情報
- 2 ショートテキスト
- 3 サービス ID
- 4 診断動作と診断コード
- 5 エラー発生時の稼働時間
- 6 対処法

- 1. 診断メッセージを表示します。
⊞ を押します (① シンボル)。
↳ **診断リスト** サブメニュー が開きます。
- 2. ⊞ または ⊞ を使用して必要な診断イベントを選択し、⊞ を押します。
↳ 対処法に関するメッセージが開きます。
- 3. ⊞ + ⊞ を同時に押します。
↳ 対処法に関するメッセージが閉じます。

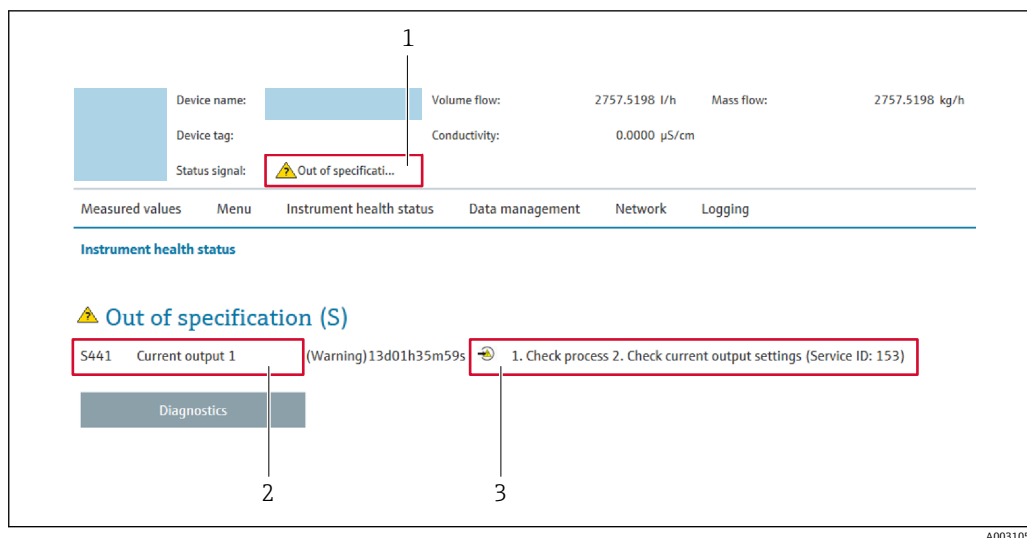
診断 メニュー 内の診断イベントの入力項目に移動します (例: **診断リスト** サブメニュー または **前回の診断結果** パラメータ)。

- 1. ⊞ を押します。
↳ 選択した診断イベントの対処法に関するメッセージが開きます。
- 2. ⊞ + ⊞ を同時に押します。
↳ 対処法に関するメッセージが閉じます。

12.4 ウェブブラウザの診断情報

12.4.1 診断オプション

機器が検知したエラーは、ユーザーがログインするとウェブブラウザのホームページに表示されます。



- 1 ステータスエリアとステータス信号
- 2 診断情報
- 3 対処法（サービス ID）

- i** また、発生した診断イベントは **診断** メニュー に表示されます。
- パラメータを使用 → 194
 - サブメニューを使用 → 195

ステータス信号

ステータス信号は、診断情報（診断イベント）の原因を分類することにより、機器の状態および信頼性に関する情報を提供します。

シンボル	意味
	故障 機器エラーが発生。測定値は無効。
	機能チェック 機器はサービスモード（例：シミュレーション中）
	仕様範囲外 機器は作動中： 技術仕様の範囲外（例：許容プロセス温度の範囲外）
	メンテナンスが必要 メンテナンスが必要。測定値は依然として有効。

- i** ステータス信号は VDI/VDE 2650 および NAMUR 推奨 NE 107 に準拠して分類されます。

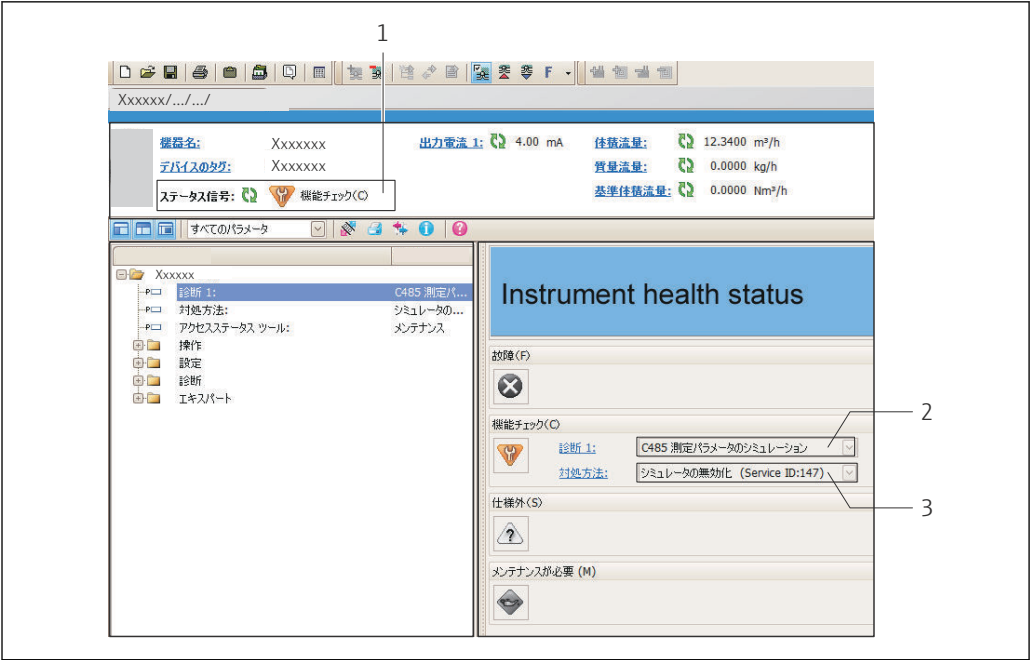
12.4.2 対策情報の呼び出し

問題を迅速に是正できるよう、各診断イベントに対して対策情報が提供されます。これらの対策は、診断イベントおよび関連する診断情報とともに赤で表示されます。

12.5 FieldCare または DeviceCare の診断情報

12.5.1 診断オプション

機器が検知したエラーは、接続が確立されると操作ツールのホームページに表示されます。



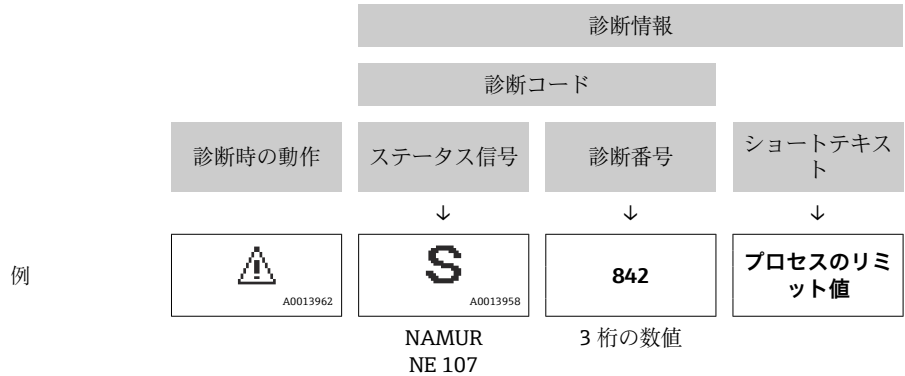
- 1 ステータスエリアとステータス信号 → 164
- 2 診断情報 → 165
- 3 対処法とサービス ID

i また、発生した診断イベントは **診断** メニュー に表示されます。

- パラメータを使用 → 194
- サブメニューを使用 → 195

診断情報

診断情報を使用してエラーを特定することが可能です。ショートテキストにより、エラーに関する情報が提供されます。さらに、診断動作に対応するシンボルが現場表示器の診断情報の前に表示されます。



12.5.2 対策情報の呼び出し

問題を迅速に是正できるよう、各診断イベントに対して対策情報が提供されます。

- ホームページ上
対策情報は、診断情報の下の別個フィールドに表示されます。
- **診断** メニュー 内
対策情報はユーザーインターフェイスの作業エリアに呼び出すことが可能です。

診断 メニュー に移動します。

- 1. 必要なパラメータを呼び出します。

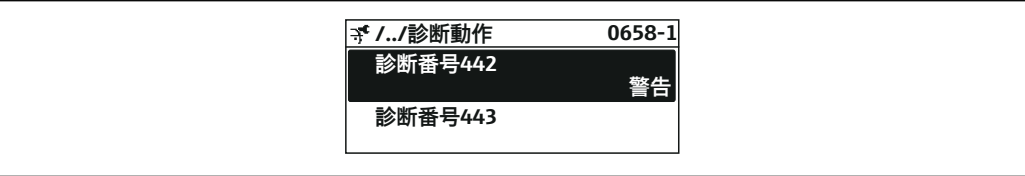
2. 作業エリアの右側で、パラメータの上にマウスポインタを移動させます。
 ➡ 診断イベントに対する対策情報のヒントが表示されます。

12.6 診断情報の適応

12.6.1 診断動作の適応

診断情報の各項目には、工場出荷時に特定の診断動作が割り当てられています。特定の診断情報については、ユーザーがこの割り当てを**診断時の動作** サブメニューで変更できます。

エキスパート → システム → 診断イベントの処理 → 診断時の動作



A0019179-JA

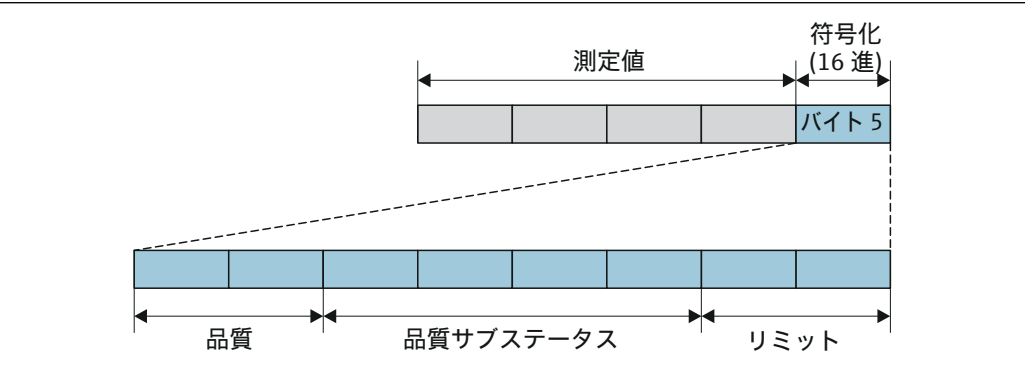
使用可能な診断動作

以下の診断動作を割り当てることが可能です。

診断時の動作	説明
アラーム	機器が測定を停止します。積算計が設定されたアラーム状態になります。診断メッセージが生成されます。
警告	機器は測定を継続します。PROFIBUS を介した測定値出力および積算計は影響を受けません。診断メッセージが生成されます。
ログブック入力のみ	機器は測定を継続します。診断メッセージは イベントログブック サブメニュー (イベントリスト サブメニュー) にのみ表示され、操作画面と交互に表示されることはありません。
オフ	診断イベントは無視され、診断メッセージの生成または入力を行なわれません。

測定値ステータスの表示

アナログ入力、デジタル入力、積算計の各機能ブロックが周期的にデータ伝送するように設定されている場合、機器ステータスは PROFIBUS PA プロファイル仕様 3.02 に準拠して符号化され、符号化バイト (バイト 5) を介して測定値とともに PROFIBUS マスター (クラス 1) に伝送されます。符号化バイトは 3 つのセグメントに分割されます: 品質、品質サブステータス、リミット。



A0032228-JA

36 符号化バイトの構造

符号化バイトの内容は、各機能ブロックのフェールセーフモードの設定に応じて異なります。フェールセーフモードの設定に応じて、PROFINET PA プロファイル仕様 4 に準拠したステータス情報が、符号化バイトのステータス情報を使用して、PROFIBUS マスタ（クラス 1）に伝送されます。

診断動作による測定値ステータスおよび機器ステータスの特定

診断動作が割り当てられている場合、これによって診断情報の測定値ステータスと機器ステータスも変わります。測定値ステータスと機器ステータスは、診断動作の選択と診断情報が所在するグループに応じます。

診断情報は以下のようにグループ化されています。

- センサに関する診断情報：診断番号 000～199 → 170
- 電子モジュールに関する診断情報：診断番号 200～399 → 170
- 設定に関する診断情報：診断番号 400～599 → 171
- プロセスに関する診断情報：診断番号 800～999 → 171

診断情報が所在するグループに応じて、以下の測定値ステータスと機器ステータスは特定の診断動作に固定的に割り当てられています。

センサに関する診断情報：診断番号 000～199

診断時の動作 (設定可能)	測定値のステータス（固定割当て）				機器診断 (固定割当て)
	品質	品質 サブステータス	コード (16 進数)	カテゴリ (NE107)	
アラーム	不良 (BAD)	メンテナンス アラーム	0x24～0x27	F (故障)	メンテナンス アラーム
警告	良 (GOOD)	メンテナンス 要求	0xA8～0xAB	M (メンテナ ンス)	メンテナンス 要求
ログブック入力のみ	良 (GOOD)	OK	0x80～0x8E	-	-
オフ					

電子モジュールに関する診断情報：診断番号 200～399

診断番号 200～301、303～399

診断動作 (設定可能)	測定値のステータス（固定割当て）				機器診断 (固定割当て)
	品質	品質 サブステータス	コード (16 進数)	カテゴリ (NE107)	
アラーム	不良 (BAD)	メンテナンス アラーム	0x24～0x27	F (故障)	メンテナンス アラーム
警告					
ログブック入力のみ	良 (GOOD)	OK	0x80～0x8E	-	-
オフ					

診断情報 302

診断動作 (設定可能)	測定値のステータス (固定割当て)				機器診断 (固定割当て)
	品質	品質 サブステータス	コード (16 進数)	カテゴリ (NE107)	
アラーム	不良 (BAD)	機能チェック、 ローカルオーバーライド	0x3C~0x3F	C	機能チェック
警告	良 (GOOD)	機能チェック	0xBC~0xBF	-	-

Heartbeat Verification が開始されてもデータのロギングは継続されます。信号出力と積算計は影響を受けません。

- 信号ステータス：機能チェック
- 診断動作の選択と：アラームまたは警告（工場設定）

Heartbeat Verification が開始されるとデータのログ出力は中断し、最後の有効な測定値が出力されて積算計カウンタが停止します。

設定に関する診断情報：診断番号 400~599

診断時の動作 (設定可能)	測定値のステータス (固定割当て)				機器診断 (固定割当て)
	品質	品質 サブステータス	コード (16 進数)	カテゴリ (NE107)	
アラーム	不良 (BAD)	機能 チェック	0x3C~0x3F	C (チェック)	機能 チェック
ログブック入力のみ オフ	良 (GOOD)	機能 チェック	0xBC~0xBF	-	機能 チェック
ログブック入力のみ オフ					
ログブック入力のみ オフ	良 (GOOD)	OK	0x80~0x8E	-	-

プロセスに関する診断情報：診断番号 800~999

診断時の動作 (設定可能)	測定値のステータス (固定割当て)				機器診断 (固定割当て)
	品質	品質 サブステータス	コード (16 進数)	カテゴリ (NE107)	
アラーム	不良 (BAD)	プロセス 関連	0x28~0x2B	F (故障)	無効なプロセス 条件
警告	不定 (UNCERTAIN)	プロセス 関連	0x78~0x7B	S (仕様範囲外)	無効なプロセス 条件
ログブック入力のみ オフ	良 (GOOD)	OK	0x80~0x8E	-	-
ログブック入力のみ オフ					

12.7 診断情報の概要

 機器に 1 つ以上のアプリケーションパッケージがある場合は、診断情報および関係する測定変数の数は増加します。

 診断情報の一部の項目では、診断動作を変更することが可能です。診断情報の適合 → 169

12.7.1 センサの診断

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
043	センサの短絡		1. センサケーブルとセンサをチェック 2. Heartbeat 検証の実行 3. センサケーブルまたはセンサを交換	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス [工場出荷時] ¹⁾			
	Quality	Uncertain		
	Quality substatus	Maintenance demanded		
	Coding (hex)	0x68～0x6B		
	ステータス信号	S		
	診断動作	Warning		

1) 診断動作を変更できます。これにより、測定変数の全体ステータスが変更されます。

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
082	データストレージ		1. モジュールの接続をチェック 2. 弊社サービスへ連絡 ■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス		
	Quality	Bad	
	Quality substatus	Maintenance alarm	
	Coding (hex)	0x24～0x27	
	ステータス信号	F	
	診断動作	Alarm	

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
083	電子メモリ内容		■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス		
	Quality	Bad	
	Quality substatus	Maintenance alarm	
	Coding (hex)	0x24～0x27	
	ステータス信号	F	
	診断動作	Alarm	
		1. 機器を再起動する。 2. HistoROM S-DAT のバックアップをリストアする（`機器のリセット`パラメータ） 3. HistoROM S-DAT を交換する。	

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
169	導電率測定失敗	1. 接地の状態を確認 2. 導電率測定が無効	- 導電率 - 補正後の導電率 - 電気部内温度 空検知 オプション - 流速 ローフローカットオフ オプション - 質量流量 - 基準体積流量 - 温度 - 体積流量
	測定変数のステータス		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
170	コイル抵抗	周囲およびプロセス温度をチェックしてください	- 導電率 - 補正後の導電率 密度 オプション - 電気部内温度 空検知 オプション - 流速 ローフローカットオフ オプション - 質量流量 - 基準密度 - 基準体積流量 - 温度 - 体積流量
	測定変数のステータス		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
180	温度センサの故障	3. 温度測定をオフにしてください 1. センサ接続のチェック 2. センサケーブルまたはセンサを交換してください	- 導電率 - 補正後の導電率 密度 オプション - 電気部内温度 空検知 オプション - 流速 ローフローカットオフ オプション - 質量流量 - 基準密度 - 基準体積流量 - 温度 - 体積流量
	測定変数のステータス		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
181	センサ接続	1. センサケーブルとセンサをチェック 2. Heartbeat 検証の実行 3. センサケーブルまたはセンサを交換	- 導電率 - 補正後の導電率 密度 オプション - 電気部内温度 空検知 オプション - 流速 ローフローカットオフ オプション - 質量流量 - 基準密度 - 基準体積流量 - 温度 - 体積流量
	測定変数のステータス		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

12.7.2 電子部の診断

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
201	機器の故障		1. 機器を再起動して下さい。 2. 弊社サービスへ連絡して下さい。	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Maintenance alarm		
	Coding (hex)	0x24～0x27		
	ステータス信号	F		
	診断動作	Alarm		

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
242	ソフトウェアの互換性なし		1. ソフトウェアをチェックして下さい。 2. メイン電子モジュールのフラッシュまたは交換をして下さい。	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Maintenance alarm		
	Coding (hex)	0x24～0x27		
	ステータス信号	F		
	診断動作	Alarm		

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
252	モジュールの互換性なし		1. 電子モジュールを確認 2. 正しいモジュールがあるかを確認（例、 防爆、非防爆） 3. 電子モジュールを交換	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Maintenance alarm		
	Coding (hex)	0x24～0x27		
	ステータス信号	F		
	診断動作	Alarm		

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
252	モジュールの互換性なし		1. 正しい電子モジュールが使われているか確認する 2. 電子モジュールを交換する	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Maintenance alarm		
	Coding (hex)	0x24～0x27		
	ステータス信号	F		
	診断動作	Alarm		

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
262	センサ電子部接続不良		1. センサ電子モジュール (ISEM)とメイン電子基板間の接続ケーブルを確認または交換。 2. ISEM またはメイン電子基板を確認または交換。	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Maintenance alarm		
	Coding (hex)	0x24～0x27		
	ステータス信号	F		
	診断動作	Alarm		

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
270	メイン電子モジュール故障		メイン電子モジュールの変更	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Maintenance alarm		
	Coding (hex)	0x24～0x27		
	ステータス信号	F		
	診断動作	Alarm		

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
271	メイン電子モジュール故障	1. 機器を再起動して下さい。 2. メイン電子モジュールを交換して下さい。	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
272	メイン電子モジュール故障	1. 機器を再起動して下さい。 2. 弊社サービスへ連絡して下さい。	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
273	メイン電子モジュール故障	電子基板を交換	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
275	I/O モジュール 1～n 故障		I/O モジュールの変更	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Maintenance alarm		
	Coding (hex)	0x24～0x27		
	ステータス信号	F		
	診断動作	Alarm		

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
276	I/O モジュール 1～n 誤り		1. 機器を再起動して下さい。 2. IO モジュールを交換して下さい。	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Maintenance alarm		
	Coding (hex)	0x24～0x27		
	ステータス信号	F		
	診断動作	Alarm		

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
283	電子メモリ内容		1. 機器をリセット 2. 弊社サービスへ連絡	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Maintenance alarm		
	Coding (hex)	0x24～0x27		
	ステータス信号	F		
	診断動作	Alarm		

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
302	機器の検証がアクティブ		機器の検証がアクティブです、お待ちください。	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス [工場出荷時] ¹⁾			
	Quality	Good		
	Quality substatus	Function check		
	Coding (hex)	0xBC～0xBF		
	ステータス信号	C		
	診断動作	Warning		

1) 診断動作を変更できます。これにより、測定変数の全体ステータスが変更されます。

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
303	I/O 1～n 構成変更		1. I/O モジュールの構成を適用する。(パラメータ I/O 構成の適用) 2. その後、DD を再読み込みして配線を確認する。	-
	測定変数のステータス			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Maintenance alarm		
	Coding (hex)	0x24～0x27		
	ステータス信号	M		
	診断動作	Warning		

診断情報		修理	影響される測定変数	
番号	ショートテキスト			
311	電子モジュール故障	1. 機器をリセットしないでください 2. 弊社サービスへ連絡	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量	
	測定変数のステータス			
	Quality			Bad
	Quality substatus			Maintenance alarm
	Coding (hex)			0x24～0x27
	ステータス信号			M
	診断動作			Warning

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
332	組み込み HistoROM への書き込み失敗		■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス		
	Quality	Bad	
	Quality substatus	Maintenance alarm	
	Coding (hex)	0x24～0x27	
	ステータス信号	F	
	診断動作	Alarm	
		ユーザインタフェースボードを交換してください 防爆：変換器を交換	

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
361	I/O モジュール 1～n 誤り		1. 機器を再起動して下さい。 2. 電子モジュールをチェックして下さい。 3. IO モジュールまたはメイン電子モジュールを交換してください。	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Maintenance alarm		
	Coding (hex)	0x24～0x27		
	ステータス信号	F		
	診断動作	Alarm		

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
372	センサ電子部 (ISEM)故障		■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス		
	Quality	Bad	
	Quality substatus	Maintenance alarm	
	Coding (hex)	0x24～0x27	
	ステータス信号	F	
	診断動作	Alarm	
		1. 機器を再起動する。 2. 故障が再発するか確認する。 3. センサ電子モジュール(ISEM)を交換する。	

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
373	センサ電子部 (ISEM)故障		■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス		
	Quality	Bad	
	Quality substatus	Maintenance alarm	
	Coding (hex)	0x24～0x27	
	ステータス信号	F	
	診断動作	Alarm	
		1. データの転送または機器のリセットをして下さい。 2. 弊社サービスへ連絡して下さい。	

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
375	I/O- 1～n 通信異常		1. 機器を再起動する。 2. 故障が再発するか確認する。 3. 電子モジュールを含むモジュールラックを交換する。	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Maintenance alarm		
	Coding (hex)	0x24～0x27		
	ステータス信号	F		
	診断動作	Alarm		

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
376	センサ電子部 (ISEM)故障		1. センサ電子モジュール (ISEM)を交換 2. 診断メッセージを消す	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス [工場出荷時] ¹⁾			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Maintenance alarm		
	Coding (hex)	0x24～0x27		
	ステータス信号	S		
	診断動作	Warning		

1) 診断動作を変更できます。これにより、測定変数の全体ステータスが変更されます。

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
377	センサ電子部 (ISEM)故障		■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス [工場出荷時] ¹⁾		
	Quality	Bad	
	Quality substatus	Maintenance alarm	
	Coding (hex)	0x24～0x27	
	ステータス信号	S	
	診断動作	Warning	
		1. センサケーブルとセンサのチェック 2. Heartbeat 検証の実行 3. センサケーブルまたはセンサの交換	

1) 診断動作を変更できます。これにより、測定変数の全体ステータスが変更されます。

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
382	データストレージ		1. T-DAT を挿入する。 2. T-DAT を交換する。	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Maintenance alarm		
	Coding (hex)	0x24～0x27		
	ステータス信号	F		
	診断動作	Alarm		

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
383	電子メモリ内容		1. 機器を再起動する。 2. `機器のリセット'パラメータから T-DAT を削除する。 3. T-DAT を交換する。	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Maintenance alarm		
	Coding (hex)	0x24～0x27		
	ステータス信号	F		
	診断動作	Alarm		

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
387	HistoROM へのバックアップの失敗		弊社サービスにご連絡ください	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Maintenance alarm		
	Coding (hex)	0x24～0x27		
	ステータス信号	F		
	診断動作	Alarm		

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
512	センサ電子部 (ISEM)故障		1. ECC リカバリー時間をチェック 2. ECC をオフにする	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Maintenance alarm		
	Coding (hex)	0x24～0x27		
	ステータス信号	F		
	診断動作	Alarm		

12.7.3 設定の診断

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
330	フラッシュファイルが無効		1. 機器のファームウェアをアップデートする。 2. 機器を再起動する。	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Maintenance alarm		
	Coding (hex)	0x24～0x27		
	ステータス信号	M		
	診断動作	Warning		

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
331	ファームウェアアップデート失敗		1. 機器のファームウェアをアップデートする。 2. 機器を再起動する。	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Maintenance alarm		
	Coding (hex)	0x24～0x27		
	ステータス信号	F		
	診断動作	Warning		

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
410	データ転送		1. 接続をチェックして下さい。 2. データ転送を再試行して下さい。 ■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス		
	Quality	Bad	
	Quality substatus	Maintenance alarm	
	Coding (hex)	0x24～0x27	
	ステータス信号	F	
	診断動作	Alarm	

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
412	ダウンロード中		ダウンロード中です。しばらくお待ち下さい。	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス			
	Quality	Uncertain		
	Quality substatus	Initial value		
	Coding (hex)	0x4C～0x4F		
	ステータス信号	C		
	診断動作	Warning		

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
431	トリム 1～n	調整の実行	-
	測定変数のステータス		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
437	設定の互換性なし	1. 機器を再起動して下さい。 2. 弊社サービスへ連絡して下さい。	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
438	データセット	1. データセットファイルのチェック 2. 機器設定のチェック 3. 新規設定のアップロード/ダウンロード	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
441	電流出力 1～n	1. プロセスの状態をチェックして下さい。 2. 電流出力の設定をチェックして下さい。	-
	測定変数のステータス [工場出荷時] ¹⁾		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

1) 診断動作を変更できます。これにより、測定変数の全体ステータスが変更されます。

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
442	周波数出力 1～n	1. プロセスの状態をチェックして下さい。 2. 周波数出力の設定をチェックして下さい。	-
	測定変数のステータス [工場出荷時] ¹⁾		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

1) 診断動作を変更できます。これにより、測定変数の全体ステータスが変更されます。

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
443	パルス出力 1～n	1. プロセスの状態をチェックして下さい。 2. パルス出力の設定をチェックして下さい。	-
	測定変数のステータス [工場出荷時] ¹⁾		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

1) 診断動作を変更できます。これにより、測定変数の全体ステータスが変更されます。

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
444	電流入力 1～n	1. プロセスを確認。 2. 電流入力の設定を確認。	■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3
	測定変数のステータス [工場出荷時] ¹⁾		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

1) 診断動作を変更できます。これにより、測定変数の全体ステータスが変更されます。

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
453	流量の強制ゼロ出力	流量オーバーライドの無効化	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
463	アナログ入力 1～n 選択が無効	1. モジュール/チャネルの構成を確認 2. I/O モジュールの構成を確認	■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3
	測定変数のステータス		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
482	FB not Auto/Cas	ブロックを AUTO モードへ設定	-
	測定変数のステータス		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
484	エラーモードのシミュレーション		シミュレータの無効化	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Function check		
	Coding (hex)	0x3C～0x3F		
	ステータス信号	C		
	診断動作	Alarm		

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
485	測定値のシミュレーション		シミュレータの無効化	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス			
	Quality	Good		
	Quality substatus	Function check		
	Coding (hex)	0xBC〜0xBF		
	ステータス信号	C		
	診断動作	Warning		

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
486	電流入力 1～n のシミュレーション		シミュレータの無効化	■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3
	測定変数のステータス			
	Quality	Good		
	Quality substatus	Function check		
	Coding (hex)	0xBC～0xBF		
	ステータス信号	C		
	診断動作	Warning		

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
491	電流出力 1～n のシミュレーション		シミュレータの無効化	-
	測定変数のステータス			
	Quality	Good		
	Quality substatus	Function check		
	Coding (hex)	0xBC～0xBF		
	ステータス信号	C		
	診断動作	Warning		

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
492	周波数出力のシミュレーション 1～n	シミュレーション周波数出力を無効にする。	-
	測定変数のステータス		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
493	パルス出力のシミュレーション 1～n	シミュレーションパルス出力を無効にする	-
	測定変数のステータス		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
494	シミュレーションスイッチ出力 1～n	シミュレーションスイッチ出力を無効にする。	-
	測定変数のステータス		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
495	診断イベントのシミュレーション	シミュレータの無効化	-
	測定変数のステータス		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
496	ステータス入力のシミュレーション		ステータス入力のシミュレーションを止める。	-
	測定変数のステータス			
	Quality	Good		
	Quality substatus	Function check		
	Coding (hex)	0xBC～0xBF		
	ステータス信号	C		
	診断動作	Warning		

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
497	ブロック出力シミュレーション		シミュレーションを無効にする	-
	測定変数のステータス			
	Quality	Good		
	Quality substatus	Ok		
	Coding (hex)	0x80～0x83		
	ステータス信号	C		
	診断動作	Warning		

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
511	ISEM の設定に問題あり		1. 測定周期と積分時間をチェック 2. センサ特性をチェック	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Maintenance alarm		
	Coding (hex)	0x24～0x27		
	ステータス信号	C		
	診断動作	Alarm		

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
520	I/O 1～n ハードウェア構成無効		1. I/O ハードの構成を確認 2. 問題のある I/O モジュールを交換 3. 正しいスロットにダブルパルスモジュールを挿入	－
	測定変数のステータス			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Function check		
	Coding (hex)	0x3C～0x3F		
	ステータス信号	F		
	診断動作	Alarm		

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
530	電極洗浄中。	電極洗浄 (ECC)をオフにする	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
531	空検知調整に問題あり	空検知調整の実行	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 体積流量
	測定変数のステータス [工場出荷時] ¹⁾		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

1) 診断動作を変更できます。これにより、測定変数の全体ステータスが変更されます。

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
537	設定	1. IP アドレスの確認 2. IP アドレスの変更	-
	測定変数のステータス		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
594	リレー出力 シミュレーション	シミュレーションスイッチ出力を無効にする。	-
	測定変数のステータス		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

12.7.4 プロセスの診断

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
803	電流ループ		1. 配線のチェックをして下さい。 2. IO モジュールを交換して下さい。	-
	測定変数のステータス			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Process related		
	Coding (hex)	0x28～0x2B		
	ステータス信号	F		
	診断動作	Alarm		

診断情報			修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト			
832	基板温度が高すぎます		周囲温度を下げてください。	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス [工場出荷時] ¹⁾			
	Quality	Bad		
	Quality substatus	Process related		
	Coding (hex)	0x28～0x2B		
	ステータス信号	S		
	診断動作	Warning		

1) 診断動作を変更できます。これにより、測定変数の全体ステータスが変更されます。

診断情報 ショートテキスト		修理	影響される測定変数
833	基板温度が低すぎます	周囲温度を上げて下さい。	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
測定変数のステータス [工場出荷時] ¹⁾			
Quality	Bad		
Quality substatus	Process related		
Coding (hex)	0x28～0x2B		
ステータス信号	S		
診断動作	Warning		

1) 診断動作を変更できます。これにより、測定変数の全体ステータスが変更されます。

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
834	プロセス温度が高すぎます	プロセス温度を下げて下さい。	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス [工場出荷時] ¹⁾		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

1) 診断動作を変更できます。これにより、測定変数の全体ステータスが変更されます。

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
835	プロセス温度が低すぎます	プロセス温度を上げてください。	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス [工場出荷時] ¹⁾		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

1) 診断動作を変更できます。これにより、測定変数の全体ステータスが変更されます。

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
842	プロセスのリミット値	ローフローカットオフ有効! 1. ローフローカットオフの設定を確認してください。	■ 流速 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 体積流量
	測定変数のステータス [工場出荷時] ¹⁾		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

1) 診断動作を変更できます。これにより、測定変数の全体ステータスが変更されます。

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
882	入力信号	1. 入力設定をチェック 2. 圧力センサまたはプロセス状態をチェック	■ 補正後の導電率 ■ 測定値 1 ■ 測定値 2 ■ 測定値 3 ■ 密度 オプション ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
937	センサの対称性	2. 診断メッセージを消して下さい。 1. センサ近傍の磁界を取り除いてください。	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス [工場出荷時] ¹⁾		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

1) 診断動作を変更できます。これにより、測定変数の全体ステータスが変更されます。

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
938	EMC 干渉	1. EMC の影響について周囲条件を確認してください 2. 診断メッセージを消してください	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 密度 オプション ■ 電気部内温度 ■ 空検知 オプション ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準密度 ■ 基準体積流量 ■ 温度 ■ 体積流量
	測定変数のステータス [工場出荷時] ¹⁾		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

1) 診断動作を変更できます。これにより、測定変数の全体ステータスが変更されます。

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
961	電極電位が仕様外	1. プロセスの状態を確認 2. 周囲の状態を確認	■ 空検知 オプション ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 体積流量
	測定変数のステータス [工場出荷時] ¹⁾		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

1) 診断動作を変更できます。これにより、測定変数の全体ステータスが変更されます。

診断情報		修理	影響される測定変数
番号	ショートテキスト		
962	パイプ空	1. 満管調整を実施してください 2. パイプ空調整を実施してください 3. 空検知をオフにしてください	■ 導電率 ■ 補正後の導電率 ■ 流速 ■ ローフローカットオフ オプション ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 体積流量
	測定変数のステータス [工場出荷時] ¹⁾		
	Quality		
	Quality substatus		
	Coding (hex)		
	ステータス信号		
	診断動作		

1) 診断動作を変更できます。これにより、測定変数の全体ステータスが変更されます。

12.8 未処理の診断イベント

診断 メニュー を使用すると、現在の診断イベントおよび前回の診断イベントを個別に表示させることが可能です。

-  診断イベントの対処法を呼び出す方法：
- 現場表示器を使用→  166
 - ウェブブラウザを使用→  167
 - 「FieldCare」操作ツールを使用→  168
 - 「DeviceCare」操作ツールを使用→  168

 その他の未処理の診断イベントは**診断リスト** サブメニュー→  195 に表示されます。

ナビゲーション
「診断」メニュー

🔍 診断	
現在の診断結果	→  195
前回の診断結果	→  195
再起動からの稼動時間	→  195
稼動時間	→  195

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス
現在の診断結果	1つの診断イベントが発生していること。	診断情報に加えて現在発生している診断イベントを表示。  2つあるいはそれ以上のメッセージが同時に発生した場合は、最優先に処理する必要のあるメッセージが表示されます。	診断動作のシンボル、診断コード、ショートメッセージ
前回の診断結果	すでに2つの診断イベントが発生していること。	診断情報に加えて以前に発生した現在の診断イベントを表示。	診断動作のシンボル、診断コード、ショートメッセージ
再起動からの稼働時間	–	最後に機器が再起動してからの機器の運転時間を表示。	日 (d)、時 (h)、分 (m)、秒 (s)
稼働時間	–	装置の稼働時間を示す。	日 (d)、時 (h)、分 (m)、秒 (s)

12.9 診断リスト

現在未処理の診断イベントを最大5件まで関連する診断情報とともに **診断リスト** サブメニューに表示できます。5件以上の診断イベントが未処理の場合は、最優先に処理する必要のあるイベントが表示部に示されます。

ナビゲーションパス

診断 → 診断リスト



A0014006-JA

図 37 現場表示器の使用例



診断イベントの対処法を呼び出す方法：

- 現場表示器を使用 → 図 166
- ウェブブラウザを使用 → 図 167
- 「FieldCare」操作ツールを使用 → 図 168
- 「DeviceCare」操作ツールを使用 → 図 168

12.10 イベントログブック

12.10.1 イベントログの読み出し

イベントリストサブメニューでは、発生したイベントメッセージの一覧を時系列に表示できます。

ナビゲーションパス

診断 メニュー → イベントログブック サブメニュー → イベントリスト



図 38 現場表示器の使用例

- 最大 20 件のイベントメッセージを時系列に表示できます。
- **拡張 HistoROM** アプリケーションパッケージ (注文オプション) が有効な場合、イベントリストには最大 100 件までストア可能です。

イベント履歴には、次の入力項目が含まれます。

- 診断イベント → 図 171
- 情報イベント → 図 196

各イベントの発生時間に加えて、そのイベントの発生または終了を示すシンボルも割り当てられます。

- 診断イベント
 - ☹ : イベントの発生
 - ⌚ : イベントの終了
- 情報イベント
 - ☺ : イベントの発生

 診断イベントの対処法を呼び出す方法 :

- 現場表示器を使用 → 図 166
- ウェブブラウザを使用 → 図 167
- 「FieldCare」操作ツールを使用 → 図 168
- 「DeviceCare」操作ツールを使用 → 図 168

 表示されたイベントメッセージのフィルタリング → 図 196

12.10.2 イベントログブックのフィルタリング

フィルタオプション パラメータを使用すると、イベントリストサブメニューに表示するイベントメッセージのカテゴリを設定できます。

ナビゲーションパス

診断 → イベントログブック → フィルタオプション

フィルタカテゴリー

- すべて
- 故障 (F)
- 機能チェック (C)
- 仕様範囲外 (S)
- メンテナンスが必要 (M)
- 情報 (I)

12.10.3 診断イベントの概要

診断イベントとは異なり、情報イベントは診断リストには表示されず、イベントログブックにのみ表示されます。

情報番号	情報名
I1000	----- (装置 OK)
I1079	センサが交換されました。
I1089	電源オン
I1090	設定のリセット
I1091	設定変更済

情報番号	情報名
I1092	HistoROM のバックアップ削除
I1137	電子部が交換されました
I1151	履歴のリセット
I1155	電子部内温度のリセット
I1156	メモリエラー トレンド
I1157	メモリエラー イベントリスト
I1184	ディスプレイが接続されています
I1256	表示: アクセスステータス変更
I1278	I/O モジュールのリセットを検出
I1335	ファームウェアの変更
I1351	空検知調整の失敗
I1353	空検知調整の完了
I1361	Web サーバ:ログイン失敗
I1397	フィールドバス: アクセスステータス変更
I1398	CDI: アクセスステータス変更
I1443	Coating thickness not determined
I1444	機器の検証パス
I1445	機器の検証のフェール
I1457	フェール: 測定エラー検証
I1459	フェール: I/O モジュールの検証
I1461	フェール: センサの検証
I1462	フェール: センサの電子機器モジュールの検証
I1512	ダウンロードを開始しました
I1513	ダウンロード終了
I1514	アップロード開始
I1515	アップロード完了
I1618	I/O モジュール 2 交換
I1619	I/O モジュール 3 交換
I1621	I/O モジュール 4 交換
I1622	校正の変更
I1624	すべての積算計をリセット
I1625	書き込み保護有効
I1626	書き込み禁止無効
I1627	Web サーバ:ログイン成功
I1628	ディスプレイ:ログイン成功
I1629	CDI: ログイン成功
I1631	Web サーバアクセス変更
I1632	ディスプレイ:ログイン失敗
I1633	CDI: ログインの失敗
I1634	工場初期値にリセット
I1635	出荷時設定にリセット
I1636	フィールドバスのアドレスをリセット
I1639	最大のスイッチサイクル数へ到達

情報番号	情報名
I1649	ハードウェアの書き込み保護が有効
I1650	ハードウェアの書き込み保護は無効
I1712	新しいフラッシュファイルを受領
I1725	センサ電子部モジュール (ISEM) 交換
I1726	設定のバックアップ失敗

12.11 機器のリセット

機器リセット パラメータ (→ ⓘ 141)を使用して、機器の全設定または一部の設定を所定の状態にリセットできます。

12.11.1 「機器リセット」パラメータの機能範囲

選択項目	説明
キャンセル	何も実行せずにこのパラメータを終了します。
納入時の状態に	ユーザー固有の初期設定で注文されたすべてのパラメータをユーザー固有の値にリセットします。その他のパラメータはすべて、工場出荷時の設定にリセットされます。
機器の再起動	再起動により、揮発性メモリ (RAM) に保存されているデータをもつすべてのパラメータが工場設定にリセットされます (例：測定値データ)。機器設定に変更はありません。
S-DAT のバックアップをリストア	S-DAT に保存されているデータを復元します。追加情報：この機能はメモリの"083 メモリ内容が不整合"を解決するためまたは、新しい S - DAT を取り付けたときに S-DAT のデータを復元するために使用できます。  このオプションはアラーム状態でのみ表示されます。

12.12 機器情報

機器情報 サブメニューには、機器の識別に必要な各種情報を表示するパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」メニュー → 機器情報

▶ 機器情報		
デバイスのタグ		→ ⓘ 199
シリアル番号		→ ⓘ 199
ファームウェアのバージョン		→ ⓘ 199
機器名		
オーダーコード		→ ⓘ 199
拡張オーダーコード 1		→ ⓘ 199

拡張オーダーコード 2	→ 199
拡張オーダーコード 3	→ 199
ENP バージョン	→ 199
PROFIBUS ident number	→ 199
Status PROFIBUS Master Config	→ 199

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
デバイスのタグ	機器のタグを表示します。	最大 32 文字（英字、数字、または特殊文字（例：@, %, /）など）	Promag 500 DP
シリアル番号	機器のシリアル番号の表示。	最大 11 文字の英字および数字	-
ファームウェアのバージョン	ファームウェアバージョンの表示。	形式 xx.yy.zz の文字列	-
オーダーコード	機器のオーダーコードの表示。  オーダーコードはセンサおよび変換器の銘板の「オーダーコード」欄に明記されています。	英字、数字、特定の句読点（/ など）で構成される文字列	-
機器名		最大 32 文字（英字または数字など）	-
拡張オーダーコード 1	拡張オーダーコードの 1 番目の部分を表示。  拡張オーダーコードもセンサおよび変換器の銘板の「拡張オーダーコード」欄に明記されています。	文字列	-
拡張オーダーコード 2	拡張オーダーコードの 2 番目の部分を表示。  拡張オーダーコードもセンサおよび変換器の銘板の「拡張オーダーコード」欄に明記されています。	文字列	-
拡張オーダーコード 3	拡張オーダーコードの 3 番目の部分を表示。  拡張オーダーコードもセンサおよび変換器の銘板の「拡張オーダーコード」欄に明記されています。	文字列	-
ENP バージョン	電子ネームプレート (ENP) のバージョンを表示。	文字列	-
PROFIBUS ident number	PROFIBUS 識別番号を表示します。	0~FFFF	0x156C
Status PROFIBUS Master Config	PROFIBUS マスタ設定の状態を表示します。	■ アクティブ ■ 無効	-

12.13 ファームウェアの履歴

リリース 日付	ファーム ウェアのバ ージョン	「ファーム ウェアのバ ージョン」 のオーダー コード	ファームウェア 変更	資料の種類	関連資料
2018 年 6 月	01.00.zz	オプション 75	オリジナルファーム ウェア	取扱説明書	BA01866D/06/EN/01.18

 サービスインタフェース (CDI) を使用してファームウェアを現行バージョンまたは旧バージョンに書き換えることができます。

 ファームウェアのバージョンと以前のバージョン、インストールされた DD ファイルおよび操作ツールとの互換性については、メーカー情報資料の機器情報を参照してください。

-  メーカー情報は、以下から入手できます。
- 当社ウェブサイトのダウンロードエリアより：www.endress.com → Download
 - 次の詳細を指定します。
 - 製品ルートコード：例、5H5B
製品ルートコードはオーダーコードの最初の部分：機器の銘板を参照
 - テキスト検索：メーカー情報
 - メディアタイプ：ドキュメント – 技術資料

13 メンテナンス

13.1 メンテナンス作業

特別なメンテナンスは不要です。

13.1.1 外部洗浄

機器の外部を洗浄する場合は、必ずハウジングまたはガスケットの表面に傷をつけない洗浄剤を使用してください。

13.1.2 内部洗浄

ピグ洗浄

ピグを使用して洗浄するときは、測定チューブとプロセス接続の内径を考慮する必要があります。センサおよび変換器の外形寸法および長さはすべて、「技術仕様書」を参照してください。

13.1.3 シールの交換

センサのシール（特に、無菌成形シール）は定期的に交換する必要があります。

交換間隔は、洗浄サイクルの頻度、洗浄温度、および流体温度に左右されます。

交換用シール（アクセサリ）→  233

13.2 測定機器およびテスト機器

Endress+Hauser は、Netilion やテスト機器など、さまざまな測定機器やテスト機器を提供しています。

 サービスの詳細については、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

一部の測定機器およびテスト機器のリスト：→  206

13.3 当社サービス

Endress+Hauser では、再校正、メンテナンスサービス、機器テストなど、メンテナンスに関する幅広いサービスを提供しています。

 サービスの詳細については、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

14 修理

14.1 一般的注意事項

14.1.1 修理および変更コンセプト

Endress+Hauser の修理および変更コンセプトでは、次のことが考慮されています。

- 機器はモジュール式の構造となっています。
- スペアパーツは合理的なキットに分類され、関連する取付指示が付属します。
- 修理は、Endress+Hauser サービス担当または適切な訓練を受けたユーザーが実施します。
- 認証を取得した機器は、Endress+Hauser サービス担当または工場でのみ別の認証取得機器に交換できます。

14.1.2 修理および変更に関する注意事項

機器の修理および変更を行う場合は、以下の点に注意してください。

- ▶ 当社純正スペアパーツのみを使用してください。
- ▶ 取付指示に従って修理してください。
- ▶ 適用される規格、各地域/ 各国の規定、防爆資料 (XA)、認証を遵守してください。
- ▶ すべての修理/変更作業を文書化し、Netilion Analytics に詳細情報を入力してください。

14.2 スペアパーツ

デバイスビューワー (www.endress.com/deviceviewer) :

機器のスペアパーツがすべてオーダーコードとともにリストされており、注文することが可能です。関連する設置要領書がある場合は、これをダウンロードすることもできます。



機器シリアル番号 :

- 機器の銘板に明記されています。
- **機器情報** サブメニュー 内の **シリアル番号** パラメータ (→ ⓘ 199) を使用して読み出せます。

14.3 Endress+Hauser サービス

Endress+Hauser は、さまざまなサービスを提供しています。



サービスの詳細については、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

14.4 返却

機器の安全な返却要件は、機器の種類と各国の法によって異なります。

1. ウェブページの情報を参照してください。
<https://www.endress.com/support/return-material>
↳ 地域を選択します。
2. 機器を返却する場合、機器が衝撃や外部の影響から確実に保護されるように梱包してください。納入時の梱包材を使用すると、最適な保護効果が得られます。

14.5 廃棄



電子・電気機器廃棄物（WEEE）に関する指令 2012/19/EU により必要とされる場合、分別されていない一般廃棄物として処理する WEEE を最小限に抑えるため、製品には絵文字シンボルが付いています。このマークが付いている製品は、分別しない一般ゴミとしては廃棄しないでください。代わりに、適切な条件下で廃棄するために製造者へご返送ください。

14.5.1 機器の取外し

1. 機器の電源をオフにします。

警告

プロセス条件によっては、危険が及ぶ可能性があります。

- ▶ 機器内の圧力、高温、腐食性測定物を使用するなど、危険なプロセス条件の場合は注意してください。

2. 「機器の取付け」および「機器の接続」セクションに明記された取付けおよび接続手順と逆の手順を実施してください。安全上の注意事項に従ってください。

14.5.2 機器の廃棄

警告

健康に有害な流体によって、人体や環境に危険が及ぶ可能性があります。

- ▶ 隙間に入り込んだ、またはプラスチックから拡散した物質など、健康または環境に有害な残留物を、機器および隙間の溝からすべて確実に除去してください。

廃棄する際には、以下の点に注意してください。

- ▶ 適用される各地域/ 各国の規定を遵守してください。
- ▶ 機器コンポーネントを適切に分別および再利用してください。

15 アクセサリ

変換器およびセンサには、アクセサリも多数用意されています。詳細については、最寄りの弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。オーダーコードに関する詳細は、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせいただくか、弊社ウェブサイトの製品ページをご覧ください：www.endress.com。

15.1 機器固有のアクセサリ

15.1.1 変換器用

アクセサリ	説明
変換器 ■ Proline 500 – デジタル ■ Proline 500	交換用あるいは在庫用変換器。オーダーコードを使用して以下の仕様を指定します。 ■ 認証 ■ 出力 ■ 入力 ■ 表示/操作 ■ハウジング ■ ソフトウェア  ■ Proline 500 – デジタル変換器： オーダー番号：5X5BXX-*****A  ■ Proline 500 変換器： オーダー番号：5X5BXX-*****B  交換用の Proline 500 変換器： 注文時に現在の変換器のシリアル番号を明示することが重要です。シリアル番号に基づき、交換した機器の機器固有のデータ（例：校正ファクタ）を新しい変換器で使用することが可能です。  ■ Proline 500 – デジタル変換器：設置要領書 EA01151D ■ Proline 500 変換器：設置要領書 EA01152D
外部の WLAN アンテナ	外部の WLAN アンテナ、接続ケーブル 1.5 m (59.1 in) と 2 つのアンクル金具付き。「同梱アクセサリ」のオーダーコード、オプション P8「広域ワイヤレスアンテナ」  ■ 外部の WLAN アンテナは、サニタリアプリケーションでの使用には適していません。 ■ WLAN インタフェースに関する追加情報→ 87。  オーダー番号：71351317  設置要領書 EA01238D
パイプ取付セット	変換器用パイプ取付セット  Proline 500 – デジタル変換器 オーダー番号：71346427  設置要領書 EA01195D  Proline 500 変換器 オーダー番号：71346428
日除けカバー 変換器 ■ Proline 500 – デジタル ■ Proline 500	天候（例：雨水、直射日光による過熱）の影響から機器を保護するために使用します。  ■ Proline 500 – デジタル変換器 オーダー番号：71343504 ■ Proline 500 変換器 オーダー番号：71343505  設置要領書 EA01191D

ディスプレイガード Proline 500 – デジタル	たとえば、砂漠地域での砂などの衝撃または傷から表示部を保護するために使用します。  オーダー番号：71228792  設置要領書 EA01093D
接続ケーブル Proline 500 – デジタル センサ – 変換器	接続ケーブルは機器と一緒に（「ケーブル、センサ接続」のオーダーコード）、またはアクセサリとして注文できます（オーダー番号 DK5012）。 以下のケーブル長が用意されています（「ケーブル、センサ接続」のオーダーコード）。 ■ オプション B：20 m (65 ft) ■ オプション E：最大 50 m までユーザー設定可能 ■ オプション F：最大 165 ft までユーザー設定可能  Proline 500 – デジタル接続ケーブルの許容最大ケーブル長： 300 m (1000 ft)
接続ケーブル Proline 500 センサ – 変換器	接続ケーブルは機器と一緒に（「ケーブル、センサ接続」のオーダーコード）、またはアクセサリとして注文できます（オーダー番号 DK5012）。 以下のケーブル長が用意されています（「ケーブル、センサ接続」のオーダーコード）。 ■ オプション 1：5 m (16 ft) ■ オプション 2：10 m (32 ft) ■ オプション 3：20 m (65 ft) ■ オプション 4：ユーザー設定可能なケーブル長 (m) ■ オプション 5：ユーザー設定可能なケーブル長 (ft)  Proline 500 接続ケーブルの許容ケーブル長：測定物の導電率に応じて最大 200 m (660 ft)

15.1.2 センサ用

アクセサリ	説明
アダプタセット	Promag H を Promag 30/33 A または Promag 30/33 H（呼び口径 25A）の代わりに設置するためのアダプタ接続 構成内容： ■ プロセス接続（2） ■ ネジ ■ シール
シールセット	センサのシールの定期交換用
スペーサ	既存の設置で呼び口径 80 mm/100 mm のセンサを交換する場合、新しいセンサの方が短いとスペーサが必要になります。
溶接治具	プロセス接続としての溶接ソケット：配管への設置用の溶接治具
アースリング	確実に正確な測定が行われるよう、ライニングされた計測チューブ内の測定物を接地するために使用します。  アースリングは、機器の注文コードを使用して注文するか、または DK5HR 注文コードを使用してアクセサリとして構成および注文することが可能です。
アースリング	確実に正確な測定が行われるよう、ライニングされた計測チューブ内の測定物を接地するために使用します。  詳細については、設置要領書 EA00070D を参照してください。
取付キット	構成内容： ■ プロセス接続（2） ■ ネジ ■ シール
壁面取付キット	機器用の壁面取付キット（呼び口径 2～25 mm（1/12～1"）のみ）

15.2 サービス関連のアクセサリ

アクセサリ	説明
Applicator	Endress+Hauser 製機器のセレクション/サイジング用ソフトウェア。 - 産業上の要件に応じた機器の選定 - 最適な流量計を選定するために必要なあらゆるデータの計算（例：呼び口径、圧力損失、流速、精度） - 計算結果を図で表示 - プロジェクトの全期間中、部分オーダーコードの確認、あらゆるプロジェクト関連データおよびパラメータの管理、文書化、アクセスが可能です。 Applicator は以下から入手可能： - インターネット経由：https://portal.endress.com/webapp/applicator - 現場の PC インストール用にダウンロード可能な DVD
Netilion	IIoT エコシステム：いつでもどこでも必要な知識を取得 Endress+Hauser の Netilion IIoT エコシステムにより、プラント性能の最適化、ワークフローのデジタル化、知識の共有、コラボレーションの改善を実現できます。 Endress+Hauser は、長年にわたるプロセスオートメーションでの経験を活かして、プロセス産業に IIoT エコシステムを構築し、取得したデータから有益な知識や情報を提供します。この知識をプロセスの最適化に活用して、プラントの可用性、効率、信頼性を高めることができるため、最終的にはより収益性の高いプラント操業を実現できます。 www.netilion.endress.com
FieldCare	Endress+Hauser の FDT ベースのプラントアセット管理ツールです。システム内のすべてのスマートフィールド機器を設定できるため、管理作業に役立ちます。ステータス情報を使用することにより、各機器のステータスと状態を容易かつ効果的にチェックできます。  取扱説明書 BA00027S / BA00059S
DeviceCare	Endress+Hauser 製フィールド機器の接続および設定用ツール。  イノベーションカタログ IN01047S

15.3 システムコンポーネント

アクセサリ	説明
Memograph M グラフィックデータマネージャ	Memograph M グラフィックデータマネージャには、関連する測定変数の情報がすべて表示されます。測定値を正確に記録し、リミット値の監視、測定点の解析を行います。これらのデータは 256 MB の内部メモリに保存されます。また、SD カードや USB メモリにも保存できます。 - 技術仕様書 TI00133R - 取扱説明書 BA00247R
iTEMP	あらゆるアプリケーションに使用でき、気体、蒸気、液体の測定に最適な温度伝送器です。流体温度の読み取りに使用できます。  「活用分野」資料 FA00006T

16 技術データ

16.1 アプリケーション

本機器は、最小導電率が $5 \mu\text{S}/\text{cm}$ の液体の流量測定にのみ使用することを目的としたものです。

注文したバージョンに応じて、本機器は爆発性、可燃性、毒性、酸化性の測定物も測定できます。

機器が耐用年数にわたって適切な動作条件を維持することを保証するため、接液部材質が十分に耐性のある測定物にのみ使用してください。

16.2 機能とシステム構成

測定原理	電磁誘導のファラデーの法則に基づいた電磁式流量測定です。
計測システム	計測システムは、変換器とセンサで構成されています。変換器とセンサは物理的に別の場所に設置されます。これらは接続ケーブルを使用して相互に接続されます。 計測機器の構成に関する情報 → 図 13

16.3 入力

測定変数	直接測定するプロセス変数 ■ 体積流量（起電力に比例） ■ 温度²⁾ ■ 導電率 計算された測定変数 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 補正導電率²⁾
------	---

測定範囲	通常は、所定の精度で $v = 0.01 \sim 10 \text{ m/s}$ ($0.03 \sim 33 \text{ ft/s}$)
------	---

流量値 (SI 単位) : 呼び口径 2～125 mm ($\frac{1}{2} \sim 5''$)

呼び口径		推奨流量	工場設定		
[mm]	[in]	最小/最大フルスケール値 ($v \sim 0.3/10 \text{ m/s}$)	電流出力のフルスケール値 ($v \sim 2.5 \text{ m/s}$)	パルス値 ($\sim 2 \text{ パルス/s}$)	ローフローカットオフ ($v \sim 0.04 \text{ m/s}$)
		[dm ³ /min]	[dm ³ /min]	[dm ³]	[dm ³ /min]
2	$\frac{1}{12}$	0.06～1.8	0.5	0.005	0.01
4	$\frac{5}{32}$	0.25～7	2	0.025	0.05
8	$\frac{5}{16}$	1～30	8	0.1	0.1
15	$\frac{1}{2}$	4～100	25	0.2	0.5

2) 呼び口径 15～150 mm ($\frac{1}{2} \sim 6''$) および「センサオプション」のオーダーコード、オプション CI「流体温度測定」の場合にのみ使用できます。

呼び口径		推奨 流量	工場設定		
		最小/最大フルスケール値 ($v \sim 0.3/10 \text{ m/s}$)	電流出力のフルスケール値 ($v \sim 2.5 \text{ m/s}$)	パルス値 ($\sim 2 \text{ パルス/s}$)	ローフローカットオフ ($v \sim 0.04 \text{ m/s}$)
[mm]	[in]	[dm ³ /min]	[dm ³ /min]	[dm ³]	[dm ³ /min]
25 ¹⁾	1	9～300	75	0.5	1
40	1 ½	25～700	200	1.5	3
50	2	35～1 100	300	2.5	5
65	–	60～2 000	500	5	8
80	3	90～3 000	750	5	12
100	4	145～4 700	1200	10	20
125	5	220～7 500	1850	15	30

1) この値は、製品バージョン 5HxB26 に適用されます。

流量値 (SI 単位) : 呼び口径 150 mm (6")

呼び口径		推奨 流量	工場設定		
		最小/最大フルスケール値 ($v \sim 0.3/10 \text{ m/s}$)	電流出力のフルスケール値 ($v \sim 2.5 \text{ m/s}$)	パルス値 ($\sim 2 \text{ パルス/s}$)	ローフローカットオフ ($v \sim 0.04 \text{ m/s}$)
[mm]	[in]	[m ³ /h]	[m ³ /h]	[m ³]	[m ³ /h]
150	6	20～600	150	0.03	2.5

流量値 (US 単位) : 呼び口径 ½～6" (2～150 mm)

呼び口径		推奨 流量	工場設定		
		最小/最大フルスケール値 ($v \sim 0.3/10 \text{ m/s}$)	電流出力のフルスケール値 ($v \sim 2.5 \text{ m/s}$)	パルス値 ($\sim 2 \text{ パルス/s}$)	ローフローカットオフ ($v \sim 0.04 \text{ m/s}$)
[in]	[mm]	[gal/min]	[gal/min]	[gal]	[gal/min]
½	2	0.015～0.5	0.1	0.001	0.002
⅓	4	0.07～2	0.5	0.005	0.008
⅝	8	0.25～8	2	0.02	0.025
½	15	1～27	6	0.05	0.1
1 ¹⁾	25	2.5～80	18	0.2	0.25
1 ½	40	7～190	50	0.5	0.75
2	50	10～300	75	0.5	1.25
3	80	24～800	200	2	2.5
4	100	40～1 250	300	2	4
5	125	60～1 950	450	5	7
6	150	90～2 650	600	5	12

1) この値は、製品バージョン 5HxB26 に適用されます。

推奨の測定範囲

 流量制限 → 222

 カスタディトランスファーの場合、適用される認定によって許容される測定範囲、パルス値、ローフローカットオフが決まります。

計測可能流量範囲

1000 : 1 以上

 カスタディトランスファーの場合、計測可能流量範囲は呼び口径に応じて 100 : 1 ~ 630 : 1 となります。詳細については、適用される認定に規定されています。

入力信号**外部測定値**

特定の測定変数の測定精度を上げるため、または質量流量を計算するため、オートメーションシステムは機器にさまざまな測定値を連続して書き込むことができます。

- 測定物温度により、温度補正された導電率測定が可能（例：iTEMP）
- 質量流量を計算するための基準密度

 Endress+Hauser では各種の圧力伝送器と温度計を用意しています。「アクセサリ」セクションを参照してください。→ 206

基準体積流量を計算するために外部測定値を読み込むことを推奨します。

電流入力

電流入力を介して測定値がオートメーションシステムから機器に書き込まれます
→ 209。

デジタル通信

PROFIBUS DP を介して、測定値がオートメーションシステムから書き込まれます。

電流入力 0/4~20 mA

電流入力	0/4~20 mA（アクティブ/パッシブ）
電流スパン	■ 4~20 mA（アクティブ） ■ 0/4~20 mA（パッシブ）
分解能	1 µA
電圧降下	通常：0.6~2 V、3.6~22 mA の場合（パッシブ）
最大入力電圧	≤ 30 V（パッシブ）
開回路電圧	≤ 28.8 V（アクティブ）
可能な入力変数	■ 温度 ■ 密度

ステータス入力

最大入力値	■ DC -3~30 V ■ ステータス入力 that アクティブ（オン）な場合：R_i > 3 kΩ
応答時間	設定可能：5~200 ms
入力信号レベル	■ ローレベル：DC -3~+5 V ■ ハイレベル：DC 12~30 V
割り当て可能な機能	■ オフ ■ 各積算計を個別にリセット ■ すべての積算計をリセット ■ 流量の強制ゼロ出力

16.4 出力

出力信号

PROFIBUS DP

信号エンコーディング	NRZ コード
データ転送	9.6 kBaud...12 MBaud
終端抵抗	内蔵、DIP スイッチにより使用可能

電流出力 4～20 mA

信号モード	可能な設定 : ■ アクティブ ■ パッシブ
電流範囲	可能な設定 : ■ 4～20 mA NAMUR ■ 4～20 mA US ■ 4～20 mA ■ 0～20 mA (信号モードが有効な場合のみ) ■ 固定電流値
最大出力値	22.5 mA
開回路電圧	DC 28.8 V (アクティブ)
最大入力電圧	DC 30 V (パッシブ)
負荷	0～700 Ω
分解能	0.38 μA
ダンピング	設定可能 : 0～999.9 秒
割当て可能な測定変数	■ 体積流量 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 流速 ■ 導電率 ■ 補正導電率 ■ 温度 ■ 電子モジュール内温度

電流出力 4～20 mA Ex i パッシブ

オーダーコード	「出力 ; 入力 2」 (21)、「出力 ; 入力 3」 (022) : オプション C : 電流出力 4～20 mA Ex i パッシブ
信号モード	パッシブ
電流範囲	可能な設定 : ■ 4～20 mA NAMUR ■ 4～20 mA US ■ 4～20 mA ■ 固定電流値
最大出力値	22.5 mA
最大入力電圧	DC 30 V
負荷	0～700 Ω
分解能	0.38 μA

ダンピング	設定可能：0～999 秒
割当て可能な測定変数	■ 体積流量 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 流速 ■ 導電率 ■ 補正導電率 ■ 温度 ■ 電子モジュール内温度

パルス/周波数/スイッチ出力

機能	パルス、周波数、またはスイッチ出力として設定可能
バージョン	オープンコレクタ 可能な設定： ■ アクティブ ■ パッシブ ■ パッシブ NAMUR  Ex-i、パッシブ
最大入力値	DC 30 V、250 mA (パッシブ)
開回路電圧	DC 28.8 V (アクティブ)
電圧降下	22.5 mA の場合：≤ DC 2 V
パルス出力	
最大入力値	DC 30 V、250 mA (パッシブ)
最大出力電流	22.5 mA (アクティブ)
開回路電圧	DC 28.8 V (アクティブ)
パルス幅	設定可能：0.05～2 000 ms
最大パルスレート	10 000 Impulse/s
パルス値	設定可能
割当て可能な測定変数	■ 体積流量 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量
周波数出力	
最大入力値	DC 30 V、250 mA (パッシブ)
最大出力電流	22.5 mA (アクティブ)
開回路電圧	DC 28.8 V (アクティブ)
出力周波数	設定可能：周波数終了値 2～10 000 Hz ($f_{\max} = 12\,500$ Hz)
ダンピング	設定可能：0～999.9 秒
ハイ/ロー	1:1
割当て可能な測定変数	■ 体積流量 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 流速 ■ 導電率 ■ 補正導電率 ■ 温度 ■ 電子モジュール内温度
スイッチ出力	
最大入力値	DC 30 V、250 mA (パッシブ)
開回路電圧	DC 28.8 V (アクティブ)
スイッチング動作	バイナリ、導通または非導通

スイッチング遅延	設定可能：0～100 秒
スイッチング回数	無制限
割当て可能な機能	■ 無効 ■ オン ■ 診断時の動作 ■ リミット値： ■ 無効 ■ 体積流量 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 流速 ■ 導電率 ■ 補正導電率 ■ 積算計 1～3 ■ 温度 ■ 電子モジュール内温度 ■ 流れ方向監視 ■ ステータス ■ パイプ空検知 ■ 付着の指標 ■ HBSI リミット値の超過 ■ ローフローカットオフ

リレー出力

機能	スイッチ出力
バージョン	リレー出力、電氣的に絶縁
スイッチング動作	可能な設定： ■ NO（ノーマルオープン）、工場設定 ■ NC（ノーマルクローズ）
最大スイッチング容量（パッシブ）	■ DC 30 V、0.1 A ■ AC 30 V、0.5 A
割当て可能な機能	■ 無効 ■ オン ■ 診断時の動作 ■ リミット値： ■ 無効 ■ 体積流量 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 流速 ■ 導電率 ■ 補正導電率 ■ 積算計 1～3 ■ 温度 ■ 電子モジュール内温度 ■ 流れ方向監視 ■ ステータス ■ パイプ空検知 ■ 付着の指標 ■ HBSI リミット値の超過 ■ ローフローカットオフ

ユーザー設定可能な入力/出力

機器設定中に特定の入力または出力の **1 つ** がユーザー設定可能な入力/出力（設定可能な I/O）に割り当てられます。

以下の入力および出力の割り当てが可能です。

- 電流出力の選択：4～20 mA（アクティブ）、0/4～20 mA（パッシブ）
- パルス/周波数/スイッチ出力
- 電流入力の選択：4～20 mA（アクティブ）、0/4～20 mA（パッシブ）
- ステータス入力

アラーム時の信号 インターフェイスに応じて、以下のようにエラー情報が表示されます。

PROFIBUS DP

ステータスおよびアラームメッセージ	PROFIBUS PA プロファイルバージョン 3.02 に準拠した診断
-------------------	--------------------------------------

電流出力 0/4～20 mA

4～20 mA

フェールセーフモード	以下から選択： ■ 4～20 mA、NAMUR 推奨 NE 43 に準拠 ■ 4～20 mA、US に準拠 ■ 最小値：3.59 mA ■ 最大値：22.5 mA ■ 設定可能な値範囲：3.59～22.5 mA ■ 実際の値 ■ 最後の有効値
------------	---

0～20 mA

フェールセーフモード	以下から選択： ■ 最大アラーム：22 mA ■ 設定可能な値範囲：0～20.5 mA
------------	--

パルス/周波数/スイッチ出力

パルス出力	
エラーモード	以下から選択： ■ 実際の値 ■ パルスなし
周波数出力	
エラーモード	以下から選択： ■ 実際の値 ■ 0 Hz ■ 設定可能な値範囲：2～12 500 Hz
スイッチ出力	
エラーモード	以下から選択： ■ 現在のステータス ■ オープン ■ クローズ

リレー出力

フェールセーフモード	以下から選択： ■ 現在のステータス ■ オープン ■ クローズ
------------	--

現場表示器

ブレーンテキスト表示	原因と対処法に関する情報
バックライト	赤色は機器エラーを示します。

 NAMUR 推奨 NE 107 に準拠するステータス信号

インタフェース/プロトコル

- デジタル通信経由：
PROFIBUS DP
- サービスインタフェース経由
 - CDI-RJ45 サービスインタフェース
 - WLAN インタフェース

ブレーンテキスト表示	原因と対処法に関する情報
------------	--------------

ウェブブラウザ

ブレーンテキスト表示	原因と対処法に関する情報
------------	--------------

発光ダイオード（LED）

ステータス情報	各種 LED でステータスを示します。 機器バージョンに応じて以下の情報が表示されます。 ■ 電源電圧がアクティブ ■ データ伝送がアクティブ ■ 機器アラーム/エラーが発生  発光ダイオードによる診断情報 →  161
---------	---

ローフローカットオフ ローフローカットオフ値はユーザーが任意に設定可能

電氣的絶縁 出力は、以下から電氣的に絶縁されています。

- 電源から
- 相互に
- 電位平衡（PE）端子から

プロトコル固有のデータ

製造者 ID	0x11
識別番号	0x1570
プロファイルバージョン	3.02
DD ファイル（GSD、DTM、DD）	情報およびファイルは以下から入手できます。 ■ https://www.endress.com/download 機器の製品ページ：製品 → 製品ファインダ → 機器のリンク ■ https://www.profibus.com
サポートされる機能	■ 識別およびメンテナンス 制御システムおよび銘板の機器 ID による容易な識別 ■ PROFIBUS アップロード/ダウンロード PROFIBUS アップロード/ダウンロードによりパラメータの読み取りと書き込みの速度が最大 10 倍に向上 ■ コンデンスステータス 発生した診断メッセージの分類による簡潔でわかりやすい診断情報

機器アドレスの設定	- I/O 電子モジュール上の DIP スイッチ - 操作ツールを使用（例：FieldCare）
旧型モデルとの互換性	機器を交換した場合、Promag 500 機器は旧型モデルとのサイクリックデータの互換性をサポートします。PROFIBUS ネットワークのエンジニアリングパラメータを Promag 500 GSD ファイルと調整する必要はありません。 旧型モデル： - Promag 50 PROFIBUS DP - ID 番号：1546（16 進） - 拡張 GSD ファイル：EH3x1546.gsd - 標準 GSD ファイル：EH3_1546.gsd - Promag 53 PROFIBUS DP - ID 番号：1526（16 進） - 拡張 GSD ファイル：EH3x1526.gsd - 標準 GSD ファイル：EH3_1526.gsd
システム統合	システム統合に関する情報 - サイクリックデータ伝送 - ブロックモデル - モジュールの説明

16.5 電源

端子の割当て → 40

電源電圧

オーダーコード 「電源」	端子電圧		周波数範囲
オプション D	DC 24 V	±20%	–
オプション E	AC100～240 V	–15...+10%	50/60 Hz、±4 Hz
オプション I	DC 24 V	±20%	–
	AC100～240 V	–15...+10%	50/60 Hz、±4 Hz

消費電力

変換器

最大 10 W（有効電力）

電源投入時の突入電流：	最大 36 A（< 5 ms）、NAMUR 推奨 NE 21 に準拠
-------------	------------------------------------

消費電流

変換器

- 最大 400 mA（24 V）
- 最大 200 mA（110 V、50/60 Hz；230 V、50/60 Hz）

電源故障時/停電時

- 積算計は測定された最後の有効値で停止します。
- 機器バージョンに応じて、設定は機器メモリまたは取り外し可能なデータメモリ（HiStoROM DAT）に保持されます。
- エラーメッセージ（総稼働時間を含む）が保存されます。

過電流保護エレメント

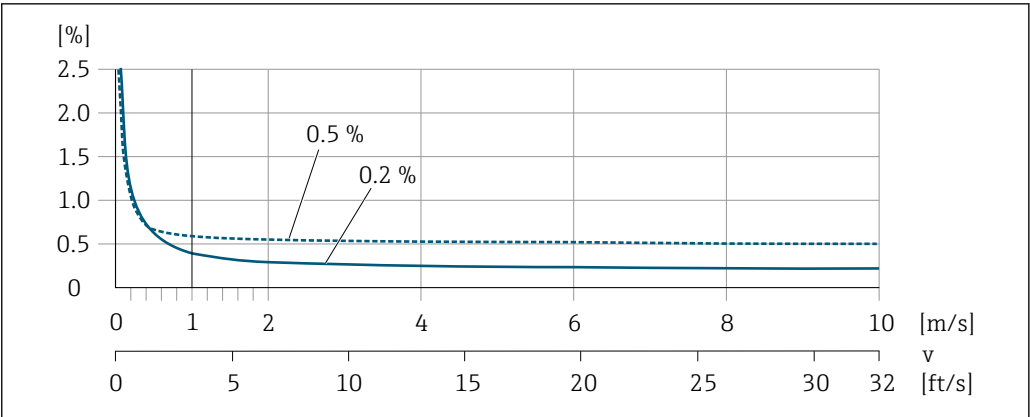
- 機器本体には ON/OFF スイッチがないため、本機器は専用のブレーカと組み合わせて操作する必要があります。
- ブレーカは手の届きやすい場所に配置し、適切なラベルを貼付してください。
 - ブレーカの許容公称電流：2 A、最大 10 A

電気接続	■ → 45 ■ → 52
電位平衡	
端子	スプリング端子：より線およびスリーブ付きより線に最適 導体断面積 0.2~2.5 mm ² (24~12 AWG)
電線管接続口	■ ケーブルグランド：M20 × 1.5 使用ケーブル Ø 6~12 mm (0.24~0.47 in) ■ 電線管接続口用ねじ： ■ NPT ½" ■ G ½" ■ M20 ■ デジタル通信用の機器プラグ：M12 ■ 接続ケーブル用の機器プラグ：M12 機器プラグは、必ず「センサ接続ハウジング」のオーダーコード、オプション C「超小型、サニタリ、ステンレス」の機器バージョン用に使用されます。
ケーブル仕様	→ 36

過電圧保護	<table><tr><td>電源電圧変動</td><td>→ 215</td></tr><tr><td>過電圧カテゴリー</td><td>過電圧カテゴリー II</td></tr><tr><td>短期的、一時的な過電圧</td><td>ケーブルと接地間：最大 1200 V (最大 5 秒 間)</td></tr><tr><td>長期的、一時的な過電圧</td><td>ケーブルと接地間：最大 500 V</td></tr></table>	電源電圧変動	→ 215	過電圧カテゴリー	過電圧カテゴリー II	短期的、一時的な過電圧	ケーブルと接地間：最大 1200 V (最大 5 秒 間)	長期的、一時的な過電圧	ケーブルと接地間：最大 500 V
電源電圧変動	→ 215								
過電圧カテゴリー	過電圧カテゴリー II								
短期的、一時的な過電圧	ケーブルと接地間：最大 1200 V (最大 5 秒 間)								
長期的、一時的な過電圧	ケーブルと接地間：最大 500 V								

16.6 性能特性

基準動作条件	■ エラーリミットは DIN EN 29104 (将来的には ISO 20456) に準拠 ■ 水、標準：+15~+45 °C (+59~+113 °F) ; 0.05~0.7 MPa (73~101 psi) ■ データは校正プロトコルに示す通り ■ ISO 17025 に準拠した認定校正装置に基づく精度 ■ 導電率測定 of 基準温度：25 °C (77 °F)
最大測定誤差	o.r. = 読み値 基準動作条件下での最大許容誤差 体積流量 ■ ±0.5 % o.r. ± 1 mm/s (0.04 in/s) ■ オプション：±0.2 % o.r. ± 2 mm/s (0.08 in/s)  仕様の範囲内では電源電圧変動の影響なし



A0028974

39 最大測定誤差 (%) o.r.

温度

±3 °C (±5.4 °F)

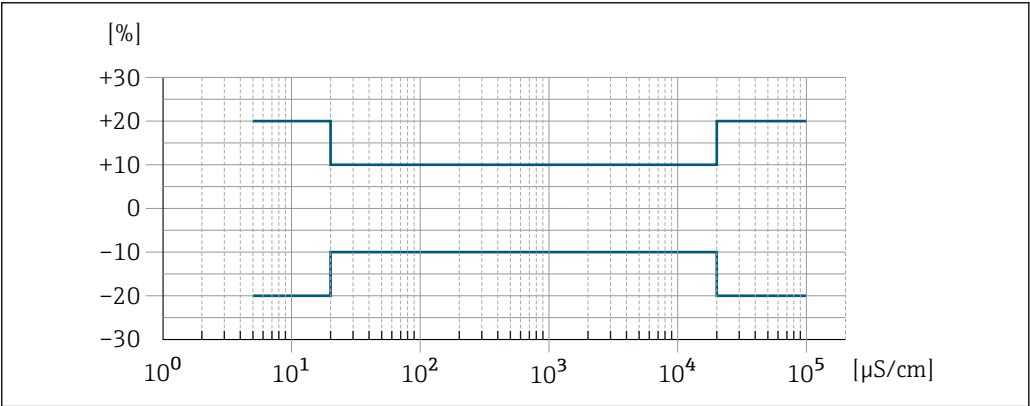
導電率

値は以下に適用されます。

- ステンレス製プロセス接続付きの機器
- Proline 500 – デジタル機器バージョン
- 基準温度 25 °C (77 °F) での測定。別の温度の場合は、測定物の温度係数に注意してください (通常は 2.1 %/K)

導電率 [μS/cm]	呼び口径		測定誤差 [%] (読み値の %)
	[mm]	[in]	
5~20	15...150	½...6	± 20%
> 20~50	15...150	½...6	± 10%
> 50~10000	2...8	⅛~⅝	± 10%
	15...150	½...6	■ 標準 : ± 10% ■ オプション ¹⁾ : ± 5%
> 10000~20000	2...150	⅛~6	± 10%
> 20000~100000	2...150	⅛~6	± 20%

1) 「校正済導電率測定」のオーダーコード、オプション CW



A0042279

40 測定誤差 (標準)

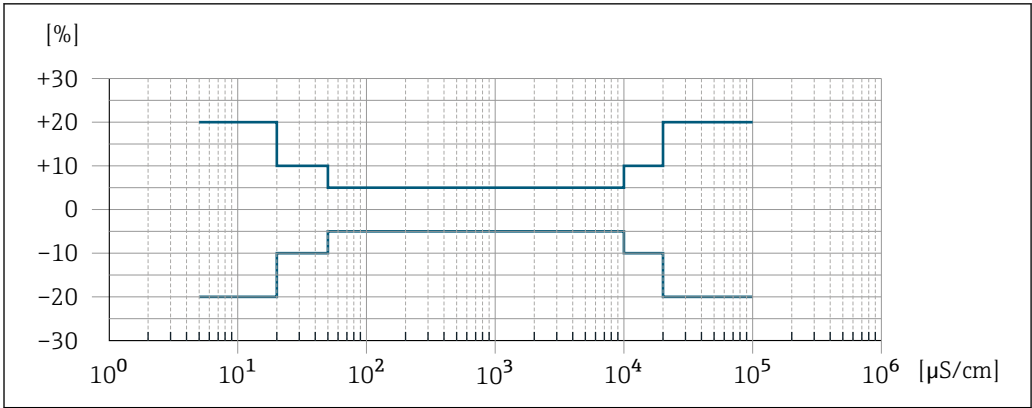


図 41 測定誤差（オプション：「校正済導電率測定」のオーダーコード、オプション CW）

出力の精度

出力の基準精度は、以下の通りです。

電流出力

精度	±5 μA
----	-------

パルス/周波数出力

o.r. = 読み値

精度	最高 ±50 ppm o.r.（全周囲温度範囲に対して）
----	------------------------------

繰返し性

o.r. = 読み値

体積流量

最大 ±0.1 % o.r. ± 0.5 mm/s (0.02 in/s)

温度

±0.5 °C (±0.9 °F)

導電率

- 最大 ±5 % o.r.
- 呼び口径 15～150 mm とステンレス製プロセス接続 1.4404（SUS F316L 相当）を組み合わせた場合：最大 ±1 % o.r.

温度測定応答時間

T₉₀ < 15 秒

周囲温度の影響

電流出力

温度係数	最大 1 μA/°C
------	------------

パルス/周波数出力

温度係数	付加的な影響はありません。精度に含まれます。
------	------------------------

16.7 取付け

取付要件 → 21

16.8 環境

周囲温度範囲 → 26

温度テーブル

 危険場所で本機器を使用する場合は、許容される周囲温度と流体温度の間の相互依存性に注意してください。

 温度表の詳細については、別冊の機器の「安全上の注意事項」(XA) を参照してください。

保管温度 保管温度は、変換器およびセンサの動作温度と同じです → 26.

- 機器を保管している間、表面温度が許容限界を越えることがないように直射日光にさらさないようにしてください。
- カビやバクテリアの発生によりライニングが損傷する恐れがあるため、機器内に湿気が溜まらない保管場所を選定してください。
- 保護キャップまたは保護カバーが取り付けられている場合は、絶対に機器取付の前に外さないでください。

雰囲気 結露や湿気に対する追加の保護：センサハウジングにはゲルが埋め込まれています。「センサオプション」のオーダーコード、オプション CF「過酷な環境」

相対湿度 本機器は、相対湿度 4～95 % での屋外/屋内使用に適しています。

使用高さ EN 61010-1 に準拠

- ≤ 2 000 m (6 562 ft)
- > 2 000 m (6 562 ft)、追加の過電圧保護がある場合（例：Endress+Hauser HAW シリーズ）

保護等級 **変換器**

- IP66/67、Type 4X エンクロージャ、汚染度 4 に適合
- ハウジングが開いている場合：IP20、Type 1 エンクロージャ、汚染度 2 に適合
- 表示モジュール：IP20、Type 1 エンクロージャ、汚染度 2 に適合

センサ

- IP66/67、Type 4X エンクロージャ、汚染度 4 に適合
- ハウジングが開いている場合：IP20、Type 1 エンクロージャ、汚染度 2 に適合

外部の WLAN アンテナ

IP67

耐振動性および耐衝撃性 **正弦波振動、IEC 60068-2-6 に準拠**

- 2～8.4 Hz、7.5 mm ピーク
- 8.4～2 000 Hz、2 g ピーク

広帯域不規則振動、IEC 60068-2-64 に準拠

- 10～200 Hz, 0.01 g²/Hz
- 200～2 000 Hz, 0.003 g²/Hz
- 合計：2.70 g rms

正弦半波衝撃、IEC 60068-2-27 に準拠

6 ms 50 g

乱暴な取扱いによる衝撃、IEC 60068-2-31 に準拠

内部洗浄

- CIP 洗浄
- SIP 洗浄

機械的負荷

変換器ハウジングおよびセンサ接続ハウジング：
■ 衝撃や衝突などの機械的な影響から保護してください。
■ 踏み台や足場として使用しないでください。

電磁適合性 (EMC)

- IEC/EN 61326 および NAMUR 推奨 21 (NE 21) に準拠
- IEC/EN 61000-6-2 および IEC/EN 61000-6-4 に準拠
- PROFIBUS DP 機器バージョン：EN 50170 Volume 2, IEC 61784 準拠の工業用放射限度に適合

 PROFIBUS DP には以下を適用：通信速度が 1.5 MBaud を上回る場合、EMC 電線口を使用する必要があり、ケーブルシールドができるだけ端子まで延びている必要があります。

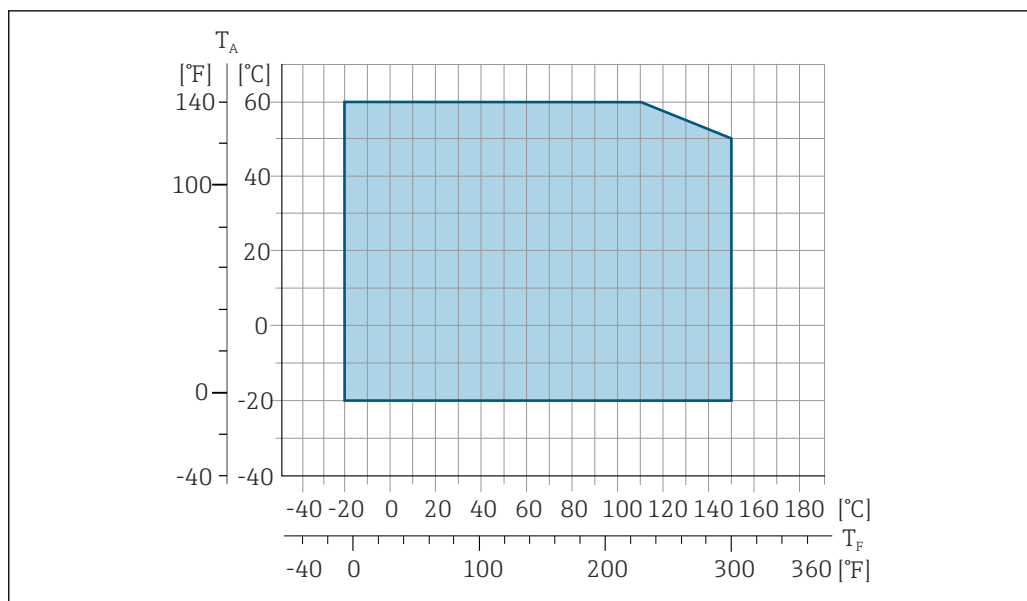
 詳細については、適合宣言を参照してください。

 本機器は、居住環境での使用向けではないため、居住環境での無線受信に対する適切な保護を保証することはできません。

16.9 プロセス

流体温度範囲

-20～+150 °C (-4～+302 °F)

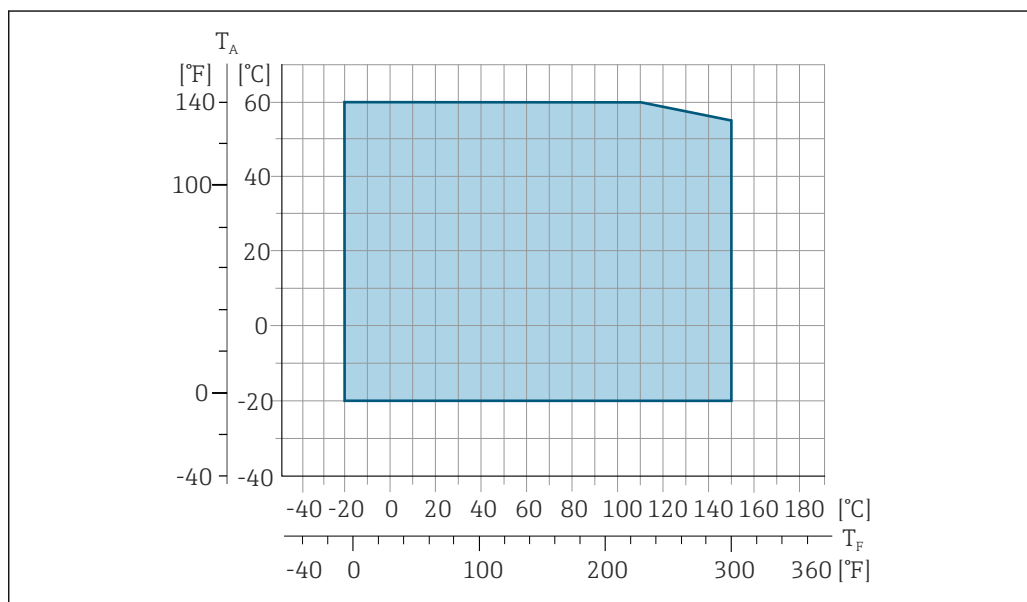


A0027806

42 Promag 500 - デジタル

T_A 周囲温度範囲

T_F 流体温度



A0027450

43 Promag 500

T_A 周囲温度範囲

T_F 流体温度

i カスタディトランスファにおいて許容される流体温度は 0～+50 °C (+32～+122 °F) です。

導電率

≥5 μS/cm : 一般的な液体の場合

i Proline 500
必要な最小導電率は接続ケーブルの長さによっても異なります→ 27。

P-T レイティング  プロセス接続の P-T レイティングの概要については、技術仕様書を参照してください。

耐圧力特性		ライニング : PFA				
呼び口径		流体温度別の絶対圧力のリミット値 [mbar] ([psi]) :				
[mm]	[in]	+25 °C (+77 °F)	+80 °C (+176 °F)	+100 °C (+212 °F)	+130 °C (+266 °F)	+150 °C (+302 °F)
2~150	1/12~6	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

流量制限

センサ呼び口径は配管の口径と流量で決まります。最適な流速は 2~3 m/s (6.56~9.84 ft/s) です。流速 (v) は測定物の物理的特性に合わせてください。

- $v < 2 \text{ m/s}$ (6.56 ft/s) : 導電率が低い場合
- $v > 2 \text{ m/s}$ (6.56 ft/s) : 付着物が発生する測定物の場合 (例 : 脂肪含有量の多い牛乳)

 ■ センサの呼び口径を小さくすると、必要な流速の増加が可能です。

- 固形分が多い測定物の場合、呼び口径 8 mm (3/8") 以上のセンサでは大きな電極により信号安定性と洗浄性が向上します。

圧力損失

- センサ呼び口径が 8 mm (5/16") 以上の場合 : 呼び口径が同じ配管にセンサを取り付けると圧力損失は発生しません。
- DIN EN 545 に準拠したアダプタ (レデューサ、エキスパンダ) を使用する場合は、圧力損失が発生します。→  26

使用圧力 →  26

振動 →  26

16.10 構造

外形寸法  機器の外形寸法および取付寸法については、技術仕様書の「構造」セクションを参照してください。

質量

すべての値 (梱包材を含まない質量) は、標準圧力定格のフランジ付き機器の値です。圧力定格および設計に応じて、質量が記載値より小さくなる場合があります。

- 変換器**
- Proline 500 – デジタル ポリカーボネート : 1.4 kg (3.1 lbs)
 - Proline 500 – デジタル アルミニウム : 2.4 kg (5.3 lbs)
 - Proline 500 アルミニウム : 6.5 kg (14.3 lbs)

センサ
アルミニウム接続ハウジングバージョンのセンサ :

呼び口径		質量	
[mm]	[in]	[kg]	[lbs]
2	1/12	2.00	4.41
4	5/32	2.00	4.41
8	5/16	2.00	4.41
15	1/2	1.90	4.19

呼び口径		質量	
[mm]	[in]	[kg]	[lbs]
25	1	2.80	6.17
40	1 ½	4.10	9.04
50	2	4.60	10.1
65	–	5.40	11.9
80	3	6.00	13.2
100	4	7.30	16.1
125	5	12.7	28.0
150	6	15.1	33.3

計測チューブの仕様

呼び口径		圧力定格 ¹⁾ EN (DIN)	プロセス接続部内径	
[mm]	[in]	[bar]	PFA [mm]	[in]
2	1/12	PN 16/40	2.25	0.09
4	5/32	PN 16/40	4.5	0.18
8	5/16	PN 16/40	9.0	0.35
15	½	PN 16/40	16.0	0.63
–	1	PN 16/40	22.6 ²⁾	0.89 ²⁾
25	–	PN 16/40	26.0 ³⁾	1.02 ³⁾
40	1 ½	PN 16/25/40	35.3	1.39
50	2	PN 16/25	48.1	1.89
65	–	PN 16/25	59.9	2.36
80	3	PN 16/25	72.6	2.86
100	4	PN 16/25	97.5	3.84
125	5	PN 10/16	120.0	4.72
150	6	PN 10/16	146.5	5.77

- 1) 使用するプロセス接続およびシールに応じて異なります。
 2) オーダーコード 5H**22
 3) オーダーコード 5H**26

材質

変換器ハウジング

Proline 500 のハウジング – デジタル変換器

「変換器ハウジング」のオーダーコード：

- オプション A 「アルミニウム、コーティング」：アルミダイカスト、AlSi10Mg、塗装
- オプション D 「ポリカーボネート」：ポリカーボネート

Proline 500 変換器のハウジング

「変換器ハウジング」のオーダーコード：

オプション A 「アルミニウム、コーティング」：アルミダイカスト、AlSi10Mg、塗装

ウィンドウ材質

「変換器ハウジング」のオーダーコード：

- オプション A 「アルミニウム、コーティング」：ガラス
- オプション D 「ポリカーボネート」：プラスチック

センサ接続ハウジング

- 「センサ接続ハウジング」のオーダーコード：
- オプション A「アルミニウム、コーティング」：アルミニウム、AlSi10Mg、コーティング
 - オプション B「ステンレス、サニタリ」：ステンレス 1.4301 (SUS 304 相当)
 - オプション C「ウルトラコンパクトサニタリ、ステンレス」：ステンレス 1.4301 (SUS 304 相当)

電線口/ケーブルグランド

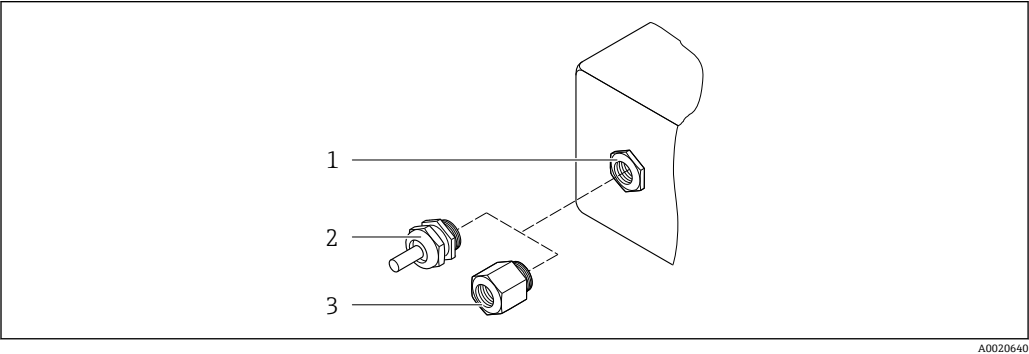


図 44 可能な電線管接続口/ケーブルグランド

1 雌ねじ M20 × 1.5
2 ケーブルグランド M20 × 1.5
3 電線管接続口用アダプタ (雌ねじ G ½" または NPT ½")

電線口およびアダプタ	材質
ケーブルグランド M20 × 1.5	プラスチック
■ 電線口用アダプタ (めねじ G ½") ■ 電線口用アダプタ (めねじ NPT ½") i 特定の機器バージョンでのみ使用できます。 ■ 「変換器ハウジング」のオーダーコード： ■ オプション A「アルミニウム、コーティング」 ■ オプション D「ポリカーボネート」 ■ 「センサ接続ハウジング」のオーダーコード： ■ Proline 500 – デジタル： - オプション A「アルミニウム、コーティング」 - オプション B「ステンレス」 ■ Proline 500： - オプション A「アルミニウム、コーティング」 - オプション C「ステンレス、サニタリ」	ニッケルめっき真鍮

接続ケーブル

i 紫外線によりケーブルの外側シースが損傷する可能性があります。可能な限り、直射日光からケーブルを保護してください。

センサ – Proline 500 – デジタル変換器間の接続ケーブル

銅シールド付き PVC ケーブル

センサ – Proline 500 変換器間の接続ケーブル

銅シールド付き PVC ケーブル

センサハウジング

ステンレス 1.4301 (SUS 304 相当)

計測チューブ

ステンレス 1.4301 (SUS 304 相当)

ライニング

PFA (USP クラス VI、FDA 21 CFR 177.2600)

プロセス接続

- ステンレス 1.4404 (SUS F316L 相当)
- PVDF
- PVC 接着用スリーブ

電極

標準 : 1.4435 (SUS 316L 相当)

シール

- O リングシール、呼び口径 2~25 mm (1/12~1") : EPDM、FKM³⁾、カルレッツ
- 無菌⁴⁾ガスケット、呼び口径 2~150 mm (1/12~6") : EPDM、FKM³⁾、VMQ (シリコン)

アクセサリ**保護カバー**

ステンレス 1.4404 (SUS 316L 相当)

外部の WLAN アンテナ

- アンテナ : ASA プラスチック (アクリロニトリルスチレンアクリレート) およびニッケルめっき真鍮
- アダプタ : ステンレスおよびニッケルめっき真鍮
- ケーブル : ポリエチレン
- プラグ : ニッケルめっき真鍮
- アングルブラケット : ステンレス

アースリング

- 標準 : 1.4435 (SUS 316L 相当)
- オプション : アロイ C22、タンタル

壁取付ユニット

ステンレス、1.4301 (SUS 304 相当)⁵⁾

センタリングスター

1.4435 (SUS F316L 相当)

組合せ電極

- 2 測定電極 (信号検知用)
- 1 空検知/温度測定用の空検知電極 (呼び口径 15~150 mm (1/2~6") のみ)

プロセス接続

- O リングシール付き :
- 溶接ニッブル (DIN EN ISO 1127、ODT/SMS、ISO 2037)
 - フランジ (EN (DIN)、ASME、JIS)
 - PVDF 製フランジ (EN (DIN)、ASME、JIS)

3) USP クラス VI、FDA 21 CFR 177.2600、3A
 4) ここでの無菌はサニタリ仕様を意味します。
 5) サニタリ仕様の設置ガイドラインには適合しません。

- おねじ
- めねじ
- ホース接続
- PVC 接着用スリーブ

無菌ガasket付き：

- カップリング (DIN 11851、DIN 11864-1、ISO 2853、SMS 1145)
- フランジ (DIN 11864-2)

 プロセス接続に使用される各種材質については、→  225 を参照してください。

表面粗さ

電極：

- ステンレス 1.4435 (SUS 316L 相当) 電解研磨済み $\leq 0.5 \mu\text{m}$ (19.7 μin)
- アロイ C22、2.4602 (UNSN06022)；タンタル $\leq 0.5 \mu\text{m}$ (19.7 μin)

(すべて接液部のデータ)

PFA 製ライニング：

$\leq 0.4 \mu\text{m}$ (15.7 μin)

(すべて接液部のデータ)

ステンレスプロセス接続：

- Oリングシール付き： $\leq 1.6 \mu\text{m}$ (63 μin)
- 無菌シール付き： $R_{\text{amax}} = 0.76 \mu\text{m}$ (31.5 μin)
オプション： $R_{\text{amax}} = 0.38 \mu\text{m}$ (15 μin) (電解研磨)

(すべて接液部のデータ)

16.11 表示およびユーザインタフェース

言語

以下の言語で操作できます。

- 現場操作を経由
英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、オランダ語、ポルトガル語、ポーランド語、ロシア語、トルコ語、中国語、日本語、韓国語、ベトナム語、チェコ語、スウェーデン語
- ウェブブラウザを経由
英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、オランダ語、ポルトガル語、ポーランド語、ロシア語、トルコ語、中国語、日本語、ベトナム語、チェコ語、スウェーデン語
- 「FieldCare」、「DeviceCare」操作ツールを経由：英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、中国語、日本語

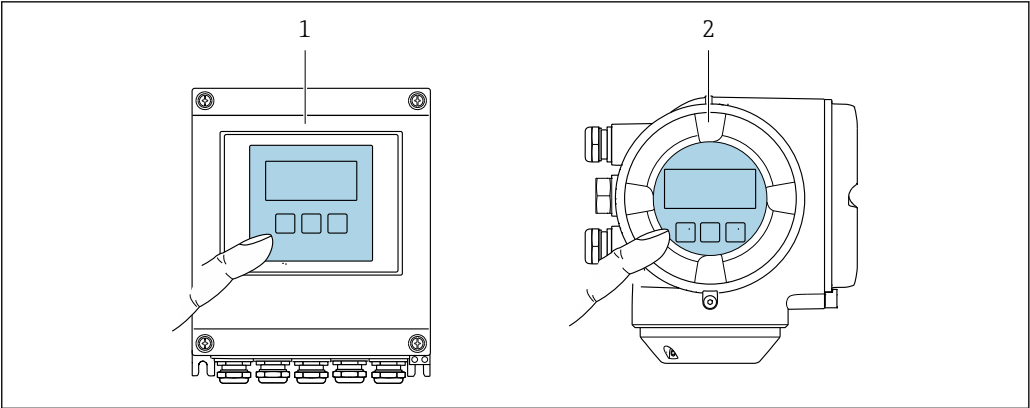
現場操作

表示モジュール経由

機能：

- 「ディスプレイ；操作」のオーダーコード、オプション F「4行表示、バックライト、グラフィック表示；タッチコントロール」
- 「ディスプレイ；操作」のオーダーコード、オプション G「4行表示、バックライト、グラフィック表示；タッチコントロール + WLAN」

 WLAN インタフェースに関する情報 →  87



A0028232

図 45 タッチコントロールによる操作

- 1 Proline 500 – デジタル
- 2 Proline 500

表示部

- 4 行表示、バックライト、グラフィック表示
- 白色バックライト；機器エラー発生時は赤に変化
- 測定変数およびステータス変数の表示形式は個別に設定可能

操作部

- ハウジングを開けずにタッチコントロール（3 つの光学式キー）による外部操作：
⊕、⊖、⊞
- 危険場所の各種区域でも操作部にアクセス可能

リモート操作 → 図 86

サービスインターフェイス → 図 86

サポートされる操作ツール 現場または遠隔で機器にアクセスするために、各種の操作ツールを使用できます。使用する操作ツールに応じて、さまざまな操作部を使用し、多様なインターフェイスを介してアクセスすることが可能です。

サポートされる操作ツール	操作ユニット	インタフェース	追加情報
ウェブブラウザ	ウェブブラウザ搭載のノートパソコン、PC、またはタブレット端末	■ CDI-RJ45 サービスインタフェース ■ WLAN インタフェース	機器の個別説明書
DeviceCare SFE100	Microsoft Windows システム搭載のノートパソコン、PC、またはタブレット端末	■ CDI-RJ45 サービスインタフェース ■ WLAN インタフェース ■ フィールドバスプロトコル	→ 図 206
FieldCare SFE500	Microsoft Windows システム搭載のノートパソコン、PC、またはタブレット端末	■ CDI-RJ45 サービスインタフェース ■ WLAN インタフェース ■ フィールドバスプロトコル	→ 図 206

サポートされる操作ツール	操作ユニット	インタフェース	追加情報
Field Xpert	SMT70/77/50	■ すべてのフィールドバスプロトコル ■ WLAN インタフェース ■ Bluetooth ■ CDI-RJ45 サービスインタフェース	取扱説明書 BA01202S DD ファイル： ハンドヘルドターミナルの更新機能を使用
SmartBlue アプリ	iOS または Android 搭載のスマートフォンまたはタブレット端末	WLAN	→ 図 206

 DTM/iDTM または DD/EDD などのデバイスドライバを備えた、FDT 技術に基づく他の操作ツールを使用して機器を操作できます。これらの操作ツールは、各メーカーから入手可能です。特に、以下の操作ツールへの統合がサポートされます。

- Honeywell 製 Field Device Manager (FDM) → www.process.honeywell.com
- Yokogawa 製 FieldMate → www.yokogawa.com
- PACTWare → www.pactware.com

関連する DD ファイルは次から入手可能：www.endress.com → ダウンロードエリア

Web サーバー

Web サーバーが内蔵されているため、ウェブブラウザサービスインタフェース (CDI-RJ45) または WLAN インタフェースを介して機器の操作および設定を行うことが可能です。操作メニューの構造は現場表示器と同じです。測定値に加え、機器のステータス情報も表示されるため、機器の状態を監視するために使用できます。また、機器データの管理およびネットワークパラメータの設定が可能です。

WLAN 接続の場合は WLAN インタフェース (オプションとして注文可能) 付きの機器が必要：「ディスプレイ；操作」のオーダーコード、オプション G「4 行表示、バックライト；タッチコントロール+WLAN」。機器はアクセスポイントとして機能し、コンピュータまたは携帯型ハンドヘルドターミナルによる通信を可能にします。

サポートされる機能

操作ユニット (たとえば、ノートパソコンなど) と機器間のデータ交換：

- 機器から設定のアップロード (XML 形式、設定のバックアップ)
- 機器への設定の保存 (XML 形式、設定の復元)
- イベントリストのエクスポート (.csv ファイル)
- パラメータ設定のエクスポート (.csv ファイルまたは PDF ファイル、測定点設定の記録)
- Heartbeat Verification レポートのエクスポート (PDF ファイル、**Heartbeat Verification** → 図 233 アプリケーションパッケージの場合のみ使用可能)
- たとえば、機器ファームウェアアップグレードのためのファームウェアバージョンの更新
- システム統合用のダウンロードドライバ
- 保存された測定値の表示 (最大 1000 個) (拡張 **HistoROM** アプリケーションパッケージの場合のみ使用可能 → 図 233)

HistoROM データ管理

機器には HistoROM データ管理機能があります。HistoROM データ管理には、重要な機器データおよびプロセスデータの保存とインポート/エクスポートの両方の機能があり、操作やサービス作業の信頼性、安全性、効率が大幅に向上します。

 機器の納入時には、設定データの工場設定は機器メモリにバックアップとして保存されています。このメモリは、たとえば、設定後に最新のデータ記録を使用して上書きできます。

データの保存コンセプトに関する追加情報

各種タイプのデータ記憶装置があります。これに機器データを保存して、機器で使うことが可能です。

	HistoROM バックアップ	T-DAT	S-DAT
使用可能なデータ	■ イベントログブック（例：診断イベント） ■ パラメータ記録データバックアップ ■ 機器ファームウェアパッケージ ■ Web サーバー経由でエクスポートするためのシステム統合用ドライバ。例：GSD、PROFIBUS DP 用	■ 測定値記録（「拡張 HistoROM」注文オプション） ■ 現在のパラメータ記録データ（実行時にファームウェアが使用） ■ 表示（最小値/最大値） ■ 積算計の値	■ センサデータ（例：呼び口径） ■ シリアル番号 ■ 校正データ ■ 機器設定（例：SW オプション、固定 I/O またはマルチ I/O）
保存場所	端子部のユーザーインタフェース PC ボードに固定	端子部のユーザーインタフェース PC ボードに接続可能	変換器ネック部分のセンサプラグ内

データバックアップ

自動

- 最も重要な機器データ（センサおよび変換器）は自動的に DAT モジュールに保存されます。
- 変換器または機器を交換した場合：以前の機器データが保存された T-DAT を交換した場合、新しい機器はエラーなしで再び直ちに操作できる状態になります。
- センサを交換した場合：センサを交換した場合、新しいセンサデータが S-DAT から機器に伝送され、機器はエラーなしで再び直ちに操作できる状態になります。
- 電子モジュール（例：I/O 電子モジュール）を交換した場合：電子モジュールを交換すると、モジュールのソフトウェアと現在の機器ファームウェアが比較されます。必要に応じて、モジュールソフトウェアはアップデートまたはダウングレードされます。その後、電子モジュールは直ちに使うことが可能であり、互換性の問題は発生しません。

手動

以下のための、統合された機器メモリ HistoROM バックアップの追加のパラメータ記録データ（パラメータ設定一式）：

- データバックアップ機能
機器メモリ HistoROM バックアップの機器設定のバックアップおよびその後の復元
- データ比較機能
現在の機器設定と機器メモリ HistoROM バックアップに保存された機器設定の比較

データ伝送

手動

- 特定の操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare、または Web サーバー）のエクスポート機能を使用して機器設定を別の機器に伝送：設定の複製またはアーカイブに保存するため（例：バックアップ目的）
- Web サーバーを介したシステム統合用ドライバの伝送。例：GSD、PROFIBUS DP 用

イベントリスト

自動

- イベントリストのイベントメッセージ（最大 20 件）の時系列表示
- 拡張 HistoROM アプリケーションパッケージ（注文オプション）が有効な場合：最大 100 件のイベントメッセージがタイムスタンプ、プレーンテキスト説明、対処法とともにイベントリストに表示されます。
- イベントリストは各種のインターフェイスや操作ツール（例：DeviceCare、FieldCare、または Web サーバー）を介してエクスポートして表示することが可能です。

データのログ

手動

拡張 HistoROM アプリケーションパッケージ（注文オプション）が有効な場合：

- 1～4 チャンネルまで最大 1000 個の測定値を記録（各チャンネルの測定値は最大 250 個）
- ユーザー設定可能な記録間隔
- 各種のインタフェースや操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare、または Web サーバー）を介して測定値ログのエクスポート

16.12 合格証と認証

本製品に対する最新の認証と認定は、www.endress.com の関連する製品ページから入手できます。

1. フィルタおよび検索フィールドを使用して製品を選択します。
2. 製品ページを開きます。
3. 「ダウンロード」を選択します。

CE マーク

本機器は、適用される EU 指令の法的要件を満たしています。これらの要求事項は、適用される規格とともに EU 適合宣言に明記されています。

Endress+Hauser は本製品が試験に合格したことを、CE マークの貼付により保証いたします。

UKCA マーク

本機器は、適用される UK 規制（英国規則）の法的要件を満たします。これらの要求事項は、指定された規格とともに UKCA 適合宣言に明記されています。UKCA マークの注文オプションが選択されている場合、Endress+Hauser は機器に UKCA マークを貼付することにより、本機器が評価と試験に合格したことを保証します。

連絡先 Endress+Hauser 英国：

Endress+Hauser Ltd.

Floats Road

Manchester M23 9NF

英国

www.uk.endress.com

RCM マーク

本計測システムは、「Australian Communications and Media Authority (ACMA)」の EMC 要件を満たしています。

防爆認定

機器は防爆認定機器であり、関連する安全上の注意事項は別冊の「安全上の注意事項」(XA) 資料に掲載されています。この資料の参照先は、銘板に明記されています。

衛生適合性

- 3-A SSI 28-06 またはそれ以降
 - 3-A のロゴを「追加認証」のオーダーコード、オプション LP「3A」の機器へ貼付することにより、3-A 認証を取得していることを保証します。
 - 3-A 認証は機器に対する認証です。
 - 機器を設置する場合、液体が機器の外側に集まらないようにしてください。分離型変換器は、3-A 規格に準拠して設置する必要があります。
 - アクセサリ（日除けカバー、壁取付ホルダなど）は、3-A 規格に準拠して設置する必要があります。各アクセサリは洗浄することができます。一部の環境では、分解が必要な場合があります。
- EHEDG タイプ EL クラス I
 - EHEDG マークを「追加認証」のオーダーコード、オプション LT「EHEDG」の機器へ貼付することにより、EHEDG 認証を取得していることを保証します。
 - EPDM は、8 % を超える脂肪分を含む流体用のシール材には適していません。
 - EHEDG 認証の要件を満たすためには、「Easy Cleanable Pipe Couplings and Process Connections（洗浄性の高い配管継手およびプロセス接続）」(www.ehedg.org) と題された EHEDG ガイドラインに準拠するプロセス接続と組み合わせて機器を使用する必要があります。
- FDA 21 CFR 177
 - 食品接触材規則（EC）1935/2004
 - 食品接触材規則（中国）GB 4806
 - 低温殺菌牛乳令（PMO）

医薬品適合性

- FDA 21 CFR 177
- USP <87>
- USP <88> クラス VI 121 °C
- TSE/BSE 適正証明
- cGMP

「試験、証明」のオーダーコード、オプション JG「cGMP 要件への適合、適合宣言書」の機器は、接液部表面、設計、FDA 21 CFR 材質適合性、USP クラス VI 試験および TSE/BSE 準拠に関する cGMP の要件を満たします。シリアル番号固有の適合宣言書が発行されます。

認定 PROFIBUS 適合

PROFIBUS インターフェイス

本機器は、PNO（PROFIBUS Nutzerorganisation e.V./PROFIBUS User Organization）の認定と登録を受けています。計測システムは、以下のすべての仕様要件を満たしています。

- PA Profile 3.02 認証取得
- 本機器は、認証を取得した他メーカーの機器と組み合わせて動作させることもできます（相互運用性）。

無線認証

本機器は無線認証を取得しています。



無線認証の詳細については、個別説明書を参照してください。

欧州圧力機器指令

- a) PED/G1/x (x = カテゴリー) または
b) PESR/G1/x (x = カテゴリー)
上記マークがセンサ銘板に付いている場合、Endress+Hauser は以下に記載されている「必須安全要求事項」に適合していることを承認します。
- a) 欧州圧力機器指令 2014/68/EU 付録 I、または
b) 行政委任立法 (Statutory Instruments) 2016 No. 1105 付則 2
- PED または PESR マークがない機器は、「SEP (Sound Engineering Practice)」に従って設計・製造されています。この機器は、以下の要件を満たしています。
- a) 欧州圧力機器指令 2014/68/EU 第 4 章 3 項、または
b) 行政委任立法 (Statutory Instruments) 2016 No. 1105 第 8 項パート 1
用途範囲は、以下に記載されています。
- a) 欧州圧力機器指令 2014/68/EU 付録 II の図 6~9、または
b) 行政委任立法 (Statutory Instruments) 2016 No. 1105 第 2 項付則 3

その他の認定

PWIS フリー

PWIS = 塗装障害物質

「サービス」のオーダーコード:

- オプション **HC**: PWIS フリー (バージョン A)
- オプション **HD**: PWIS フリー (バージョン B)
- オプション **HE**: PWIS フリー (バージョン C)



PWIS フリー認定の詳細については、「試験仕様」資料 (TS01028D) を参照してください。

外部の基準およびガイドライン

- EN 60529
ハウジング保護等級 (IP コード)
- EN 61010-1
測定、制御、実験用電気機器の安全要件 - 一般要求事項
- EN 61326-1/-2-3
測定、制御、実験用電気機器の EMC 要件
- NAMUR NE 21
工業用プロセスおよび試験機器の電磁適合性 (EMC)
- NAMUR NE 32
マイクロプロセッサ付きフィールド機器および制御機器の電源異常時のデータ保持
- NAMUR NE 43
アナログ出力信号を有するデジタル変換器の故障情報信号レベルの標準化
- NAMUR NE 53
デジタル電子部品を備えたフィールド機器と信号処理機器のソフトウェア
- NAMUR NE 105
フィールド機器用エンジニアリングツールにフィールドバス機器を統合するための仕様
- NAMUR NE 107
フィールド機器の自己監視および診断
- NAMUR NE 131
標準アプリケーション用フィールド機器の要件
- ETSI EN 300 328
2.4 GHz 帯の無線機器用ガイドライン
- EN 301489
電磁適合性および無線スペクトル事項 (ERM)

16.13 アプリケーションパッケージ

機器の機能を拡張するために、各種のアプリケーションパッケージが用意されています。これらのパッケージは、安全面や特定のアプリケーション要件を満たすのに必要とされます。

アプリケーションパッケージは、Endress+Hauser 社に機器と一緒に注文するか、または後から追加注文できます。オーダーコードに関する詳細は、お近くの弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせいただくか、弊社ウェブサイトの製品ページをご覧ください：www.endress.com。

診断機能

「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション EA「拡張 HistoROM」イベントログおよび測定値メモリのアクティベーションに関する拡張機能が含まれます。

イベントログ：

メッセージ数 20（標準バージョン）から 100 にメモリ容量が増えます。

データロギング（ラインレコーダ）：

- 最大 1000 個の測定値までのメモリ容量を有効化。
- 4 つあるメモリチャンネルのそれぞれから、250 個の測定値を出力可能。記録間隔は、ユーザーが定義/設定できます。
- 現場表示器または操作ツール（例：FieldCare、DeviceCare、または Web サーバー）を介して測定値ログにアクセスできます。

 詳細については、機器の取扱説明書を参照してください。

Heartbeat Technology

「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション EB「Heartbeat Verification + Monitoring」

Heartbeat Verification

DIN ISO 9001: 2008、7.6 a) 章「監視および測定機器の制御」に準拠する、トレーサビリティが確保された検証のための要件を満たします。

- プロセスを中断せずに設置された状態での機能試験
- 必要に応じて、トレーサビリティが確保された検証が可能（レポートを含む）
- 現場操作またはその他の操作インタフェースを介した簡単な試験プロセス
- 製造者仕様の枠内で試験範囲が広く、明確な測定点の評価（合格/不合格）
- 事業者のリスク評価に応じた校正間隔の延長

Heartbeat Monitoring

測定原理固有のデータを予防保全またはプロセス分析のために外部状態監視システムに連続的に供給します。このデータにより、事業者は以下のことが可能になります。

- 時間とともに測定性能に及ぼすプロセスの影響（付着物、磁界による干渉など）について、結論を引き出す（これらのデータとその他の情報を使用して）。
- 適切なサービスのスケジュールを立てる。
- プロセスまたは製品の品質を監視する。

 詳細については、機器の個別説明書を参照してください。

洗浄

「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション EC「ECC 電極洗浄」

電極洗浄回路（ECC）機能は、マグネタイト（ Fe_3O_4 ）の付着が頻繁に発生するアプリケーションに対するソリューションとして開発されました（例：温水）。マグネタイトは非常に導電性が高いため、その付着物により測定エラーが発生し、最終的に信号の消失につながる可能性があります。このアプリケーションパッケージは、非常に導電性の高い物質や薄層（マグネタイトに特有）の付着を防止できるように設計されています。

 詳細については、機器の取扱説明書を参照してください。

16.14 アクセサリ

 注文可能なアクセサリの概要 →  204

16.15 補足資料

-  関連技術資料の範囲の概要については、以下を参照してください。
- デバイスビューワー (www.endress.com/deviceviewer) : 銘板のシリアル番号を入力します。
 - Endress+Hauser Operations アプリ : 銘板のシリアル番号を入力するか、銘板のマトリクスコードをスキャンしてください。

標準資料

簡易取扱説明書

センサの簡易取扱説明書

機器	資料番号
Proline Promag H	KA01289D

変換器の簡易取扱説明書

機器	資料番号
Proline 500 – デジタル	KA01388D
Proline 500	KA01387D

技術仕様書

機器	資料コード
Promag H 500	TI01225D

機能説明書

機器	資料番号
Promag 500	GP01136D

機器関連の補足資料

安全上の注意事項

危険場所で使用する電気機器に関する安全上の注意事項

内容	資料番号
ATEX/IECEX Ex i	XA01522D
ATEX/IECEX Ex ec	XA01523D
cCSAus IS	XA01524D
cCSAus Ex e ia/Ex d ia	XA01525D
cCSAus Ex nA	XA01526D
INMETRO Ex i	XA01527D
INMETRO Ex ec	XA01528D
NEPSI Ex i	XA01529D
NEPSI Ex nA	XA01530D
EAC Ex i	XA01658D
EAC Ex nA	XA01659D
JPN	XA01776D

個別説明書

内容	資料番号
欧州圧力機器指令に関する情報	SD01614D
表示モジュール A309/A310 の WLAN インターフェイスに関する無線認定	SD01793D
Web サーバー	SD02236D

内容	資料番号
Heartbeat Technology	SD02207D
Web サーバー	SD02236D

設置要領書

内容	注記
スペアパーツセットおよびアクセサリの設置要領書	■ デバイスビューワーを使用して、選択可能なすべてのスペアパーツセットの概要にアクセス → 図 202 ■ 注文可能な設置要領書付きのアクセサリ → 図 204

索引

記号

返却 202

A

Applicator 207

C

CE マーク 10, 230

cGMP 231

CIP 洗浄 220

D

DD ファイル 92

DeviceCare 91

DD ファイル 92

DIP スイッチ
書き込み保護スイッチを参照

E

ECC 135

EMPTY_MODULE モジュール 102

Endress+Hauser サービス
修理 202

F

FDA 231

FieldCare 89

DD ファイル 92

機能 89

接続の確立 90

ユーザインタフェース 90

H

HistoROM 138

N

Netilion 201

P

P-T レイティング 222

PROFIBUS 認定 231

Proline 500 - デジタルの接続ケーブルの端子の割当て
センサ接続ハウジング 45

Proline 500 - デジタル変換器
信号ケーブル/電源ケーブルの接続 50

Proline 500 接続ケーブルの端子の割当て
センサ接続ハウジング 52

R

RCM マーク 230

S

SETTOT_MODETOT_TOTAL モジュール 100

SETTOT_TOTAL モジュール 99

SIP 洗浄 220

T

TSE/BSE 適正証明 231

U

UKCA マーク 230

USP クラス VI 231

W

W@M デバイスビューワー 15

WLAN 設定 136

ア

アクセスコード 78

不正な入力 78

アクセスコードの設定 144

アダプタの使用 26

圧力損失 222

アナログ出力モジュール 100

アナログ入力モジュール 98

アプリケーション 207

アラーム時の信号 213

安全 9

イ

イベントリスト 195

イベントログブック 195

イベントログブックのフィルタリング 196

医薬品適合性 231

ウ

ウィザード

WLAN 設定 136

アクセスコード設定 140

ステータス入力 1~n 114

パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え

..... 118, 119, 122

リレー出力 1~n 124

ローフローカットオフ 127

空検知 129

電流出力 115

電流入力 113

表示 126

受入検査 15

エ

影響

周囲温度 218

衛生適合性 231

エラーメッセージ

診断メッセージを参照

オ

欧州圧力機器指令 232

オーダーコード 16, 18

温度測定応答時間 218

温度範囲

ディスプレイの周囲温度範囲 226

保管温度	20
力	
外部洗浄	201
書き込みアクセス	78
書き込み保護	
アクセスコードによる	144
書き込み保護スイッチを使用	145
書き込み保護スイッチ	145
書き込み保護の無効化	144
書き込み保護の有効化	144
拡張オーダーコード	
センサ	18
変換器	16
確認	
接続	64
取付け手順	35
下流側直管長	25
環境	
保管温度	219
キ	
キーパッドロックの有効化/無効化	79
機械的負荷	220
機器	
構成	13
修理	202
センサの取付け	29
アースリングの取付け	30
シールの取付け	30
ピグ洗浄	201
溶接ニップル	29
電気配線の準備	41
電源投入	106
取付けの準備	29
取外し	203
廃棄	203
変更	202
機器コンポーネント	13
機器修理	202
機器設定の管理	138
機器タイプコード	92
機器の運搬	20
機器の修理	202
機器の用途	
不適切な用途	9
不明な場合	9
機器マスターファイル	
GSD	92
機器名	
センサ	18
変換器	16
機器ロック状態	148
技術データ、概要	207
基準およびガイドライン	232
基準動作条件	216
機能	
パラメータを参照	
旧型モデルとの互換性	92

ク

組合せ電極	225
繰返し性	218

ケ

計測可能流量範囲	209
計測機器	
設定	107
通信プロトコルによる統合	92
計測機器の識別	15
計測機器の接続	
Proline 500	52
Proline 500 - デジタル	45
計測機器の用途	
指定用途を参照	
計測システム	207
計測チューブの仕様	223
言語、操作オプション	226
検査	
納入品	15
現場表示器	226
アラーム状態を参照	
診断メッセージを参照	
数値エディタ	72
操作画面表示を参照	
テキストエディタ	72
ナビゲーション画面	70

コ

合格証	230
交換	
機器コンポーネント	202
工具	
電気接続用	36
取付け用	28
輸送	20
構成	
機器	13
操作メニュー	66
コンテキストメニュー	
終了	74
説明	74
呼び出し	74
梱包材の廃棄	21

サ

サイクリックデータ伝送	97
再校正	201
材質	223
最大測定誤差	216
サブメニュー	
Analog inputs	112
I/O 設定	112
Web サーバ	85
アクセスコードのリセット	141
イベントリスト	195
概要	67
システムの単位	109
シミュレーション	141

ステータス入力 1～n	151
センサの調整	131
データのログ	155
パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n	153
プロセスパラメータ	149
プロセス変数	149
リレー出力 1～n	153
管理	140, 141
機器情報	198
高度な設定	130
出力値	152
積算計	150
積算計 1～n	131
積算計の処理	154
設定のバックアップ	138
測定値	148
通信	106, 111
電極の洗浄サイクル	135
電流出力 1～n の値	152
電流入力 1～n	151
入力値	151
表示	133

シ

シールの交換	201
システムデザイン	
機器構成を参照	
計測システム	207
システム統合	92
質量	
運搬 (注意事項)	20
指定用途	9
周囲温度	
影響	218
周囲温度範囲	26, 219
周囲条件	
機械的負荷	220
周囲温度	26
使用高さ	219
相対湿度	219
耐振動性および耐衝撃性	219
修理	202
注意事項	202
出力信号	210
出力変数	210
使用圧力	26
使用高さ	219
消費電流	215
消費電力	215
上流側直管長	25
シリアル番号	16, 18
信号ケーブル/電源ケーブルの接続	
Proline 500 - デジタル変換器	50
診断	
シンボル	164
診断時の動作	
シンボル	165
説明	165

診断情報

DeviceCare	167
FieldCare	167
ウェブブラウザ	166
概要	171
現場表示器	164
構成、説明	165, 168
対処法	171
発光ダイオード	161
診断動作の適応	169
診断メッセージ	164
診断リスト	195
振動	26
シンボル	
ウィザード用	70
現場表示器のステータスエリア内	68
サブメニュー用	70
診断動作	68
ステータス信号用	68
操作部	72
測定チャンネル番号用	68
測定変数用	68
通信用	68
データ入力値の管理	73
入力画面	73
パラメータ用	70
メニュー用	70
ロック用	68

ス

垂直配管	22
スイッチ出力	212
数値エディタ	72
ステータスエリア	
操作画面表示用	68
ナビゲーション画面内	70
ステータス信号	164, 167
スペアパーツ	202

セ

製造者 ID	92
製造日	16, 18
性能特性	216
製品の安全性	10
積算計	
設定	131
操作	154
プロセス変数の割当て	150
リセット	154
積算モジュール	98
接続	
電気接続を参照	
接続ケーブル	36
接続ケーブル長	27
接続ケーブルの接続	
Proline 500 - デジタルの端子の割当て	45
Proline 500 - デジタル変換器	49
Proline 500 端子の割当て	52
センサ接続ハウジング、Proline 500	52

センサ接続ハウジング、Proline 500 - デジタル	45
接続ケーブルの取付け	
Proline 500 変換器	54
接続の準備	41
接続用工具	36
接続例、電位平衡	55
設置状況の確認	106
設置状況の確認 (チェックリスト)	35
設置条件	
使用圧力	26
部分的に満管	22
設定	106
I/O 設定	112
WLAN	136
アナログ入力	112
管理	140
機器設定の管理	138
機器のリセット	198
計測機器の設定	107
現場表示器	126
高度な設定	130
高度な表示の設定	133
システムの単位	109
シミュレーション	141
スイッチ出力	122
ステータス入力	114
積算計	131
積算計のリセット	154
積算計リセット	154
センサの調整	131
操作言語	106
タグ名	108
通信インターフェイス	111
電極洗浄回路 (ECC)	135
電流出力	115
電流入力	113
パイプ空検知 (EPD)	129
パルス/周波数/スイッチ出力	118, 119
パルス出力	118
プロセス条件への機器の適合	154
リレー出力	124
ローフローカットオフ	127
説明書	
シンボル	6
センサ	
取付け	29
洗浄	
外部洗浄	201
内部洗浄	201
ソ	
操作	148
操作オプション	65
操作画面表示	68
操作キー	
操作部を参照	
操作言語の設定	106
操作指針	67
操作上の安全性	10

操作部	74, 165
操作メニュー	
構成	66
サブメニューおよびユーザーの役割	67
メニュー、サブメニュー	66
測定機器およびテスト機器	201
測定原理	207
測定値	
計算値	207
測定値	207
プロセス変数を参照	
測定値の読み取り	148
測定値の履歴を表示	155
測定範囲	207
その他の認定	232
タ	
耐圧力特性	222
対処法	
終了	166
呼び出し	166
耐振動性および耐衝撃性	219
端子	216
端子の割当て	40
チ	
チェックリスト	
設置状況の確認	35
配線状況の確認	64
直接アクセス	76
ツ	
ツールヒント	
ヘルプテキストを参照	
テ	
ディスクリート出力モジュール	101
ディスクリート入力モジュール	101
適合宣言	10
テキストエディタ	72
適用分野	
残存リスク	10
デバイスビューワー	202
電位平衡	54
電気接続	
Web サーバー	86
WLAN インタフェース	87
計測機器	36
操作ツール	
PROFIBUS DP ネットワーク経由	86
WLAN インタフェース経由	87
サービスインタフェース (CDI-RJ45) 経由	86
保護等級	64
電氣的絶縁	214
電源故障時/停電時	215
電源電圧	215
電磁適合性	220
電子部ハウジングの回転	
変換器ハウジングの回転を参照	
電子モジュール	13

電線管接続口	
技術データ	216
電線口	
保護等級	64

ト

当社サービス	
メンテナンス	201
導電率	221
登録商標	8
特別な接続の説明	56
特別な取付方法	
サニタリ適合性	28
トラブルシューティング	
一般	158
取付け	21
取付位置	21
取付けの準備	29
取付工具	28
取付寸法	25
取付寸法を参照	
取付方向（垂直方向、水平方向）	24
取付要件	
アダプタの使用	26
上流側/下流側直管長	25
振動	26
垂直配管	22
接続ケーブル長	27
取付位置	21
取付寸法	25
取付方向	24

ナ

内部洗浄	201, 220
流れ方向	24
ナビゲーション画面	
ウィザードの場合	70
サブメニューの場合	70
ナビゲーションパス（ナビゲーション画面）	70

ニ

入力	207
認証	230

ハ

ハードウェア書き込み保護	145
廃棄	203
配線状況の確認	106
配線状況の確認（チェックリスト）	64
パラメータ	
値またはテキストの入力	77
変更	77
パラメータ設定	
I/O 設定	112
ステータス入力	114
電流出力	115
電流入力	113
パルス/周波数/スイッチ出力	118
リレー出力	124
パラメータ設定の保護	144

パラメータのアクセス権	
書き込みアクセス	78
読み取りアクセス	78
パラメータ設定	
Analog inputs（サブメニュー）	112
I/O 設定（サブメニュー）	112
Web サーバ（サブメニュー）	85
WLAN 設定（ウィザード）	136
アクセスコードのリセット（サブメニュー）	141
アクセスコード設定（ウィザード）	140
システムの単位（サブメニュー）	109
シミュレーション（サブメニュー）	141
ステータス入力 1～n（ウィザード）	114
ステータス入力 1～n（サブメニュー）	151
センサの調整（サブメニュー）	131
データのログ（サブメニュー）	155
パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え（ウィザード）	118, 119, 122
パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1～n（サブメニュー）	153
プロセスパラメータ（サブメニュー）	149
リレー出力 1～n（ウィザード）	124
リレー出力 1～n（サブメニュー）	153
ローフローカットオフ（ウィザード）	127
管理（サブメニュー）	141
機器情報（サブメニュー）	198
空検知（ウィザード）	129
診断（メニュー）	194
積算計（サブメニュー）	150
積算計 1～n（サブメニュー）	131
積算計の処理（サブメニュー）	154
設定（メニュー）	108
設定のバックアップ（サブメニュー）	138
通信（サブメニュー）	111
電極の洗浄サイクル（サブメニュー）	135
電流出力（ウィザード）	115
電流出力 1～n の値（サブメニュー）	152
電流入力（ウィザード）	113
電流入力 1～n（サブメニュー）	151
表示（ウィザード）	126
表示（サブメニュー）	133

ヒ

表示	
現在の診断イベント	194
現場表示器を参照	
前回の診断イベント	194
表示エリア	
操作画面表示用	68
ナビゲーション画面内	70
表示値	
ロック状態用	148
表示モジュールの回転	34
表面粗さ	226

フ

ファームウェア	
バージョン	92
リリース日付	92

ファームウェアの履歴	200
部分的に満管	22
プロセス条件	
圧力損失	222
耐圧力特性	222
導電率	221
流体温度	220
流量制限	222
プロセス接続	225
プロファイルバージョン	92

へ

ヘルプテキスト	
終了	77
説明	77
呼び出し	77
変換器	
ハウジングの回転	34
表示モジュールの回転	34
変換器ハウジングの回転	34
編集画面	72
操作部の使用方法	72, 73
入力画面	73

ホ

防爆認定	230
保管温度	20
保管温度範囲	219
保管条件	20
保護等級	64, 219
補足資料	234
保存コンセプト	229
本説明書に関する情報	6
本文	
目的	6
本文の目的	6

ム

無線認証	231
------------	-----

メ

銘板	
センサ	18
変換器	16
メイン電子モジュール	13
メニュー	
計測機器の設定用	107
特定の設定用	130
診断	194
設定	107, 108
メンテナンス作業	201
シールの交換	201

モ

モジュール	
EMPTY_MODULE	102
アナログ出力	100
アナログ入力	98
積算計	
SETTOT_MODETOT_TOTAL	100

SETTOT_TOTAL	99
TOTAL	98
ディスクリート入力	101
ディスクリート出力	101

ユ

ユーザーの役割	67
---------------	----

ヨ

要員の要件	9
読み取りアクセス	78

ラ

ラインレコーダ	155
---------------	-----

リ

リモート操作	227
流体温度範囲	220
流量制限	222

ロ

労働安全	10
ローフローカットオフ	214



www.addresses.endress.com
